

# 西弘小路遺跡

高知法務総合庁舎新営埋蔵文化財発掘調査報告書



2012.3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター







にし ひろ こ うじ い せき  
西 弘 小 路 遺 跡

高知法務総合庁舎新営埋蔵文化財発掘調査報告書

2012.3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

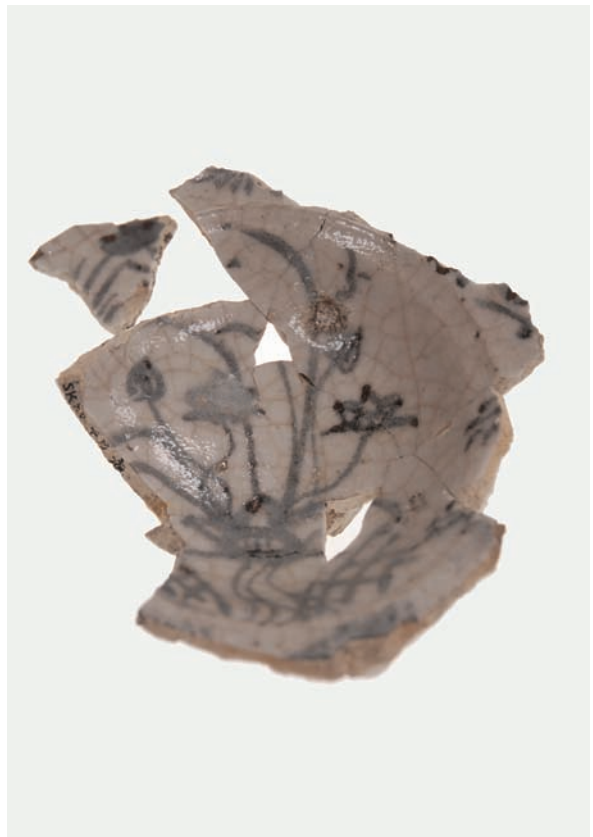




西から



SD3



SK28

卷頭図版2



A層出土



SK30



SK12



# 序

県都・高知市は、高知城下町を基盤として近代的発展と拡大を遂げてきました。本書で報告する西弘小路遺跡は、その中心にある高知城跡の西側直近に位置し、史料でも「侍屋敷」が並ぶ地区にあります。史跡・高知城跡は近世の姿をとどめる天守や追手門、特徴ある石垣で知られていますが、内堀は現在相当部分が埋められています。市街地化した周辺地区も含め、これまでは顕著な考古学的成果もなく、近世の景観や実態は明確ではありませんでした。

そのような中、今世紀に入って発掘調査が行われた高知城伝下屋敷跡の調査では、近世の多種多様な遺物と遺構群が出土し、城周辺の屋敷地の実態が一部明らかとなりました。その後当地区では、内堀西側の史跡追加指定と試掘確認調査、西弘小路遺跡における旧市民病院敷地の発掘調査が行われ、近世初期から幕末、近代に至る資料が蓄積されてきたところです。

本書で報告する発掘調査では、屋敷境を示す溝跡と居住者について追究できる木簡、武家の所持品を知ることのできる螺鈿細工や蒔絵製品、茶道具や伊万里、景德鎮を含む陶磁器、煙管等の金属製品、刀剣部品が土坑等から出土しており、武家屋敷での生活を復原する資料として期待されます。

また、文献や軍記物語で語られてきた中世や、それ以前に遡る遺物も少なからず出土しています。詳細は未解明ですが、奈良・平安時代、或は弥生時代にまで遡る当地の景観を思い描いたとき、私たちの街の歴史をより豊かに感じることができるでしょう。

末尾になりましたが、全面的な協力を頂いた高知地方検察庁、国土交通省四国地方整備局、発掘・整理作業に携わって下さった作業員の皆さま、遺物や遺構についてご指導頂いた諸機関の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 森田尚宏



## 例 言

1. 本書は、(財)高知県文化財団が高知県教育委員会の委託を受けて平成21年度に実施した西弘小路<sup>にしひろ こうじ</sup>遺跡<sup>いせき</sup>の発掘調査報告書である。
2. 調査は高知法務総合庁舎新営に伴うもので、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査機関となり実施した。
3. 調査地は高知「郭中参考地」内の高知市丸ノ内1丁目4番1号に所在する。
4. 調査面積  
1,480 m<sup>2</sup> (延べ)
5. 調査期間  
平成21年10月19日～平成22年1月8日
6. 調査体制  
平成21年度  
総 括 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫  
総 務 同総務課長 里見敦典 同主任 弘末節子  
調 査 総 括 同調査課長 廣田佳久  
調 査 担 当 同調査第三班長 池澤俊幸 同専門調査員 鍵山真一  
測量補助員 岡林真史・谷川齊  
平成22年度  
総 括 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫  
総 務 同総務課長 里見敦典 同主任 弘末節子  
調 査 総 括 同調査課長 廣田佳久  
調 査 担 当 同調査第三班長 池澤俊幸  
平成23年度  
総 括 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 森田尚宏  
総 務 同総務課長 里見敦典 同主任 黒岩千恵  
調 査 総 括 同調査課長 廣田佳久  
調 査 担 当 同調査第三班長 池澤俊幸
7. 本書の執筆・編集は池澤が行い、補助員、整理作業員の補助を得た。
8. 発掘調査に際して高知地方検察庁、国土交通省四国地方整備局、高知市の協力を得た。また、出土陶磁器について九州陶磁文化館の大橋康二、高知市教育委員会の浜田恵子、その他より森村健一、藤田史子、漆器に関して東京文化財研究所の北野信彦、金属・木製品について奈良文化財研究所の高妻洋成、木簡の釈読や史料について高橋史朗、渡辺淳、動物骨や貝について近藤康生(高知大学)、谷地森秀二(四国自然史科学研究センター)の各氏より指導を頂いた。記して感謝申し上げます。
9. 出土木製品の保存処理は(財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所、動植物遺体の同定及び漆膜の

自然化学分析は(株)パリノ・サーヴェイに各々委託した。

整理・報告書作成作業には入野三千子, 岡林真史, 志磨村美保, 高橋加奈, 高橋由香, 竹村加奈子, 竹村延子, 藤原ゆみ, 松井喬行, 山中美代子が携った。発掘調査及び報告書作成に関して埋蔵文化財センター諸氏から協力・教示を得た。

10. 出土遺物には「09-7NK」と注記して高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

#### 凡 例

遺構略号はSD (溝跡), SR (流路跡), SK (土坑), SE (井戸跡), SX (性格不明遺構), P (ピット)とした。遺物実測図の縮尺は食器等1/3を基本に, 中大型器種は適宜1/4等, 木簡は1/2とした。小型品や, 銘の部分等は各々適切な縮尺とした。原則的にスケール又は注記を添えた。方位Nは世界測地系による方眼北である。

産地や器種, 釉調等の特徴について, 実測図に適宜略字を添えた。「青」=青磁, 「白」=白磁, 「緑」=緑釉, 「天」=天目, 「色」=色絵, 「花」=青花, 「瀬」=瀬戸美濃系, 「肥」=肥前産, 「型」=型打, 型作り, 「瓦」=瓦器。「黄」は黄~金色に見えるもの(詳細V章)。但し添字は選択的に行い, 網羅していない。

図中の土質に「シ」=シルト, 「粘」=粘土(質)を使用した。

遺構番号は発掘調査時のものを可能な限り使用した。調査や整理の進行に伴う修正や変更のため, 欠番がある。

## 本文目次

第I章 序章	1
1 調査に至る経緯と経過	1
2 調査の方法	2
3 地理的・歴史的環境	2
第II章 調査の概要	8
1 調査区	8
2 基本層準	8
第III章 遺構と遺物	19
1 遺構埋土について	19
2 遺構と遺物	19
A. 近世	19
B. 中世	81
C. 近代	136
第IV章 考察	171
1 年代観および絵図との比較	171
2 被熱遺物等と画期	174
3 出土遺物	174
4 木簡の記名と居住者について	175
5 動植物遺体	175
6 井戸	176
7 古代・中世	176
8 近代	177
第V章 高知城下町西弘小路遺跡出土漆器碗の材質・技法に関する調査	178

## 挿図目次

図1 調査区周辺位置図	1
図2 元禄10年から12年間の高知城下図	4
図3 寛文己酉高知絵図	5
図4 享和元年高知城下図	5
図5 西弘小路遺跡及び周辺の遺跡	6
図6 調査区位置図	7
図7 TR1西壁・SD3縦・横断セクション	10
図8 TR3西壁・調査区北壁セクション	11

図9	TR2南壁セクション	12
図10	遺構配置図(中層 近世)	13
図11	流路跡配置図(下層 中世)	15
図12	溝・杭・井戸・流路跡位置図	17
図13	SD2出土遺物実測図1	21
図14	SD2出土遺物実測図2	22
図15	SD2出土遺物実測図3	23
図16	SD2出土遺物実測図4	24
図17	SD3出土遺物実測図1	25
図18	SD3出土遺物実測図2	26
図19	SD3出土遺物実測図3	27
図20	SD3出土遺物実測図4	28
図21	SD3出土遺物実測図5	29
図22	SD6平面・エレベーション・出土遺物実測図	30
図23	SE1平面・セクション・出土遺物実測図	31
図24	SE2平面・セクション・出土遺物実測図	32
図25	SE3平面及び内面立・断面図	33
図26	SE4平面・セクション・出土遺物実測図	34
図27	SE5平面・セクション・上層出土遺物実測図	35
図28	SE7平面・セクション図	36
図29	SK1・2平面・エレベーション・出土遺物実測図	37
図30	SK3平面・エレベーション・出土遺物実測図	39
図31	SK4・5平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図	40
図32	SK6～10平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図	41
図33	SK11・13平面・エレベーション・SK11出土遺物実測図	42
図34	SK12平面・セクション・出土遺物実測図	43
図35	SK13出土遺物実測図	44
図36	SK14平面・セクション図	45
図37	SK14出土遺物実測図1	46
図38	SK14出土遺物実測図2	47
図39	SK14出土遺物実測図3	48
図40	SK14出土遺物実測図4	49
図41	SK14出土遺物実測図5	50
図42	SK15平面・エレベーション・出土遺物実測図1	51
図43	SK15出土遺物実測図2	52
図44	SK17平面・セクション・出土遺物実測図	54
図45	SK18平面・エレベーション・出土遺物実測図	54
図46	SK19～21平面・エレベーション・出土遺物実測図	55
図47	SK24平面・セクション・出土遺物実測図	56
図48	SK25出土遺物実測図	56

図49	SK26平面・エレベーション・出土遺物実測図	56
図50	SK28平面・セクション・出土遺物実測図	57
図51	SK29平面・エレベーション・出土遺物実測図	58
図52	SK30・31・SE3平面・セクション図	59
図53	SK31出土遺物実測図	60
図54	SK32・35平面・エレベーション・SK32出土遺物実測図	61
図55	SK33・34平面・エレベーション・SK34出土遺物実測図	61
図56	SK35出土遺物実測図	62
図57	SK36・37平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図	62
図58	SK38平面・セクション・出土遺物実測図1	64
図59	SK38出土遺物実測図2	65
図60	SK39平面・セクション・出土遺物実測図	65
図61	SK40平面・セクション・出土遺物実測図	66
図62	SK41平面・エレベーション・出土遺物実測図	67
図63	SK43平面・セクション図	67
図64	SK44～47平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図	68
図65	SK48出土遺物実測図1	69
図66	SK48平面・エレベーション・出土遺物実測図2	70
図67	SX1平面・エレベーション図	71
図68	SX5出土遺物実測図1	72
図69	SX5出土遺物実測図2	73
図70	SX5平面・セクション・エレベーション図	74
図71	埋桶1平面・断面図	75
図72	礎石1平面・エレベーション図	75
図73	しがらみ状遺構1平面・立面図	75
図74	中央区包含層出土遺物実測図1	76
図75	中央区包含層出土遺物実測図2	77
図76	バンク2出土遺物実測図	78
図77	W区ピット群平面図	79
図78	W区出土遺物実測図	80
図79	SR1セクション図	81
図80	SR1出土遺物実測図	82
図81	SR2セクション図	83
図82	SR2出土遺物実測図	84
図83	SD2・SR1セクション図	85
図84	MWN区集中1出土遺物実測図	86
図85	古代～中世出土遺物実測図(包含層・近世遺構出土)	87
図86	SD2下層等出土古代～中世遺物実測図	88
図87	SD2出土木器実測図	89
図88	SD3出土木器実測図1	90

図89	SD3出土木器実測図2	91
図90	SD3出土木器実測図3	92
図91	SD3出土木器実測図4	93
図92	SD3出土木器実測図5	94
図93	SD3・6・SE1出土木器実測図	95
図94	SE1・2出土木器実測図	96
図95	SE2出土井戸側板実測図	97
図96	SE3出土井戸杵材実測図	98
図97	SE4出土井戸側板実測図	99
図98	SE7出土曲物実測図	100
図99	SK3～5・8出土木器実測図	101
図100	SK11・12出土木器実測図	102
図101	SK12・13出土木器実測図	103
図102	SK14出土木器実測図	104
図103	SK15・SE5上層(旧SK16)出土木器実測図	105
図104	SK17・18・20・23出土木器実測図	106
図105	SK24・26出土木器実測図	107
図106	SK28出土木器実測図	108
図107	SK30出土木器実測図	109
図108	SK31出土木器実測図	110
図109	SK32・34・35・39・40出土木器実測図	111
図110	SK38出土木器実測図	112
図111	SK41出土木器実測図1	113
図112	SK41出土木器実測図2	114
図113	SK41出土木器実測図3	115
図114	SK43・45・48出土木器実測図	116
図115	SK46・47出土木器実測図	117
図116	SX5・6出土木器実測図	118
図117	A層出土木器実測図	119
図118	バンク2出土木器実測図	120
図119	南部中央Ⅶ層・採取・SR1・2出土木器実測図	121
図120	出土金属製品実測図1	122
図121	出土金属製品実測図2	123
図122	出土金属製品実測図3	124
図123	出土金属製品実測図4	125
図124	出土金属製品実測図5	126
図125	上層遺構配置図	135
図126	SE6平面・セクション図	137
図127	基礎遺構1出土遺物実測図	137



図128	基礎遺構1 (上面)・SX4平面・エレベーション図	138
図129	基礎遺構1 (地下構造)平面・セクション図	139
図130	記名木簡・被熱遺物出土遺構, 及び18世紀以降の遺構	171
図131	調査成果と絵図による想定区画	172
図132	寛文己酉図	173
図133	井戸跡一覧	176

## 表目次

表1	遺構一覧表	127-128
表2	各遺構・種類別出土遺物計数表	129-133
表3	各遺構・種類別出土遺物計数表(中世)	134
表4	観察表(土器・陶磁器)	141-159
表5	観察表(木製品)	159-166
表6	観察表(金属製品)	166-168
表7	観察表(動植物遺体)	168-170

## 写真図版目次

巻頭図版1

巻頭図版2

PL1 調査前全景

調査区北半遺構検出状況

PL2 調査区南東部 遺構検出状況・調査終了段階全景

PL3 近代基礎遺構検出状況及びTR1・近代基礎遺構セクション

PL4 近代基礎遺構検出状況・近代基礎遺構下部

PL5 近代基礎遺構基部全景・SX4セクション

PL6 SK2セクション・調査区西部 焼土層出土状況

PL7 上層遺構検出状況(SK1, SX1, 礎石1.東より)・礎石1検出状況

PL8 SX1検出状況・調査区西端部遺構検出状況(SD2等.南より)

PL9 SD2調査状況及びTR3, TR1・SD2断面及びしがらみ状遺構

PL10 SD2北岸杭等検出状況(西より.MWN区)・SD2遺物出土状況(西部.西より)

PL11 SD2等完掘状況(調査区西半.中層.西より)・SD2 漆器出土状況・SD2遺物出土状況

PL12 埋桶1・SD3検出状況・断面(画面左側/南より)

PL13 SD3南端縦断セクション・SD3南端遺物出土状況

PL14 SD3南端遺物出土状況・SD3 セクション

PL15 SD3南部遺物出土状況・SD6完掘状況及び杭列

PL16 SE1内部・SE1断割り

PL17 SE2セクション・SE2遺物出土状況

PL18 SE2遺物出土状況・SE2完掘状況

- PL19 SE3筈状遺物出土状況・SE3 内側
- PL20 SE3 井戸枠等・SE4井筒
- PL21 SE4セクション・SE5上層遺物出土状況
- PL22 SE5 断面・SE5底
- PL23 SE6 打込み部断面・SE6打込み部
- PL24 SE6打込み内部・SE7セクション
- PL25 W区SK3遺物出土状況・SK5遺物出土状況
- PL26 北部遺構検出状況・SK11遺物出土状況
- PL27 SK12遺物出土状況・SK12櫛出土状態
- PL28 SK12セクション・SK14セクション
- PL29 SK8遺物出土状況・SK5検出面遺物出土状況・SK13遺物出土状態
- PL30 SK14遺物出土状況・SK14漆器椀出土状況・SK15セクション
- PL31 SK15完掘・遺物出土状況・SK18遺物出土状況
- PL32 SK18完掘状態・SK20遺物出土状況
- PL33 SK21遺物出土状況・SK21完掘状態
- PL34 SK25検出状況・SK26遺物出土状況
- PL35 SK27セクション・SK28遺物出土状況
- PL36 SK29遺物出土状況・SK30, 31セクション
- PL37 SK31遺物出土状況・SK32・SK35遺物出土状況
- PL38 SK37完掘状況・SK38セクション
- PL39 SK38遺物出土状況・SK39遺物出土状況及びセクション
- PL40 SK40セクション・SK40遺物出土状況
- PL41 SK43遺物出土状況・SK45セクション
- PL42 SK45遺物出土状況・セクション・SK46検出状況
- PL43 SK47遺物出土状態・SK48遺物出土状況
- PL44 SX5北部 廃材・播鉢等出土状況・SX5セクション
- PL45 SR1東部検出状況・SR1セクション(調査区東壁)
- PL46 SR1調査状況・バンク2 (TR2)セクション
- PL47 SR1及び杭跡・SR1五輪塔出土状況(東端部・西より)
- PL48 SR2検出状況(MWN区下面・南より)・調査区西部下面SR2検出状況
- PL49 SR2セクション(調査区西部・北より)・SR2 古瀬戸柄付片口出土状態(調査区西部)
- PL50 MWN区 土器集中1検出状態(東より・中央右に漆膜)・TR3Ⅶ層上層遺物出土状態
- PL51 SK47西側ピット遺物出土状況・バンク2遺構検出状況(手前からSK24,41,12.西より)
- PL52 バンク2遺物出土状況・調査区南東部完掘状態
- PL53 SD2
- PL54 SD2
- PL55 SD2・SD3
- PL56 SD3
- PL57 SD3

PL58 SD2・SD3・SK3  
PL59 SE5・SD6・SE4・SE5・SK1・SK3  
PL60 SD3・SE1・SK48・SE2・SE6・SK2・SK3・SK13  
PL61 SK4・SK5・SK6・SK10・SK11  
PL62 SK11・SK12  
PL63 SK14  
PL64 SK14  
PL65 SK14  
PL66 SK14・SK15  
PL67 SK15  
PL68 SK14・SK18  
PL69 SK20・SK21・SK24・SK25・SK26  
PL70 SK26・SK28・SK29  
PL71 SK31・SK32・SK34  
PL72 SK35・SK37・SK38  
PL73 SK38・SK40  
PL74 SK14・SK21・SK38・SK39  
PL75 SK41・SK45・SK47  
PL76 SK31・SK40・SK44・SK45  
PL77 SK48  
PL78 SK48  
PL79 SX5  
PL80 SX5  
PL81 中央区包含層  
PL82 中央区包含層・バンク2  
PL83 バンク2・包含層等W区  
PL84 包含層等W区・SR1  
PL85 SR2  
PL86 MWN区集中1・包含層等出土貿易陶磁器  
PL87 古代～中世包含層等・古代～中世SD2下層等  
PL88 SX5・SR1・包含層等W区・基礎遺構1  
PL89 SD3（木簡）  
PL90 SD3（木簡）  
PL91 SD3（木簡）  
PL92 SD3・SE2・SK11（木簡）  
PL93 SK11・SK12・SK13（木簡）  
PL94 SK14（木簡）  
PL95 SK14（木簡）  
PL96 SK14・SK15・SK17・SK26（木簡）

PL97 SK17・SK26・SK30 (木簡)  
PL98 SK31・SK41 (木簡)  
PL99 SK41 (木簡)  
PL100 SK41・SK46・A層(木簡)  
PL101 A層(木簡)  
PL102 A層(木簡)  
PL103 A層・バンク2 (木簡)  
PL104 SD2・SD3  
PL105 SD3  
PL106 SD3  
PL107 SD3  
PL108 SD3  
PL109 SD3・SD6・SE1・SE4出土釣瓶  
PL110 SE2・SK3・SK4・SK5・SK8  
PL111 SK8・SK11・SK12  
PL112 SK12・SK13  
PL113 SK14・SK15  
PL114 SK15・SE5上層(旧SK16)・SK17・SK18  
PL115 SK18・SK20・SK23・SK24  
PL116 SK26・SK28・SK30  
PL117 SK30・SK31  
PL118 SK31・SK32・SK34・SK35・SK38  
PL119 SK38・SK39・SK40  
PL120 SK41  
PL121 SK41・SK43・SK45・SK46  
PL122 SK46・SK47・SK48・SX5  
PL123 SX5・SX6・SR1  
PL124 SR2・A層・バンク  
PL125 バンク・南部Ⅶ層・採取  
PL126 切匙  
PL127 SD2・SD3 (金属製品)  
PL128 SD6・SE5・SK7・SK12・SK14 (金属製品)  
PL129 SK15・SK18・SK21・SK23 (金属製品)  
PL130 SK24・SK28・SK31・SK32 (金属製品)  
PL131 SK38・SK40・SK41・SK46・SK48 (金属製品)  
PL132 SK15・SX5・SR1・包含層等(金属製品)  
PL133 出土骨

# 第I章 序章

## 1 調査に至る経緯と経過

西弘小路遺跡が所在する高知城跡西側は、図3等の史料によって近世には武家屋敷等が営まれたことが知られている。高知城下町では、「郭中参考地」として埋蔵文化財の保護がはかられているが、高知城跡周辺では近年開発計画や史跡保存計画に係る試掘確認調査の成果が徐々に蓄積されている。

2008年3月、高知地方検察庁より高知県教育委員会文化財課に対し、高知法務庁舎の建替え計画と、それに伴う埋蔵文化財関係手続等について問合せがあった。両者は協議を重ね、2008年度に高知県教育委員会が実施した2箇所の試掘坑による調査の結果、近世以降の遺構・遺物の他、古代にまで遡る遺物が検出された。2009年5月、文化財保護法第94条第1項による通知が高知地方

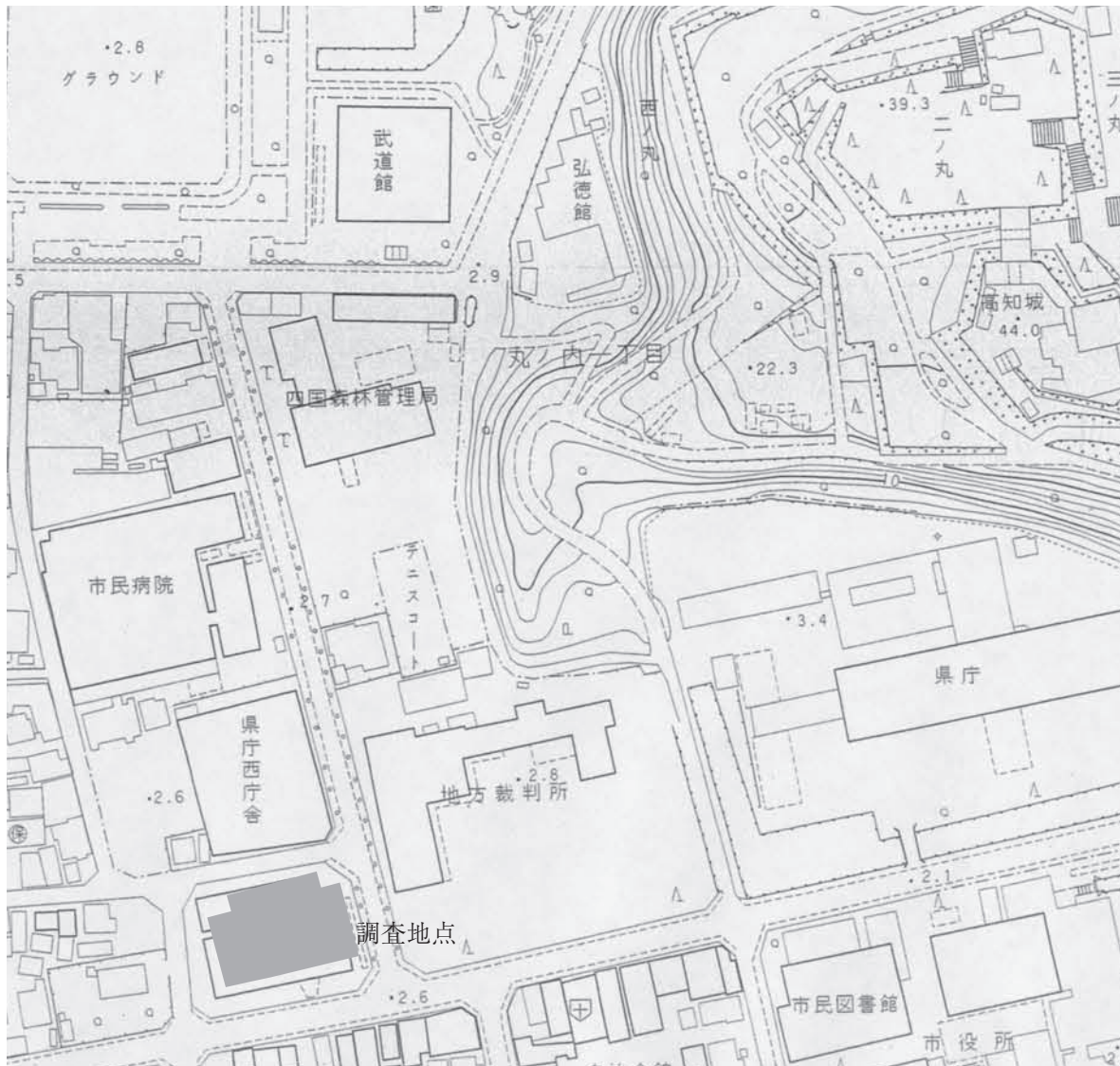


図1 調査区周辺位置図

検察庁より高知県教育長に提出された。前後して両者は協議を続け、工事は必至であるため、記録保存のための発掘調査を行うこととし、埋蔵文化財センターが調査を実施することとなった。

発掘調査は2009年10月19日から2010年1月8日に行い、続いて整理作業に入った。

なお、工事計画段階でボーリング調査成果を閲覧した際には、還元色の粘土～シルトが厚く、炭化物や遺物は殆ど視認できなかった。事前の試掘調査は、工事計画が優先されたため限定的にしか行うことができず、複数時期の遺構の存在は、2ヶ所の試掘坑のうち1ヶ所での成果による推測であった。また、木製品の遺存状況や、遺構及び陶磁器の密度等に関して把握がなされたとは結果的に言えなかった。今後の当城下町における埋蔵文化財の保護において、教訓になると思われる。

## 2 調査の方法

高知城跡南東隅の「丸ノ内緑地」に所在する4級基準点を既知点として、トータルステーションを用いた閉合トラバース測量により、調査区外縁部に測量基準点を設置した。既知点は世界測地系を使用している。同基準点には、高知市丸の内1丁目2番20の県庁東入口芝の中に所在する一等水準点・標識番号第5002号を使用して標高も取り付けた。

調査着手時は前庁舎を撤去し、地ならしをした状態であった(PL1)。表層の整地土や大型攪乱部の除去には重機を使用し、包含層以下は人力で掘削した。

## 3 地理的・歴史的環境

### 地理的環境

四国は列島本土中最小でありながら、西日本随一の険しい山脈が横断することが最大の特徴である。中でも高知県は山地が海岸部まで迫り、平野が乏しい一方、有数の降水量がある。深い山からは豊かな水量の河川が流下し、各流域に特色ある文化民俗を育むこととなる。

浦戸湾は、弓なりになった南四国の海岸線の奥部にあって山裾まで嵌入しており、且つ東西に各々1級河川が流下する。そのため、後背地となる平野を擁する点において当地で比肩し得るものがなく、土佐の「へそ」といえる立地にある。高知城もこの高知平野に所在するが、現市街地は近世以降拡大した干拓地や埋立地にも広がっている。

中世以前の浦戸湾は、周辺の中小河川や汽水域と一体になって現在を大きく上回る内水面を形成していたとみられ、少なくとも古代以降の政治や水運等の拠点が殆ど当地周辺に存在することから、その地理的特性がうかがえる。長宗我部元親も、土佐統一後は同湾至近に選地した。

高知城下町の範囲については、激しい河川氾濫を「山内氏が治めた」と言い習わされ、それ以前はほとんど「海」であったというようなイメージが市民の間に根強く残っているが、実態は小分離丘陵や中州、湿地帯等が複雑多様な環境をつくっていたとみられる。市内に残る「一島」や「潮江」等の地名は、往時の景観を彷彿させる。高知城が築かれた大高坂山もそのような小分離丘陵の1つであり、後記のごとく裾部の広い範囲で各時代の遺物が出土していることから、往時の状況をうかがうことができる。

## 歴史的環境

### 中世以前

近辺では、「北山」裾に位置する福井遺跡等で縄文時代の遺物が出土している。弥生時代では北秦泉寺遺跡等丘陵沿いで遺跡が増加し、今次調査や高知城伝下屋敷跡で弥生土器が出土したことも同様の事象として捉えられる。伝下屋敷跡では、当城下町で唯一の該期の遺構が検出されている。古墳時代には北部山麓に後期古墳が所在する他、平野北部の西秦泉寺遺跡等で若干の資料がある。

古代では秦泉廃寺跡の他、文献に高坂郷や神護寺領久満荘がある。今次調査及び高知城伝下屋敷跡、北曲輪跡の調査では奈良・平安、及び鎌倉期以降の遺物群が連綿と出土しており、城山や裾部周辺が継続的に利用されていることを示す。

南北朝期以降は城山が山城となり、南朝方の大高坂氏らが拠って攻防の要の1つとなる。その後の長宗我部氏は、土佐国内の統治も安定した頃に、敢えて本拠である岡豊城から当城への移転を図り、城下町建設にも着手しており、一連の発掘調査成果の中では、出土した桐紋瓦や埋没石垣との関係がいわれている（埋文センター 2010）。

### 近世

関ヶ原合戦後に土佐国を与えられた山内一豊は、慶長6（1601）年に浦戸城へ入った後、同年9月に大高坂城での普請を開始した。両城とも長宗我部氏の拠点、或は拠点化を進めていた要所で、高知平野中央部に占地する後者の近世城郭化と城下町整備に山内氏が着手したことになる。普請は慶長8年に本丸と二ノ丸石垣、同16年に三ノ丸が完成して竣工となった。一豊は本丸・二ノ丸完成後に入城している。城の名称は城山が「河中（こうち）山」と呼ばれていたことに由来する。潮江川（現在の鏡川）や江ノ口川の存在から推測できるように城下に水害が絶えず、慶長15年に竹林寺の僧に選字を依頼して「高智山」に改称したという。

普請成った高知城は、東を大手（追手）、西を搦手とする。西から流下してくる江ノ口川は、整備・改変して北側の堀及び運河としての機能を持たせたとみられる。

城下町は、東西に各々設けた外堀と北の江ノ口川、南の現鏡川によって囲まれる内側が郭中で、上・中級武士の居住区とした。その西外側は下士、東外側は町人の居住区である。東側の下町は浦戸湾に開く水運機能を持った。

今次調査区のある高知城西側については、「寛文己酉高知絵図」では現在埋没している部分を含む内堀や南北筋に面する侍屋敷、「下屋敷」が示されている。当地の様相の画期になったとみられるのは元禄と享保の大火で、いずれも城の西側から出火して城内に及んでいる。その後、城西側では南北筋が拡幅されて「西弘小路」となり、その西側は引続き侍屋敷であるが、堀側（東側）は植栽や馬場となった絵図や史料がある。

発掘調査では、2007年に今次対象地の北側至近で高知市教育委員会による調査が行われ、「西弘小路遺跡」として報告書が刊行されている。今次調査地東側の地方裁判所では、庁舎建替に伴う発掘調査を2001年に実施し、「高知城伝下屋敷跡」として報告書が刊行されている。「・松平土佐守様御用讃岐や兵助」墨書の木簡をはじめとする遺物や堀状の素掘り大溝跡等の遺構が検出され、「御下屋敷」跡と特殊ではあるが、城周辺での屋敷跡の実態がはじめて明らかとなった（1）。同遺跡では18世紀前葉とみられる焼土層や瓦と備前大甕等の廃棄遺構も検出されている。以上の成果概要については本書の後章でも触れる。その他城内でも火災に関わる土層が報告され、上記の大火

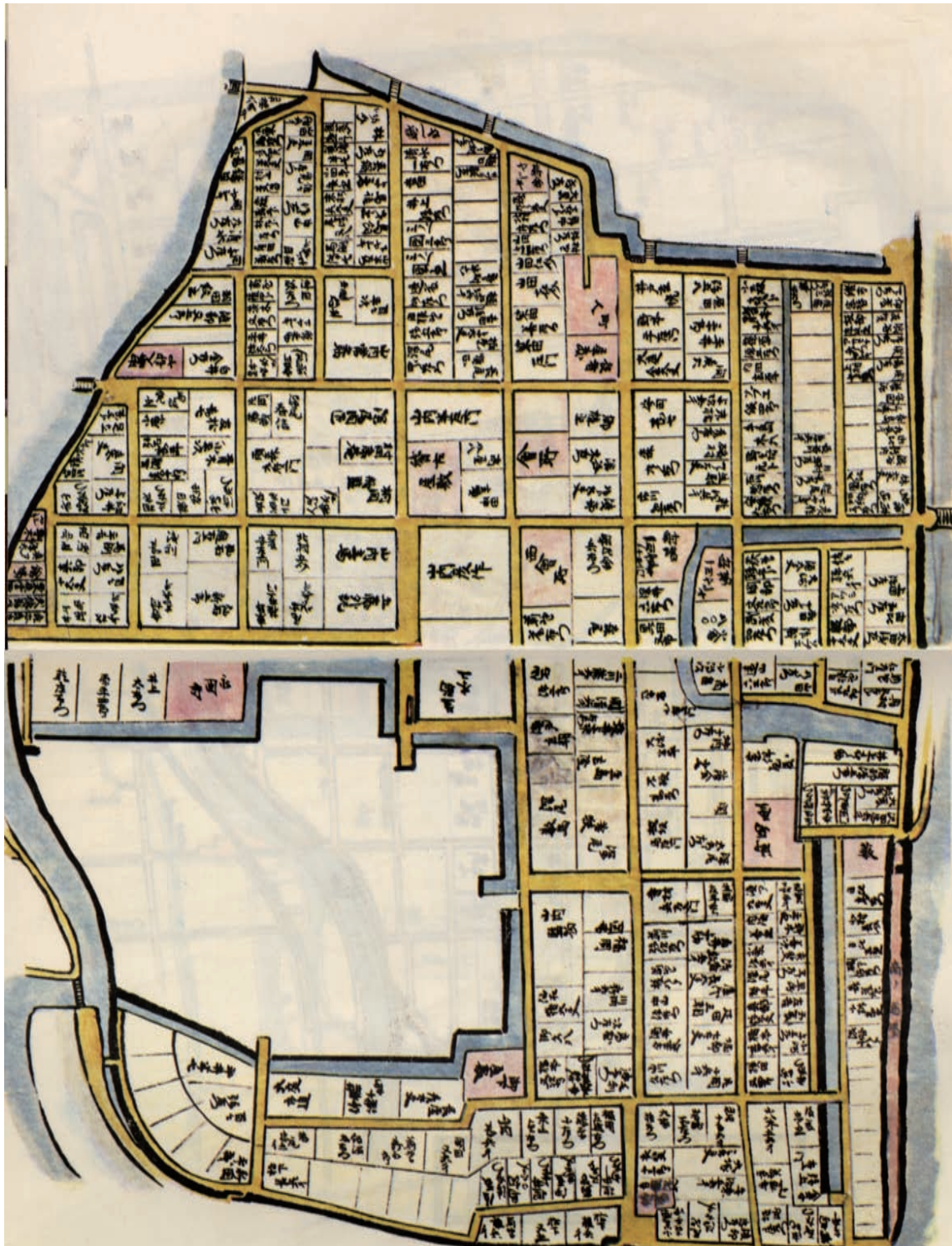


図2 元禄10年から12年間の高知城下図(皆山集第九卷より転載)





図3 寛文巳酉高知絵図(高知市民図書館所蔵)

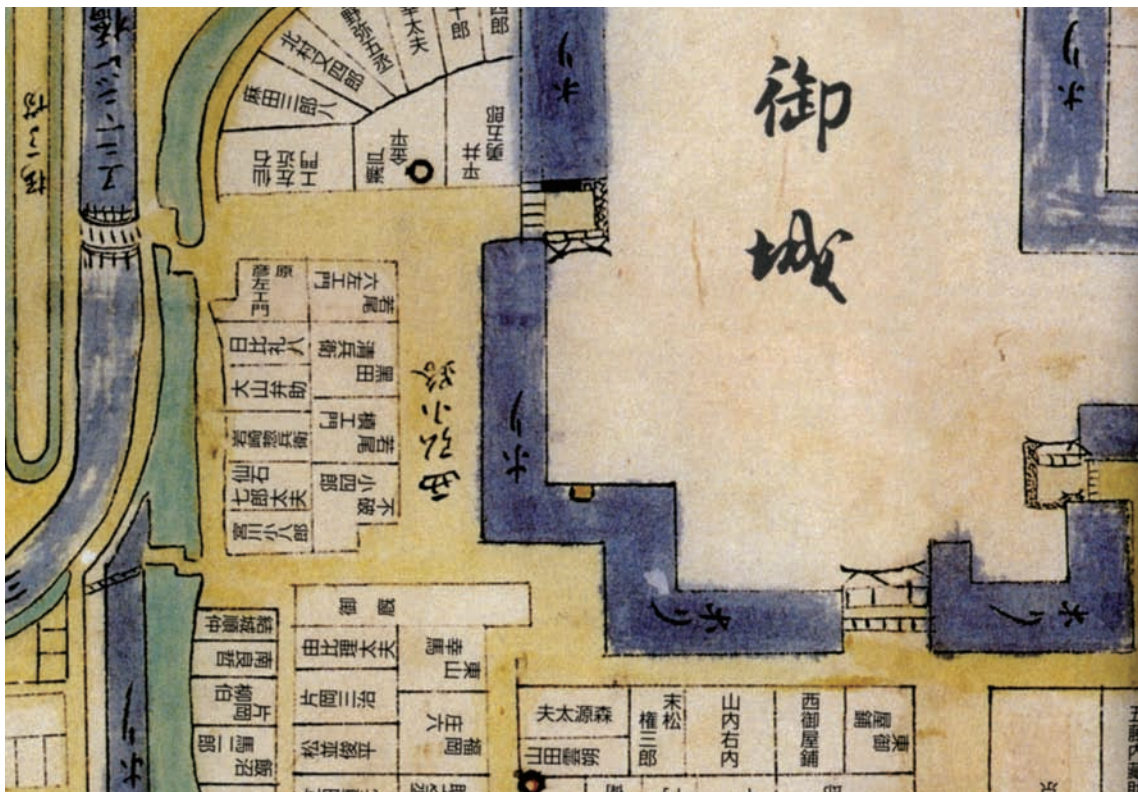
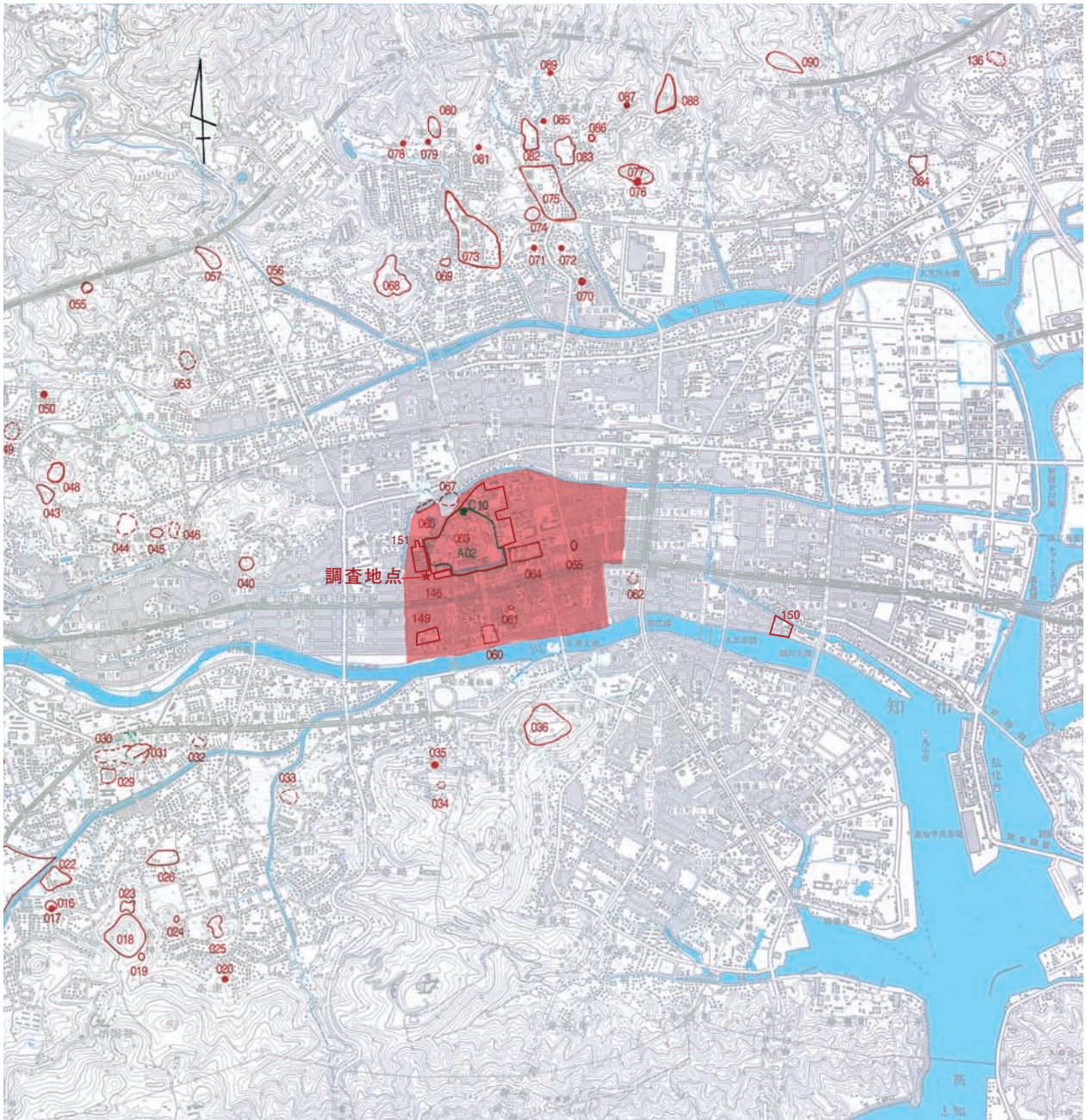


図4 享和元年高知城下図(安芸市立歴史民俗資料館所蔵／土佐史談会・高知市2004より)



■ 郭中参考地

図5 西弘小路遺跡及び周辺の遺跡

(S=1/40,000)

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
151	西弘小路遺跡	近世	046	福井元尾城跡	中世	075	秦泉寺廃寺跡	古代
016	舟岡山遺跡	弥生	048	かろーと口遺跡	弥生	076	土居の前古墳	古墳
017	舟岡山古墳	古墳	049	福井別城跡	中世	077	前里城跡	中世
018	神田南城跡	中世	050	福井古墳	古墳	078	宇津野2号墳	古墳
019	ケジカ端遺跡	弥生	053	嘉武保宇城跡	中世	079	宇津野1号墳	古墳
020	高座古墳	古墳	055	福井遺跡	縄文～中世	080	宇津野遺跡	縄文
022	鷺泊橋付近遺跡	弥生～中世	056	初月遺跡	弥生	081	秦泉寺新屋敷古墳	古墳
023	シルタニ遺跡	弥生・古代	057	万々城跡	中世	082	吉弘遺跡	古代
024	高神遺跡	古墳・古代	060	南御屋敷跡	近世	083	松葉谷遺跡	古代～中世
025	神田遺跡	弥生～中世	061	中島町遺跡	古墳	084	薊野遺跡	古代
026	神田ムク入遺跡	弥生～中世	062	国沢城跡	中世	085	日の岡古墳	古墳
029	鴨部遺跡	弥生	063	大高坂城跡・高知城跡	中世～近世	086	北秦泉寺遺跡	弥生
030	神田日城跡	中世	064	弘入屋敷跡	近世	087	淋谷古墳	古墳
031	能茶山築跡	近世	065	帯屋町遺跡	古墳	088	秦泉寺城跡	中世
032	石立城跡	中世	066	尾戸遺跡	弥生	089	秦泉寺仁井田神社裏古墳	古墳
033	久寿崎ノ丸遺跡	弥生～中世	067	尾戸築跡	近世	090	薊野城跡	中世
034	小石木町遺跡	弥生	068	安楽寺山城跡	中世	136	一宮別城跡	中世
035	小石木山古墳	古墳	069	東久万池田遺跡	古代～中世	146	高知城伝下屋敷跡	古墳～近世
036	潮江城跡	中世	070	愛宕不動堂前古墳	古墳	149	金子橋遺跡	近世
040	井口城跡	中世	071	秦小学校校庭古墳	古墳	150	開成館跡	近世～近代
043	高知学園裏遺跡	弥生～古代	072	愛宕神社裏古墳	古墳			
044	福井西城跡	中世	073	西秦泉寺遺跡	古墳			
045	福井中城跡	中世	074	秦泉寺別城跡	中世	A02	国指定史跡高知城跡	近世

※No.は高知市遺跡地図による。

との関連が想定される。

### 近現代

高知地方検察庁の資料によれば、当地は明治に入って裁判官の官舎等となっていたが、昭和28年12月、検察庁舎新築に着工、翌年2月裁判所から所管換を受け、9月に鉄筋コンクリート造り3階建延べ2,040.7㎡の庁舎が竣工している。昭和51年9月には増築を起工し、翌3月鉄筋コンクリート造り3階建延べ1,243.98㎡が竣工している。今次調査前の庁舎の北側部分である。

### 註

1) 木簡や漆器類の一部(35点・組)は2007年、県指定文化財となった。

### 参考文献

『高知県の歴史』山川出版社 2001年

『高知城伝下屋敷跡 高知地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査報告書』高知県文化財団埋蔵文化財センター 2002年

『史跡 高知城跡 三ノ丸石垣整備事業に伴う発掘調査報告書』高知県教育委員会 高知県文化財団埋蔵文化財センター 2010年

『史跡 高知城跡 本丸石垣整備事業報告書』高知県教育委員会 2004年

『改訂版 高知城下町読本』土佐史談会・高知市 2004年

『史跡高知城跡 北曲輪地区埋蔵文化財発掘調査報告書』高知市教育委員会 2011年

『高知城跡 西堀地区試掘確認調査報告書』高知市教育委員会 2009年

『西弘小路遺跡 総合あんしんセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高知市教育委員会 2010年

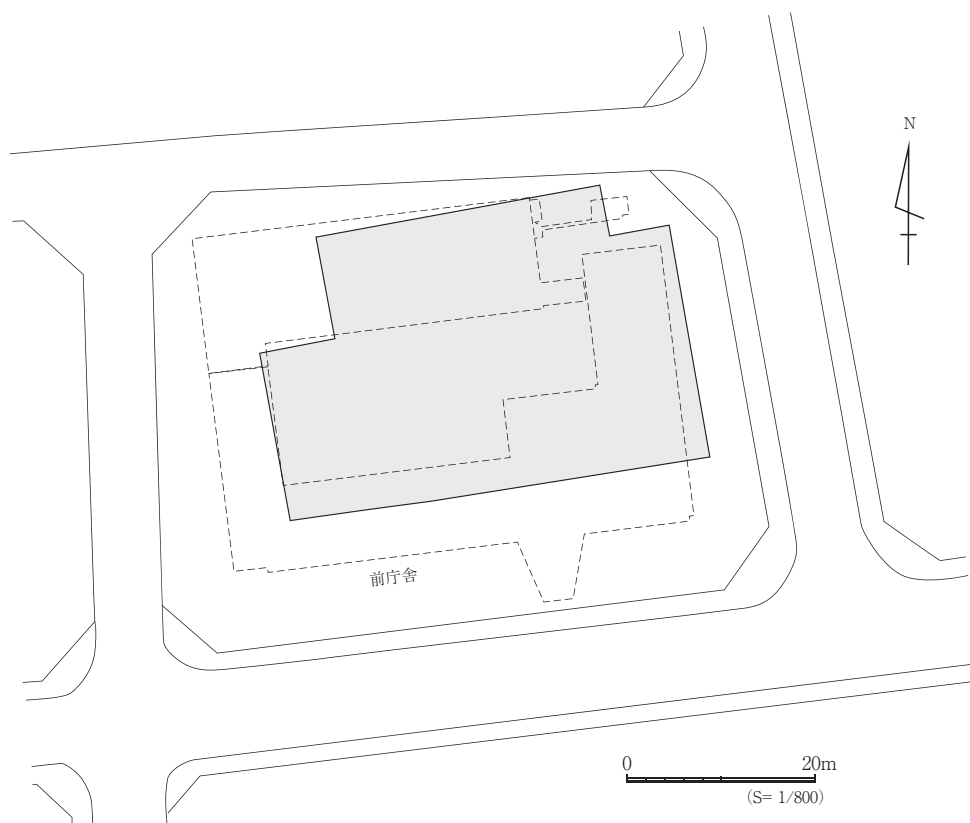


図6 調査区位置図

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1 調査区

前庁舎の基礎等とみられる大きな攪乱が全体図のごとく各所にあり、一部は後掲の土層断面図にも表れている。攪乱の深さにより、調査区中央北西部や南東部のように遺構の下部が遺存するものがあった。

調査の便宜上、調査区の東西に突出した部分を各々 E 区、W 区、それ以外の中央部分を M 区とした。さらに、M 区を東西方向の TR2 とその延長線、および中央部の大型攪乱群を南北に繋いだ帯で 4 分割して北西区を MWN 区、北東区を MEN 区、南西区を MWS 区、南東区を MES 区とし、遺物の取上げや遺構実測を行った。

### 2 基本層準

調査区内の土層観察は、M 区西辺に設けた TR1 と、その東側の大型攪乱に接して設けた同じく南北位の TR3、調査区中央部から東部へ横断する TR2 を基準に行った。いずれも攪乱坑壁や調査区壁を一部利用し、遺構への影響を避けた。また、これらの壁面を維持するために生じる畦をバンクと呼称した。

調査区内には図のごとく流路や大溝跡が存在することから、安定的な基本層準を広範囲に観察できる状況ではない。それ自体が当地点の地盤の成り立ちともいえる。

基盤となる土層は下位に安定的に堆積しており、無遺物で炭粒や植物遺体も殆ど含有しないことから、遺構や中世以降の流路跡の埋土との区別は容易である。灰色の粘土～シルトが主体で、礫が目立つ部分や還元色を基調とする基盤土層はなかった。

遺物包含層は、SD2 や流路の埋土と区分し難い部分や、図のごとく互いに入り組む部分もあり、第Ⅰ章で述べた氾濫による埋没と自然的・人為的復旧を繰り返しながら堆積が進行したことを示す。

焼土とみられる土粒を含む層があり、TR1 のⅥ層は調査区西部の北寄り、調査区北壁Ⅰ層は調査区北東部に広がりを持つ。火災等に関連する可能性がある。これらに酷似した土層を埋土に含む遺構もあり、事例として SK14 や SE5 上の落込みをあげることができる。TR2 東部でも焼土粒を含む E 層が認められ、表 3 のような遺物が出土している。

TR2 の A 層からは、6 点の木簡や漆器、陶磁器等多様な遺物が比較的良好に出土した。木片等を含んでやや暗色を呈する。遺構が多く検出された部分を覆い、南北の帯状に分布していた。

Ⅲ -1 層は焼土で、近代の建物基礎遺構を切り、コバルト使用とみられる染付や近世陶磁器が出土している。Ⅲ -2 層の内容と併せて、近代の火災に因るものとみられる。

#### TR1 西壁

I : 現代攪乱.

II : 現代整地.

Ⅲ -1: 焼土. 近代建物焼失後に形成.

Ⅲ -2: 煉瓦他の瓦礫. 若干の焼土. 瓦.

IV -1: 褐灰粘シ. 礫含.

IV -2: 褐灰粘シ. 上層は砂礫.

V: 褐粘シ. 礫, 焼土粒, 炭粒含. コンクリート含まず. 被熱瓦少数含.

VI -1: 砂礫. MW ~ W 区に広く分布.

VI -2: 灰シ粘に砂礫.

#### TR3 西壁

VII: 砂礫とシ. 西部では褐色, 東部では灰色で植物質含. 出土遺物図 119, 及び表 2.

VIII: 灰シ粘に若干の小礫.

IX: 灰シ粘 (VIIIより粘質). 植物遺体や木片を含む部分あり.

X: 灰色粘. 北方はシルト. 有機物や遺物なし.

XI: 灰色粘. 有機物や遺物なし.

#### TR2 南壁

I: 灰褐粘シに小礫, 炭粒含. SG1-2 とは, 石灰岩を含まない点のみ異なる.

II: 砂に少量の小礫. 橙色 (鉱物集積か) 層あり.

A: 褐灰シ粘に小円礫, 下層に木片多含. 比較的良好な木製・金属製品, 陶磁器含む.

E: 褐灰粘シに小礫多含. 若干の焼土粒.

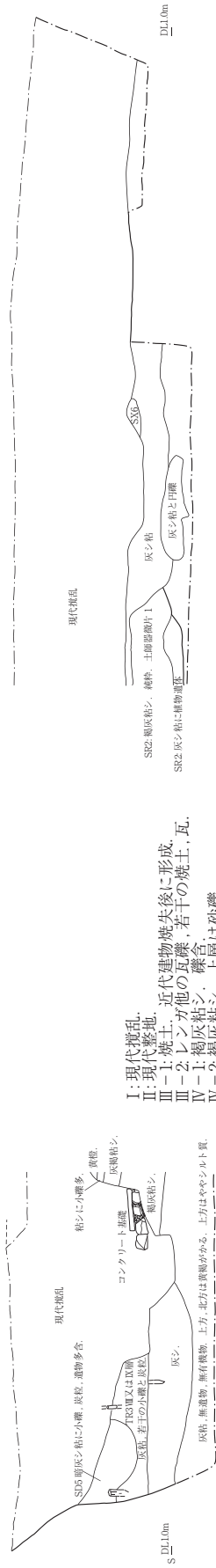
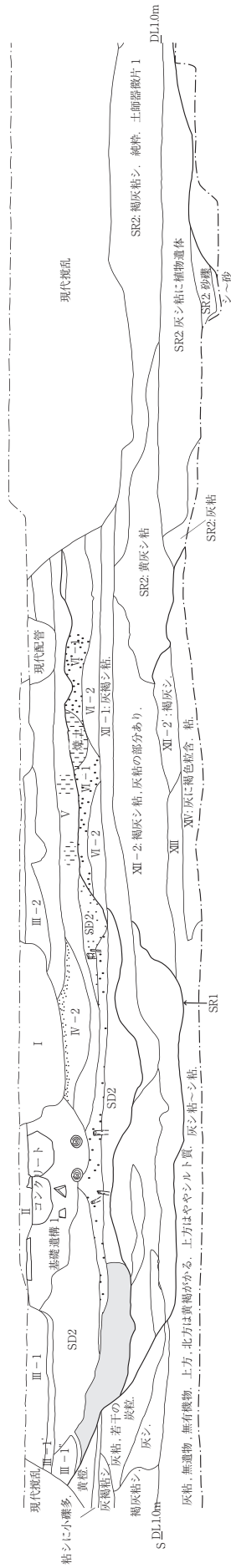
#### 調査区北壁

I: 暗褐粘シに礫. 橙色土粒 (焼土か) 多含.

II: 暗灰粘シに木片含. 部分的に小円礫多.

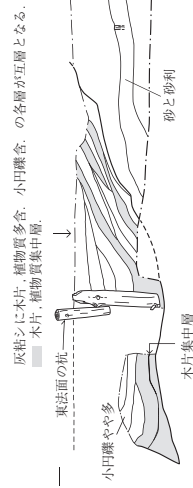
III: 灰粘シに植物遺体含.

IV: 灰粘シ. 有機物や遺物, 混雑物なし. 基盤

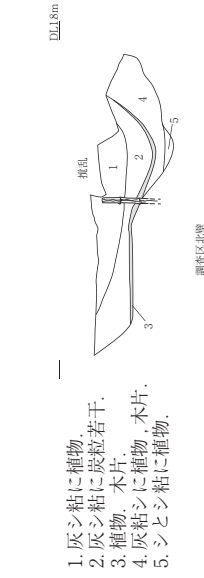


I: 現代雑乱。  
 II: 現代築地。  
 III-1: 焼土。近代建築物消失後に形成。  
 III-2: レンガ。他の瓦礫。若干の焼土、瓦。  
 IV-1: 褐灰粘シ。礫含有。  
 IV-2: 褐灰粘シ。上層は砂礫。  
 V: 褐粘シ。礫、焼土粒、炭粒含有。コンクリート含まず。被熱瓦少数。  
 VI-1: 砂礫。MW~W区に広く分布。  
 VI-2: 灰シ粘に砂礫。

TR1 西壁セクション



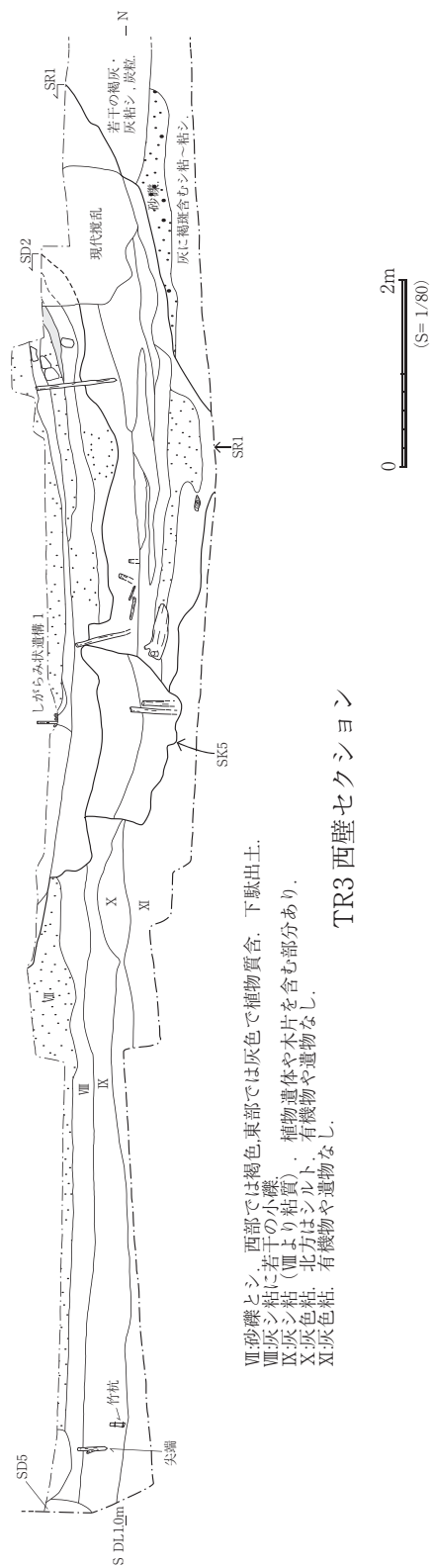
南端縦断面



SD3 縦・横断セクション

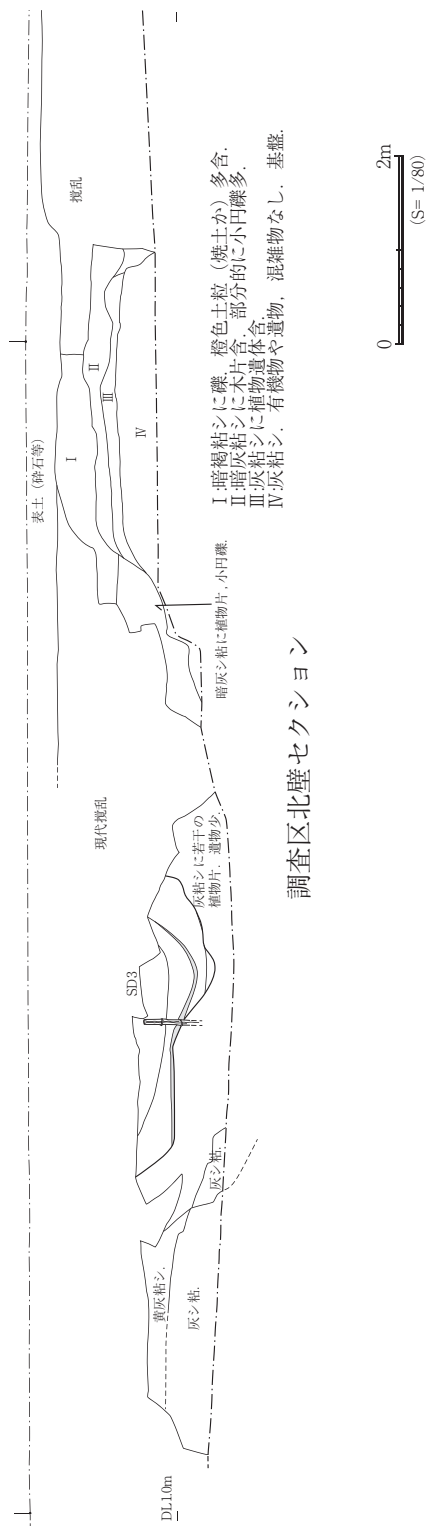
0 2m  
 (S=1/80)

図7 TR1 西壁・SD3 縦・横断セクション



Ⅲ:砂礫とシ、西部では褐色、東部では灰色で植物質含、下駄出土。  
 Ⅳ:灰粘シに若干の小礫  
 Ⅴ:灰粘シ(黒より粘質)、植物遺体や木片を含む部分あり。  
 Ⅵ:灰色粘、北方はシルト、有機物や遺物なし。  
 Ⅶ:灰色粘、有機物や遺物なし。

### TR3 西壁セクション



### 調査区北壁セクション

図8 TR3 西壁・調査区北壁セクション











図11 流路跡配置図(下層 中世)





图12 溝・杭・井戸・流跡位置図



## 第三章 遺構と遺物

### 1 遺構埋土について

土質や含有物、色調から「群」として捉えられたものがあるが、全ての遺構をグループ化できたわけではなく、一定域でまとまる傾向もみられる。表1に一覧化した。また、群別は主として検出時の観察によるものであり、遺構内部は複数層からなる場合がある。

調査区北半 (MEN,MWN 区)

1群: 暗灰色粘土質シルトを基質に、植物遺体、木片、遺物を多含。

2群: 灰色粘土質シルトに小角礫・小円礫含む。

3群: 1群より暗い灰色の粘土質シルトに小枝片等多含。1群との相違は小さい。

調査区南半 (MES 区)

4群: 灰色シルト～粘土質シルトに小円礫、若干の炭粒を含む土と、褐灰色粘土質シルトに炭粒、木片、小枝等植物遺体を多含する土が互層をなす。下層に木片・植物遺体が集中する遺構もある。

表1のごとく調査区南東域の西部で認められ、同域東部の遺構群とは異なる。

調査区西端部 (W 区)

ピット群について図77のごとく2群が認められた。

### 2 遺構と遺物

遺構の計測値や出土遺物の点数については表1及び表2・3にまとめた。

#### A. 近世

##### 溝跡

##### SD2 (図13～16・83・86・87・120)

調査区西部にある広い落込みで、検出した最大幅は7.8mを測る。攪乱や切合いにより全容は把握できない。井戸跡や大溝、土坑群が集中する調査区中央部では認められず、下記のように当遺構が一定の存続期間を持っていることを考えれば、遺構群集中部の西縁で完結する遺構とみられる。埋土は、基盤となっているⅫ層やSR1埋土に比べて遺物や有機物が明らかに多く、区別することができる。暗灰色シルトに砂粒を含むことを基本に、それらの組成比や混入物の異なる層が互層をなし、植物遺体等の集中する部分もある。出土遺物を埋土層位別にみると、例えば2層と4層などに同型品や接合個体があり、時期差は指摘できない。

南北両岸沿いには杭列と石がある。石は10数～40cmで、組んだ状態ではないが、石灰岩が主体である。また、しがらみ遺構や土層断面からみて、人為と埋積が繰り返されている。西部のW区では当遺構の方向と直交する杭列等があり、なんらかの造作があったとみられる。当該地点は先行する流路SR2と交差する点にあたる。

上記から推測すると、当遺構は西側から東へ延びて調査区中央西寄りに端があったとみられる。埋土も滞水的な時期のあったことを示す。そして、共存は定かでないものの、SE7や埋桶1がその東縁に位置する。SR1東部との関係は後述する。SK5, 6, 7はSD2の底近くで検出し、植物遺体

や枝が多い落込みであったが、当溝跡との先後関係等は明確でない。

TR1の断面では(図7)、焼土や炭粒、被熱瓦を含む基本層準V層に覆われていることが当遺構北部で観察できた。また、遺構埋土は粒度や包含物の異なる土が不安定に積層しており、図7と図8をみると、断面位置は比較的近いにもかかわらず、堆積状態がかなり異なる。一方、兩岸の立上がりは、間層を挟みつつも同様の位置でかなり上位まで観察できる。基本層準V層等は当遺構の上層と同時期に堆積した可能性がある。

以上から、当遺構が埋没や冠水をしても一定期間維持或は意識されていたとみられる。さらに、下層にはSR1があることも当遺構の形成と関係があるとみられる。なお、底面の標高を図11に記した。

表2で総出土遺物をみると、瓦の比率が低い。中世以前の遺物は後掲した。

### SD3 (図17～21・88～93・120)

遺構集中部にある幅3.3m、深さ1.2m余りの溝跡だが、南端部を検出した。縦断面は図7のとおりである。底面は南端に近い部分が最も低い。遺物は志野や織部を含む瀬戸・美濃系、絵唐津、肥前産陶器の甕・皿・碗、青花、木簡、漆器、下駄、その他多様な遺物が出土している。陶器をみれば17世紀前葉のものが一定数あり、16世紀末～17世紀初葉に遡るものも若干含む。瓦には、内面に横位の鋭い条線を有するものがある。下駄や漆器を中心に焦げのあるものがみられる。

検出時の埋土観察では既述の1群であった。内部は図・表のごとく木片・植物遺体集中層も交えて互層をなす(PL12～15)。底面が南へ立上がる位置に径16cmの丸太2本が立てられ、その下端は切放しである。調査区北壁断面では図のごとく段部際に竹杭が立っている。また、さらに下層の落込みが観察されるが、埋土は大きく異なる。なお、北壁以外では同様の落込みは認められなかった。以上、出土遺物及び埋土からみて、当溝の機能した期間は、一定の幅をもつとみられる。

西縁の小杭列は南部で検出したSD6の延長上にあり(図12)、SD3西縁の段部も留意されるが、埋土や断面から別遺構としての切合いは確認されなかった。

底面各所の標高を図10に記した。





图13 SD2出土遺物実測図1

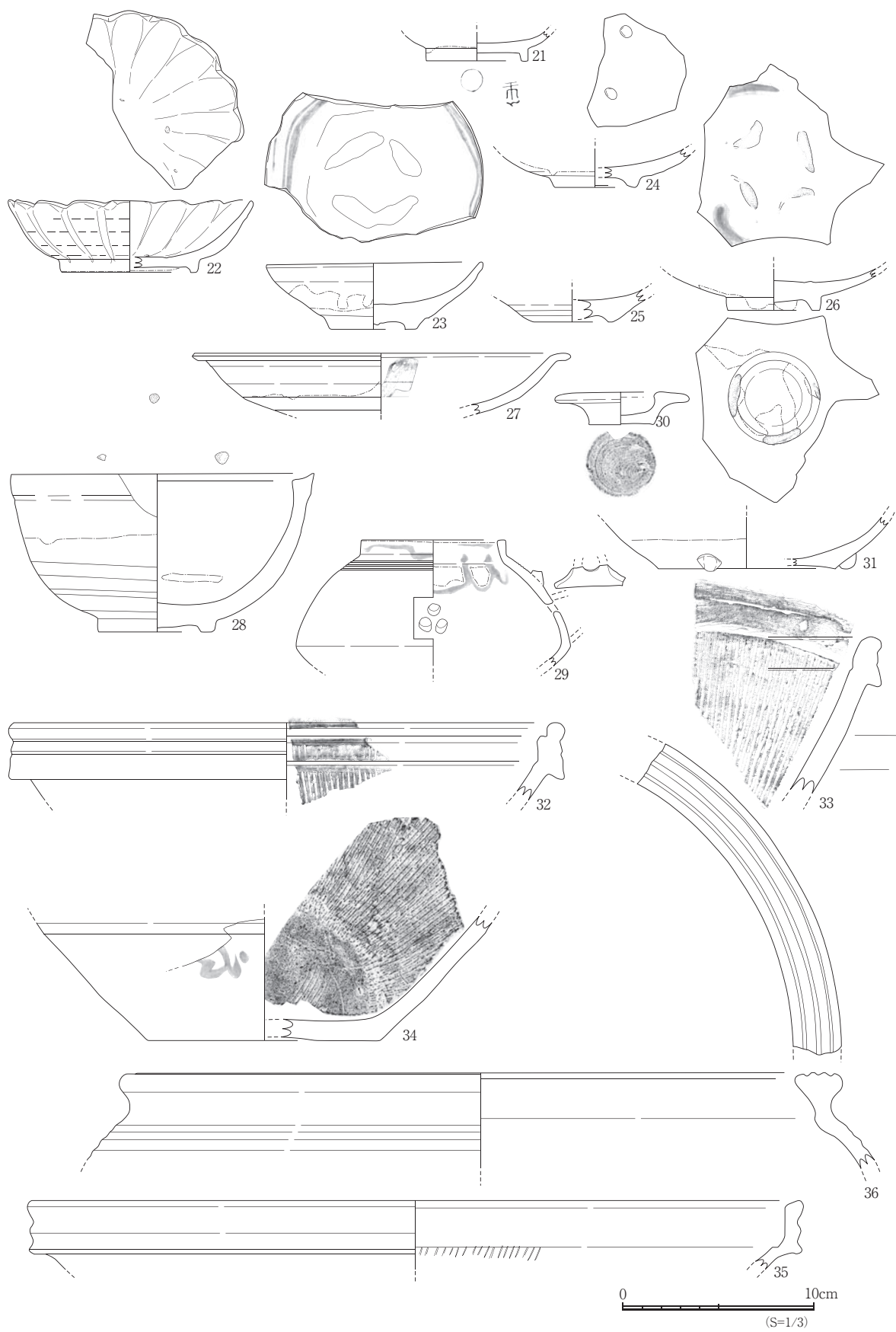


图14 SD2出土遺物実測図2

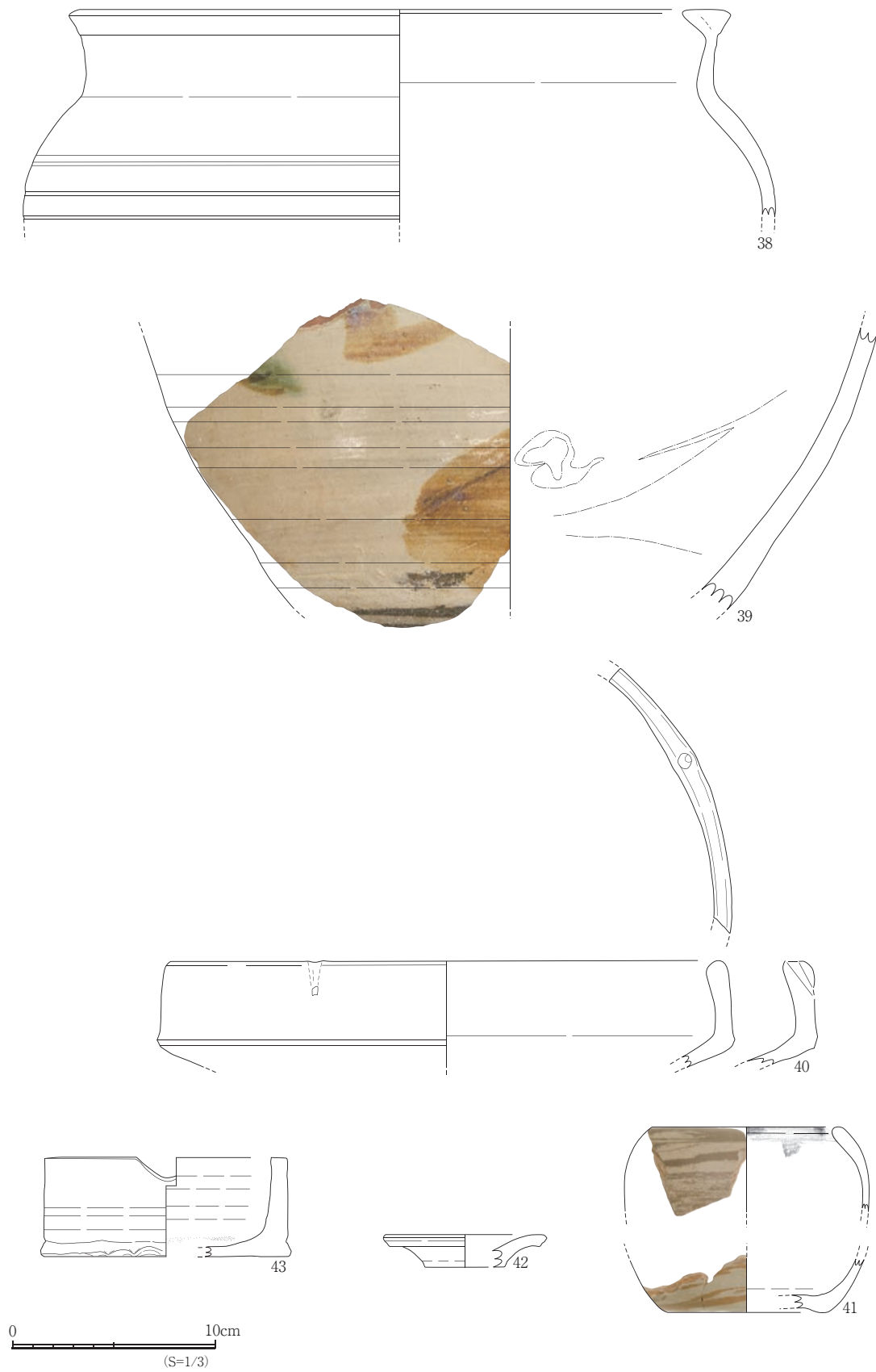


图15 SD2出土遺物実測図3

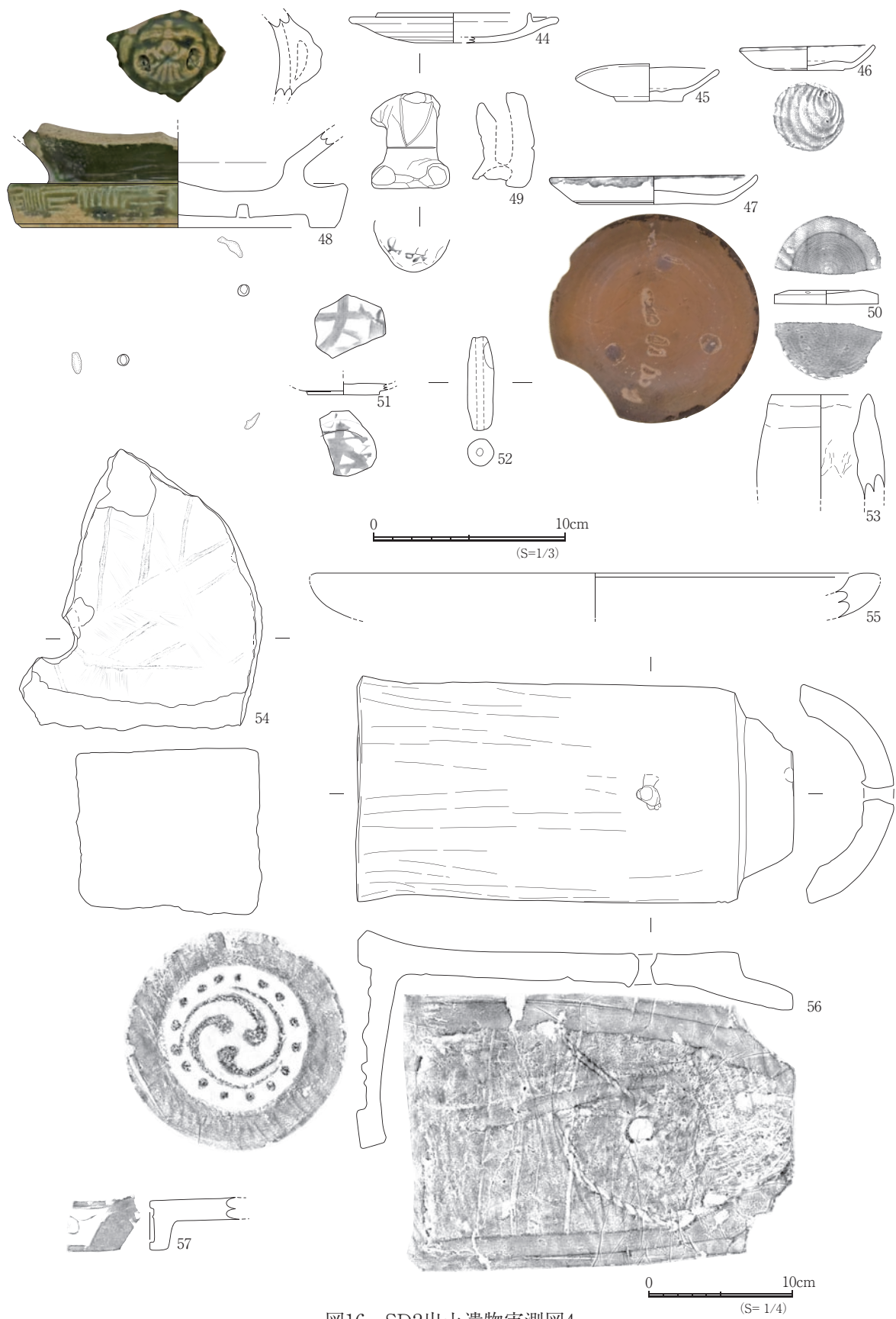


图16 SD2出土遗物实测图4

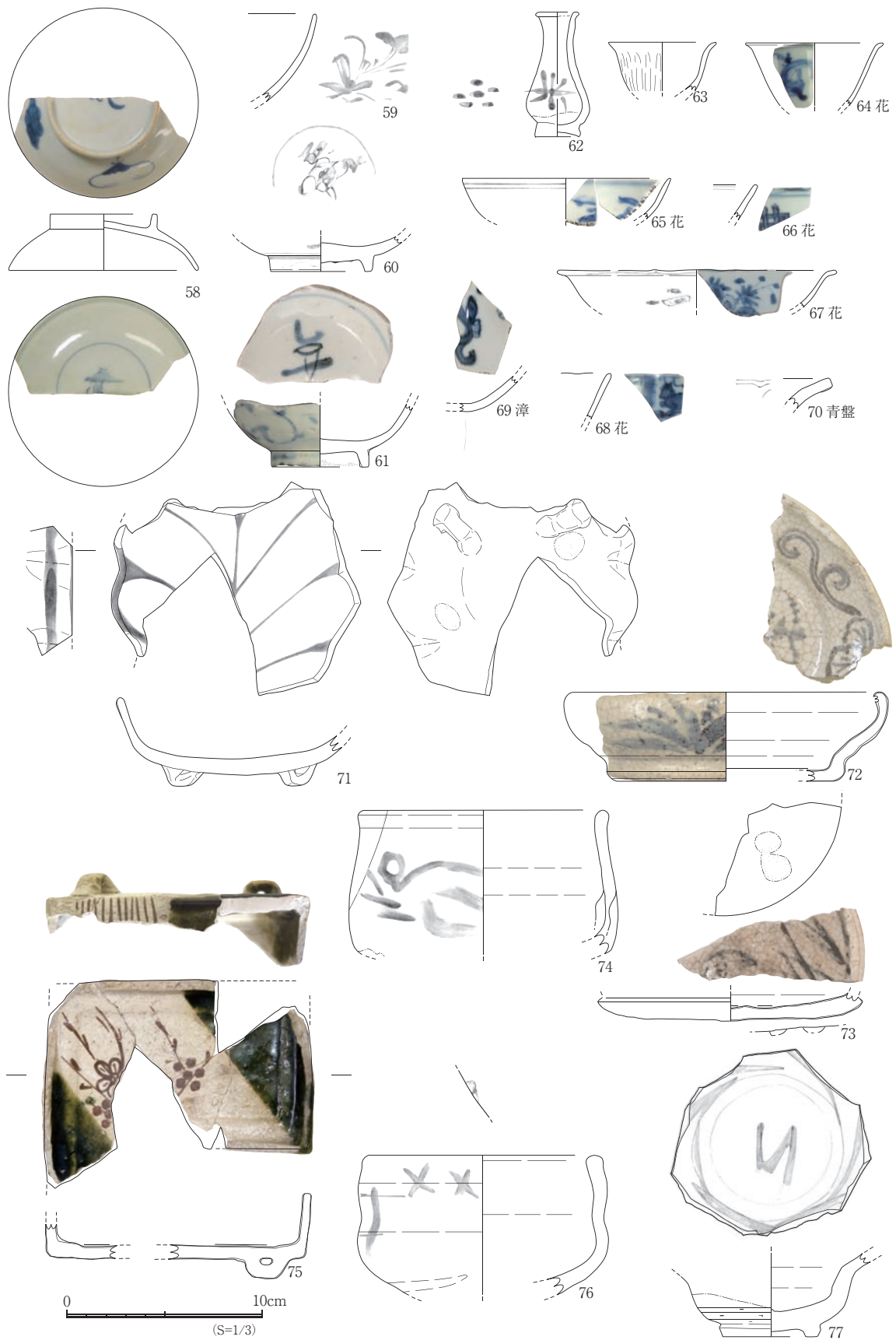


图17 SD3出土遺物実測図1

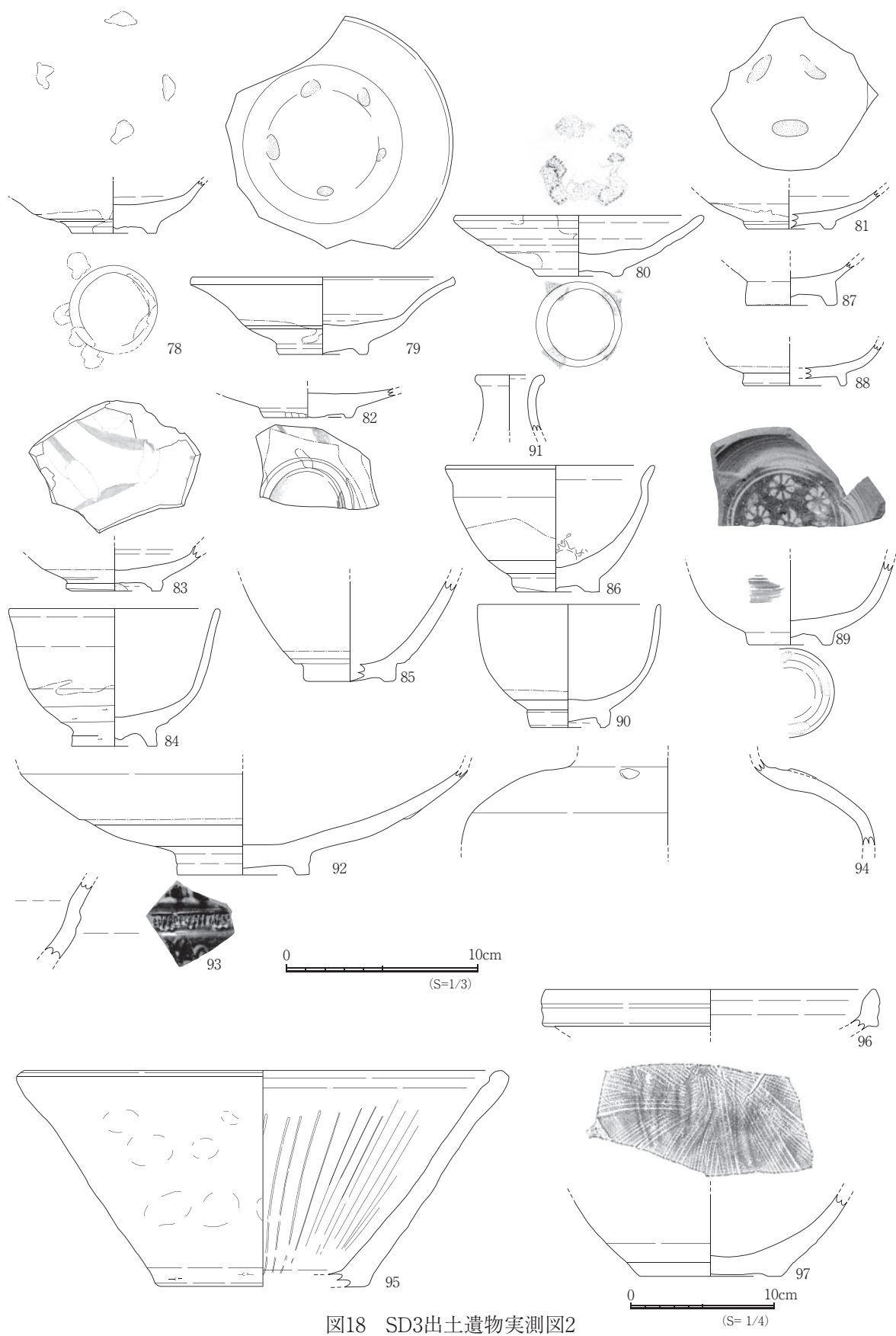


图18 SD3出土遺物実測図2

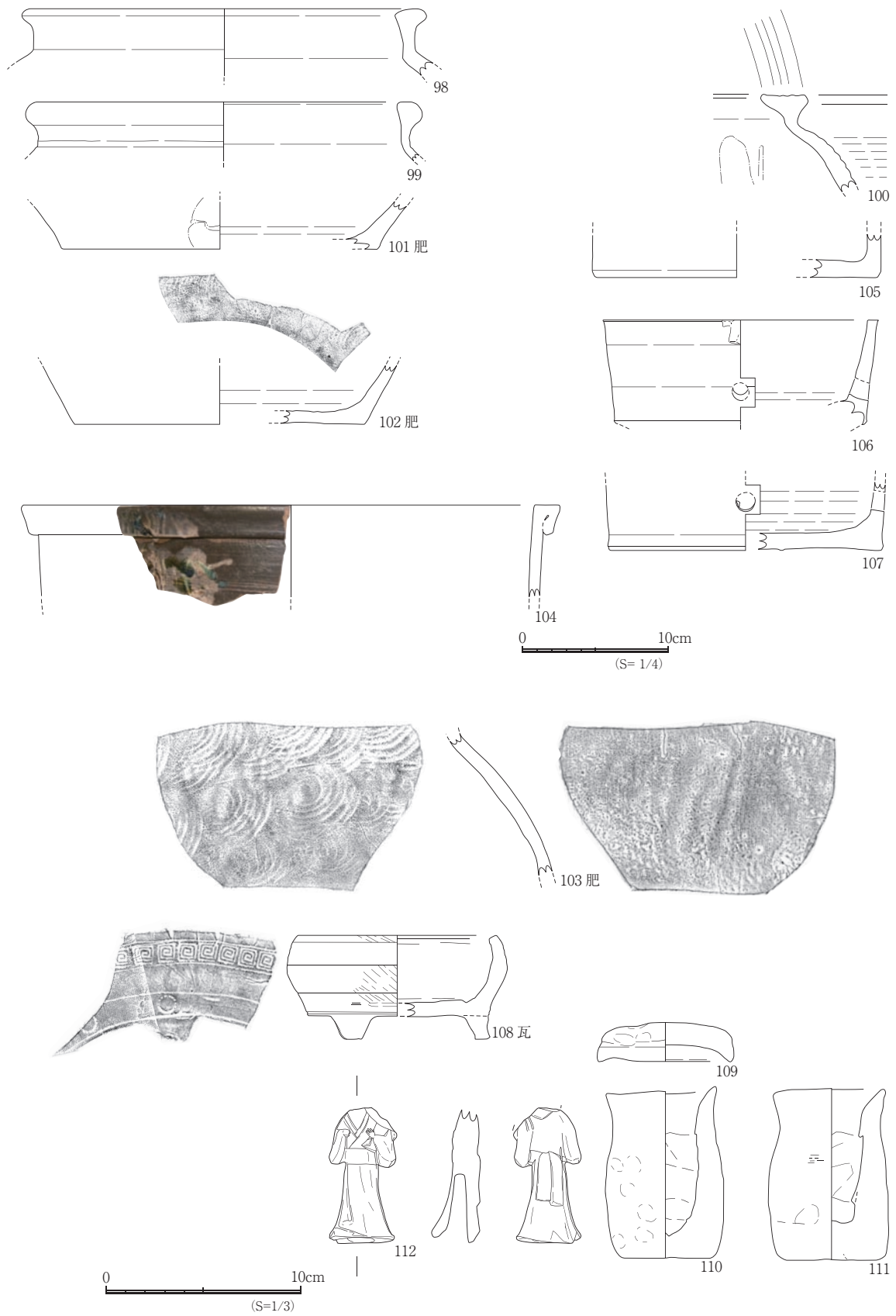


图19 SD3出土遺物実測図3

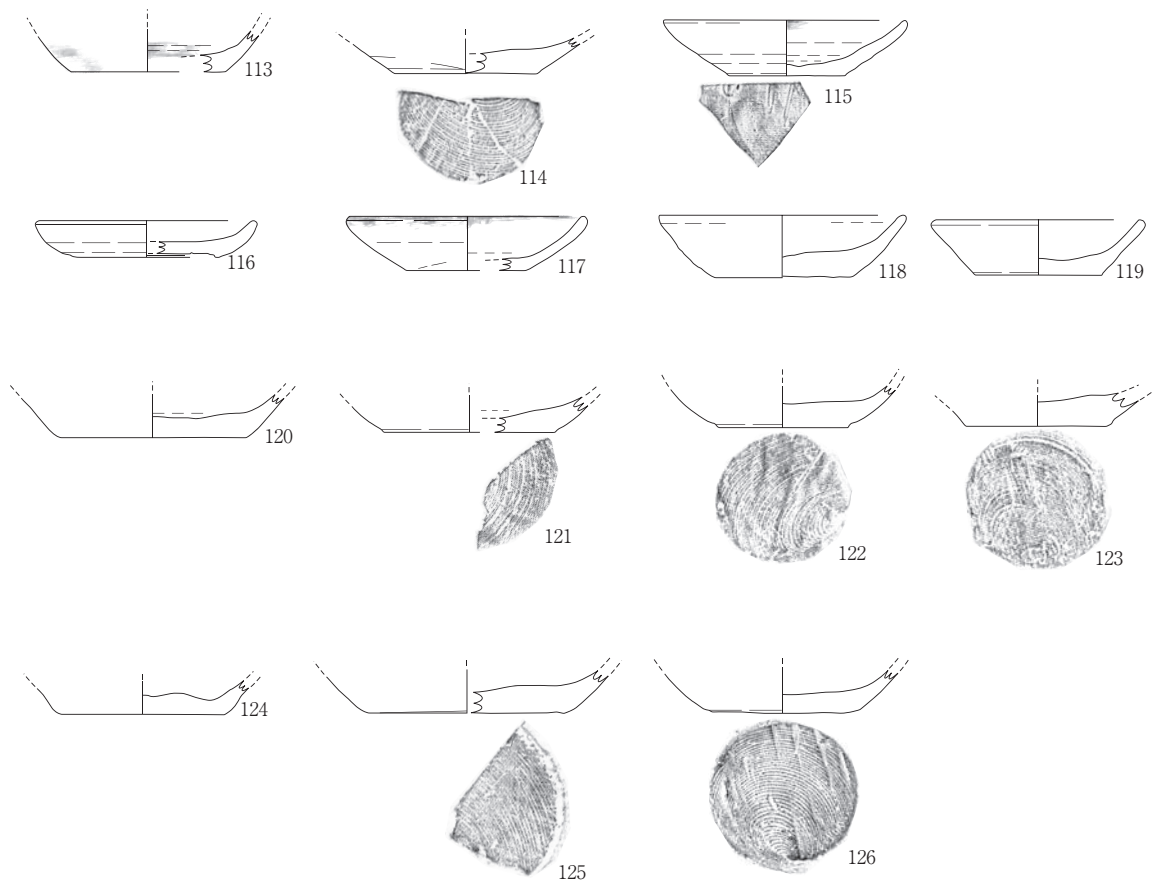


图20 SD3出土遺物実測図4

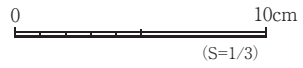






图21 SD3出土遺物実測図5

SD5 (図7・8)

TR1 及び TR3 のいずれも南端セクションのみで確認され、攪乱に分断されていること等から判然としないが、東西方向の溝跡であった可能性がある。図のごとく杭を伴っていたとみられ、それらの下端は尖り、竹のものもあった。近世陶磁器が出土しており、所属時期についてはⅦ層との関係も参考となる。さらに東部のSK36と関連する可能性もある。

SD6 (図22・93・120)

南部で検出したが、被攪乱部分が多い。SD3西縁延長線と合致する。側部に伴うとみられる丸杭からみたSD3との関係は、既述のとおりである。底面の標高を図10に記した。ネコの各部の骨が表7のごとく出土した。

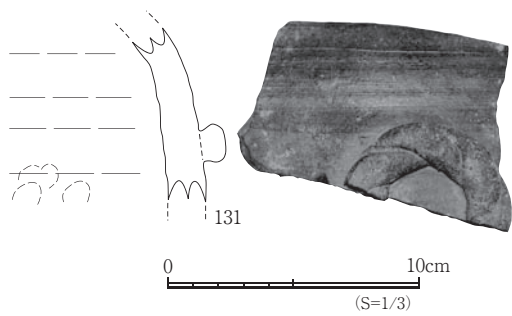
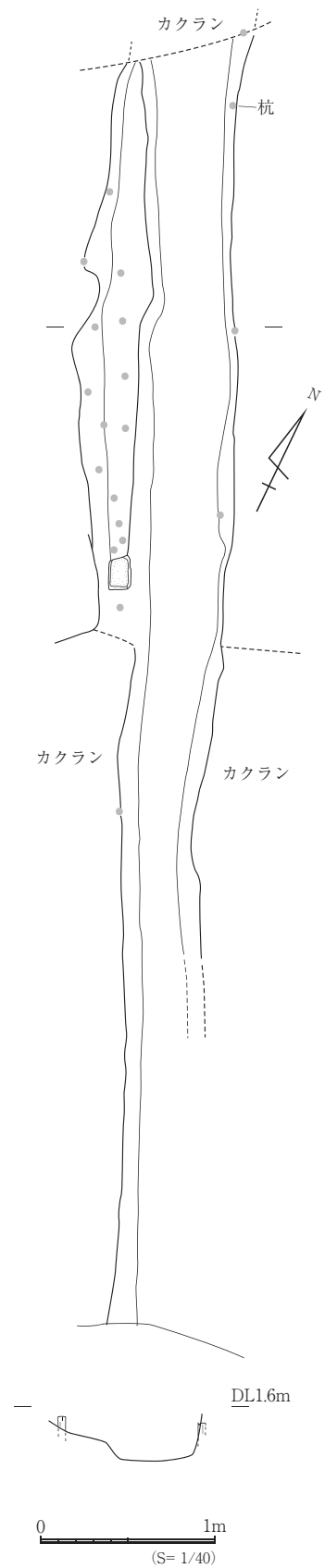
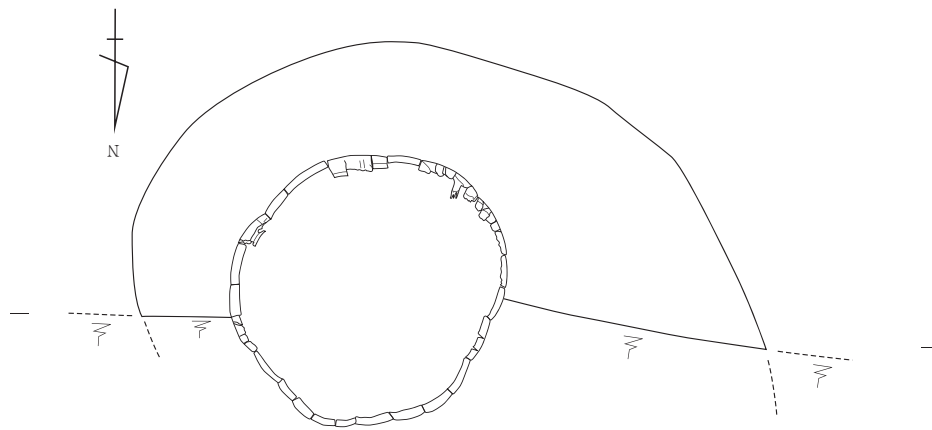


図22 SD6平面・エレベーション・出土遺物実測図



内部は, I層:灰シ, II層:2~3cm 大の円礫.

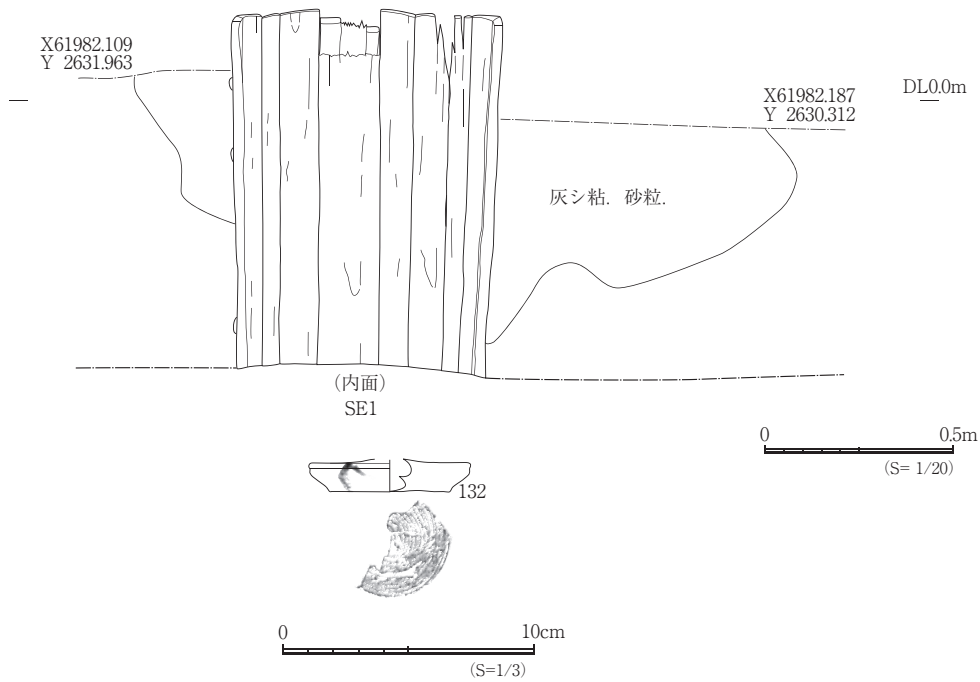


図23 SE1平面・セクション・出土遺物実測図

井戸跡

SE1 (図 23・93・94)

調査区南西寄りにある大型攪乱の下で遺存部分を検出した。上部は削平されているとみられる。結桶1個が遺存した。内部の埋土はちょうど中位で2分され, 上層が灰色粘土, 下層が砂礫であった。

SE2 (図 24・94・95)

調査区東端にあり, SE4にも近い。当初掘形が検出され, 断面を確認しながら掘り下げた結果, 底に結桶1個が遺存した。桶の材は整った柂目で, 状態も良好であった。図示できなかったが, 井戸側の外から染付丸碗, 白・褐色掛分け陶器片が出土した他, 周辺から40~50点の遺物が出土しており, 漆器や木札が含まれている。

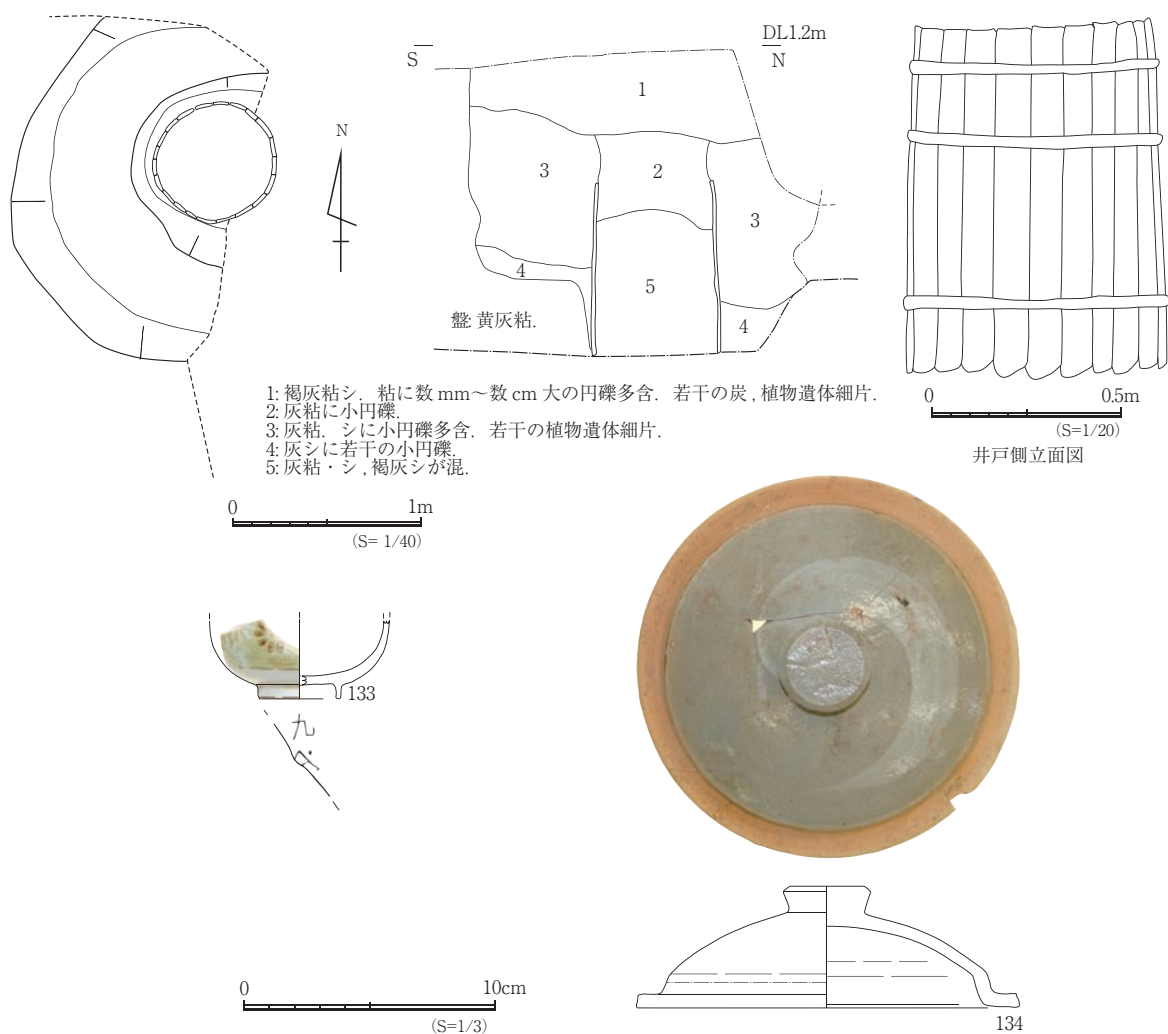


図24 SE2平面・セクション・出土遺物実測図

### SE3 (図 25・52・96)

組み立て式井戸枠を有する。径 10 ~ 13cm の丸材を隅柱，長辺 5 ~ 6cm の角材を横棧とし，隅柱にホゾ穴をつくって横棧を差込み，組み合わせている。その外側に幅 1.6 ~ 1.8cm の竹材を隙間を空けて並べ，井壁を支える構造が西面に残っており，他面は劣化・剥落して図化できなかったが本来は同様であったとみられる。4 段以上の横棧があったことが図からも推察されるが，上部は欠失している。

その他の遺物は策 1 点である (PL19)。埋土は混入物自体僅少で，基盤の灰色シルトに酷似していた。構造は今次検出した井戸跡群の中でも類を見ず，図 52 のごとく他遺構の下位にあることも併せると，今次検出した遺構群中で古い時期に属する可能性がある。一方，当遺構の主軸方位等には他の近世遺構群との関連が看取される。SK30 は当遺構を覆うように位置する。

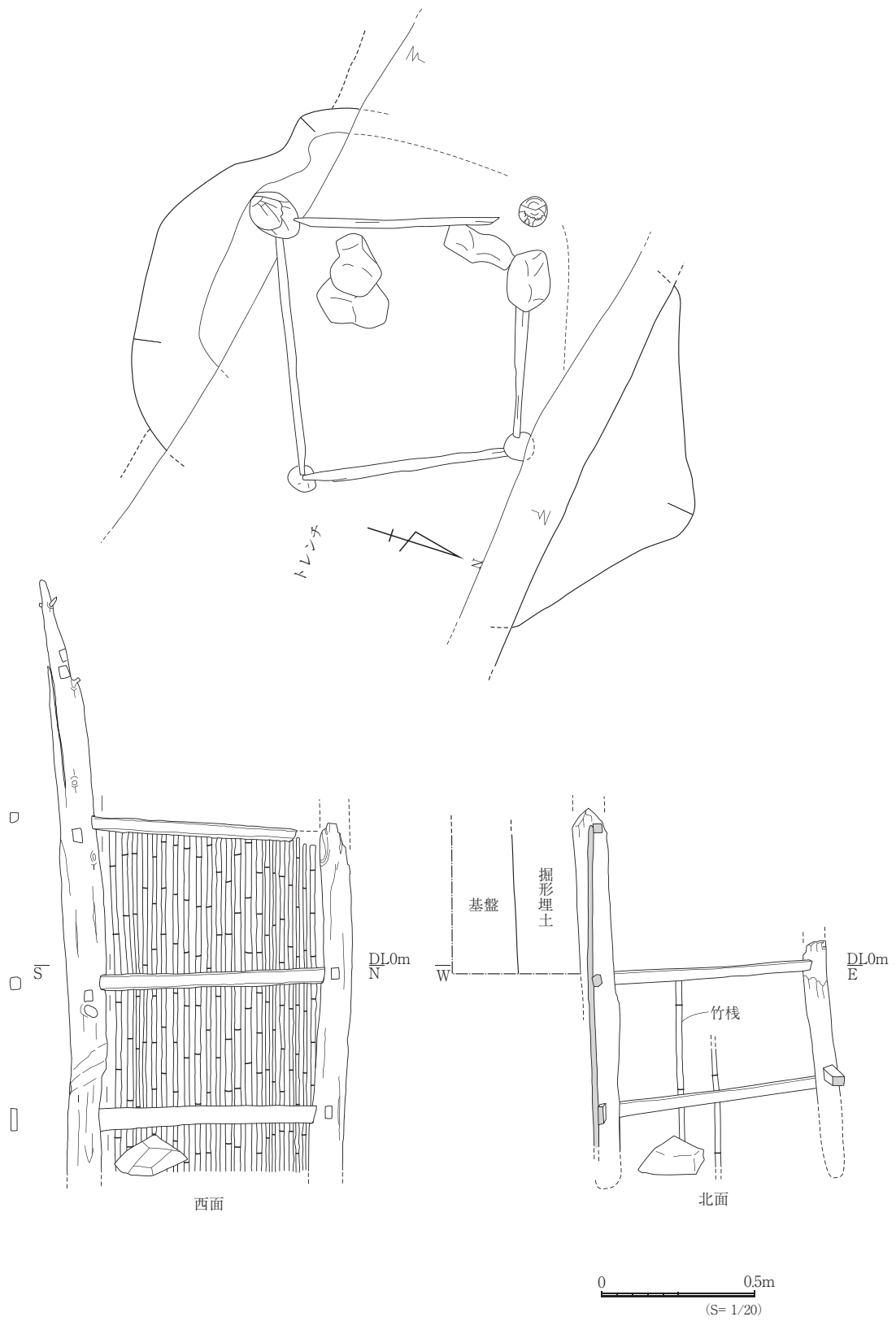


図25 SE3平面及び内面立・断面図

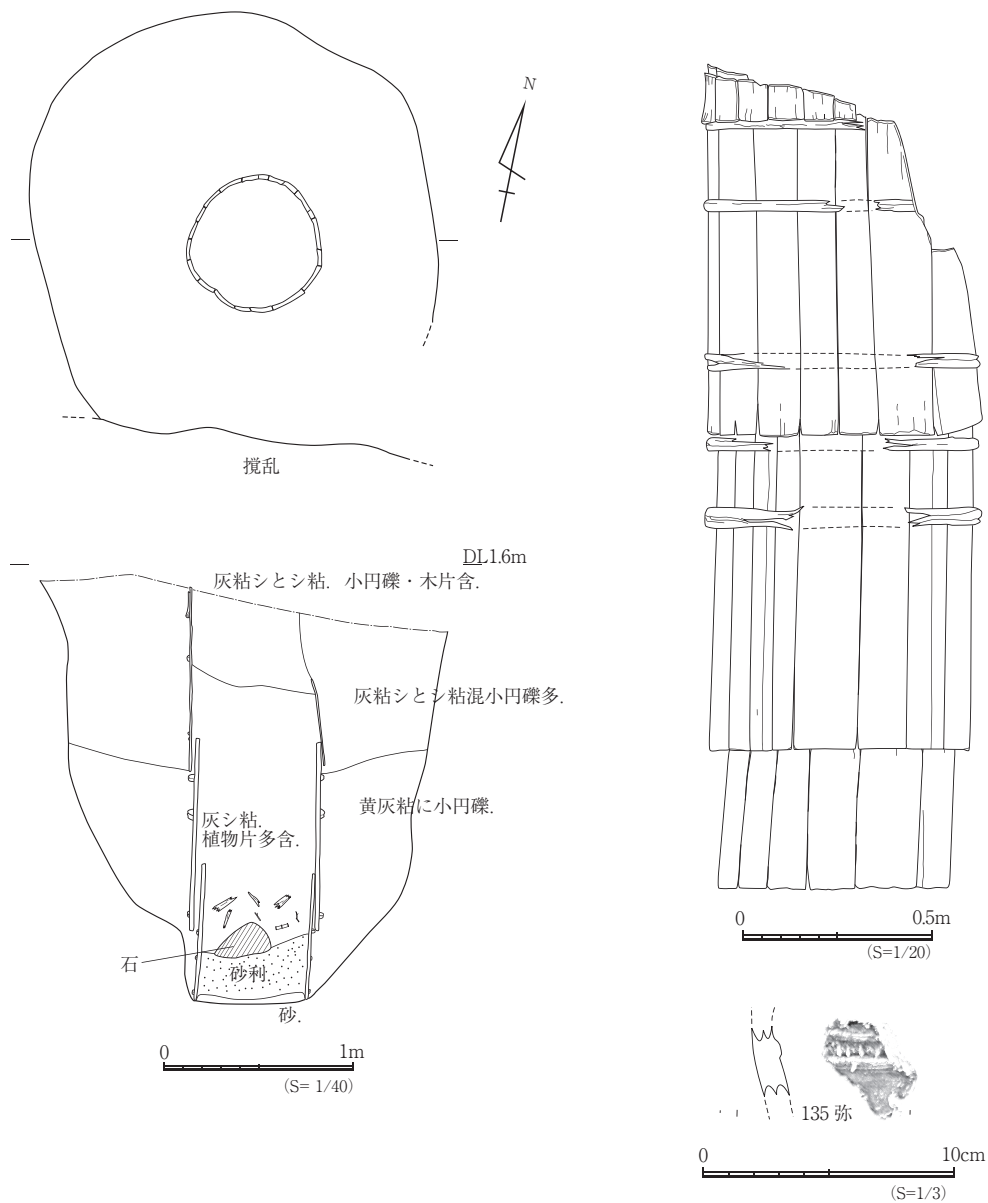


図26 SE4平面・セクション・出土遺物実測図

#### SE4 (図 26・97)

SE2に近く、SX5等と平行する。残深2.2mを測るが、4段目の結桶は下端を残して削平されている。南部の上層は現代攪乱を受けていた。重ねて積み上げた各結桶は箍で締められているのみで、竹釘等で接合されていない点がSE1や2とは異なる。また、材質もSE2に比べて軟弱で、荒れたものもあった。井戸側内より、完存の釣瓶(PL109)や弥生土器135が出土した。

#### SE5 (図 27・103・120)

北部のSD3沿いで検出した。検出時の埋土は区別し難く、プランも不明瞭であったためサブトレンチを設定した結果、井戸跡と認識できた。中に木材や不明構築材、チャートが投入されていた。底の集水施設はいわゆる「ハンダ」でつくられている。

上層土は付近の包含層とはほぼ同じで、埋没最終段階の状況を示唆する。同包含層は、焼土粒を含

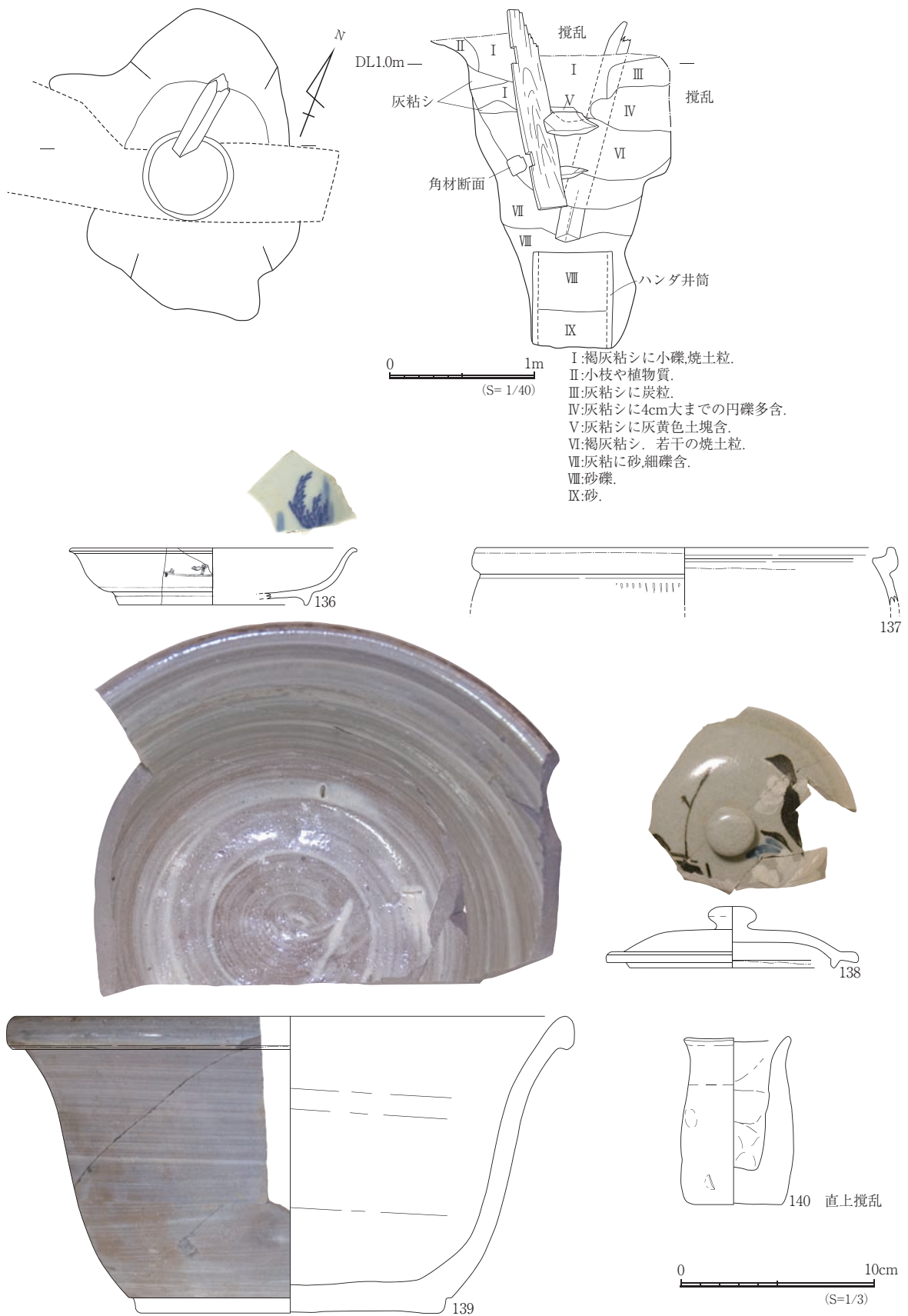


図27 SE5平面・セクション・上層出土遺物実測図

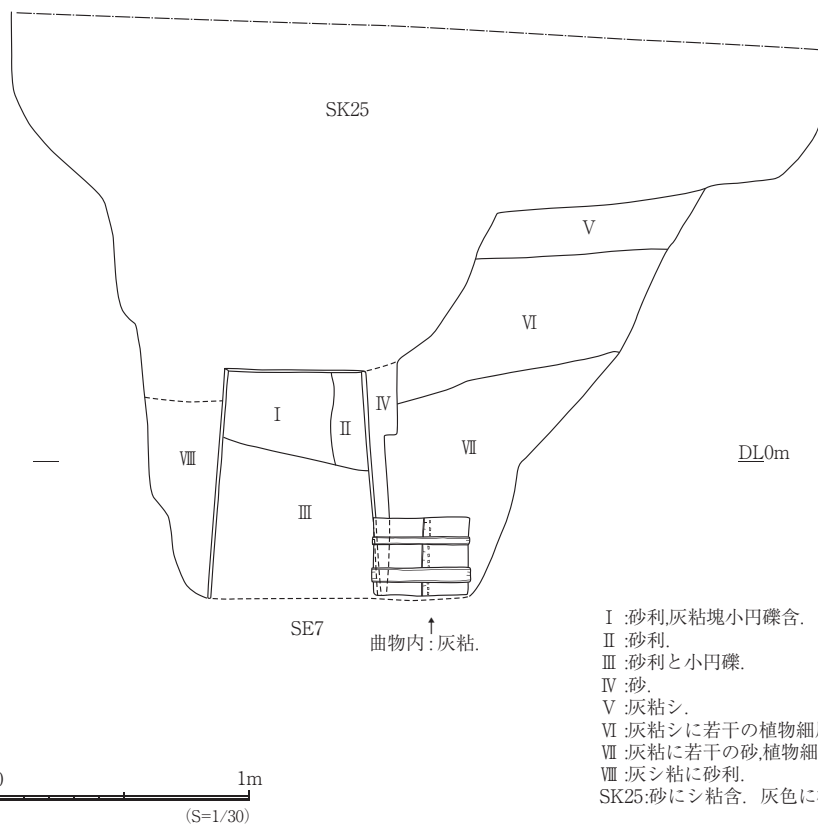
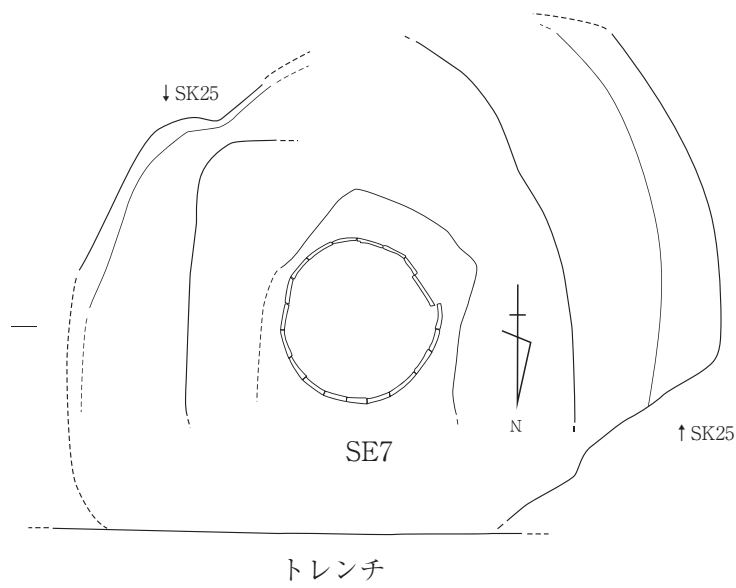


図28 SE7平面・セクション図



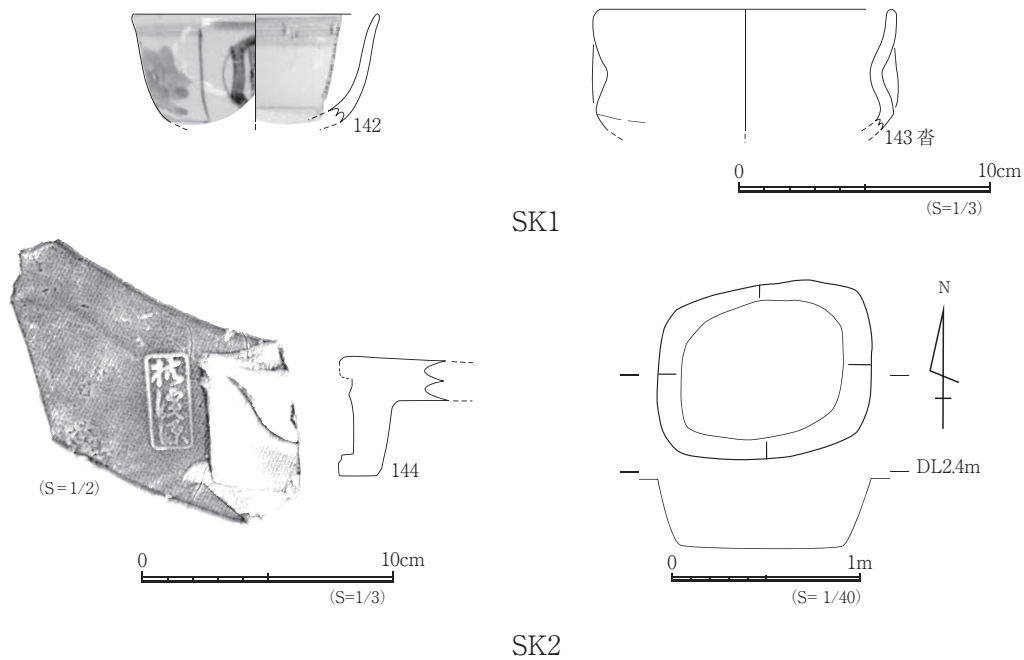


図29 SK1・2平面・エレベーション・出土遺物実測図

む特徴がある。また、当遺構の上位周辺は落込んでおり（旧 SK16）、表 2 のごとく端反碗や被熱瓦が出土している。

#### SE7（図 28・98）

上位にある SK25 は当遺構に関連する可能性があるが、周辺の遺構の重複状況からみて確言できないため、分離して記す。両者に関連する場合、図 28 のごとく、少なくとも当井戸跡の廃絶は SK10、SK17 の埋没後である。また、遺存した曲物や結桶の状態からみて 2 時期が想定できる。底部西側の曲物は径 38cm、高さ 30.9cm を測り、集水施設とみられる。東側の結桶は上径 65cm、下径 69cm を測り、縦板材は今次出土した他の同様の井戸跡と比べて小振りである。材の外観も粗雑にみえ、調整が比較的粗いとみられる。材質の差異は不明である。この桶の西側直外は薄い砂の層であった。また、埋土の V～VII 層には共通性がある。

遺物は僅かな細片のみで図化に有効なものがない。上位の SK25 については後記及び表 2 参照。

#### 土坑

#### SK1（図 9・29）

バンク 2 上で検出した不整円形の遺構で、残深は浅い。

#### SK2（図 29）

検出標高は基本層準 IV 層上面付近だが、近代陶磁器等は出土していない。遺物は少量で、銘入りの軒平瓦 144 がある。

### SK3 (図 30・99)

W 区で SD2 掘削中に存在が認識でき、SD2 下層まで進んだ時点でプランが明らかになった。上部は現代攪乱により破壊されているが、本来一定の深さを持っていたとみられ、残存する下部が明確に検出された。染付碗や瓦に被熱したものを含む。出土遺物の年代観で最も時期の下るものは 17 世紀末～18 世紀前葉である。南側に近在する SK4 出土の染付鉢 2 片が、本遺構下層出土遺物と接合した。

### SK4 (図 31・99)

検出状況は SK3 とほぼ同様であった。

### SK5 (図 31・99)

M 区西部の SD2 南部で、SD2 の埋土除去後に検出した。東側はトレンチや前庁舎基礎のため、平面形が不明確である。底まで達している杭との関係も不明である。遺物は多くないが、沢瀉文の漆器碗 692 は内底に焦げがある。瓦片は 3 点が被熱している。

### SK6 (図 32)

M 区西部で SD2 底面で検出した。2 つの遺構である可能性がある。埋土に有機物が多く、下位より丸木が出土した。中世や古代の遺物を含む (586)。

### SK7 (図 32・121)

SK6 と同時に検出したが、埋土は異なる。

### SK8 (図 32・99)

北部で検出した浅い遺構で、破壊されて一部が残るのみであったが、下駄が良好に出土した (図 99)。

### SK10 (図 32)

SK25 や攪乱に切られ、全容が不明確である。図 32 のごとくそれらより下層で、SD2 東の縁部に位置する。埋土は砂で特徴的であり、底層に鉄分集積がみられる。位置や埋土から SD2 との関連が考えられる。

### SK11 (図 33・100)

図 33 のごとく他遺構に切られる。平面形は SD3 側を含む 2 辺が直線的で、SK21 と並ぶ。染付、瓦に被熱したものを含む。大型のニホンジカの二の腕部分の骨や、カキ、サンゴが出土している (表 7)。

### SK12 (図 34・100・101・121)

バンク 2 及びトレンチにかかる。約 40cm までの石灰岩、若干の被熱瓦片、土壁片を含む。

### SK13 (図 33・35・101)

SK11 を切る。出土遺物の年代観で最も時期の下るものは 18 世紀前葉である。遺構の平面形は SD3 側が直線的である。出土した瓦片 4 点はいずれも被熱変色している。

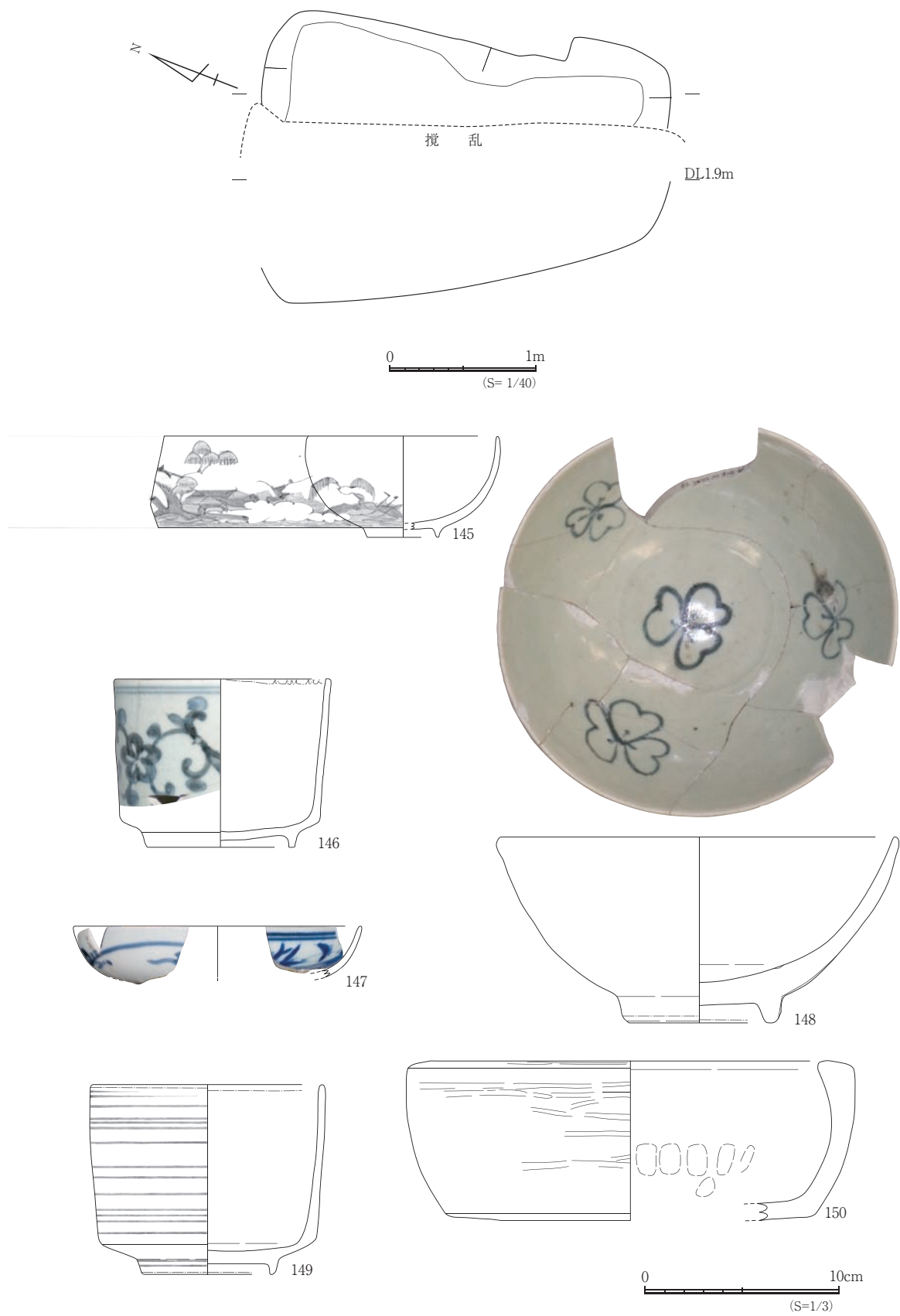


図30 SK3平面・エレベーション・出土遺物実測図

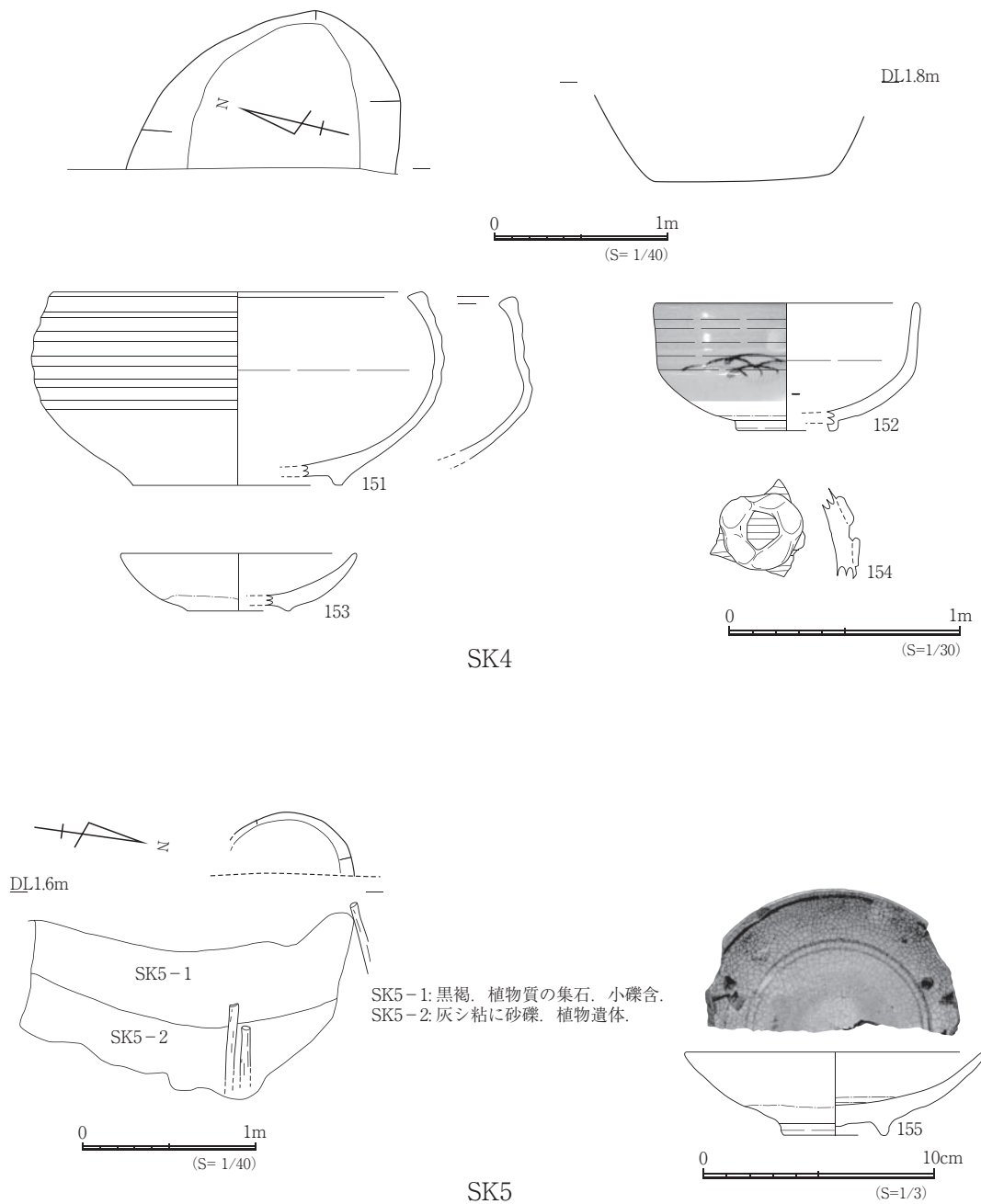


図31 SK4・5平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図

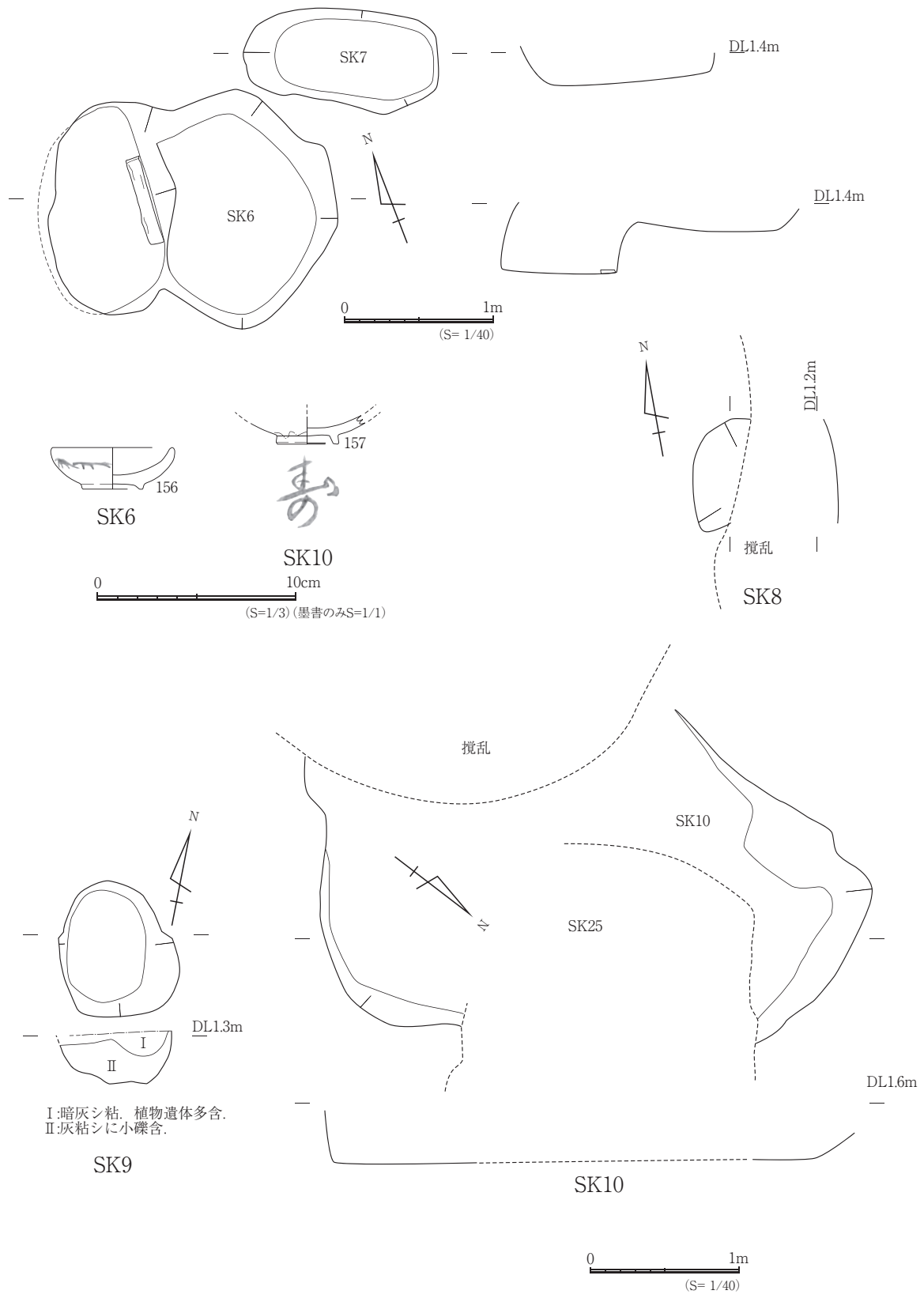


図32 SK6 ~ 10平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図

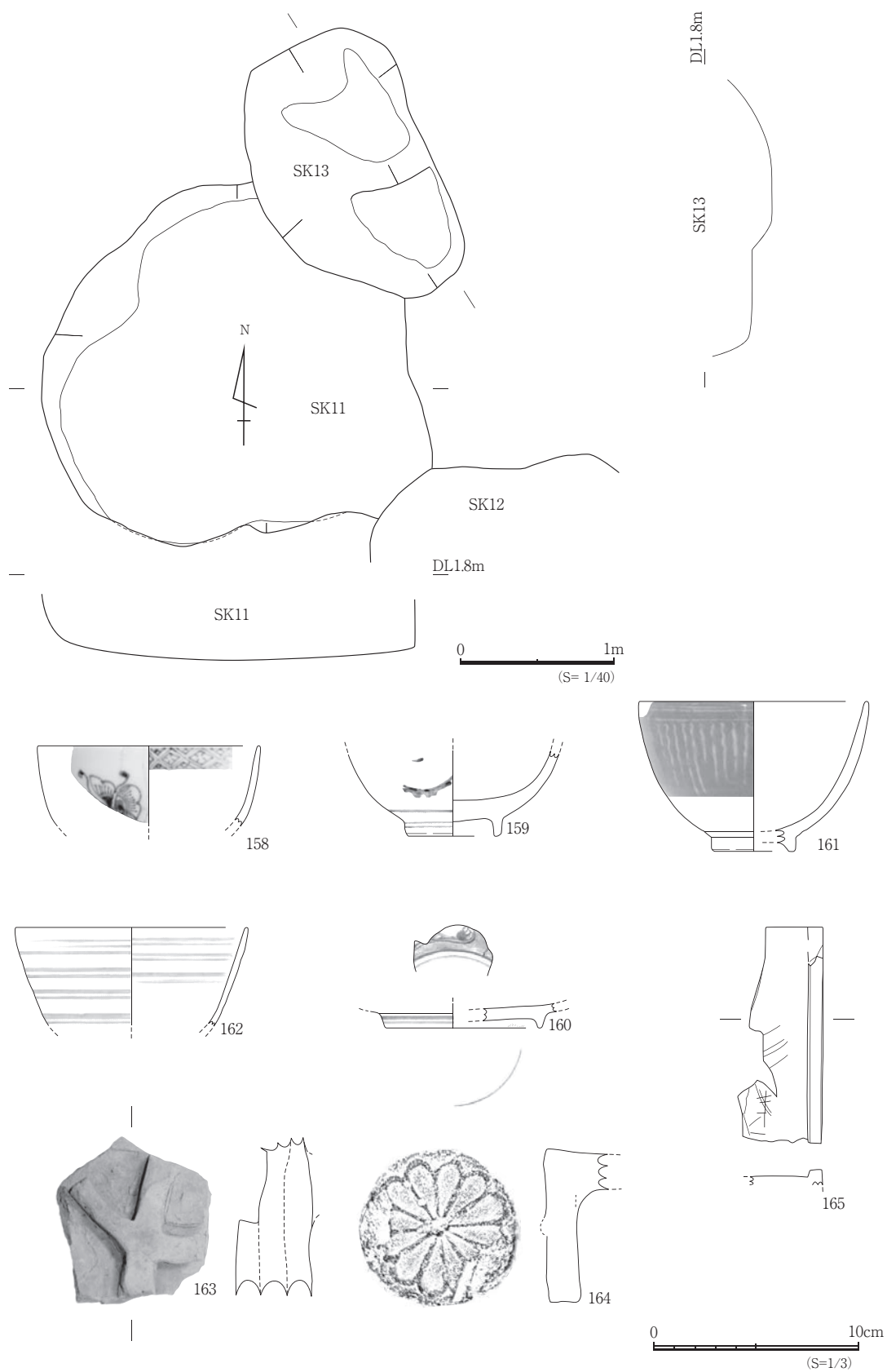
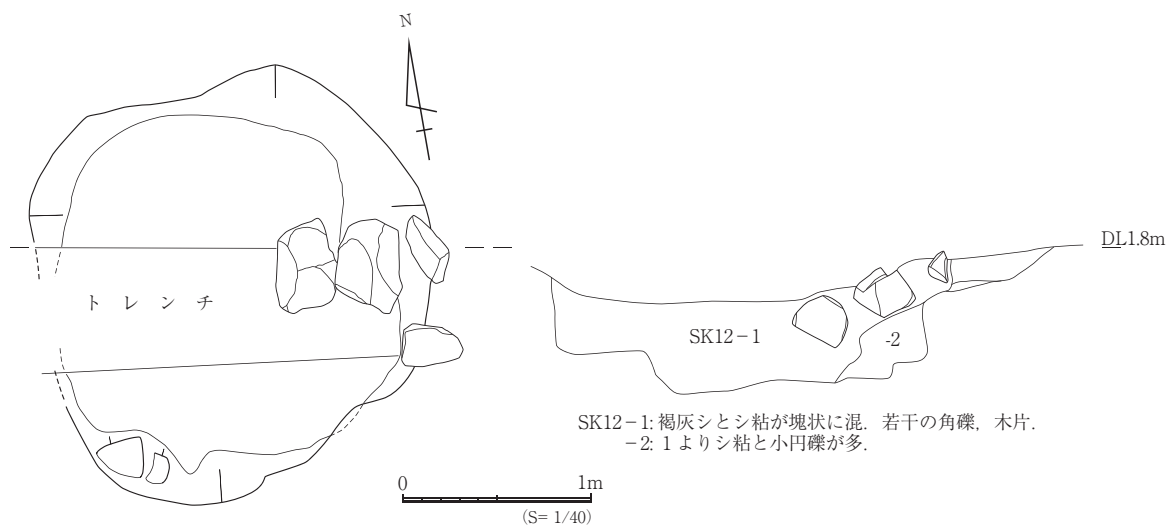


図33 SK11・13平面・エレベーション・SK11出土遺物実測図



SK12-1: 褐灰シとシ粘が塊状に混. 若干の角礫, 木片.  
 -2: 1よりシ粘と小円礫が多.

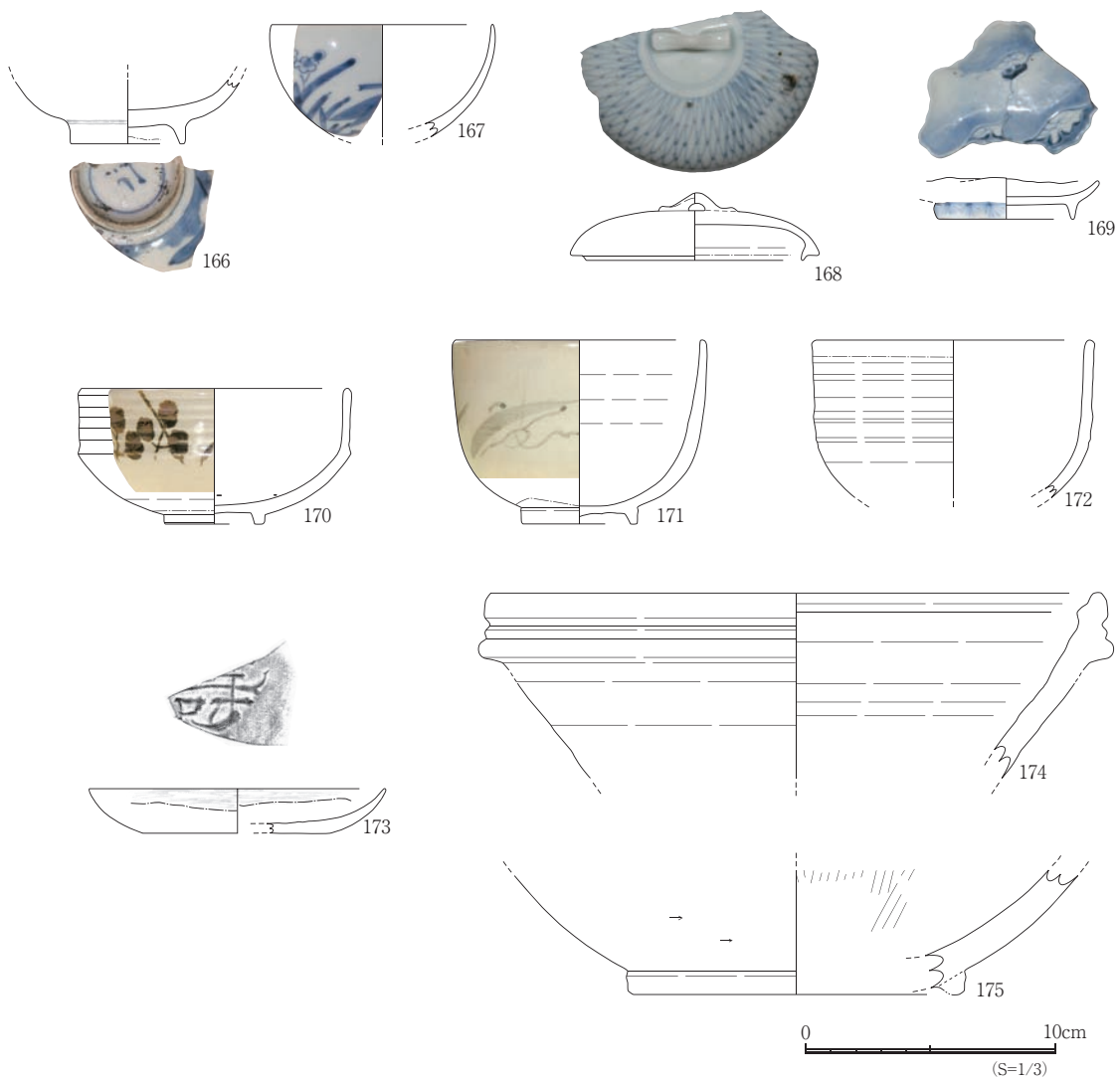


図34 SK12平面・セクション・出土遺物実測図

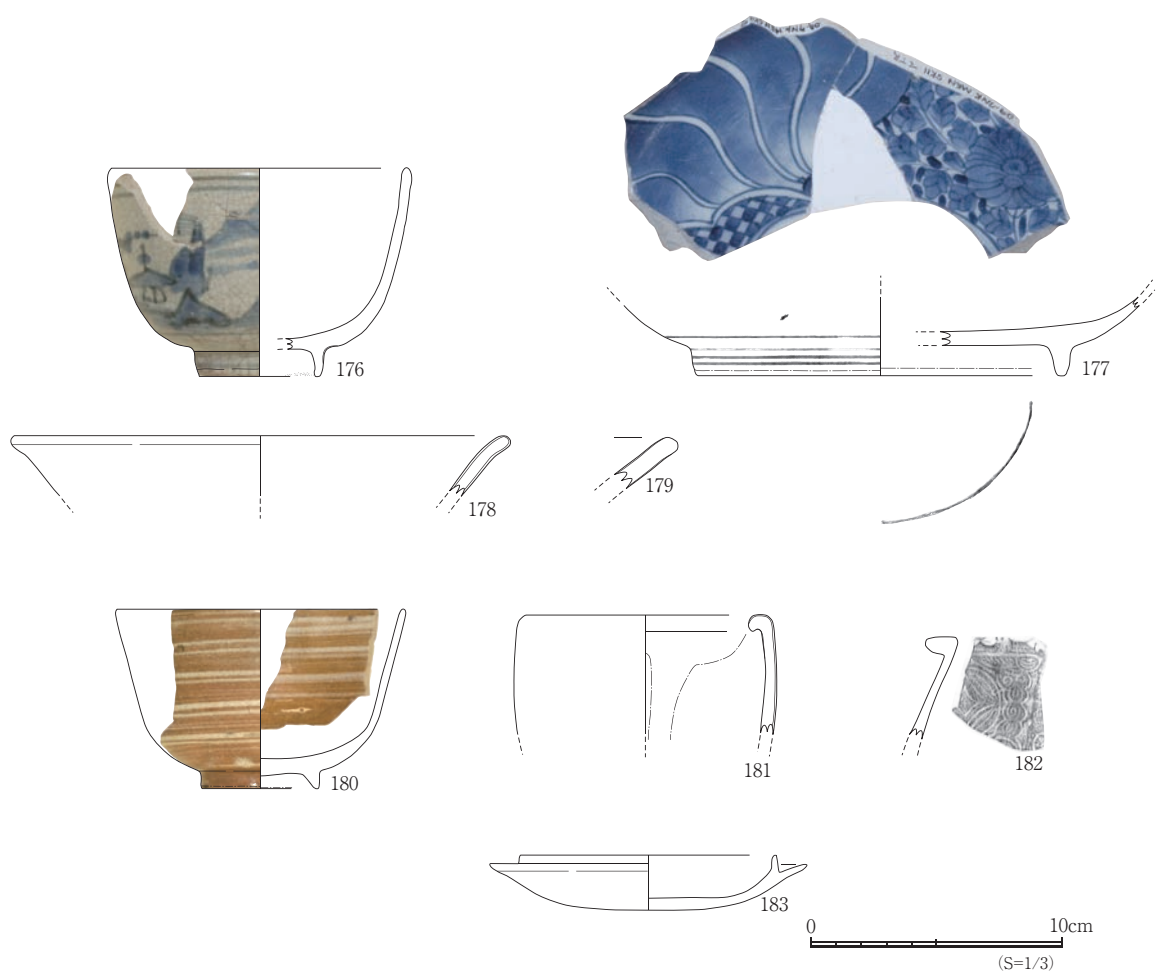


图35 SK13出土遗物实测图





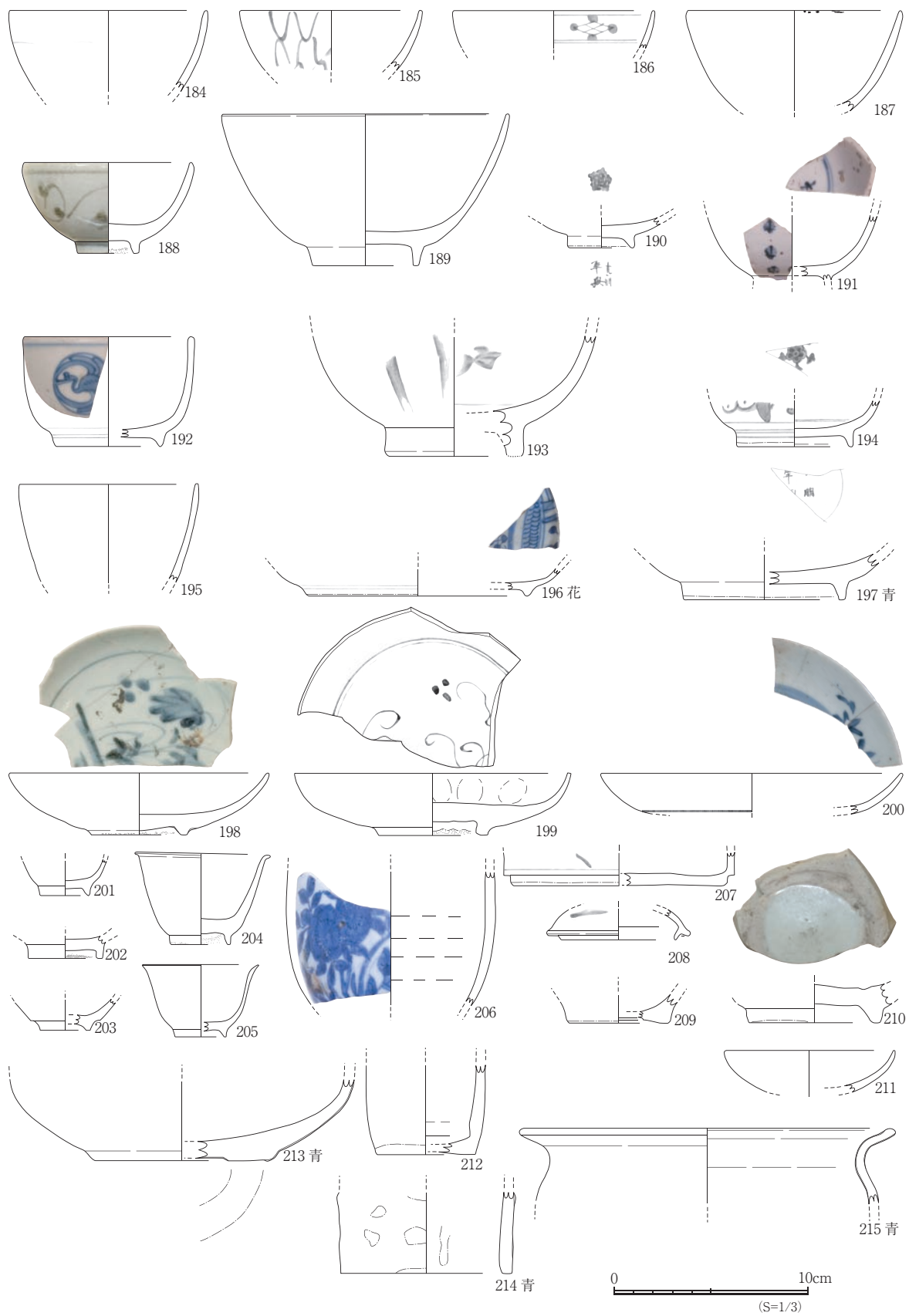
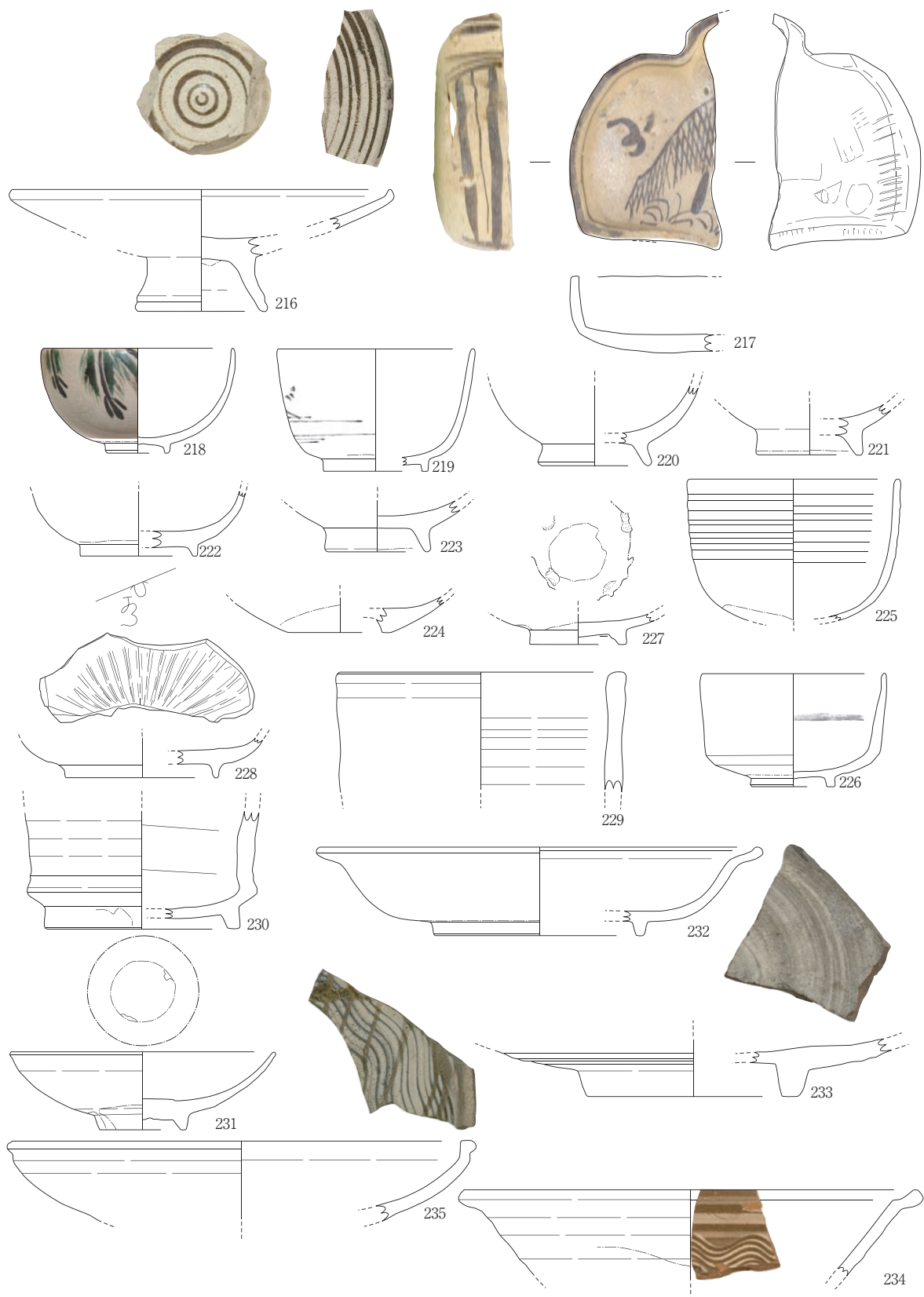


图37 SK14出土遺物実測図1



0 10cm  
(S=1/3)

图38 SK14出土遺物実測図2

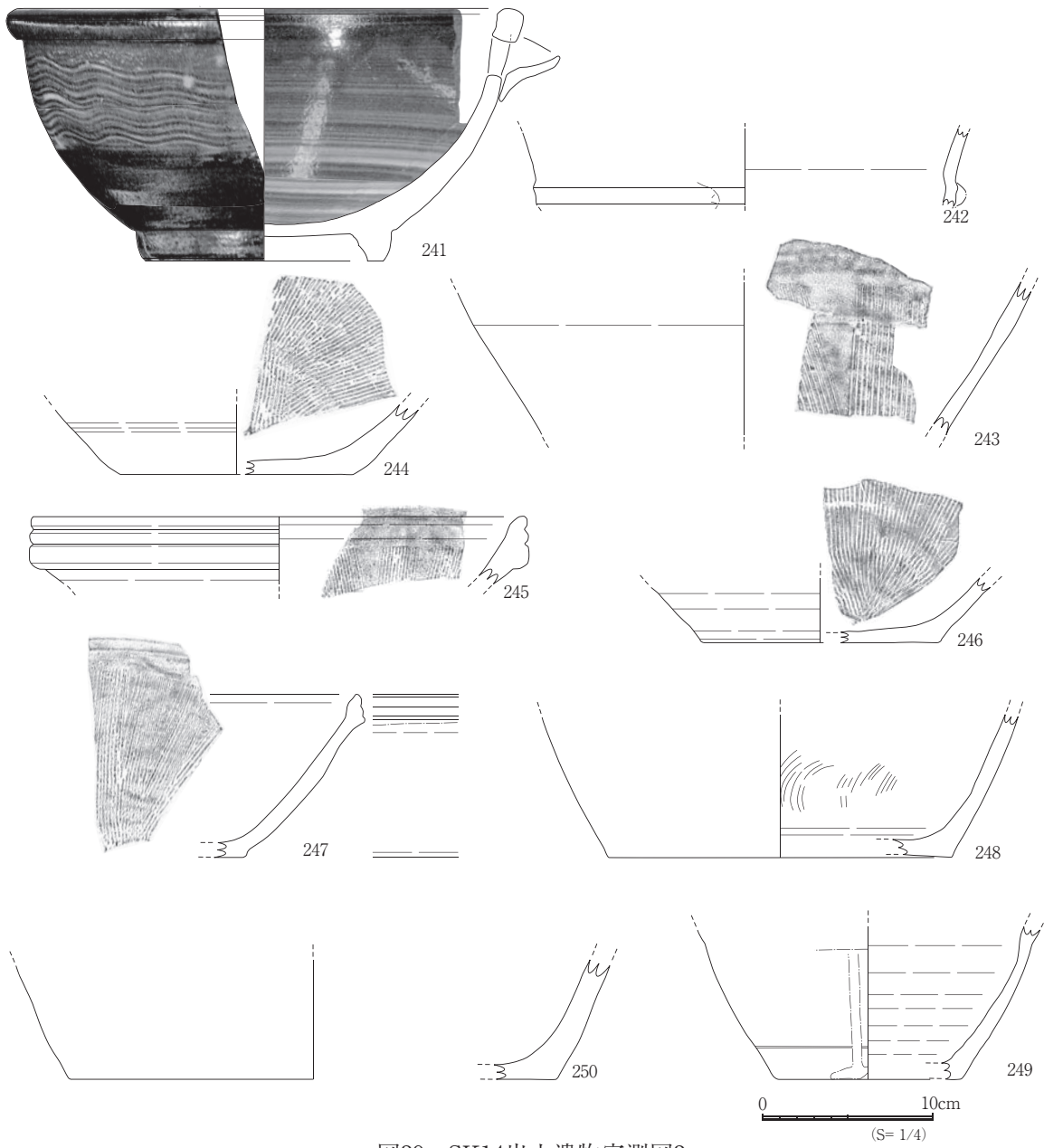
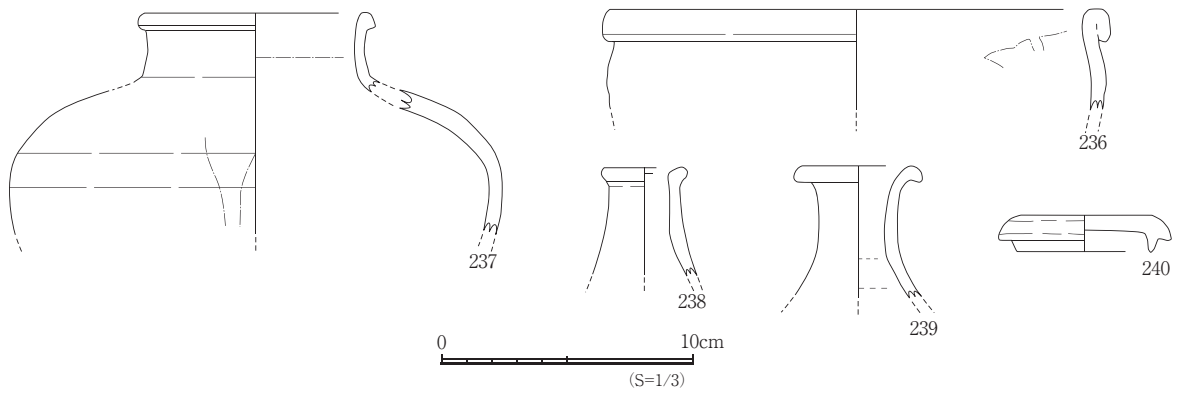


图39 SK14出土遺物実測図3

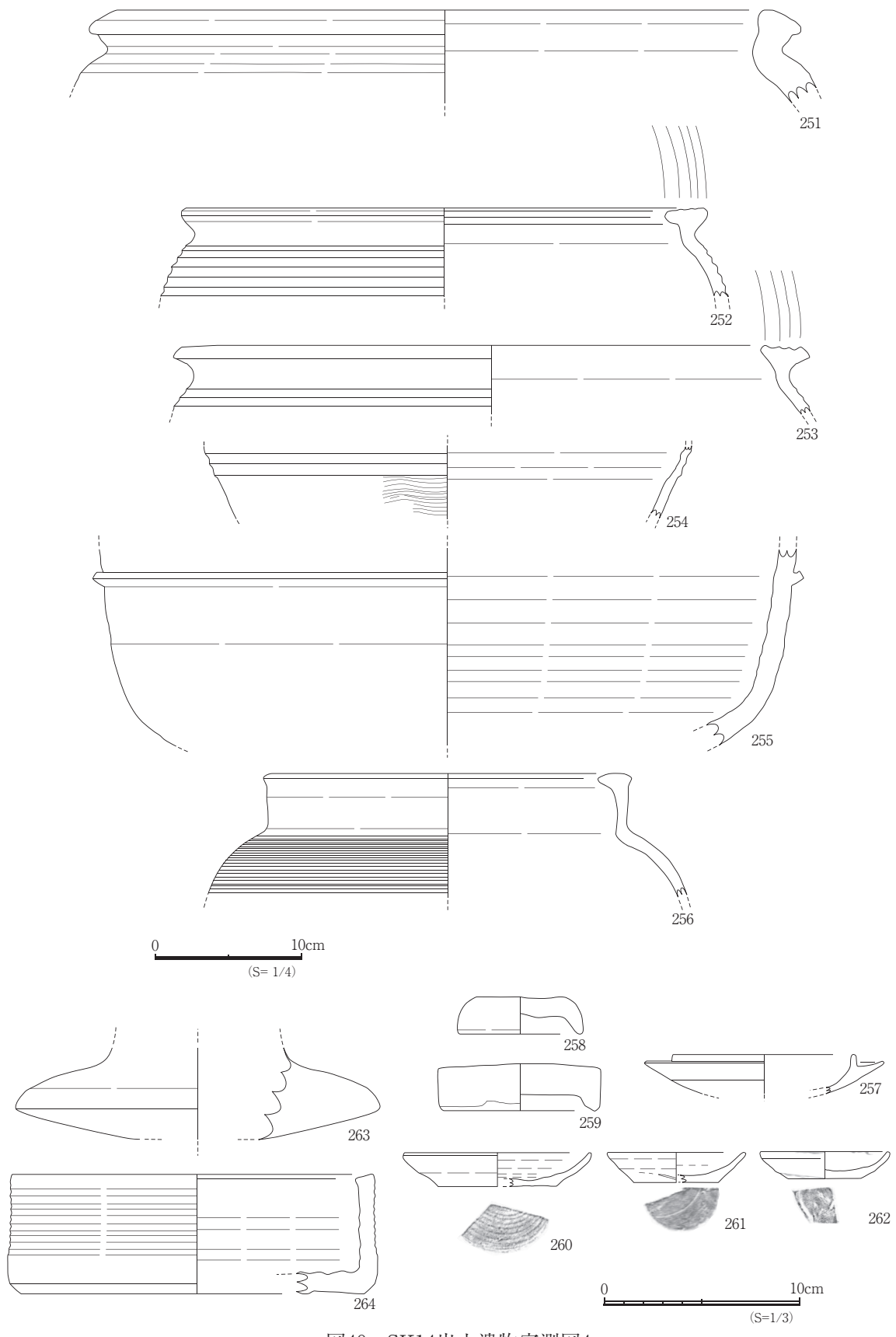
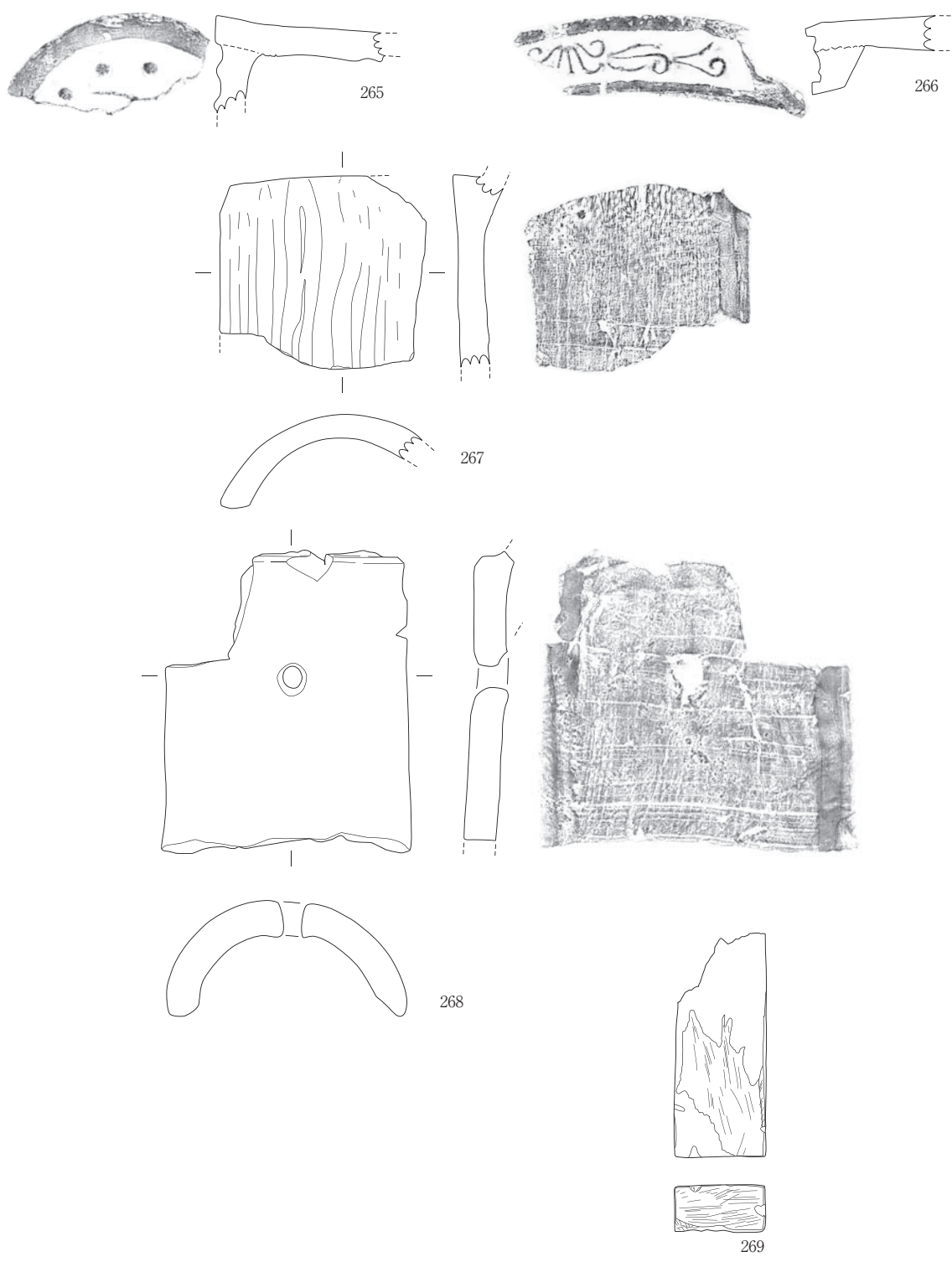


图40 SK14出土遗物实测图4



0 10cm  
(S= 1/4)

图41 SK14出土遺物実測図5

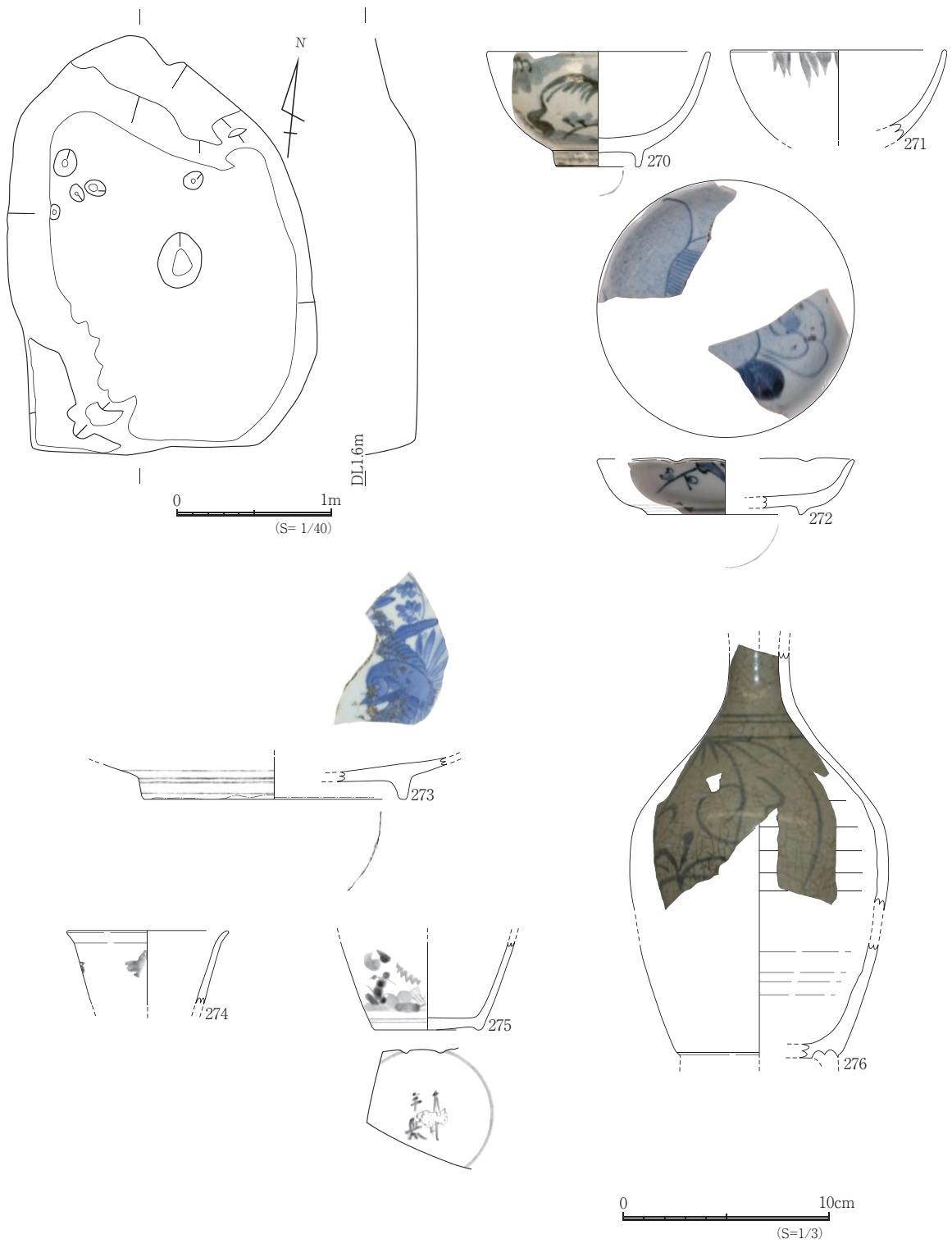


図42 SK15平面・エレベーション・出土遺物実測図1

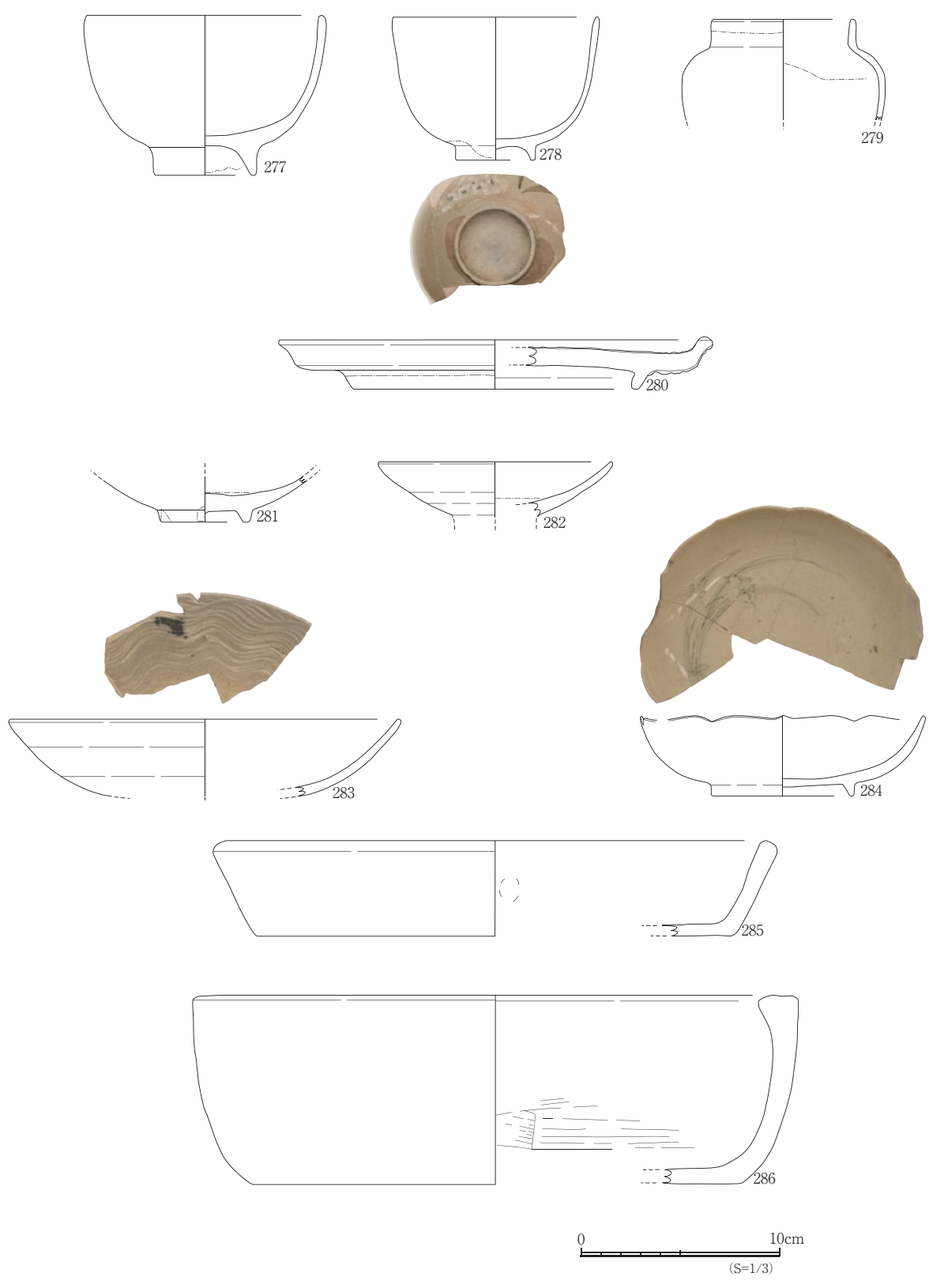


图43 SK15出土遺物実測図2



#### SK14 (図 36 ~ 41・102・121)

平面積が比較的大きく、出土遺物も多い。SD3 側に直線的な部分がある。西縁は SK18 ~ SK17 の延長上にある。土層は、シルト~粘土質シルトと木片・植物遺体層が数次の互層をなし、焼土かとみられる橙色粒や粘土塊を含む層や部分がある。今次は瓦の出土量が比較的多いとはいえない中で、当遺構からは約 100 片出土し、そのうち 7 割が被熱、2 割は被熱の可能性はある。出土陶磁器も約 1/3 が被熱している。その他、土壁片が大小数片出土している。以上のような特徴から、当遺構は火災後の廃棄に関わる可能性がある。また橙色粒（焼土か）を含む a 層は基本層準で述べた北壁 I 層と類似しており、北東部一帯に広がるこのような土層と関連している可能性がある。

出土遺物のうち図示し得なかった破片には甕、或は褐釉のものが比較的目的立ち、外面のタタキを擦り消したものを含め約 30 片を数える。丸瓦の内面には布痕のものと鋭い斜条線(「コビキ B」状)のものがある。動物遺体も出土しており、ニホンジカや魚貝類がある。

#### SK15 (図 42・43・103・121)

SD3 の西側にあり、不整形を呈する。遺構の深さは浅い。小穴を伴う。284 と上手の大皿 273 の製作年代にはやや開きがある。陶胎染付 284 の製作年代は 18 世紀以降の可能性はある。動物遺体では貝が目立つ。

#### SK17 (図 44・104)

バンク 2 中央部にあり、平面形は SD3 側が直線的である。西辺は SK38, 39, 14 の列線に合致する。断面は深く、埋土は特徴的である。SE7 に先行する。

#### SK18 (図 45・104・121)

正方形を呈し、軸線方位は SD3 等と異なる。

#### SK19 (図 46)

北部にあり、残深は浅い。下駄が 1 点出土した。

#### SK20 (図 46・104)

M 区北西隅で検出した。遺構が重複している可能性がある。

#### SK21 (図 46・122)

SD3 南端に位置し、南辺は SK11 の延長上にある。口縁に規則的な欠けのある 302 と、煙管 879・880 が出土している。

#### SK24 (図 47・105・122)

バンク 2 に位置する。

#### SK25 (図 9・48)

調査区中央で、バンクやトレンチにかかる。図 10 のごとく複数の遺構が重複する地点で、当遺構が最も後出する。SE7 を覆っており、その廃絶に関連する可能性がある。埋土は SD2 の 2 層との類似性がある。上手の大皿片 307 は 17C. 中~後葉。その他陶磁器片は一定数出土しているが、図化し難い細片が多い。

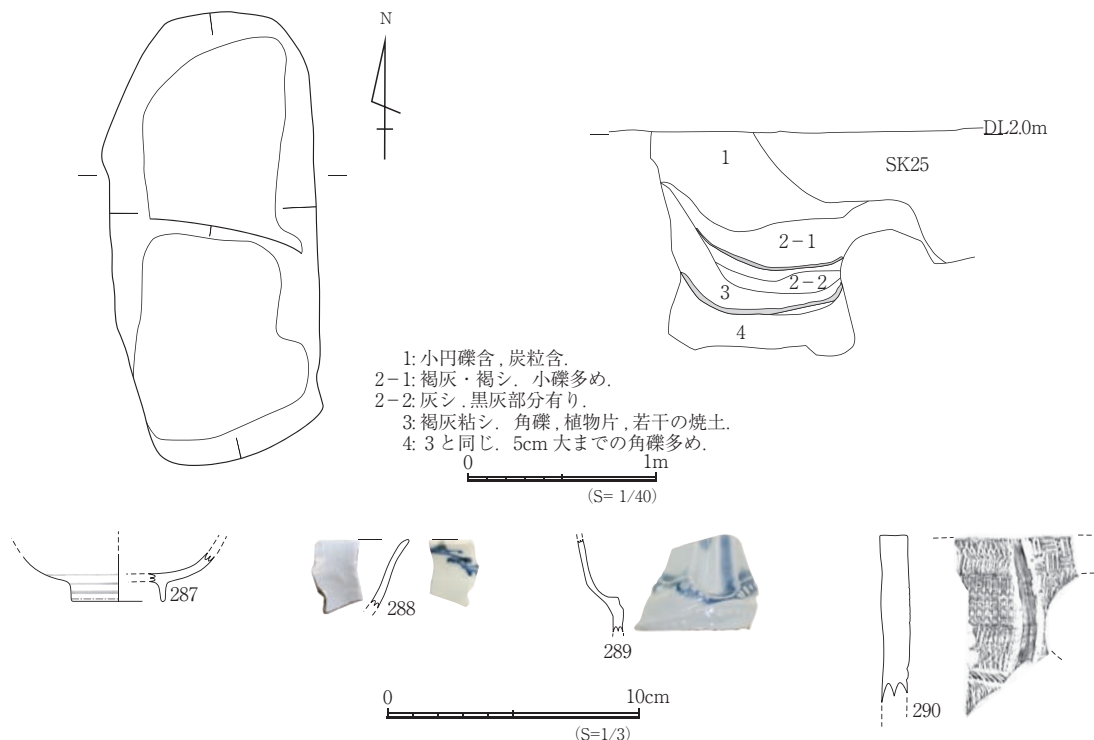


図44 SK17平面・セクション・出土遺物実測図

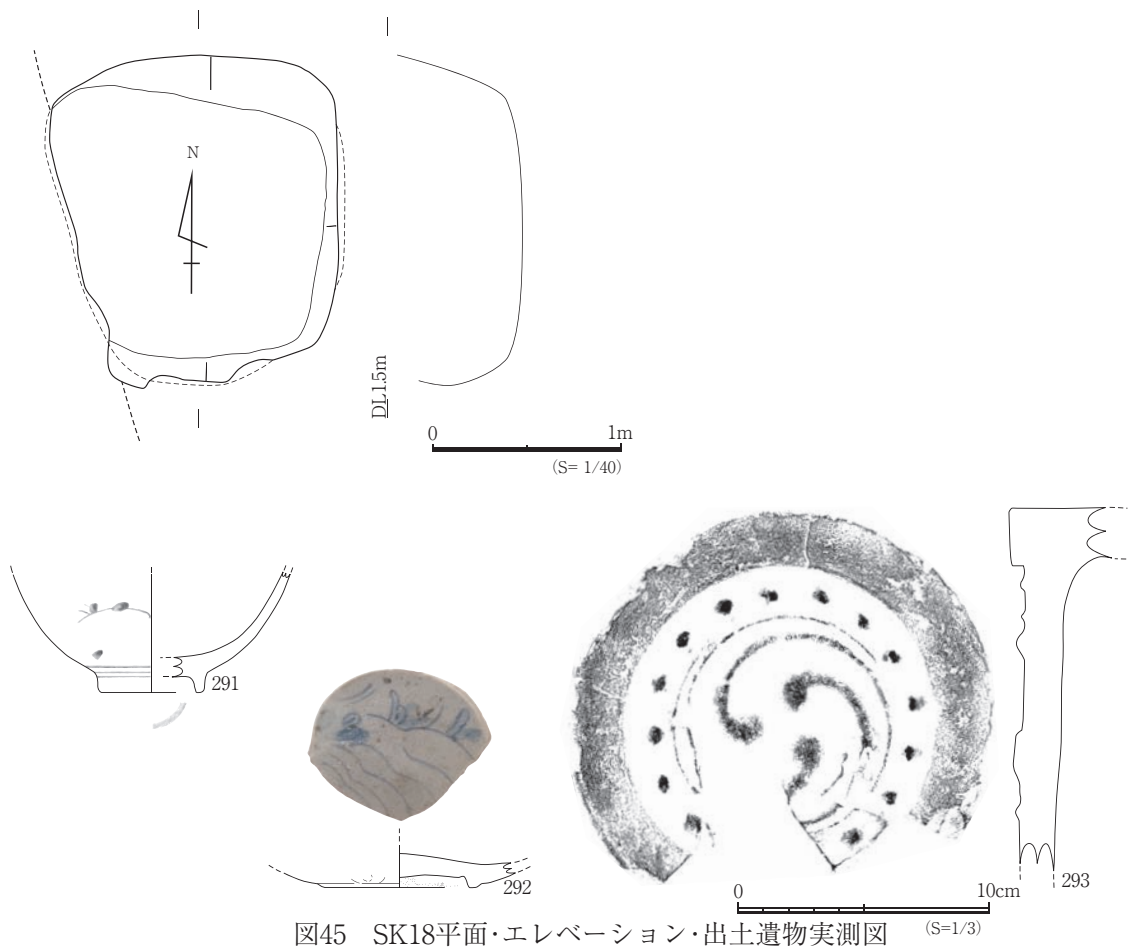


図45 SK18平面・エレベーション・出土遺物実測図 (S=1/3)

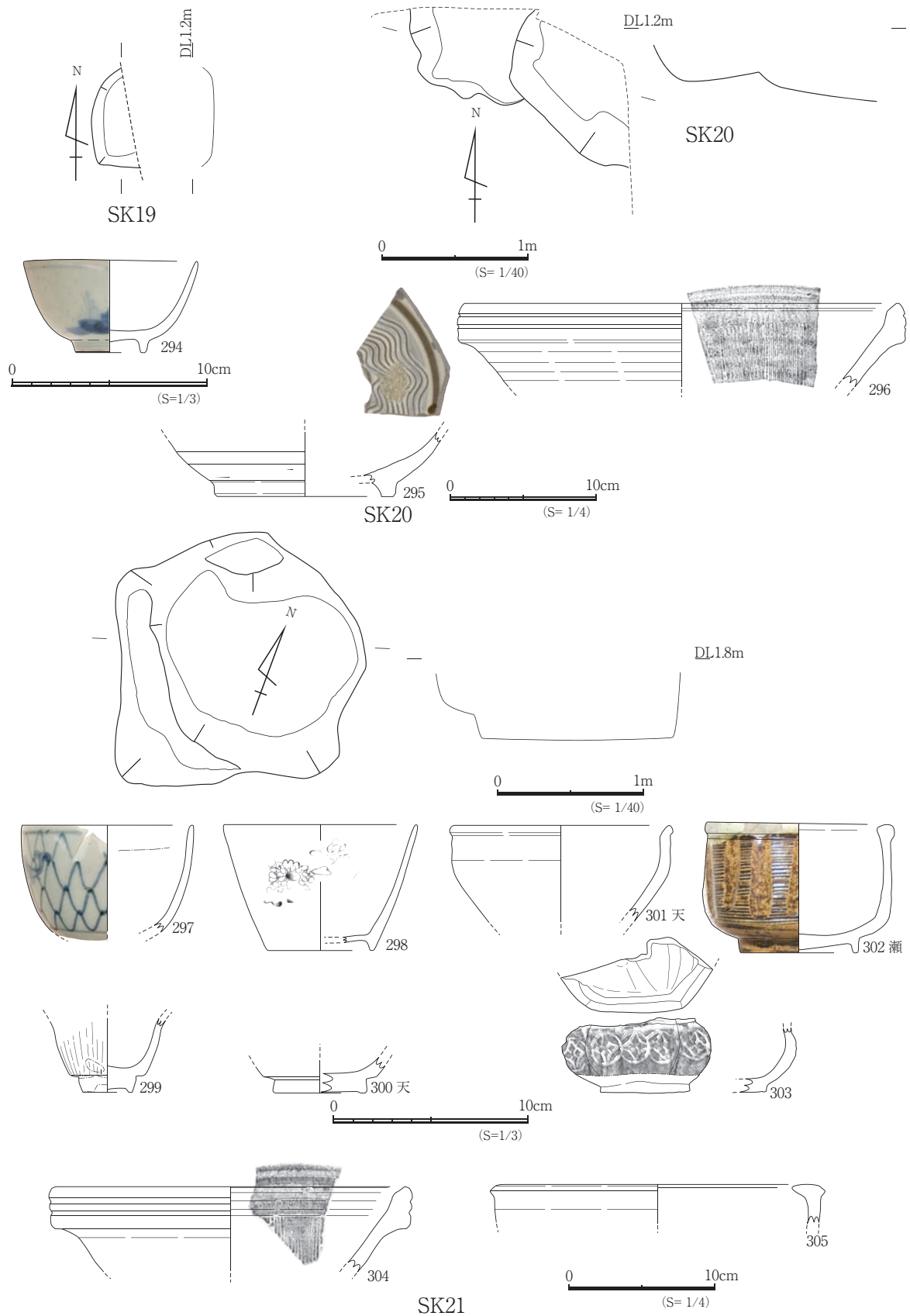


図46 SK19～21平面・エレベーション・出土遺物実測図

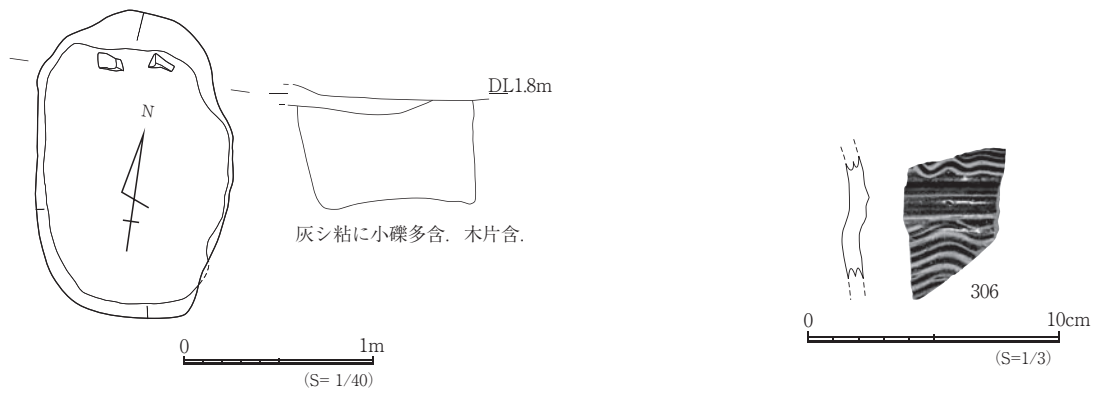


図47 SK24平面・セクション・出土遺物実測図

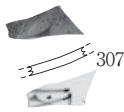


図48 SK25出土遺物実測図

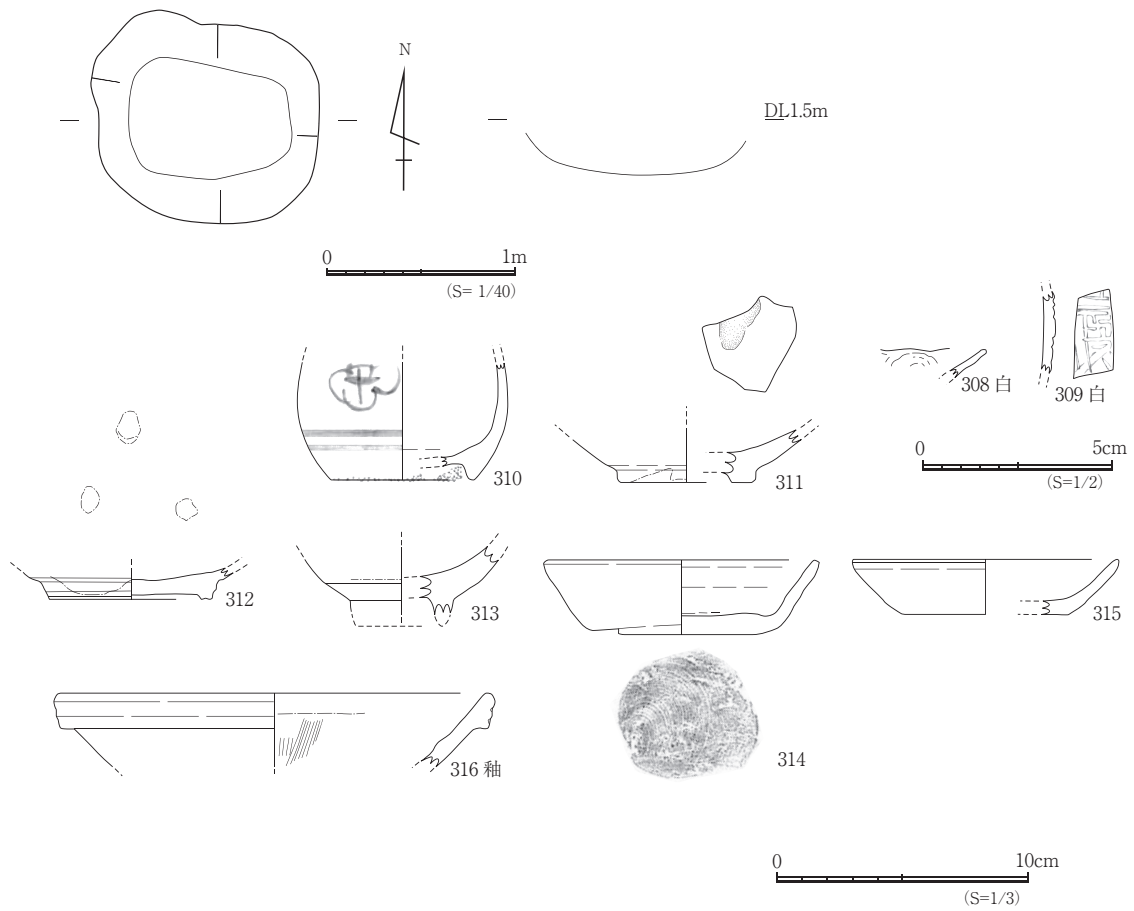


図49 SK26平面・エレベーション・出土遺物実測図

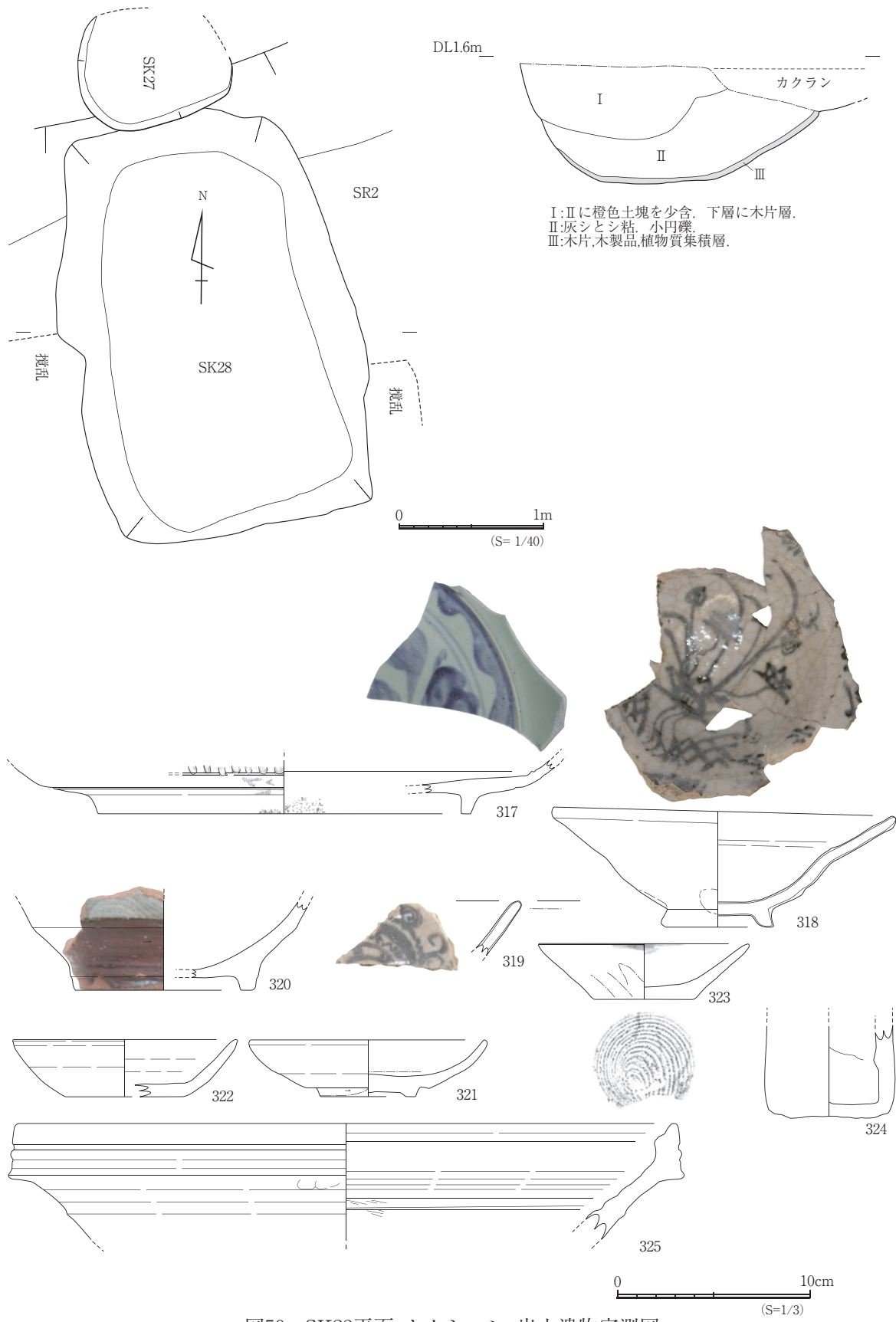


図50 SK28平面・セクション・出土遺物実測図

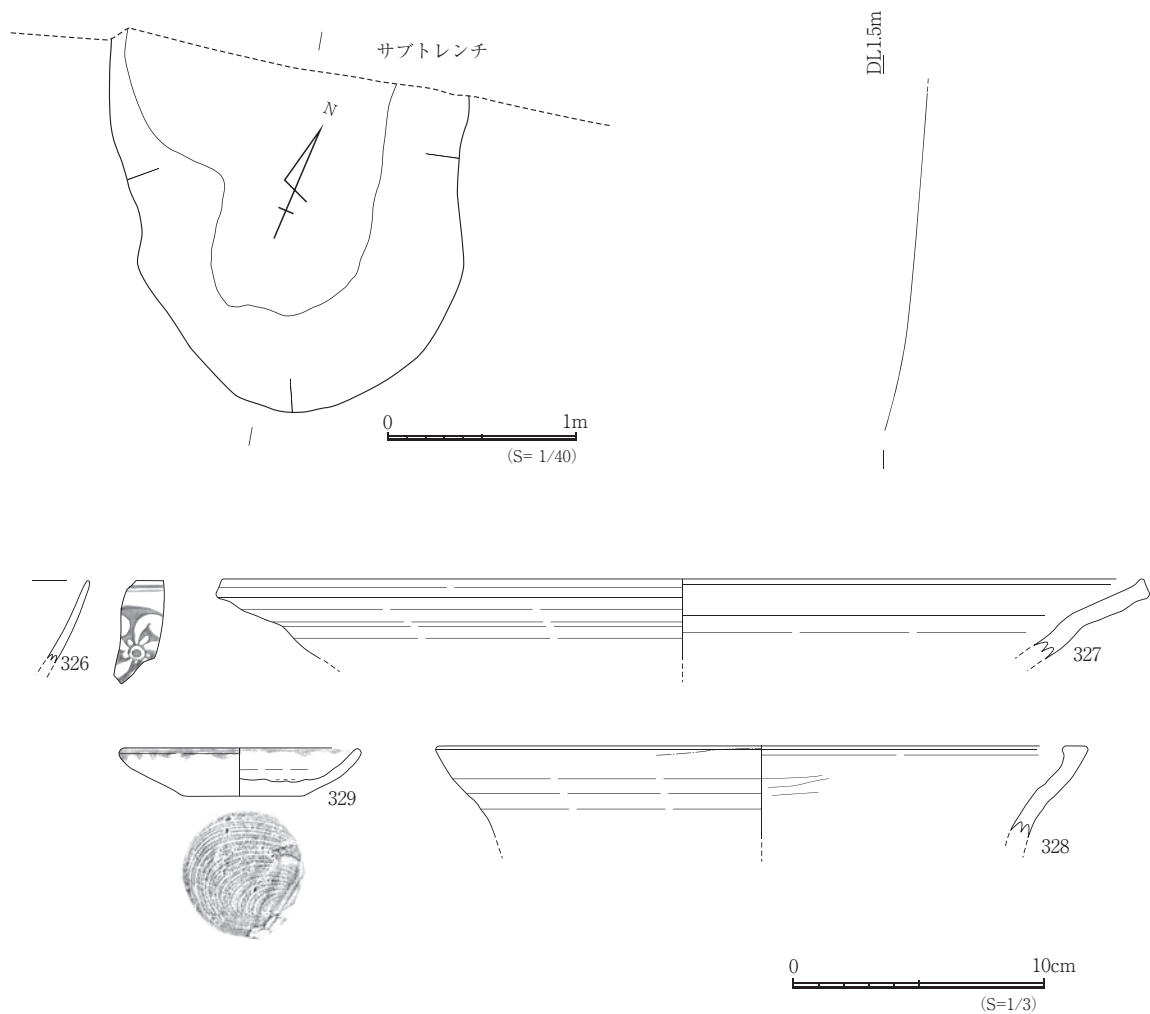


図51 SK29平面・エレベーション・出土遺物実測図

**SK26 (図 49・105)**

E区北で検出した。残深20cm弱だが漆器椀748や木簡が出土した。

**SK27 (図 50)**

SK28とわずかに重複し、後出するとみられる。残深は浅い。出土遺物は備前播鉢1片と土師質土器片2片のみである。

**SK28 (図 50・106・122)**

南半の上位は攪乱されていたが、遺構が深さを持っているため下位は残っていた。SK27と共に、位置はSR1の縁に該当するが、関係は不明である。318は美濃大窯製品とみられる。鋤883が出土した。

**SK29 (図 51)**

SK31等と関連する可能性があるが、攪乱等により北部の状態が不明である。

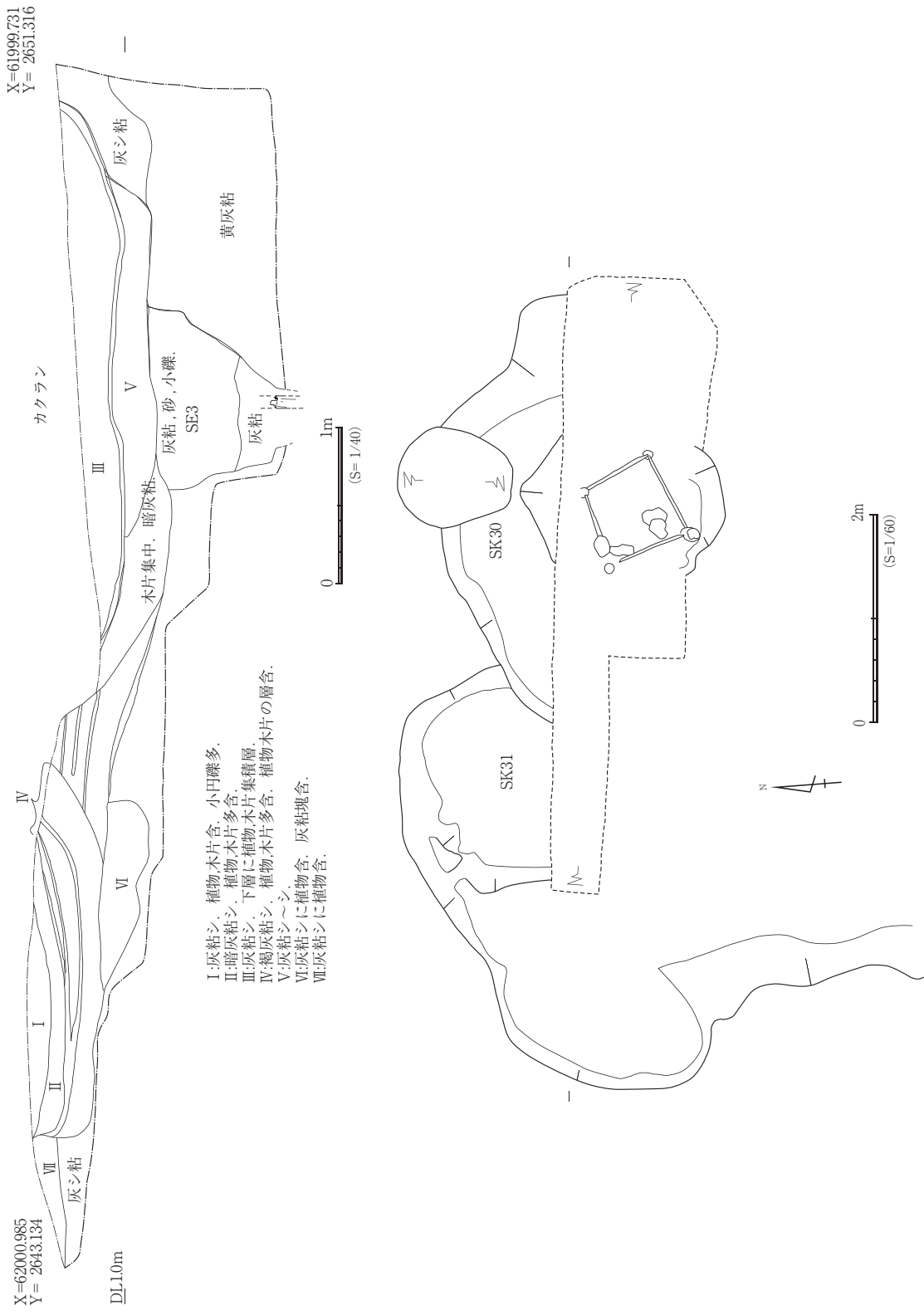


図52 SK30・31・SE3平面・セクション図

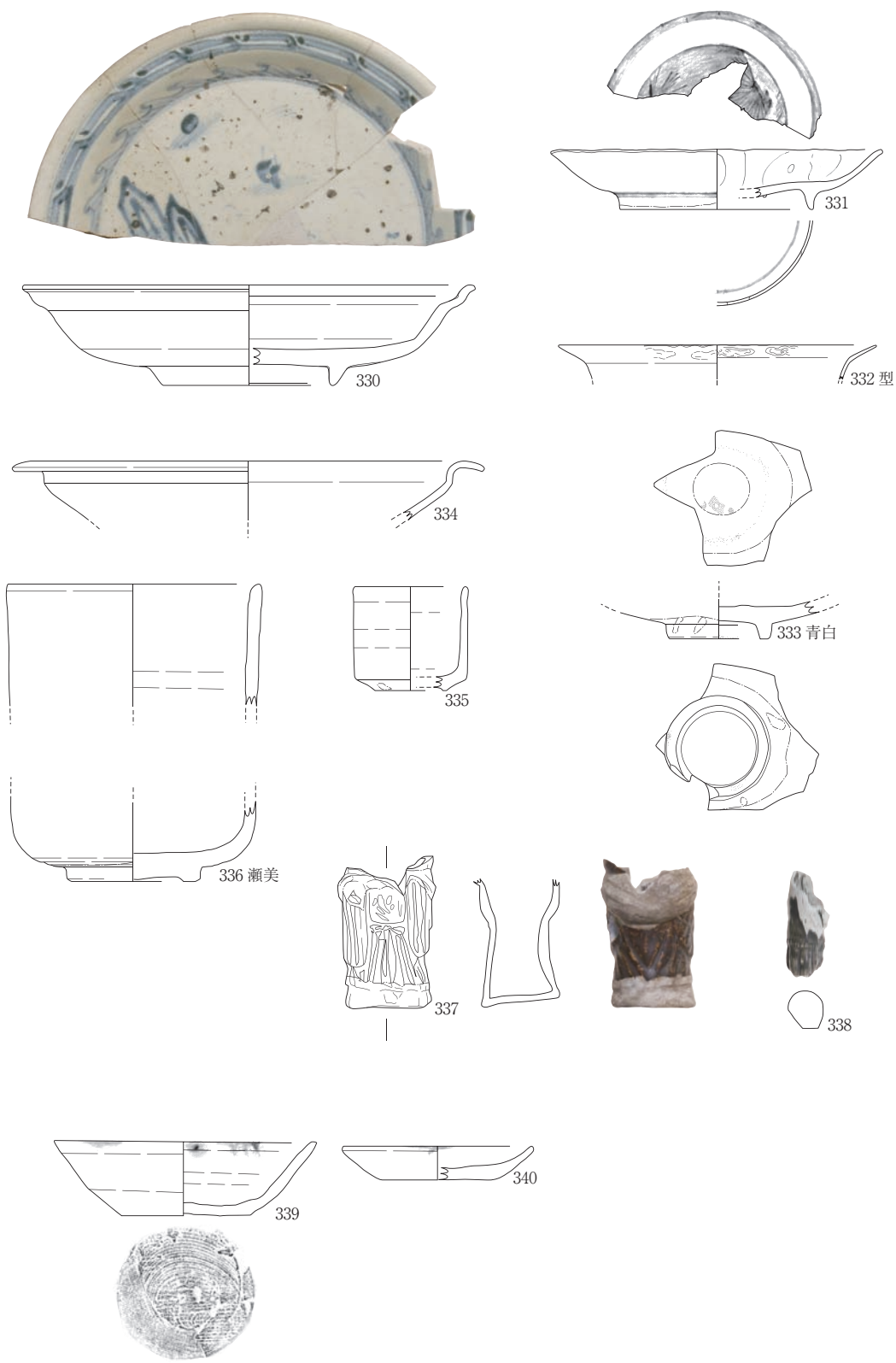


图53 SK31出土遺物実測図



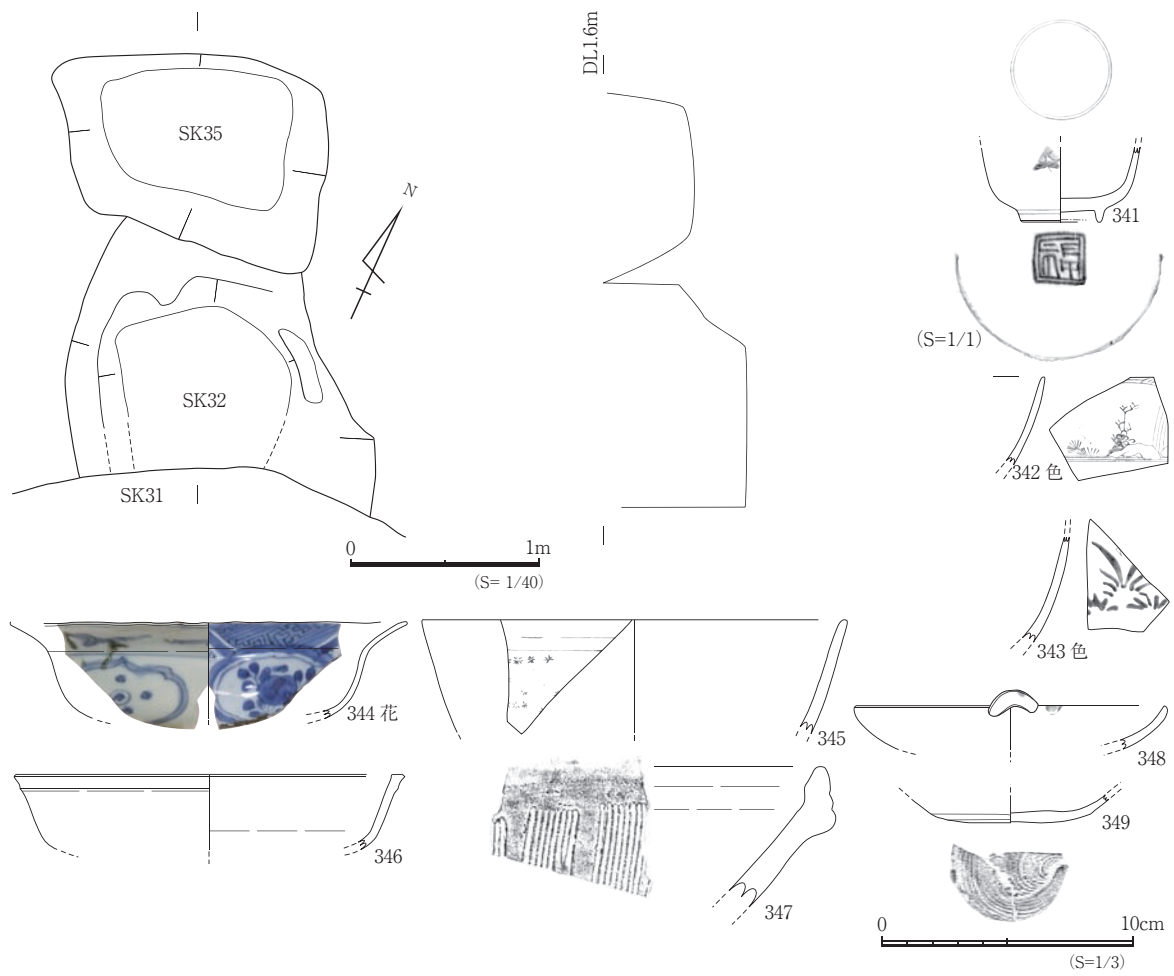


図54 SK32・35平面・エレベーション・SK32出土遺物実測図

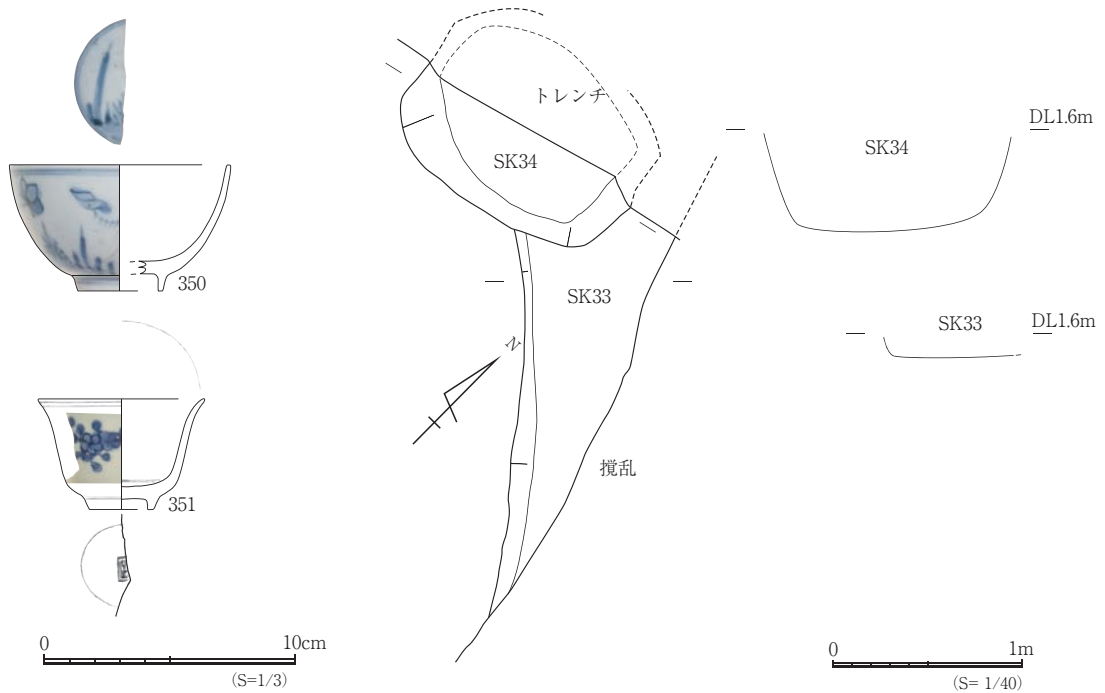


図55 SK33・34平面・エレベーション・SK34出土遺物実測図

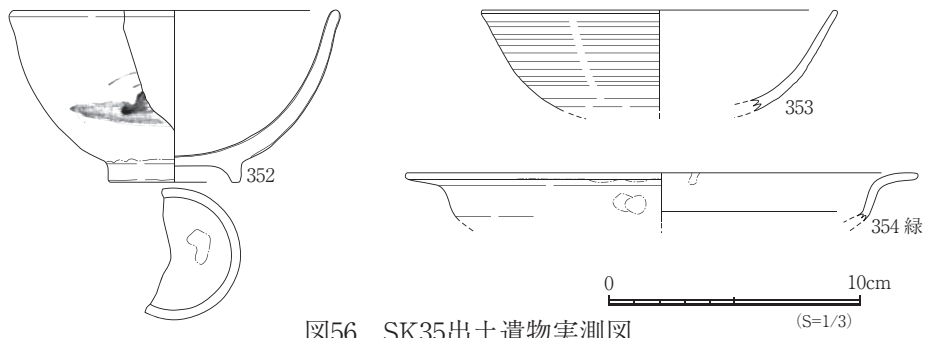


図56 SK35出土遺物実測図

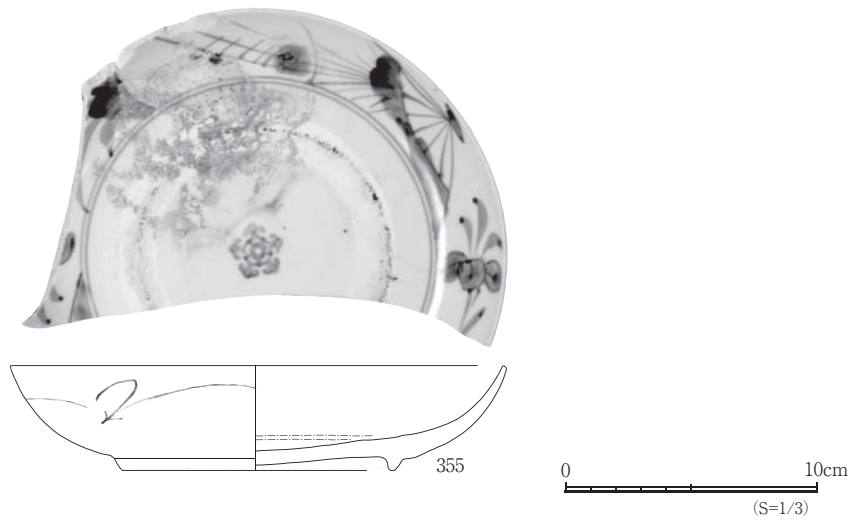
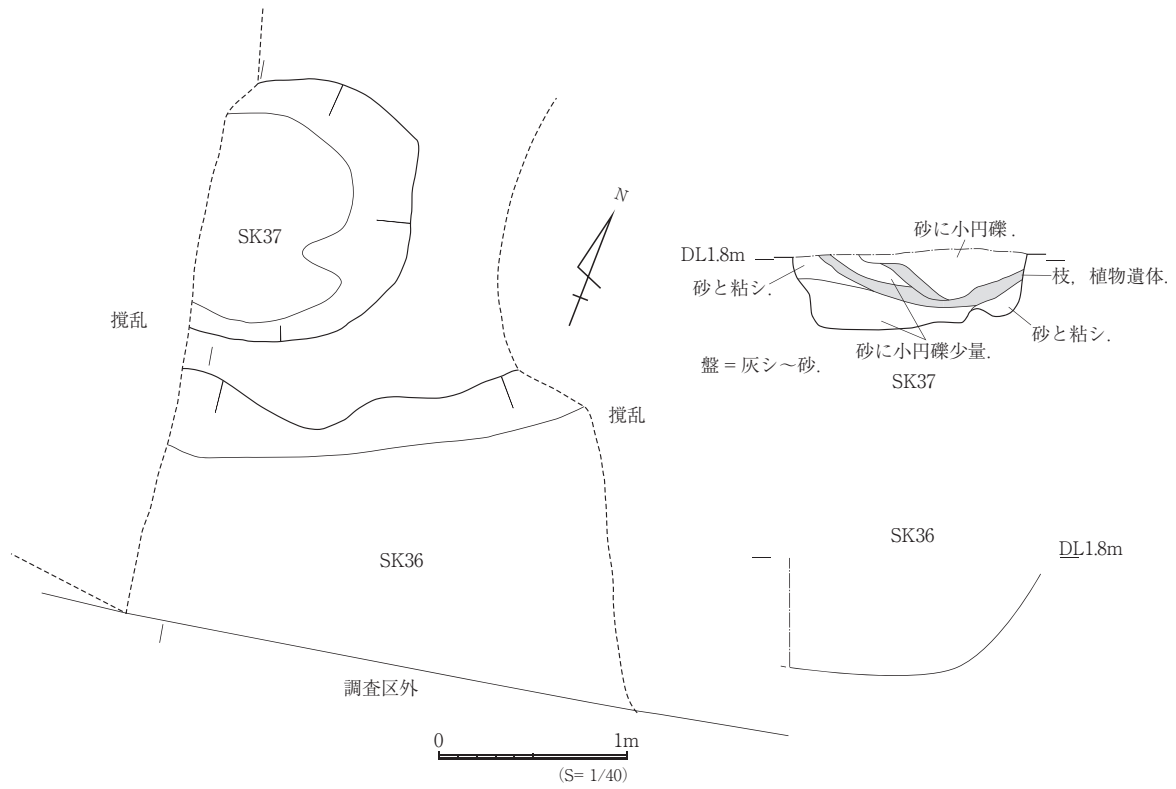


図57 SK36・37平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図

### SK30 (図 52・107)

SE3 を覆い、方位軸も一致するが、関連は明確でない。SK31 に後出することにも留意しなければならない。遺構の軸線は SD3 や SK33 と一致する。埋土自体は SK31 と大差ない。北東隅部は水溜め状の近代遺構に切られる。

西縁の SK31 との境目から木簡 761 と下駄 763 が出土した。陶磁器も遺存したとみられるが、重複する他遺構との分別が難しい。

### SK31 (図 52・53・108・122)

SD3 の東側に位置する。上位は攪乱され、特に南東部は床面近くまで破壊されていた。広い落込みとしたが、平・断面図が示すように、重複している可能性がある。植物遺体や木片の集積する薄層が互層をなす特徴的な埋土が、SK30 と類似している。ニホンジカの肩甲骨他、巻貝や貝が出土した。

### SK32 (図 54・109・122)

切合いからみて、SK31, 35 に先行する。動植物はカキや二枚貝、巻貝、イノシシ又はブタ幼獣、モモ核が出土した。

### SK33 (図 55)

M 区北東隅にあり、残存していたのは一部である。

### SK34 (図 55・109)

SK33 に重なる。

### SK35 (図 54・56・109)

SK32 を切る。

### SK36 (図 57)

調査区南縁で検出したが、破壊により全容は不明である。埋土は粘土質シルトで含有物は僅かな炭粒程度である。東西方向の溝跡であれば、TR1, 3 南端の SD5 と併せて、調査区南縁に溝跡が連続していることになる。

### SK37 (図 57)

調査区南辺際で検出したが、西部は前庁舎とみられる攪乱で破壊されている。埋土は地山と近似し、他の遺構群と異なるが、若干の遺物が出土した。

### SK38 (図 58・59・110)

一辺 2.5m を測る正方形の明瞭なプランで、深さもあり、段部を有する室状の遺構である。

土層図のごとく、木片、植物遺体、炭粒を含む層が互層をなす。出土遺物は多数、多様である。東側にごく浅い段があるが、関連性は不明である。オニクルミの核が複数出土した。

### SK39 (図 60・109)

SK38 ～ SK17 ～ SK14 の各西辺を結ぶ線に沿う。

### SK40 (図 61・109・123)

形状が SK42 等と近似する。ネコ科動物の下顎骨が出土した。

### SK41 (図 62・111 ～ 113・123)

中央部のバンク 2 南側にあり、軸線は SD6 や SD3 と直交する。

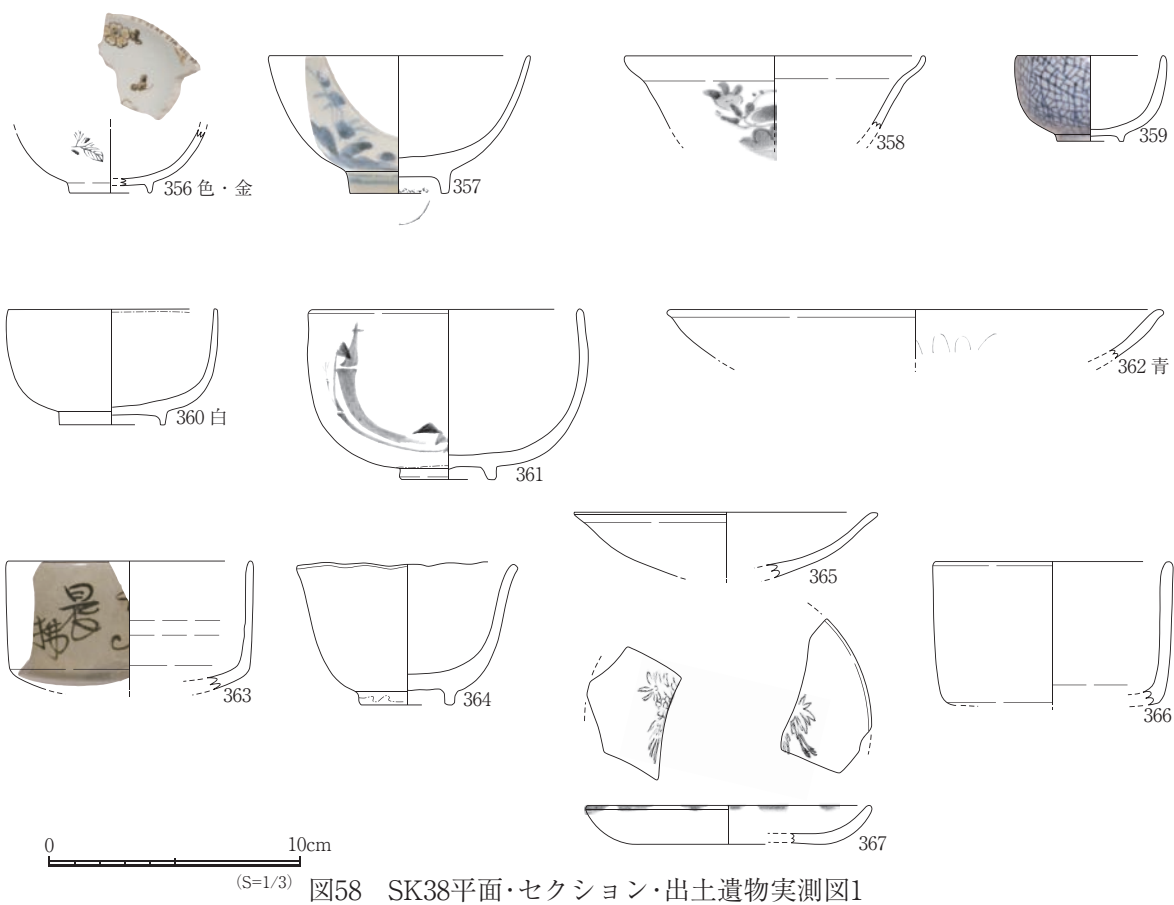
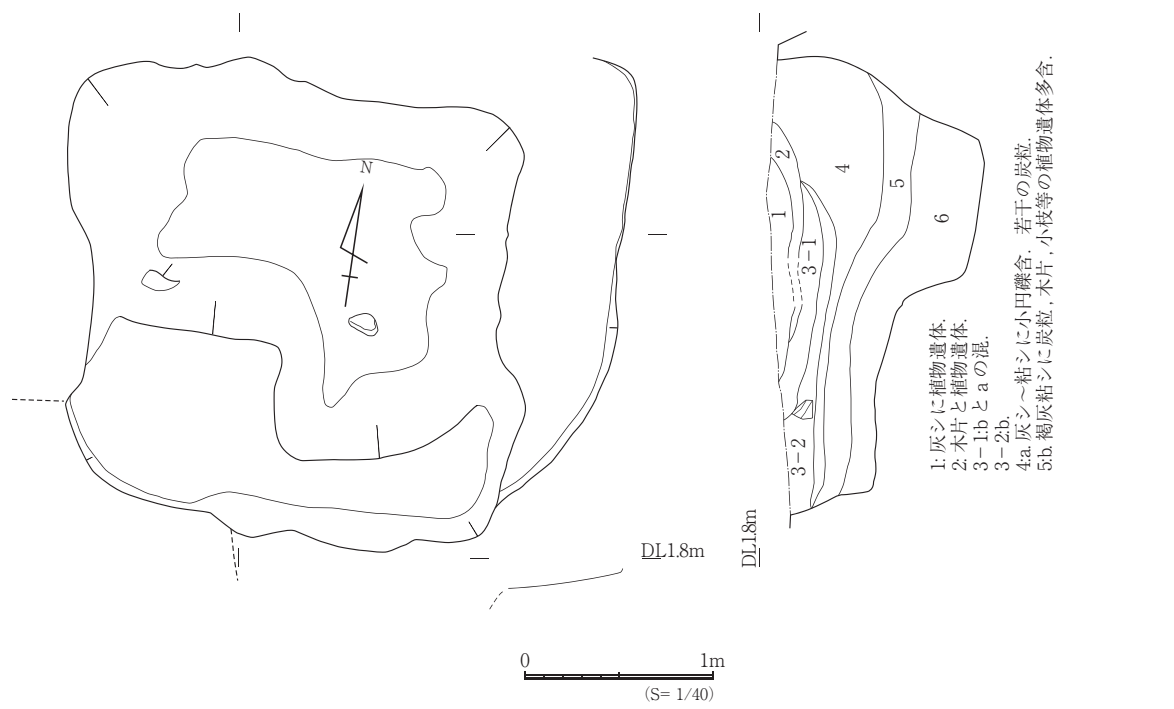


図58 SK38平面・セクション・出土遺物実測図1

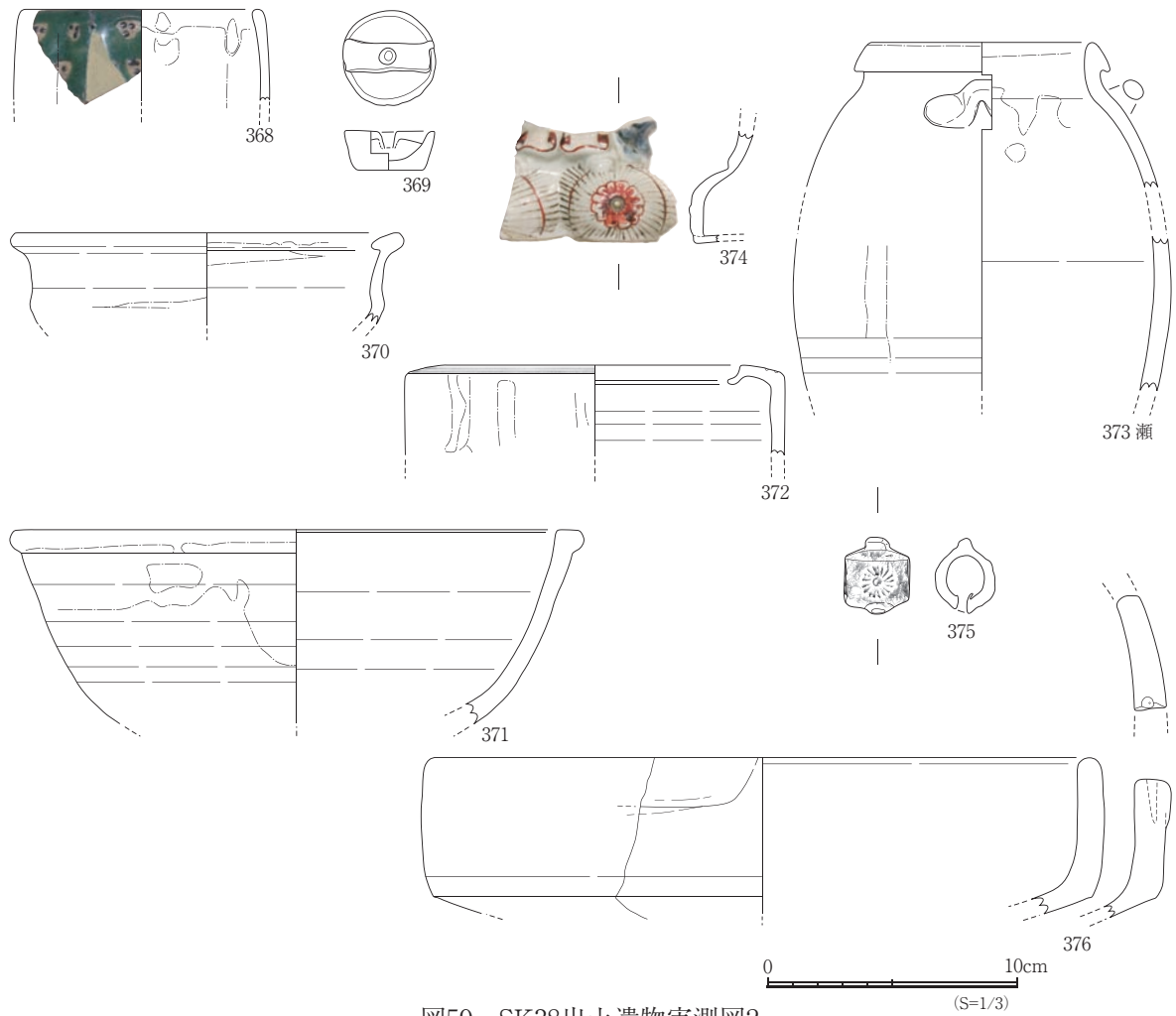
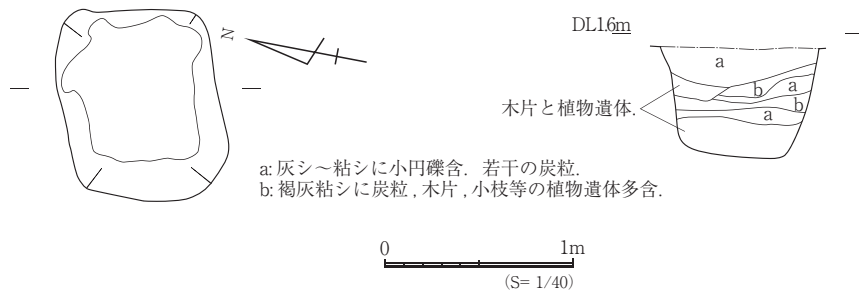


図59 SK38出土遺物実測図2



a: 灰シ～粘シに小円礫合、若干の炭粒。  
 b: 褐灰粘シに炭粒、木片、小枝等の植物遺体多含。



図60 SK39平面・セクション・出土遺物実測図

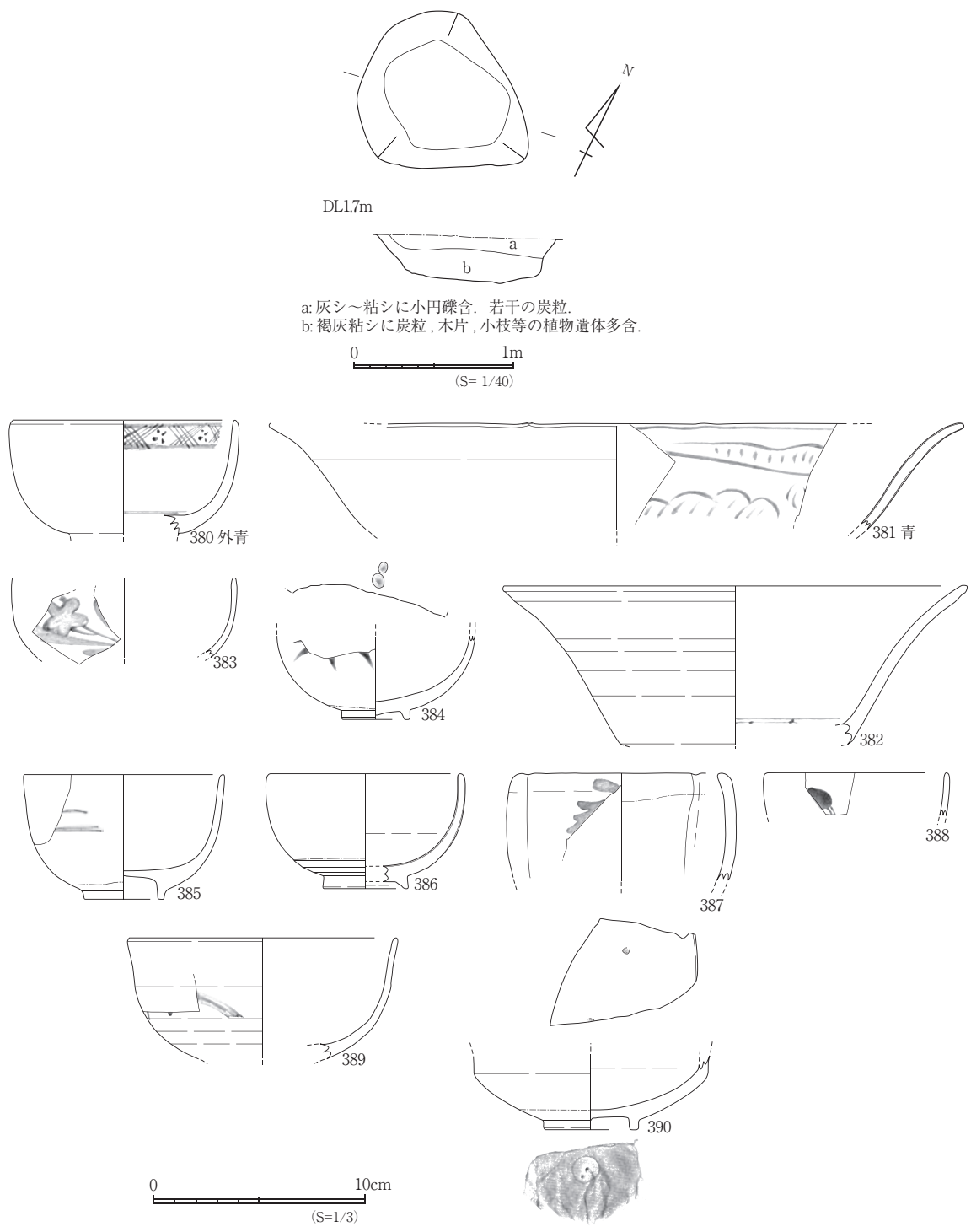


図61 SK40平面・セクション・出土遺物実測図

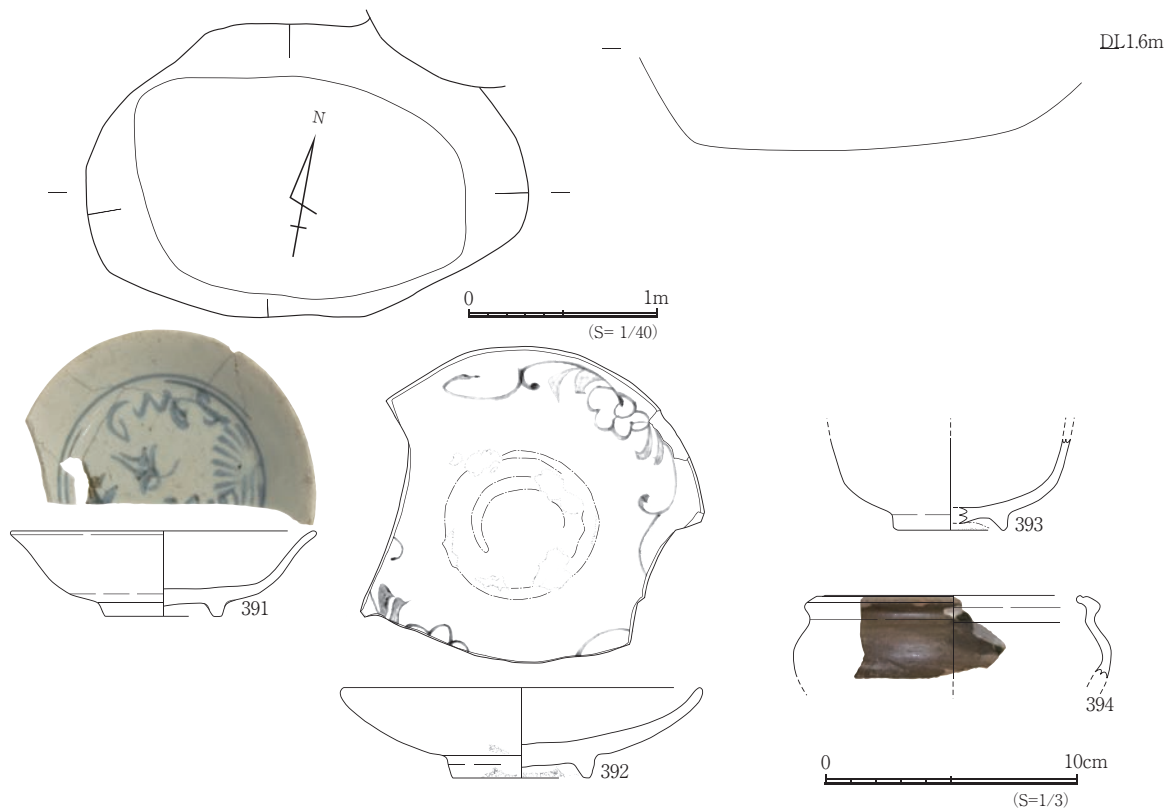


図62 SK41平面・エレベーション・出土遺物実測図

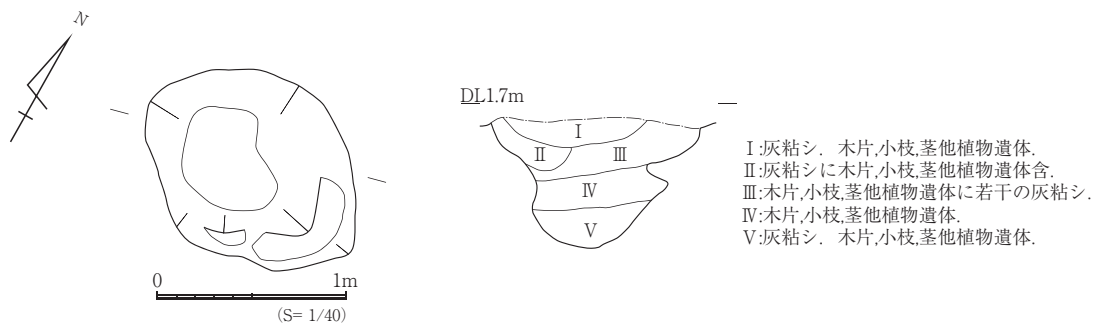


図63 SK43平面・セクション図

**SK43 (図 63・114)**

櫛, 羽子板, 加工や切りつけたような痕のある木材が出土した (PL41)。

**SK44・SK45 (図 64・114)**

調査区南東隅で検出した。SK45は方形を呈し, 縁辺はSX5と同じ方向性を示す。埋土にも関連性を指摘できる。SK44は東部を攪乱され, 全容不明である。いずれもPL42(上)・76(下)等のごとく遺物が出土した。

**SK46 (図 64・115・123)**

E区で, SE4に近接して並ぶ。検出長は3.2mを測るが, 残深は浅い。南端に石が所在した。漆塗りの刀剣鞘812, 813, 814や木簡815が出土した。

**SK47 (図 64・115)**

西部は攪乱されており, 表2にみる近代以降の遺物はそれによる混入と考えられる。

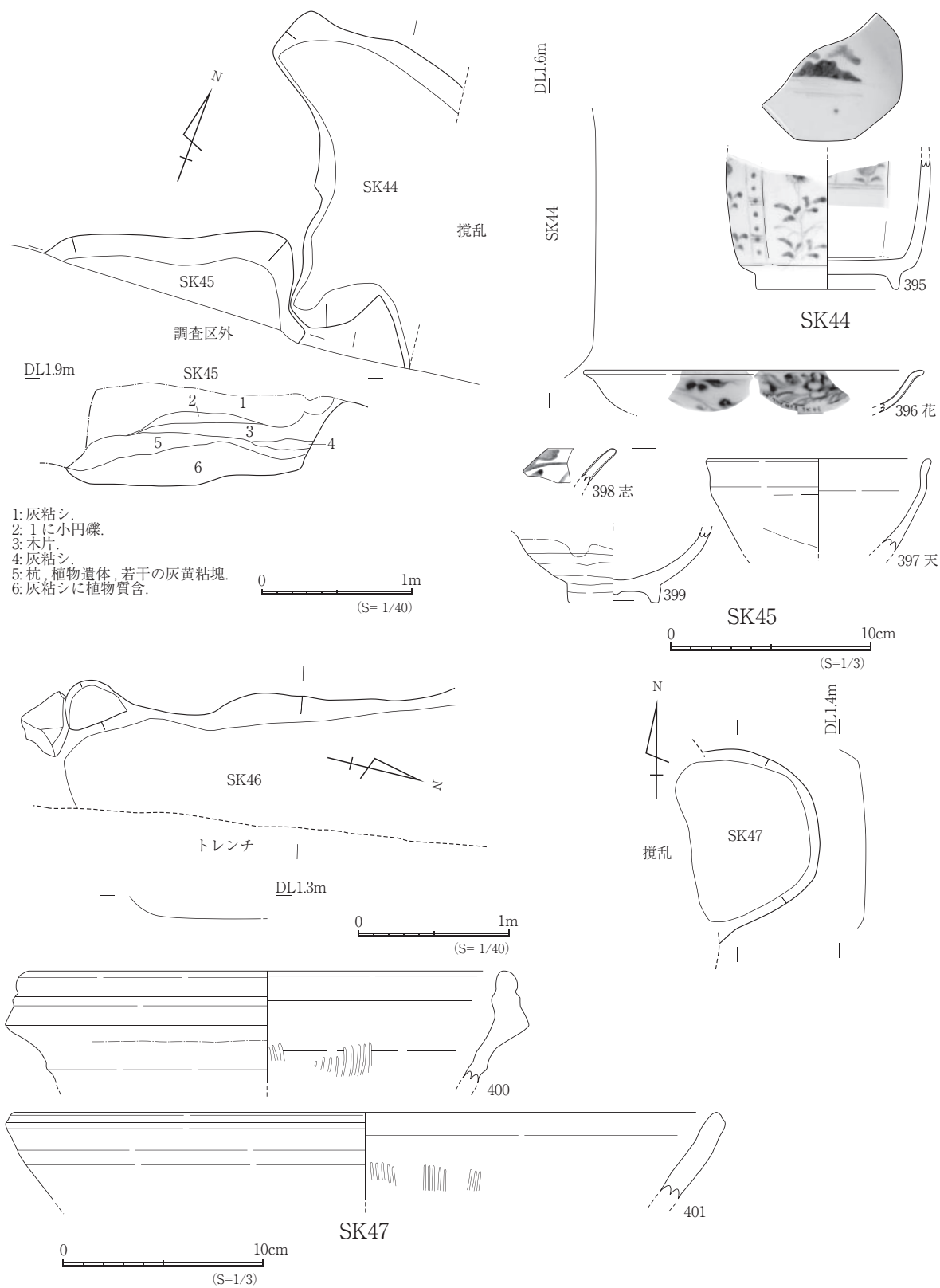


図64 SK44～47平面・セクション・エレベーション・出土遺物実測図





图65 SK48出土遺物実測図1

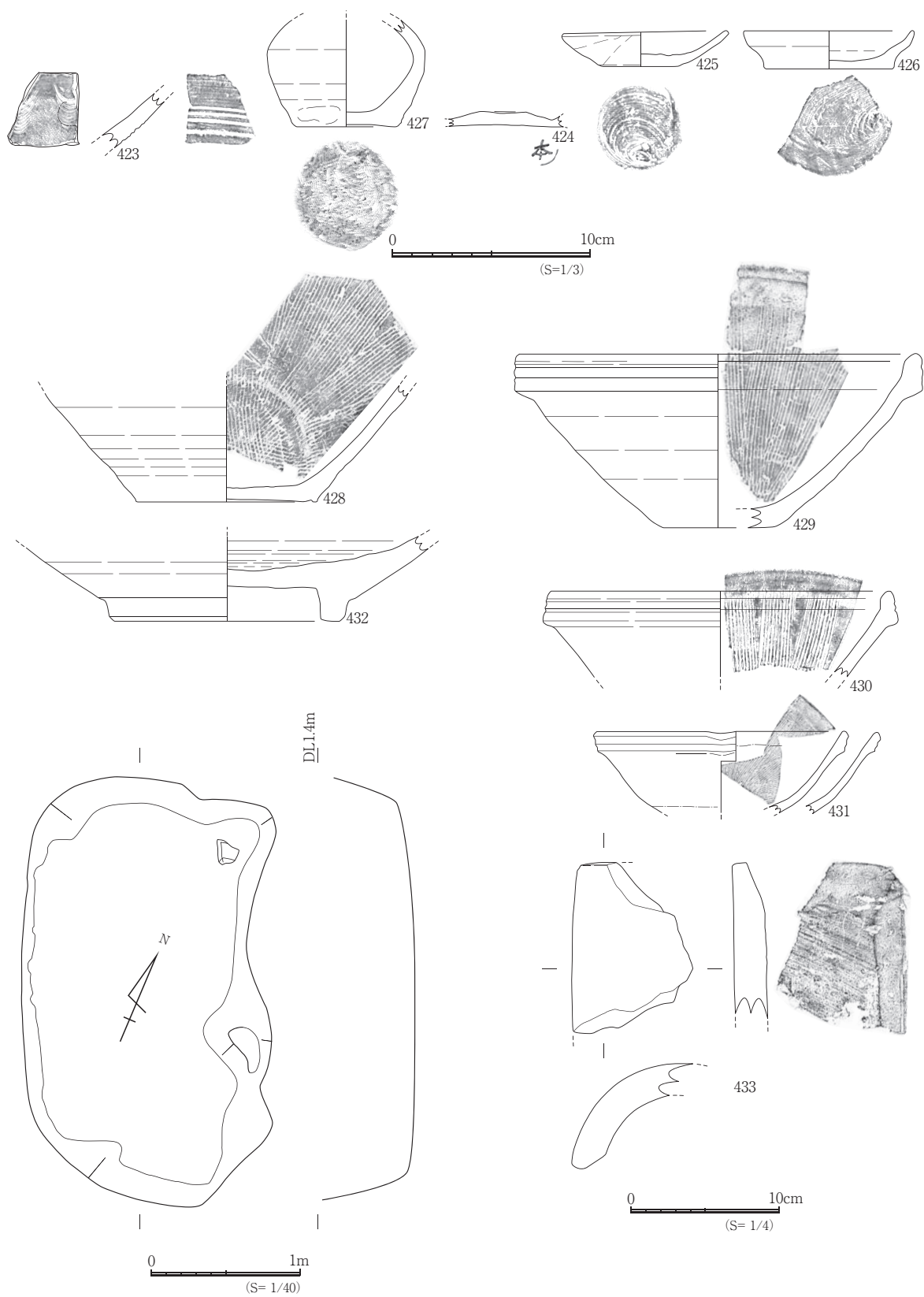


図66 SK48平面・エレベーション・出土遺物実測図2

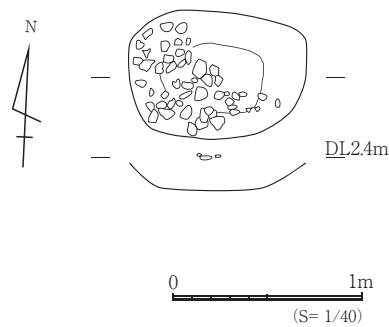
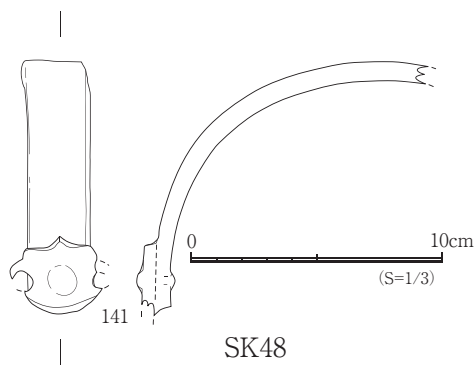


図67 SX1平面・エレベーション図

### SK48 (図 65・66・114・123)

SD3 東縁と SX5 西縁を結ぶ線上にある。若干の焼土粒を含む点が SK14 や E 層と類似し、且つ遺物年代が 17 世紀後半までであるが、瓦や被熱遺物は少ない。ニホンジカや貝類も表 7 のとおり出土した。

性格不明遺構

### SX1 (図 67)

調査区西寄りにあり、SD2 上面に近い標高で検出した。内部上層に多数の礫があった。

### SX2 (図 9)

バンク 2 の西寄り上位にある。SK1 と一体或は関連する可能性がある。

### SX5 (図 68～70・116・123)

SD3 と筋交い、SE4 とは平行の位置関係にある。西南部を相当攪乱されているが、破壊は遺構床面には達していない。北～東半も検出面付近は攪乱された状態であったが、図 70 のごとく比較的深さがあった。北部の浅い段部がいくらか北方へ延びていた可能性がある。また各所に窪みや小段があり、東方面では角杭・丸杭も検出された。

検出時、北部の上層から厚さ 2cm 余りの板材群や片岩、挿鉢が出土した (PL44 上)。その他、遺物は表 2 及び表 4～7 のごとくである。甕、棧瓦は上層より出土し、下層には古いものが多いが陶器土鍋が 1 点存在する。

### SX6 (図 7・116)

調査区北半の西壁で図 7 北部にあるごとく確認したのみであるが、漆器椀 824 が出土した。

その他

### 埋桶 1 (図 71)

径 60cm の結桶を灰色シルト質粘土の基盤に直接据えている。SD2 南岸の設置した部分が若干張り出す。埋土は基盤と同質の土に小礫を含む。内部からは若干の木片が出土したのみである。

### 礎石 1 (図 72)

SD2 より上位で検出した。中央の方形の石はチャートで、それを取巻く石は石灰岩である。周辺で同様の遺構は検出していない。周辺は攪乱も多かった。

### しがらみ状遺構 1 (図 8・73)

SD2 内に所在した。立杭に棒或は枝材を横方向に絡めている。図 8 のごとく、両側で土層が落ち込む。

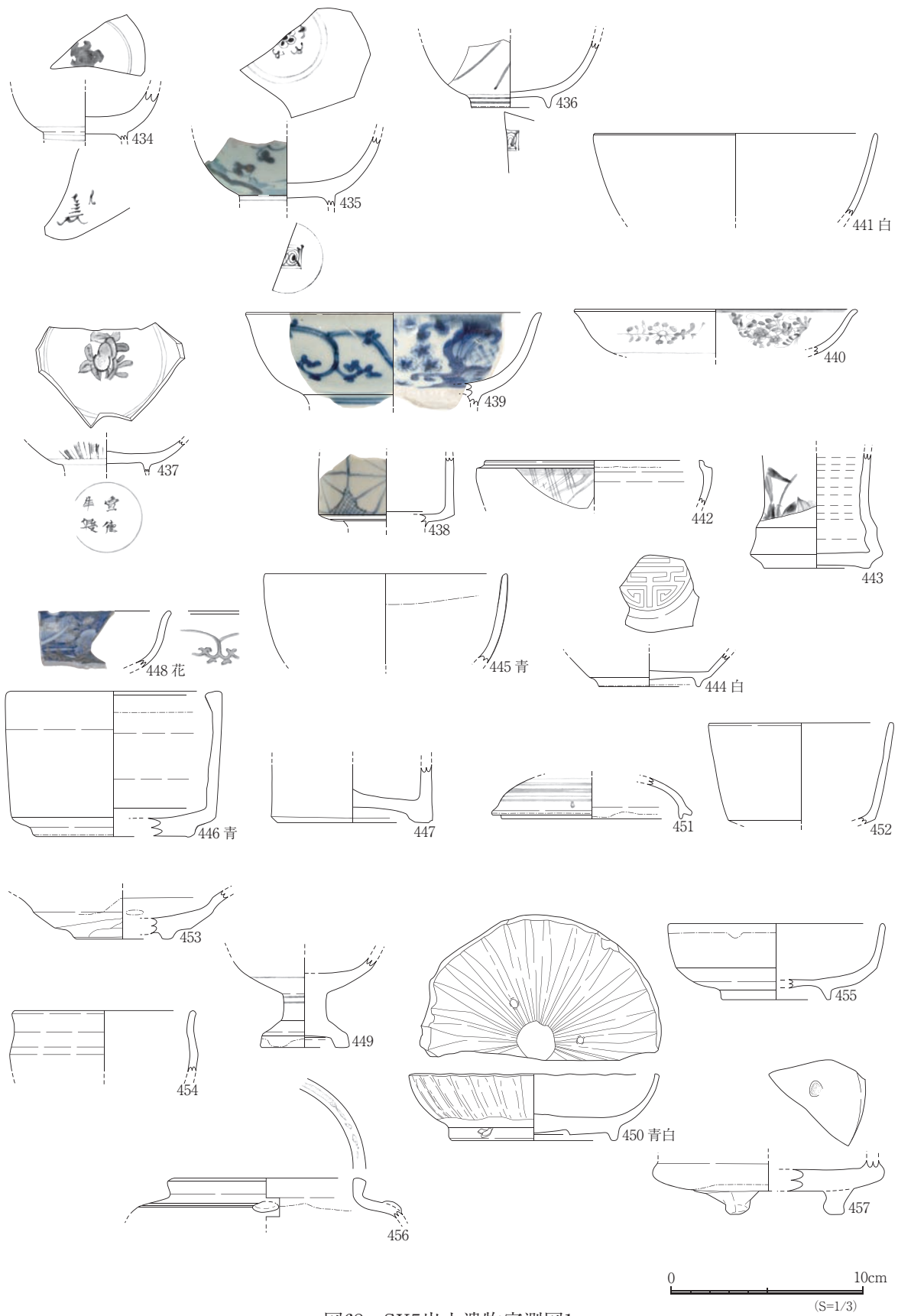


图68 SX5出土遺物实测图1

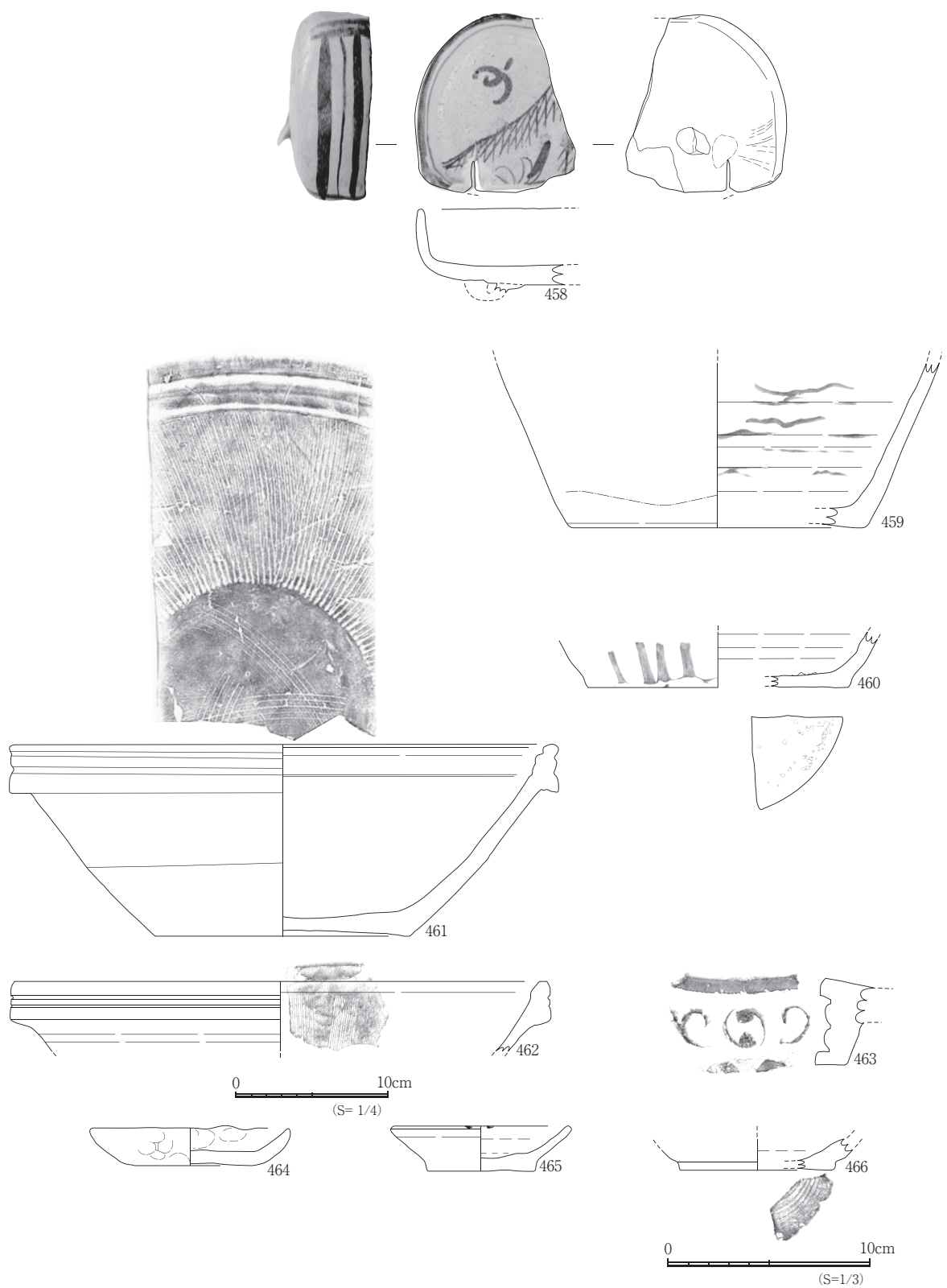


图69 SX5出土遺物実測図2

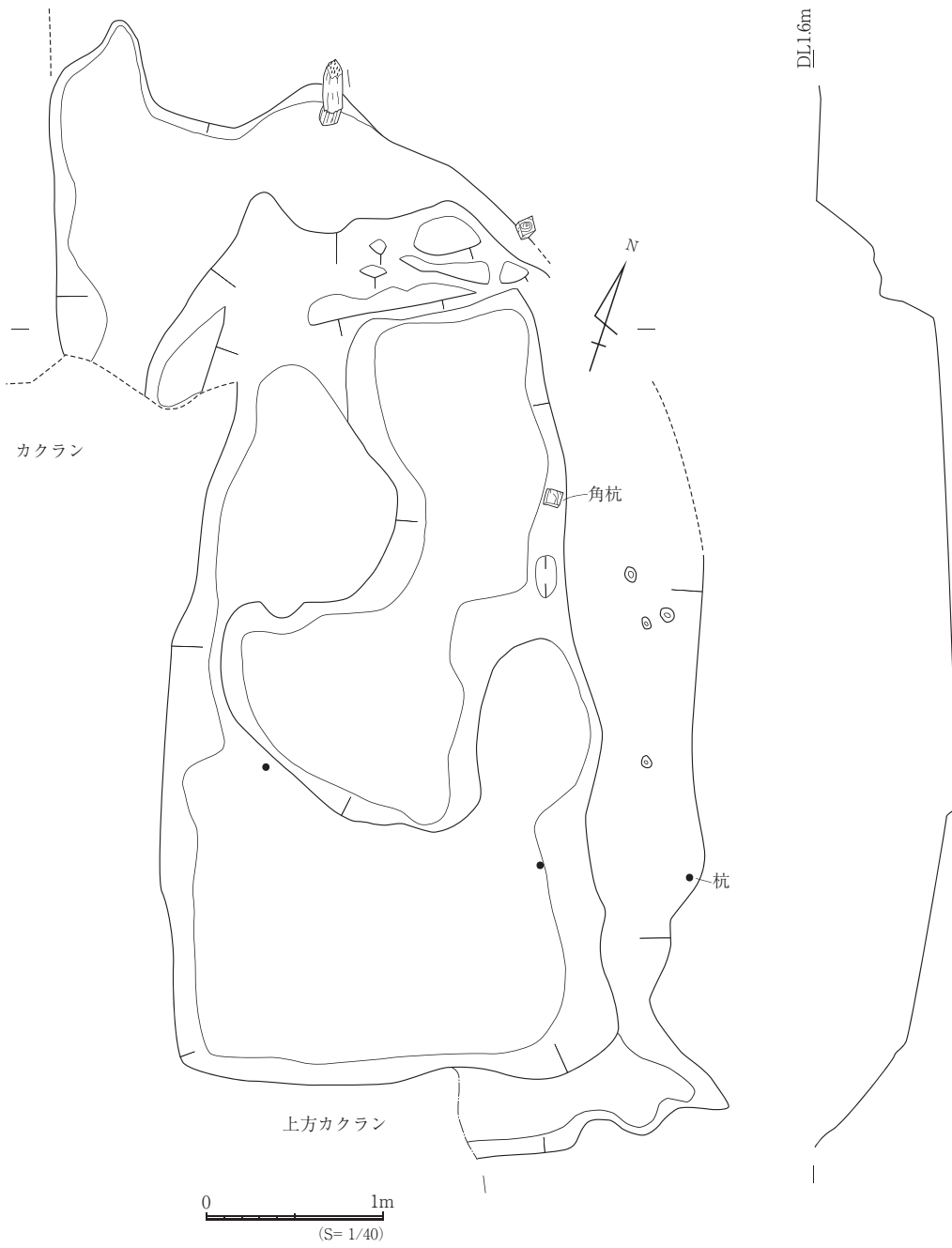
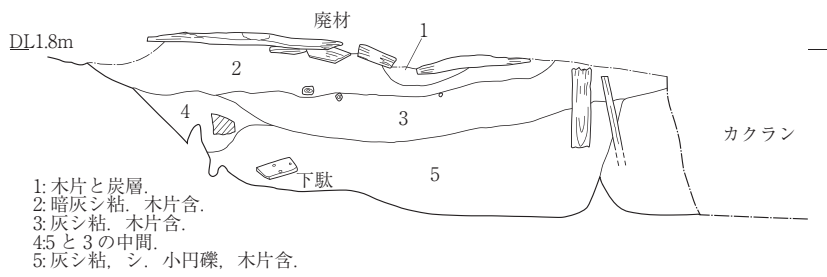


図70 SX5平面・セクション・エレベーション図

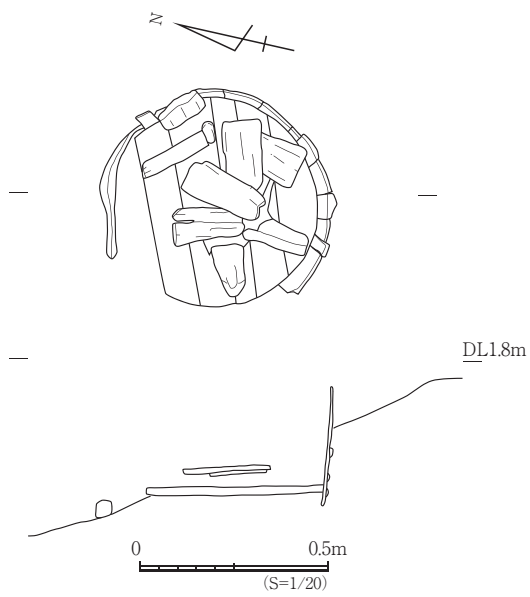


図71 埋桶1平面・断面図

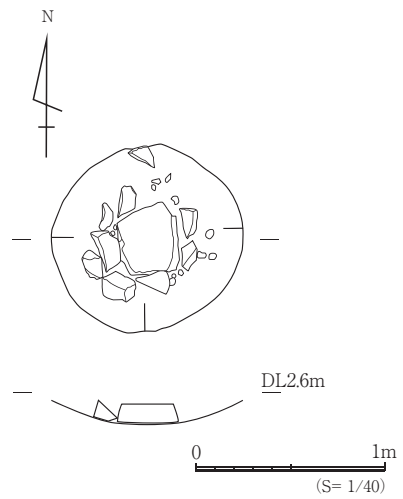


図72 礎石1平面・エレベーション図

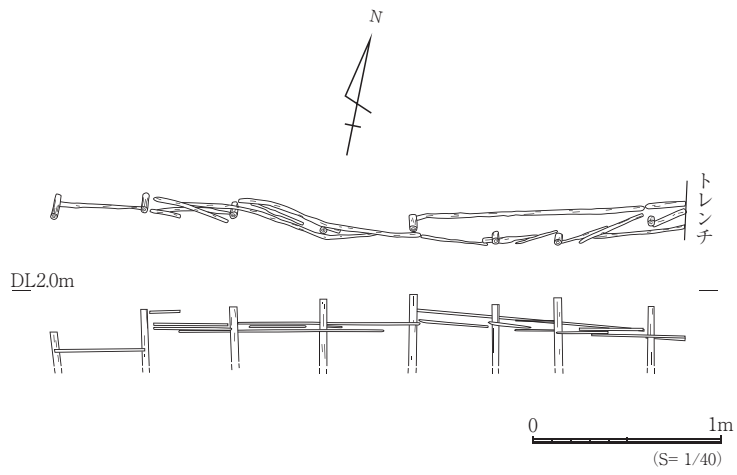


図73 しがらみ状遺構1平面・立面図

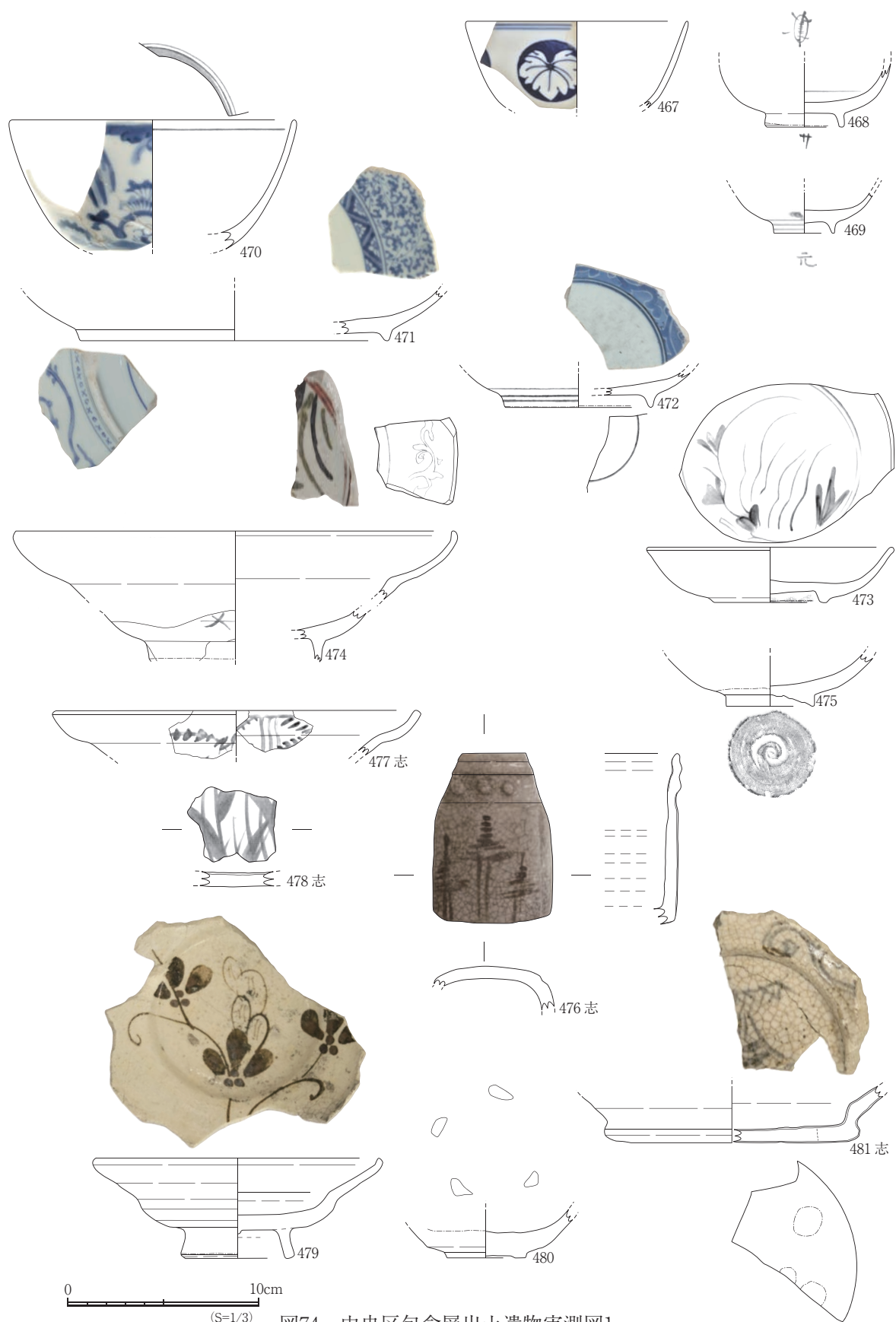
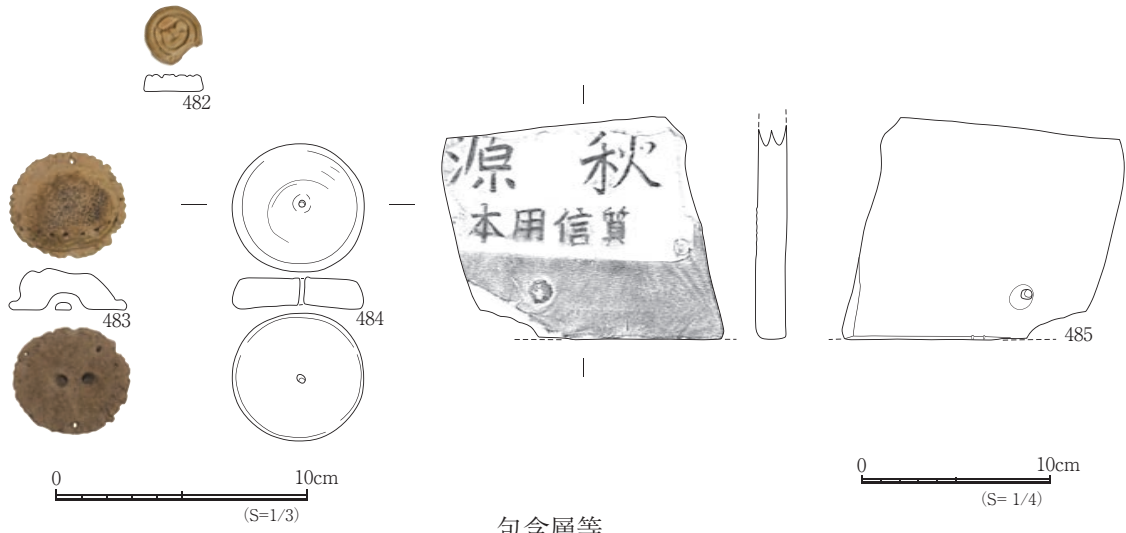
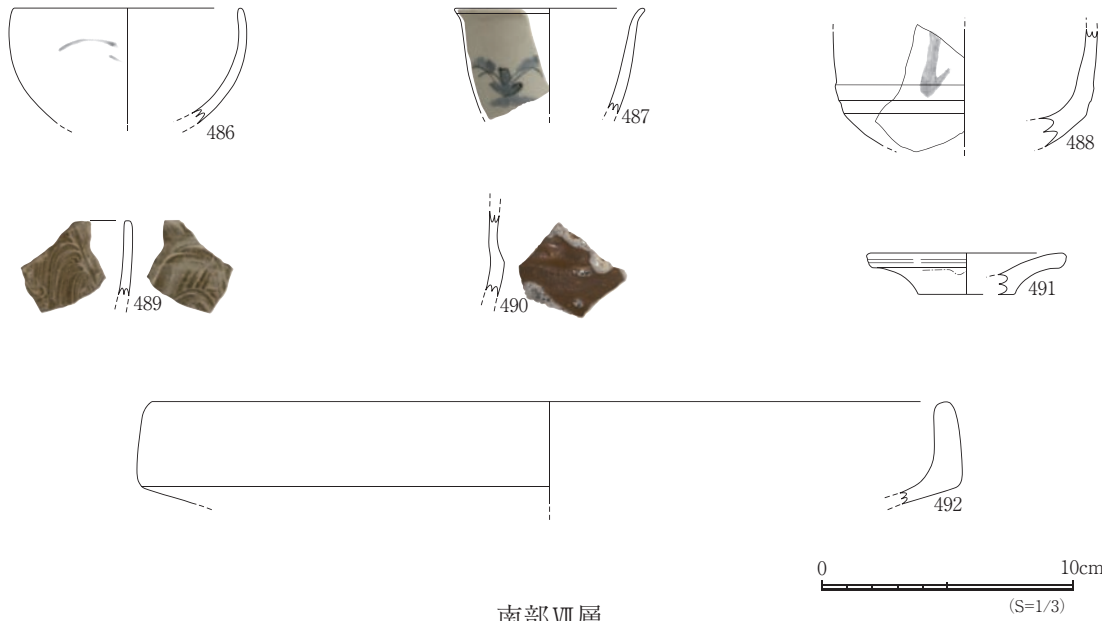


图74 中央区包含層出土遺物実測図1





包含層等



南部VII層

图75 中央区包含層出土遺物実測図2

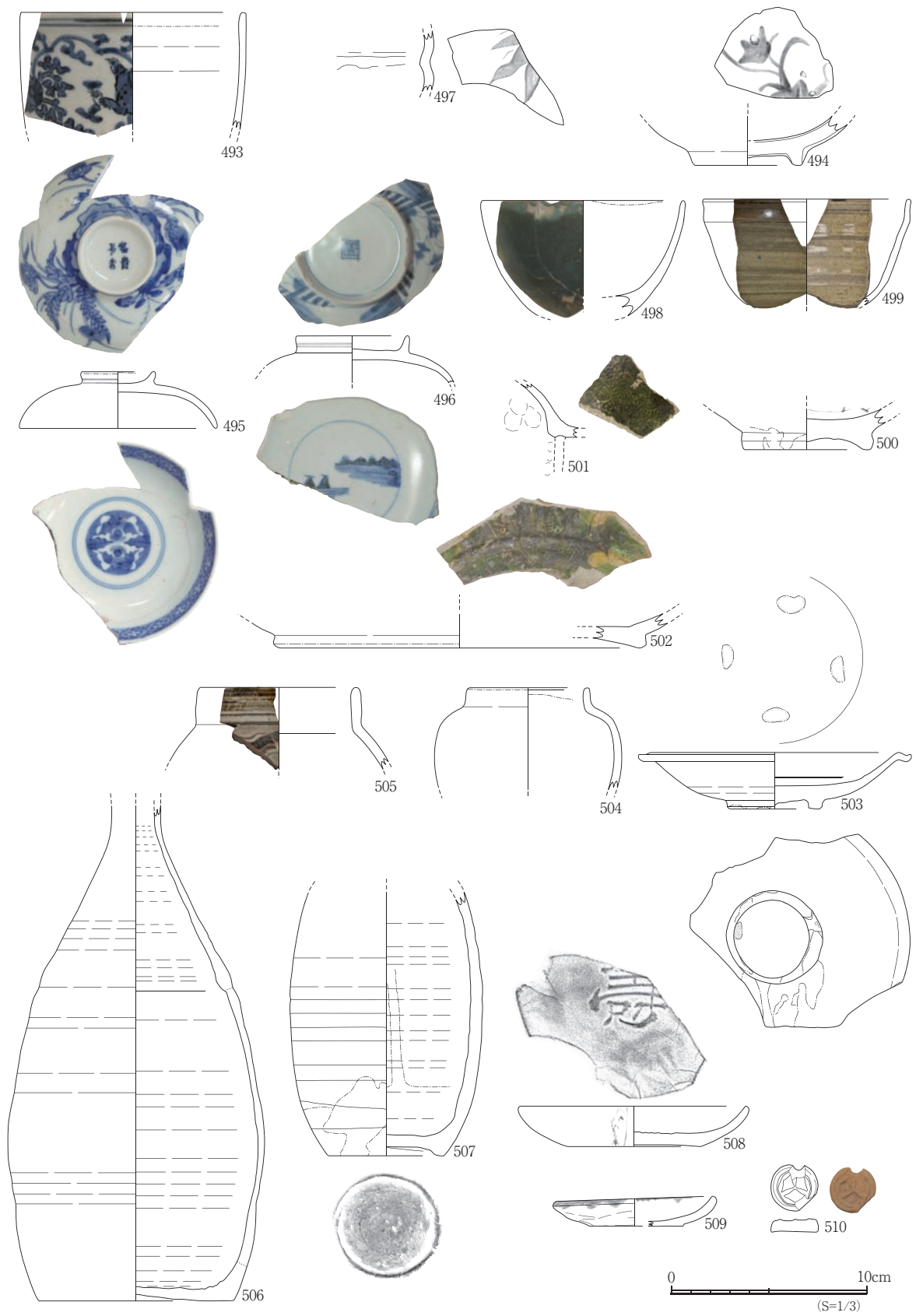


図76 バンク2出土遺物実測図

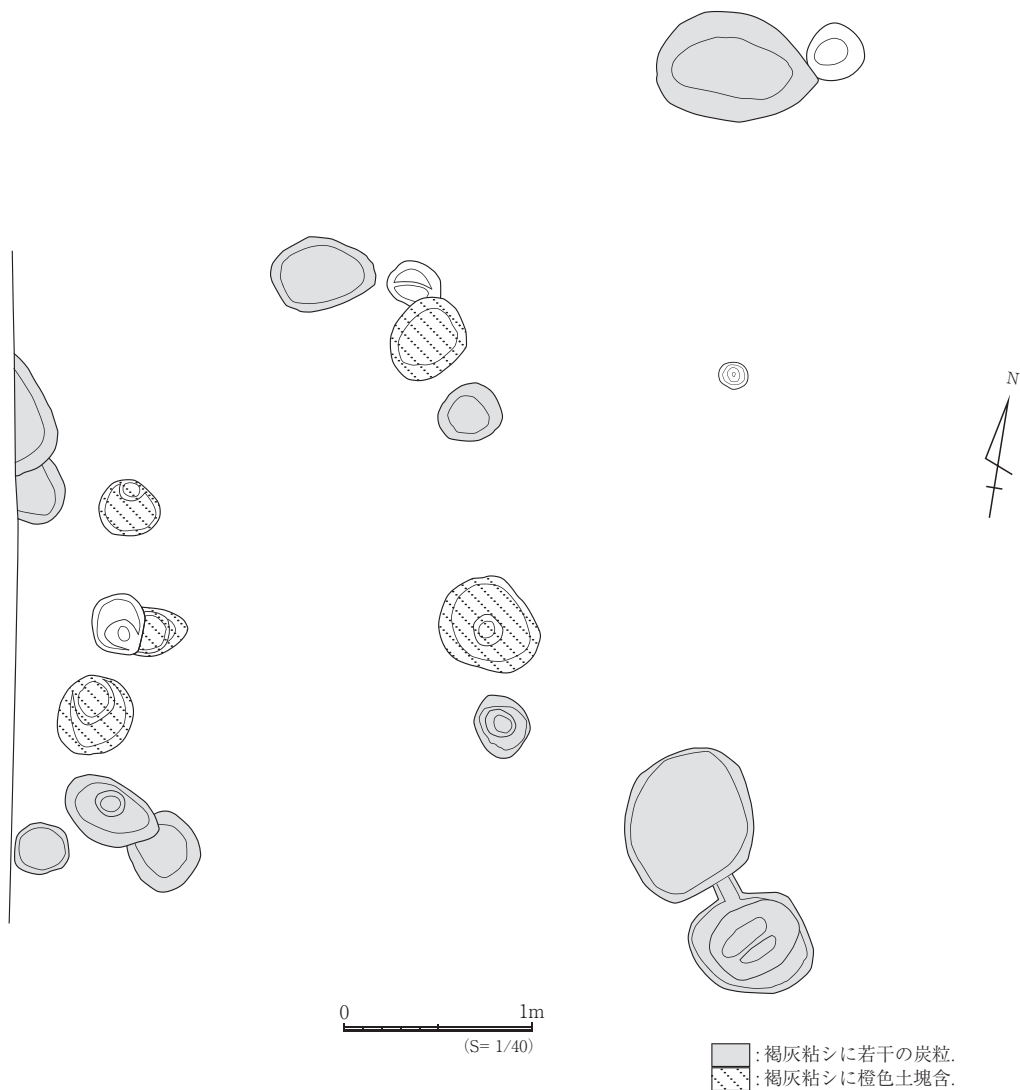


図77 W区ピット群平面図

### ピット群 (図 10・77)

調査区西端部のピット群は検出標高 1.66 ~ 1.71 m を測り、図 8 基本層準 VII、遺構 SD2 の中位に相当する。総じて径 30 ~ 40cm、深さ 7 ~ 34cm を測り、底面に径 10 数cm の柱痕状部分を持つものもある。出土遺物は少ないが、表 2 のとおり近世以前のものに限られている。埋土は概ね 2 分でき、図示した。配置と併せて、掘立柱建物を想定することもできよう。

調査区南半中～東部の P20, 22, 24 から近世や中世の遺物が出土している。P22 からは瀬戸美濃系とみられる鉢や土瓶、P24 からは瓦質鍋 598 が出土している。

### その他の出土遺物 (図 74 ~ 76)

479 はこのような瀬戸美濃系製品の初期段階のものともみられる。肥前系製品には有田産ともみられるものを含む。肥前産の色絵 474 は珍品である。503 は高台内部に糸切痕がある。506, 507 は関西系や瀬戸美濃系の瓶、徳利である。514 は瀬戸美濃の染付である。龍や獅子頭の意匠を有する鉢 527 の同型品は高知城伝下屋敷跡でも出土している。

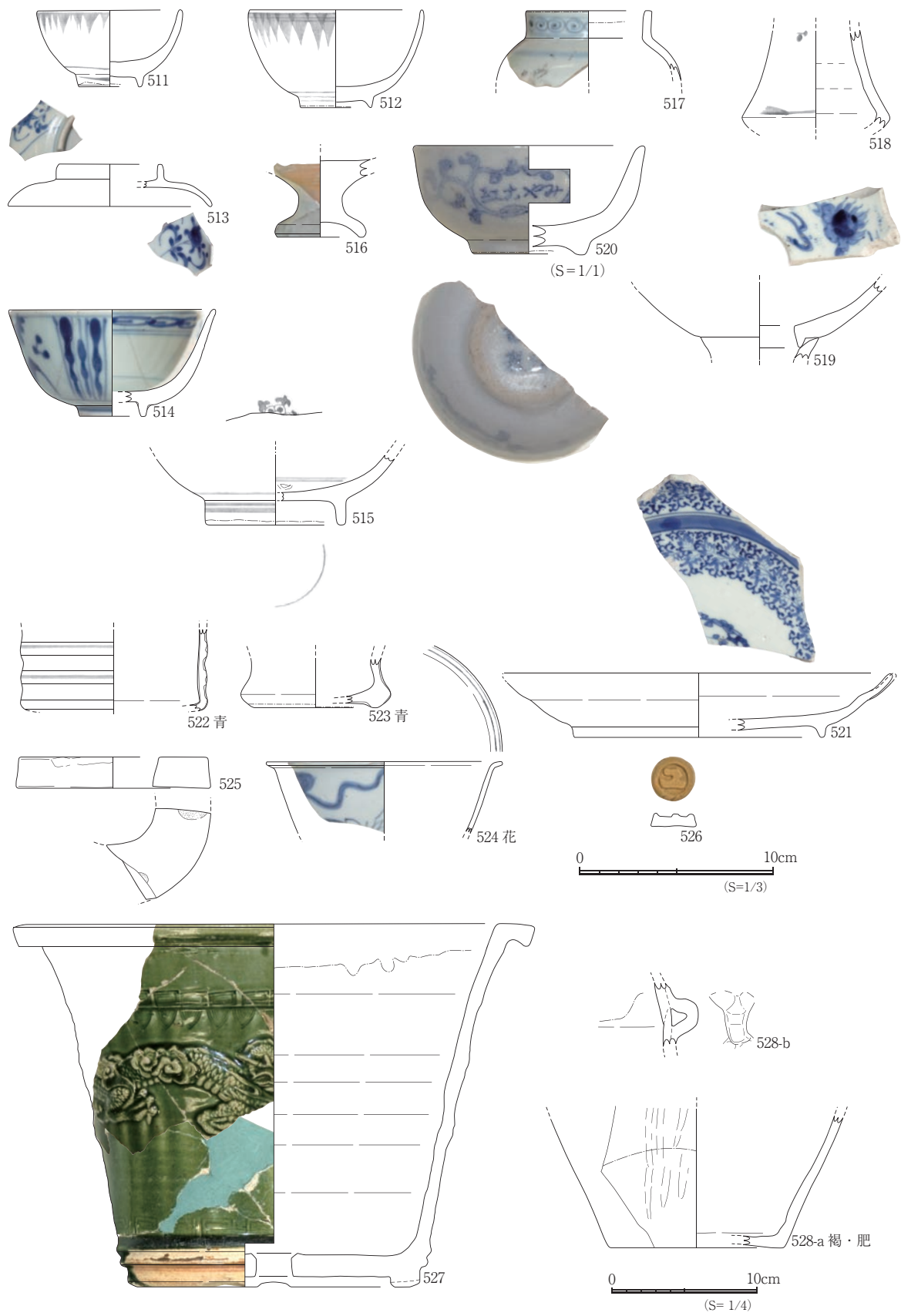


图78 W区出土遗物实测图

## B. 中世

### 流路跡

#### SR1 (図 11・79・80・83・119・124)

調査区を東西に横切る長さ 40m 余りを検出した。SD2 と重複しているが、埋土は各図のごとくシルト質粘土～砂を中心に一部砂利を含むものが互層をなし、TR3 など調査区中央部では樹枝を含んだり植物遺体が集積する層もある。その状態は、遺物の希薄さと併せて SD2 とは異なる。断面形は図 7, 8, 79 のごとく東壁以外では緩やかである。杭群との関係も、図 12 のごとく当流路跡に合致しないものが多い。以上から、SD2 等に比して人為性は低い。但し、調査区東壁でみた断面や杭の位置には作為が看取される。また、図 10 では底の標高を各所に記したが、明らかな傾斜方向は指摘できない。

出土遺物は表 3 のとおり中世のものに対する近世遺物の僅少さが際立っており、後者は重複している近世遺構等からの混入或は流路埋没最終段階のものと判断される。東部では底付近から青磁蓮弁文碗や五輪塔空風輪が出土した。遺物の大半は東部で出土しており、その原因は西部では SD2 が重なっていることに求められる可能性がある。

以上より、当流路が機能していたのは 15 世紀頃の可能性が高く、その後埋没が進行、SD3 構築時には埋没している。

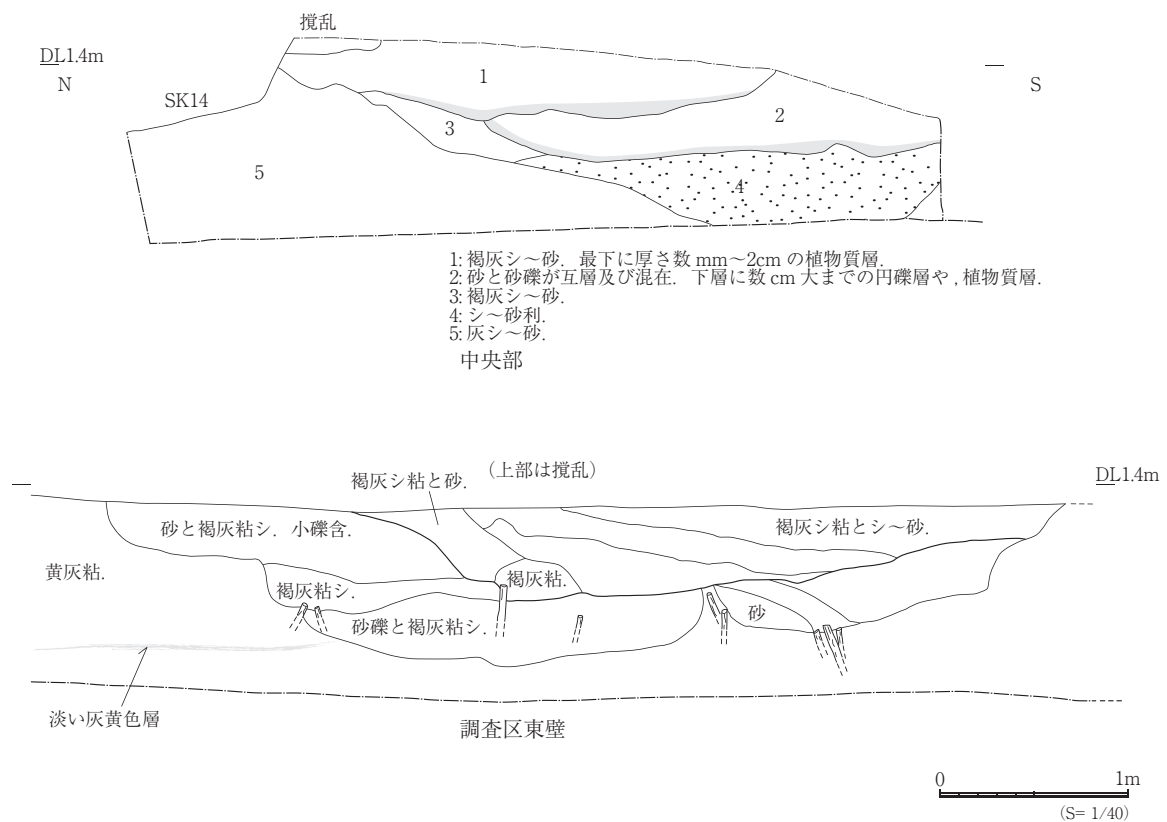


図79 SR1セクション図

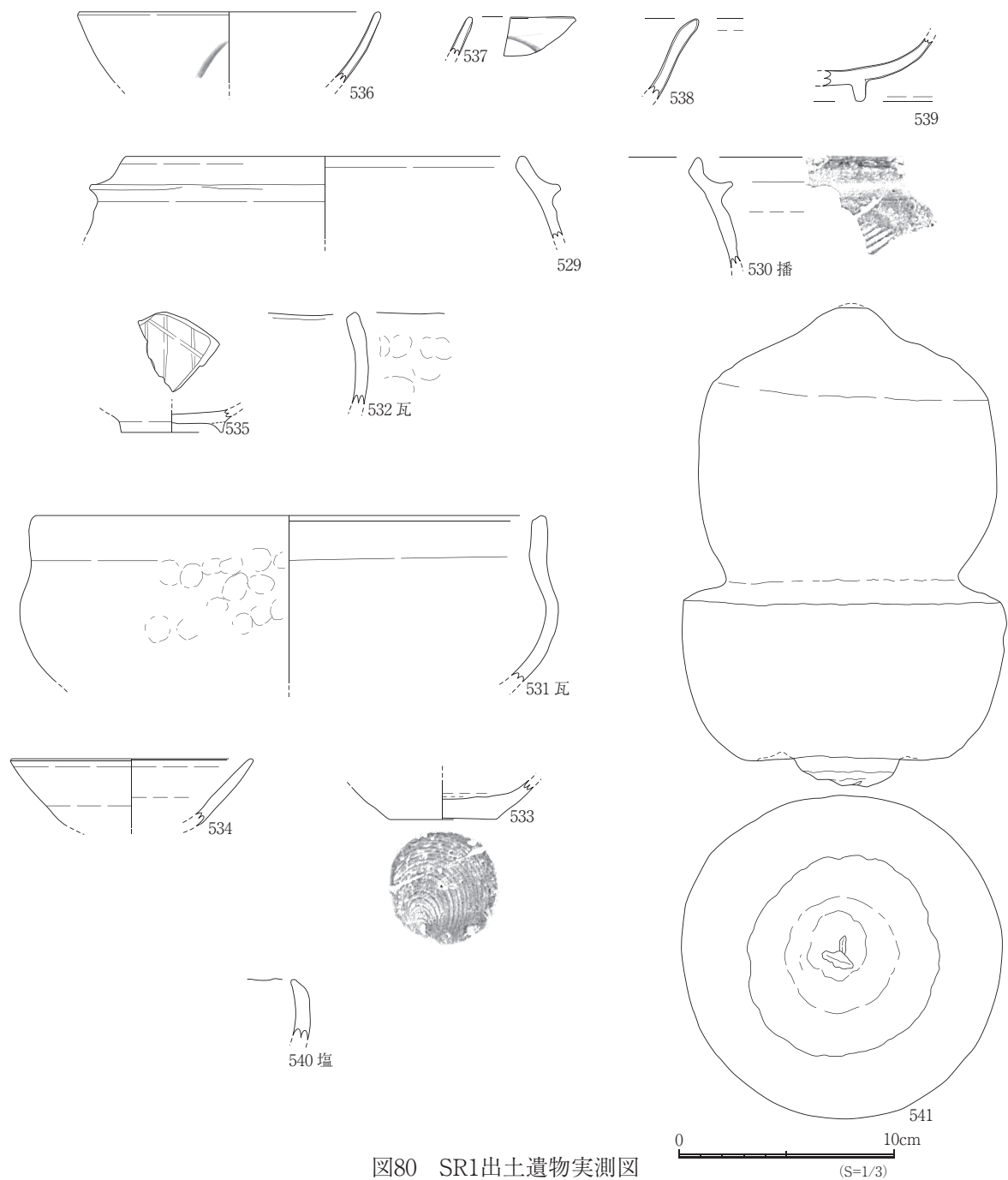
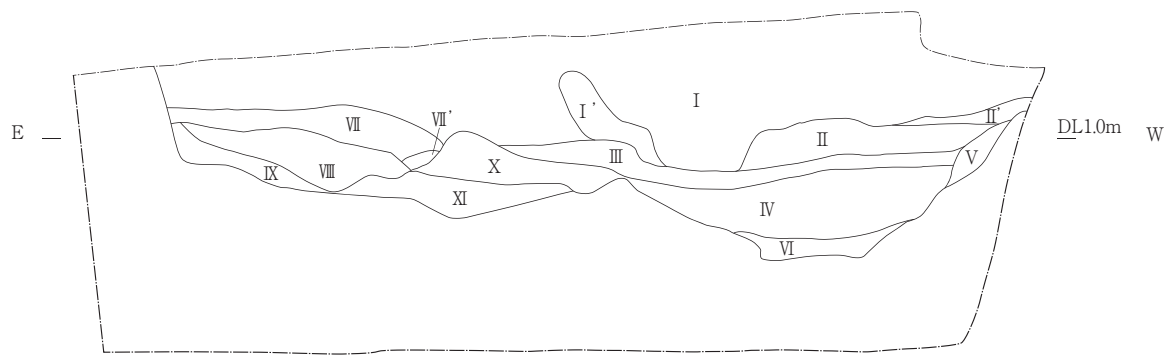


図80 SR1出土遺物実測図

### SR2 (図 81・82・119)

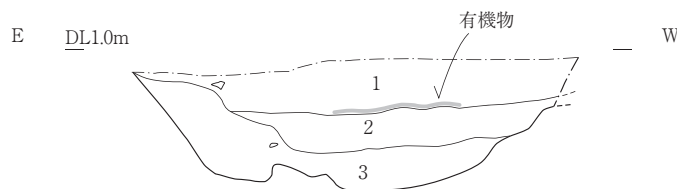
調査区西部の南北位の流路跡で、幅 4.8 m 前後（最大幅は W 区セクションで 5.0m）、深さ 1.35m を測る。北部の MWN 区では一帯を掘削している現代攪乱の下に下部が遺存していた。下層では植物遺体等を多含する部分もある。南部で SD2 や SR1 に切られるが、図 11 よりさらに南西方向に続くとみられる。

遺物は、上層から出土した須恵器杯蓋や下層出土の糸切り土師質土器杯があり、層位による明らかな時期差を指摘し得ない。杯の手法・形態や皿の口径は 14～15 世紀に比定でき、W 区中層出



- I: 灰シ粘に小田礫と炭粒含。砂の多い部分もあり。I' は微小礫含。
- II: 灰シ粘に若干の炭粒、植物片含。
- III: 灰シ粘に植物片含。
- IV: 砂と灰粘シ。若干の植物片。
- V: 灰シ粘に若干の炭粒。
- VI: 灰シ粘。部分的に砂。
- VII: 砂と灰シ粘。灰黄部分あり。小礫含。VII' はシ粘と砂。
- VIII: 砂と灰シ粘。
- IX: 灰シ粘に砂含。
- X: 砂にシ粘と小礫含。
- XI: 灰粘シと砂。

W 区



- 1: 灰シ粘。植物遺体含。
- 2: 灰シ粘。植物遺体含。部分的に砂。
- 3: 砂と灰シ粘が部分的に混在。植物遺体含。

MWN 区

0 1m  
(S= 1/40)

図81 SR2セクション図

土の古瀬戸柄付片口や石鍋といった搬入品と齟齬がない（第四章）。なお、最上層に若干の近世遺物片を含むが、当流路の最終末に属するか、混入であるか明確でない。また底の標高を図 11 に記したが、顕著な傾斜は認められない。

### 遺物集中

#### 集中 1 (図 11・84)

調査区北西部の攪乱層下、TR3 北端より約 4 m 北方で検出した。有機物等が認められない灰色粘土上で検出し、近在する SR2 と比較した場合、SR2 の 2 層上面或はその上位層内に該当する。土師質土器杯皿計約 27 点、煮炊具片、土錘、刀子各 1 点が、遺棄状態を良好に保つとみられる状態で検出された。杯・皿には完形に近いものを含む。刀子は残部刃渡り 20cm 余りで、原長 20 数 cm 程度と推測されるが、風化や欠失のため図示できない。当遺物集中で特記すべきは黒色の膜を伴っていた点で、杯の底面や検出土層面に薄い膜となって付着していた。赤外分光分析を例言のように実施した結果、漆と酷似するスペクトルパターンが得られた。

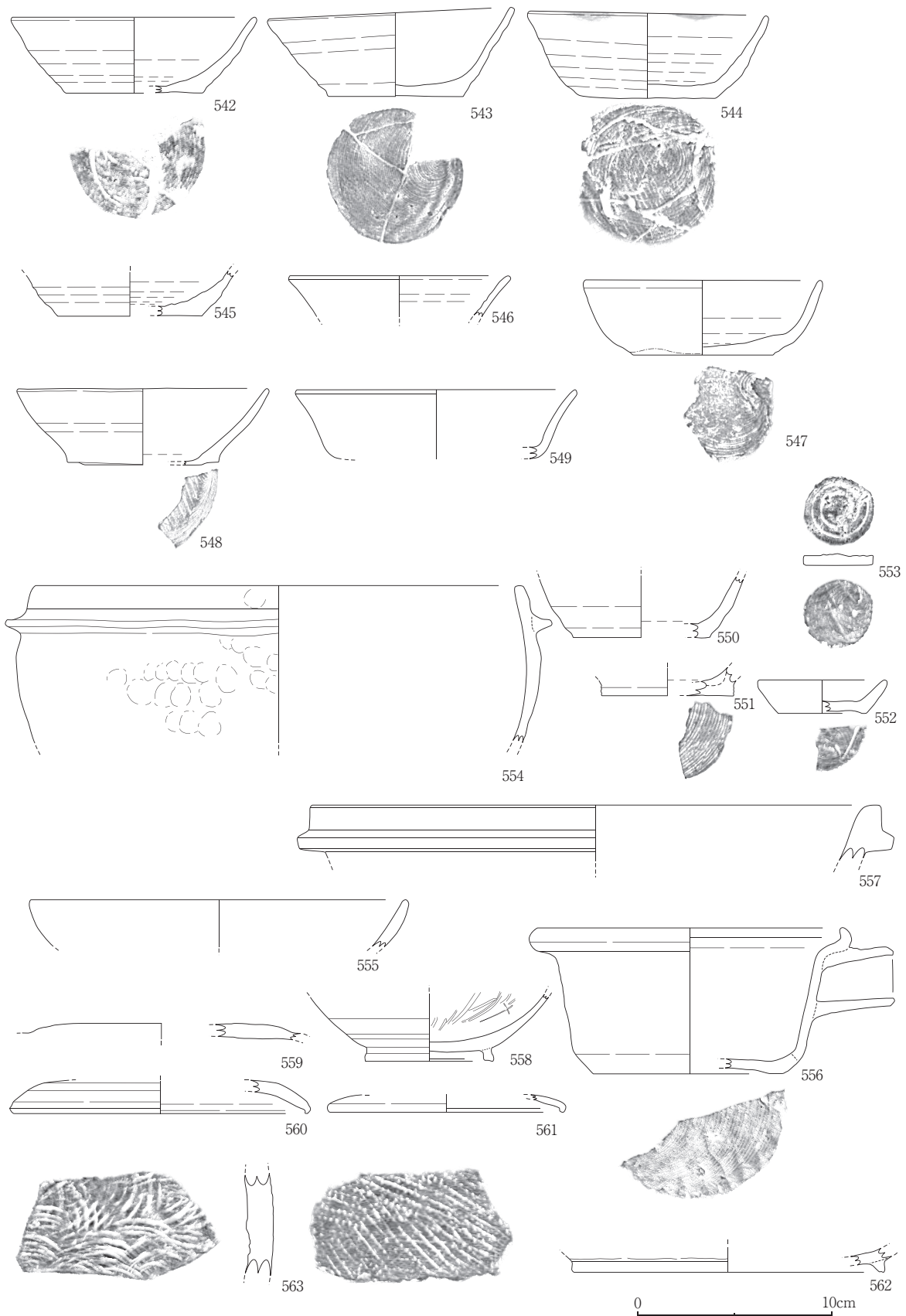


图82 SR2出土遺物実測図



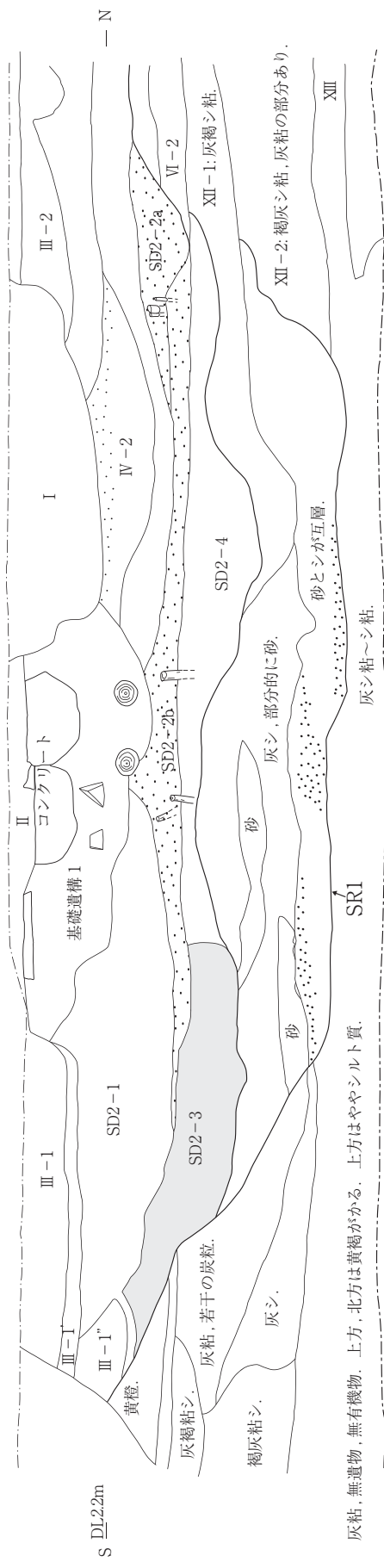


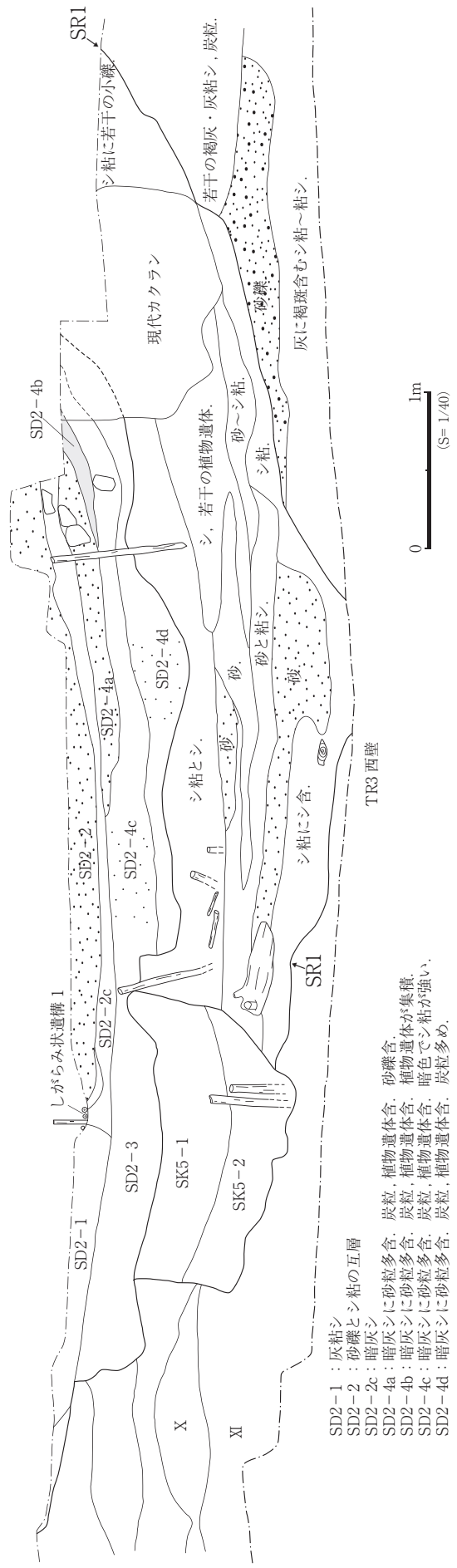
図83 SD2・SR1セクション図

灰粘, 無遺物, 無有機物. 上方, 北方は黄褐がかかる. 上方はややシルト質.  
 SD2-1 : 比較的均質な粘土に若干の円礫(4cm 大まで).  
 SD2-2a : 褐灰シ粘と 2b. 若干の焼土, 炭粒.  
 SD2-2b : 砂礫と灰色粘シ.  
 SD2-3 : 暗灰シに小礫含. 植物質, 木片含 (場所によっては多含).  
 SD2-4 : 灰シ粘に砂粒. 若干小礫, 炭粒, 植物遺体含. 遺物比較的多.

I ~ XIは図7・8に説明あり

s DL2.2m

— N



SD2-1 : 灰粘シ  
 SD2-2 : 砂礫とシ粘の互層  
 SD2-2a : 暗灰シ  
 SD2-2b : 暗灰シに砂粒多含. 炭粒, 植物遺体含. 砂礫含.  
 SD2-2c : 暗灰シに砂粒多含. 炭粒, 植物遺体含. 植物遺体が多集積.  
 SD2-2d : 暗灰シに砂粒多含. 炭粒, 植物遺体含. 植物遺体が多集積.  
 SD2-3 : 暗灰シに砂粒多含. 炭粒, 植物遺体含. 暗色でシ粘が強い.  
 SD2-4 : 暗灰シに砂粒多含. 炭粒, 植物遺体含. 炭粒多め.

s DL2.2m

0 1m (S= 1/40)

85

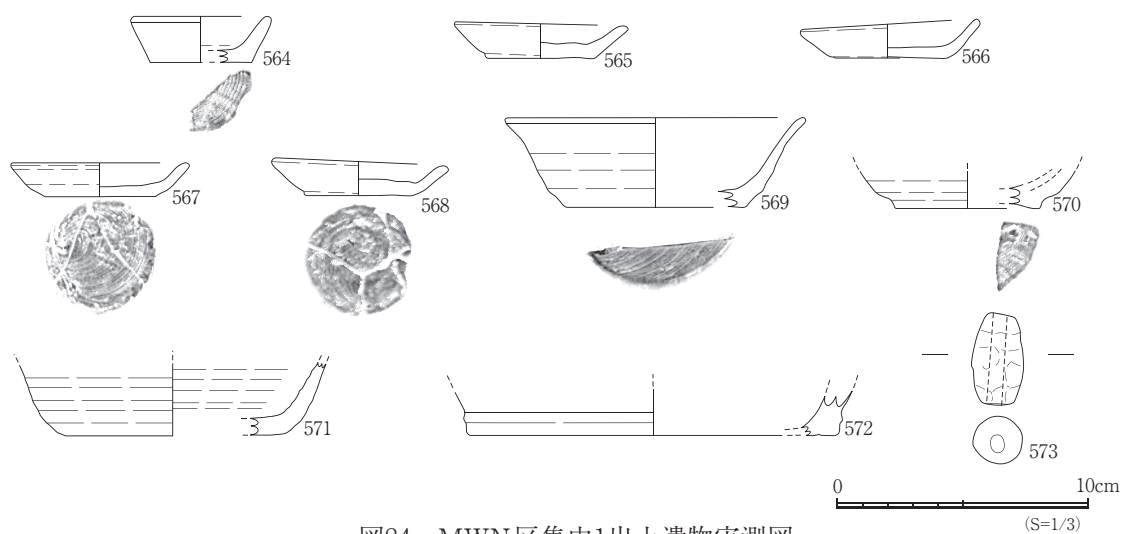


図84 MWN区集中1出土遺物実測図

包含層，トレンチ 及び近世遺構出土の中世以前遺物（図 85・86）

図 85 では，上記から出土した遺物のうち，明らかに中世以前の所産であるものをまとめた。

588 は 7 世紀の須恵器杯蓋，589 は古代前期の壺，583 は第 IV 章の時期の土師質土器椀。青磁鎬蓮弁文碗は鎌倉期前半，口縁部の雷文帯が退化した碗は室町期の所産である。土師質土器釜 587 の胎土は非在地的である。

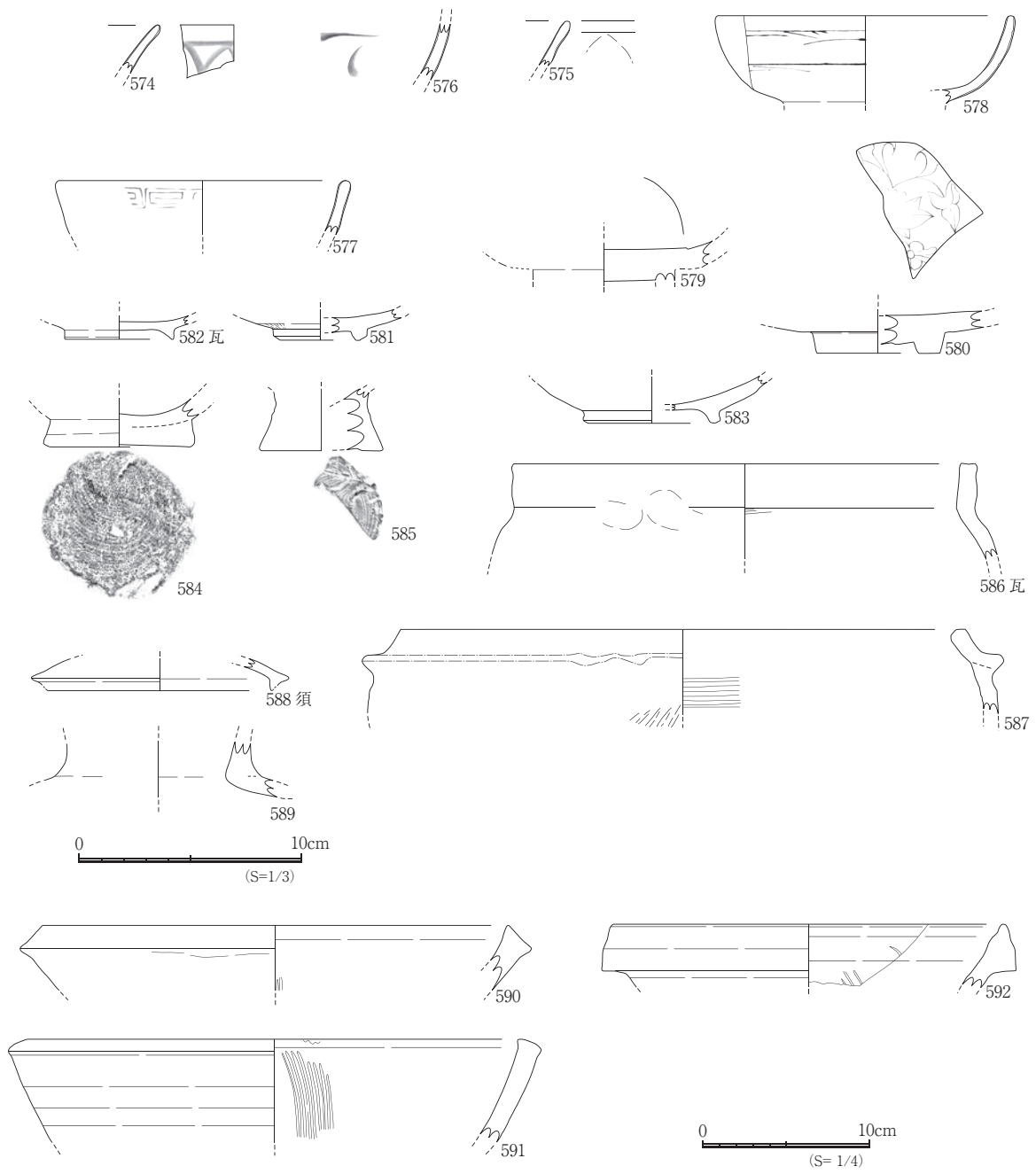


图85 古代~中世出土遺物実測図(包含層・近世遺構出土)

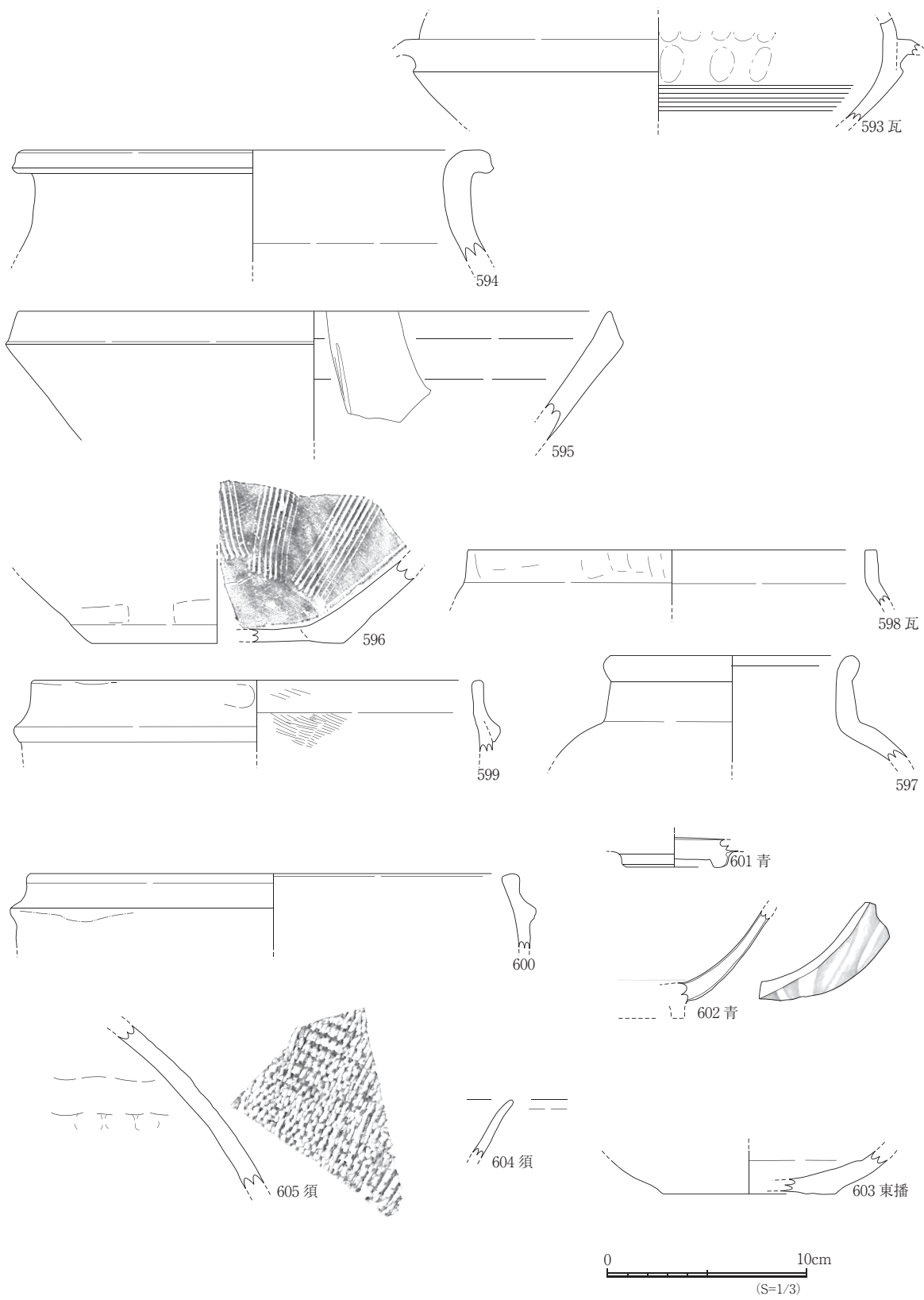


图86 SD2下層等出土古代~中世遺物実測図

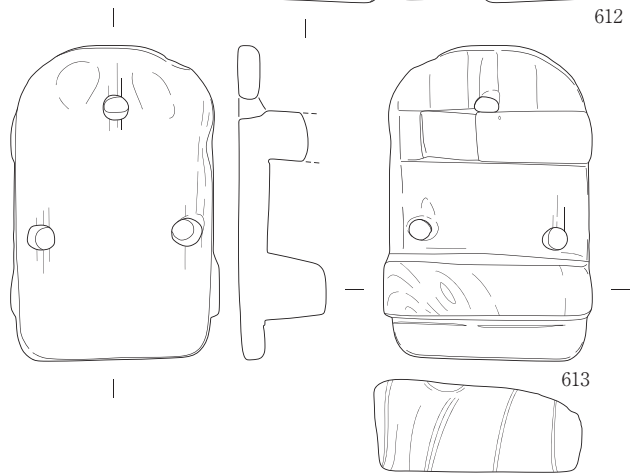
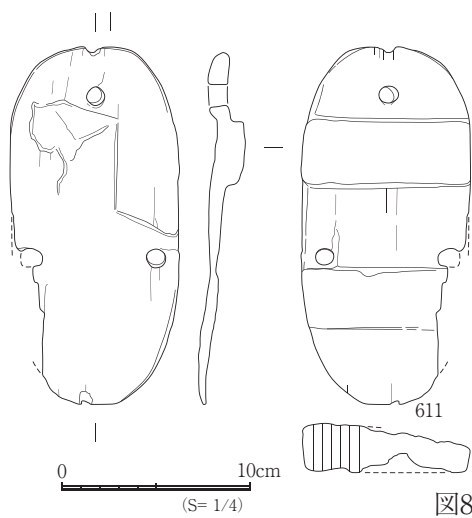
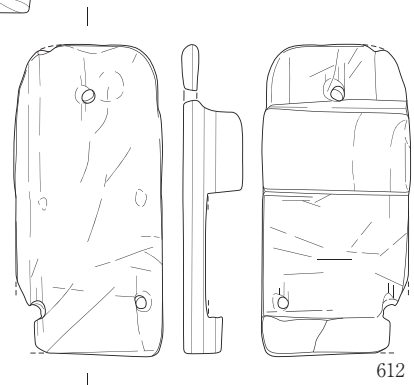
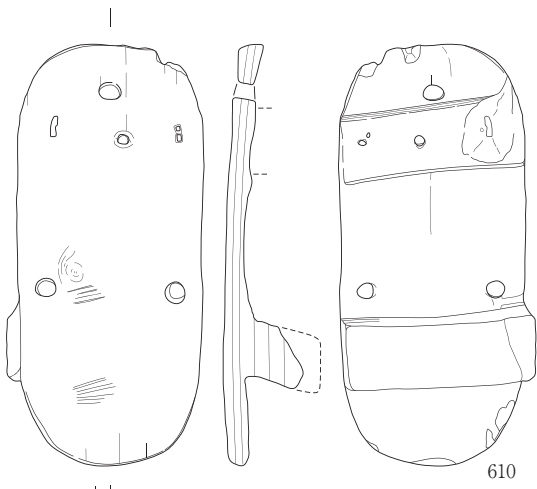
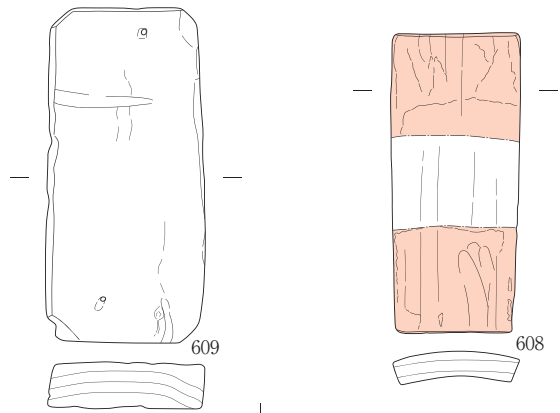
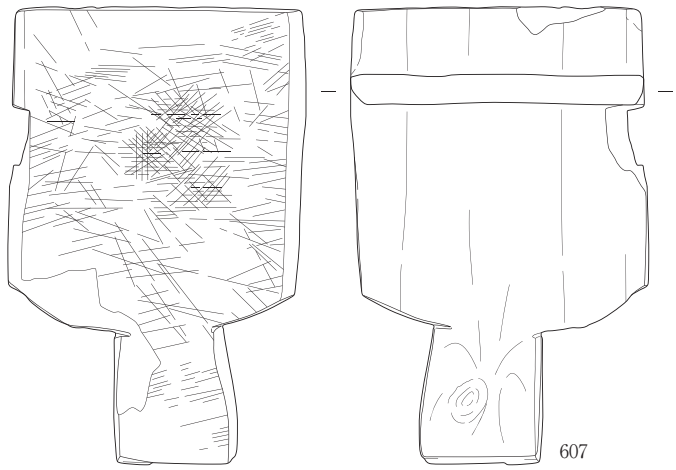


图87 SD2出土木器实测图

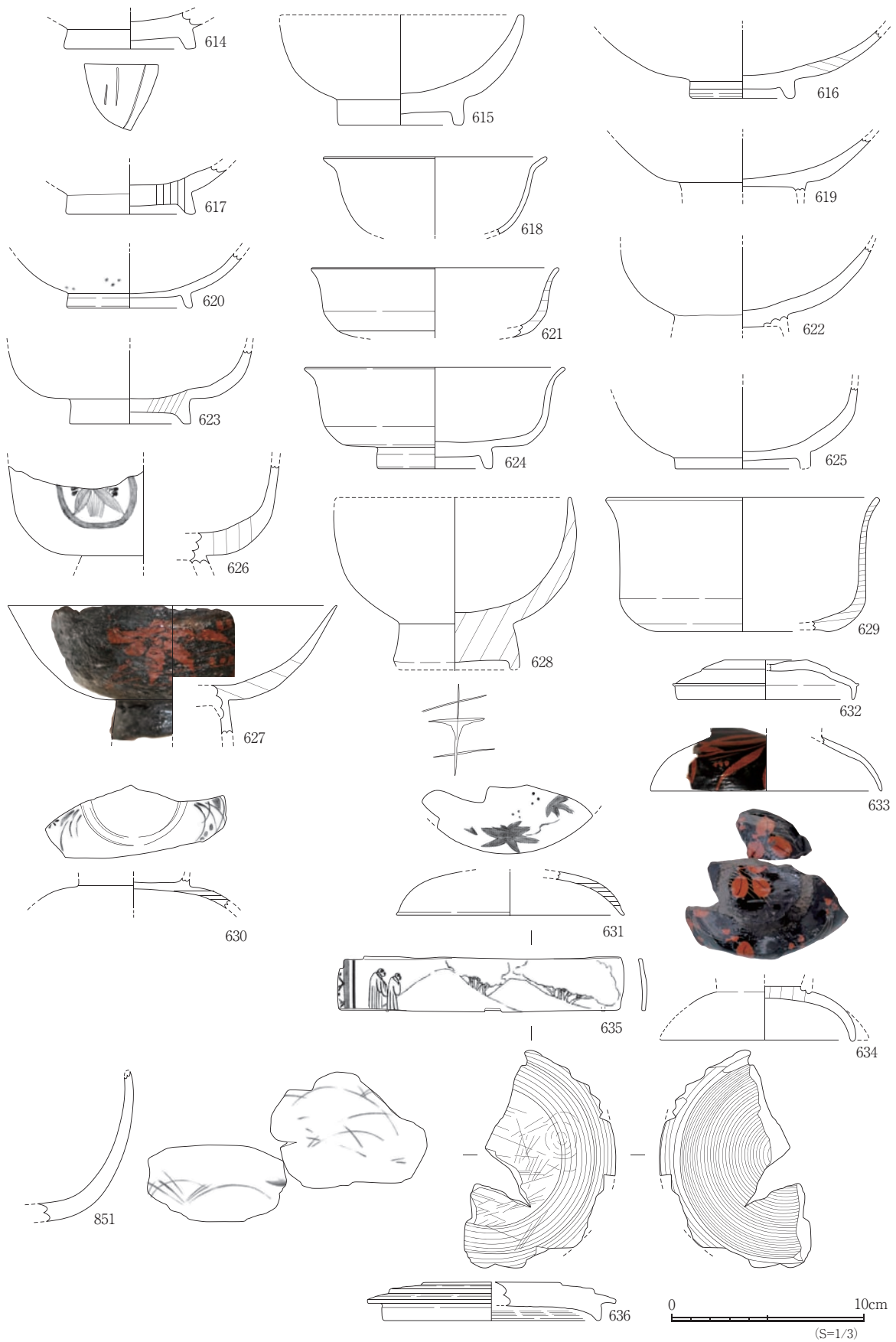


图88 SD3出土木器实测图1

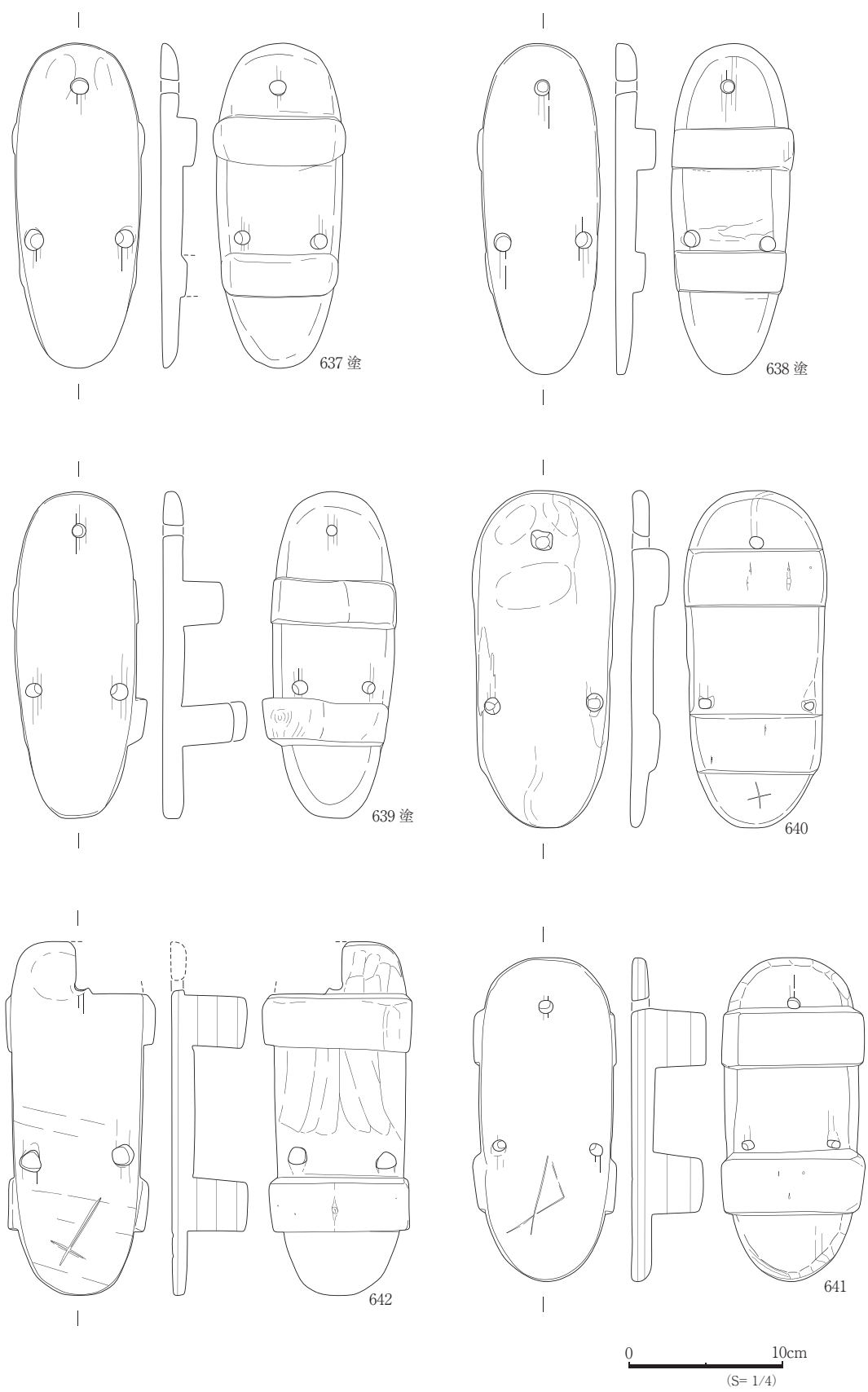


图89 SD3出土木器实测图2

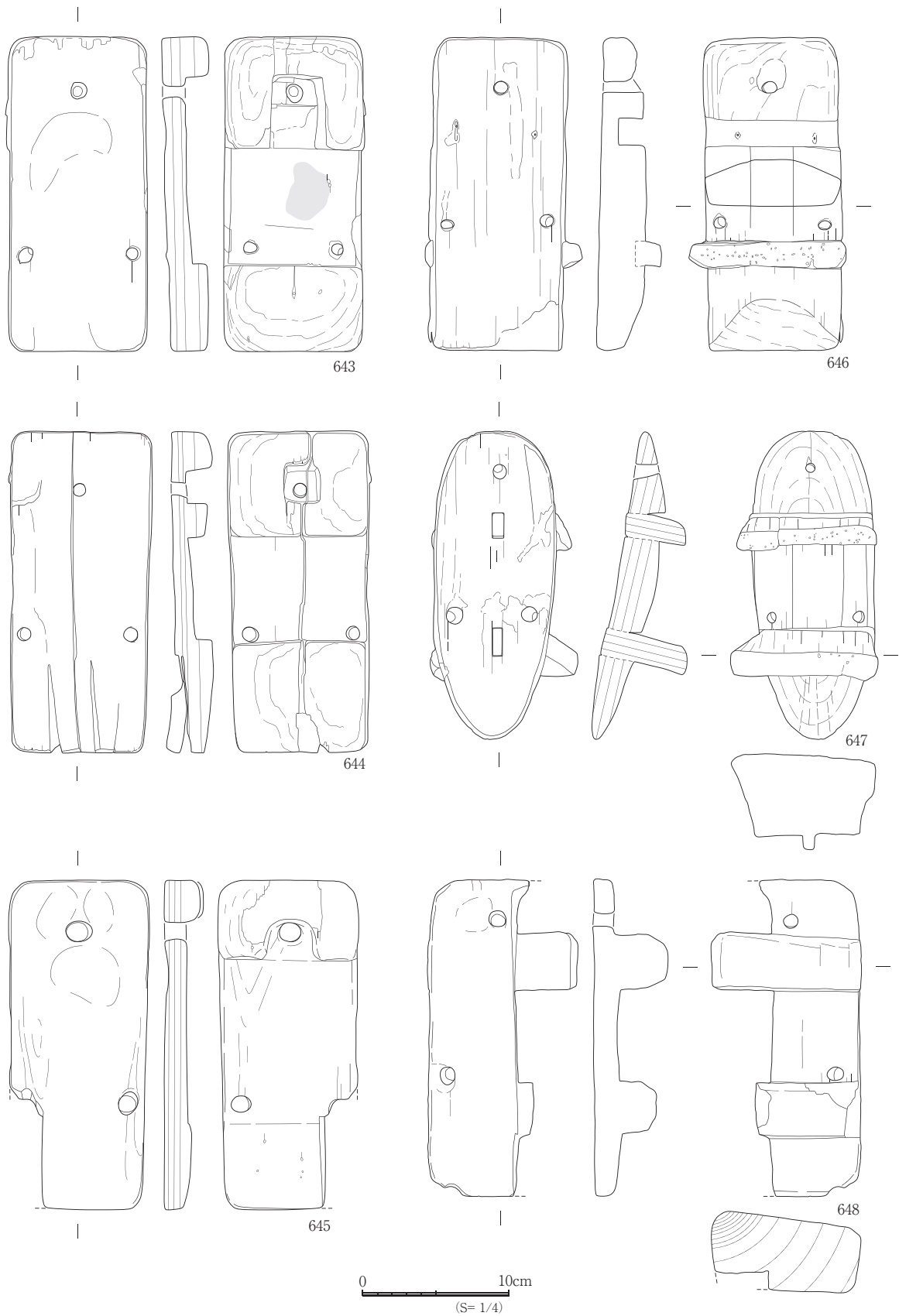


图90 SD3出土木器实测图3



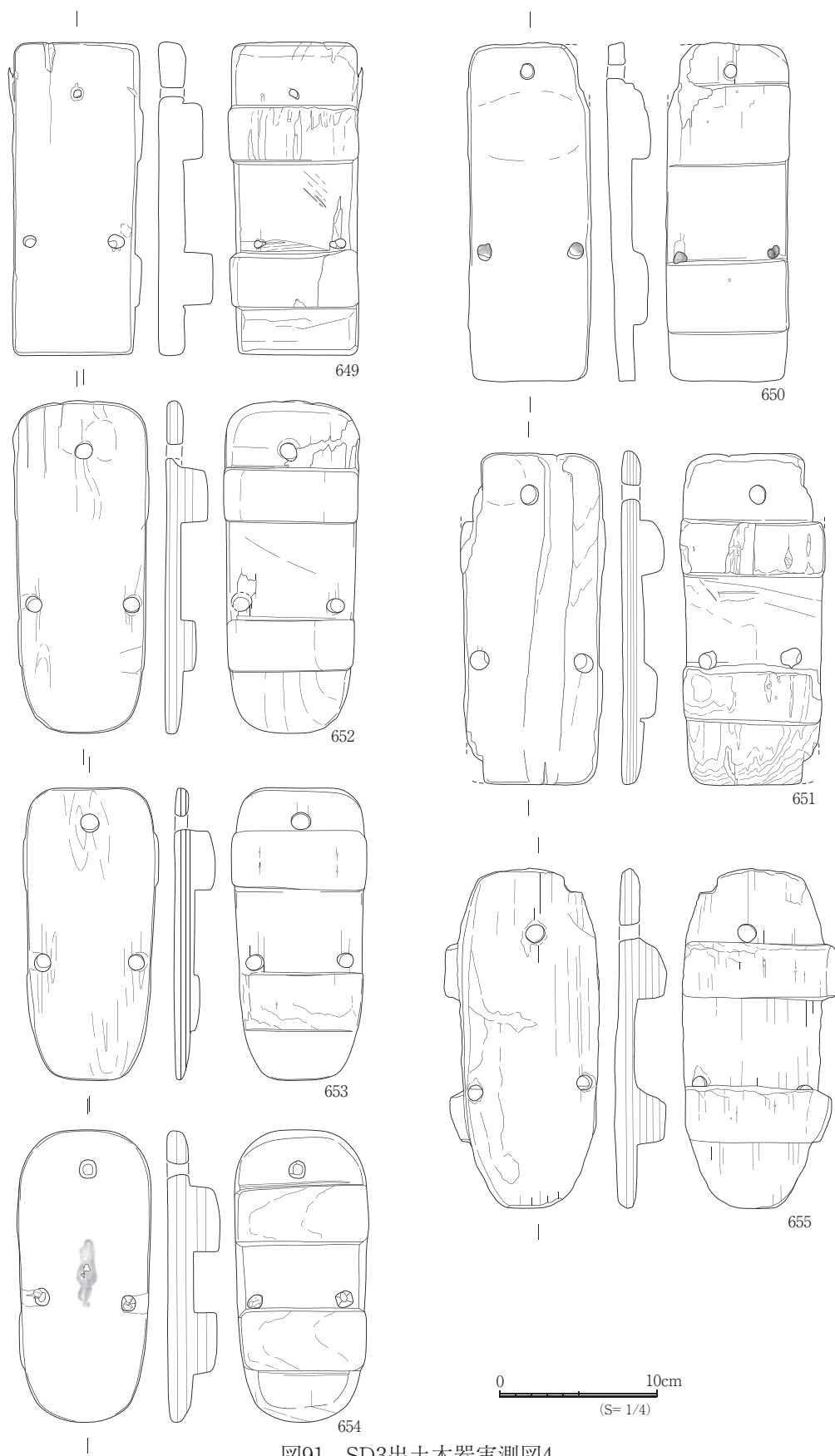


图91 SD3出土木器实测图4

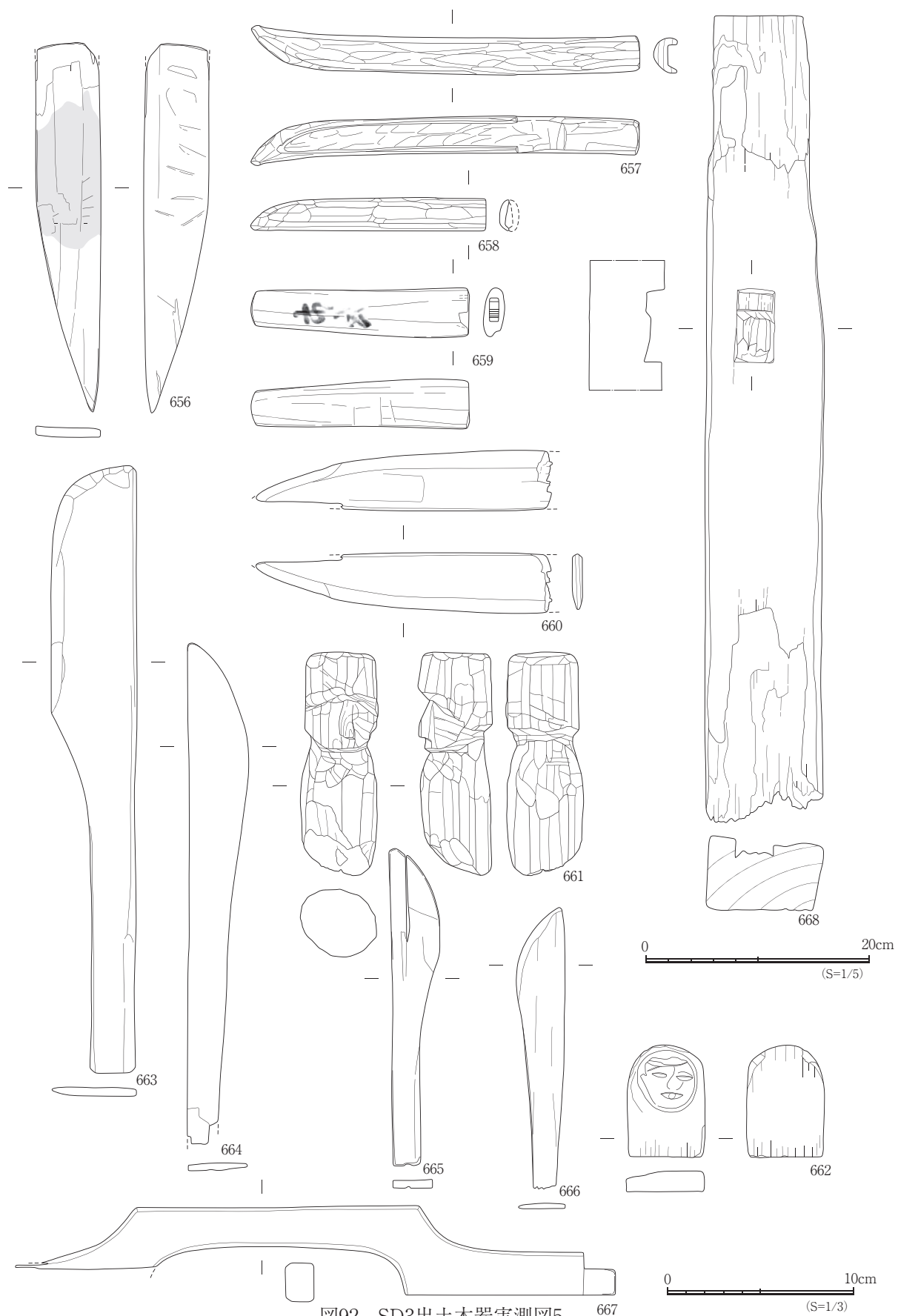
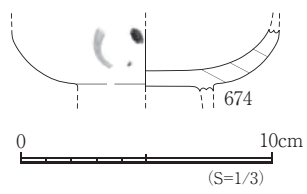


图92 SD3出土木器实测图5



SD3



SD6

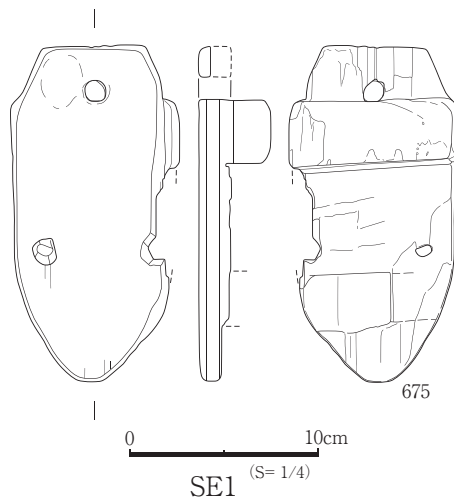
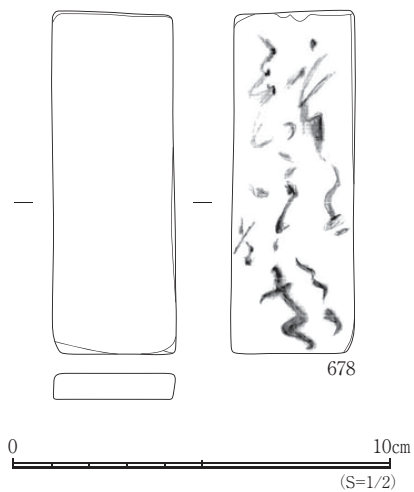
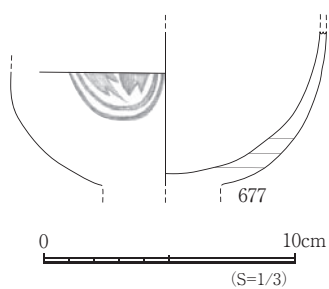


图93 SD3·6·SE1出土木器实测图



SE2

图94 SE1·2出土木器实测图

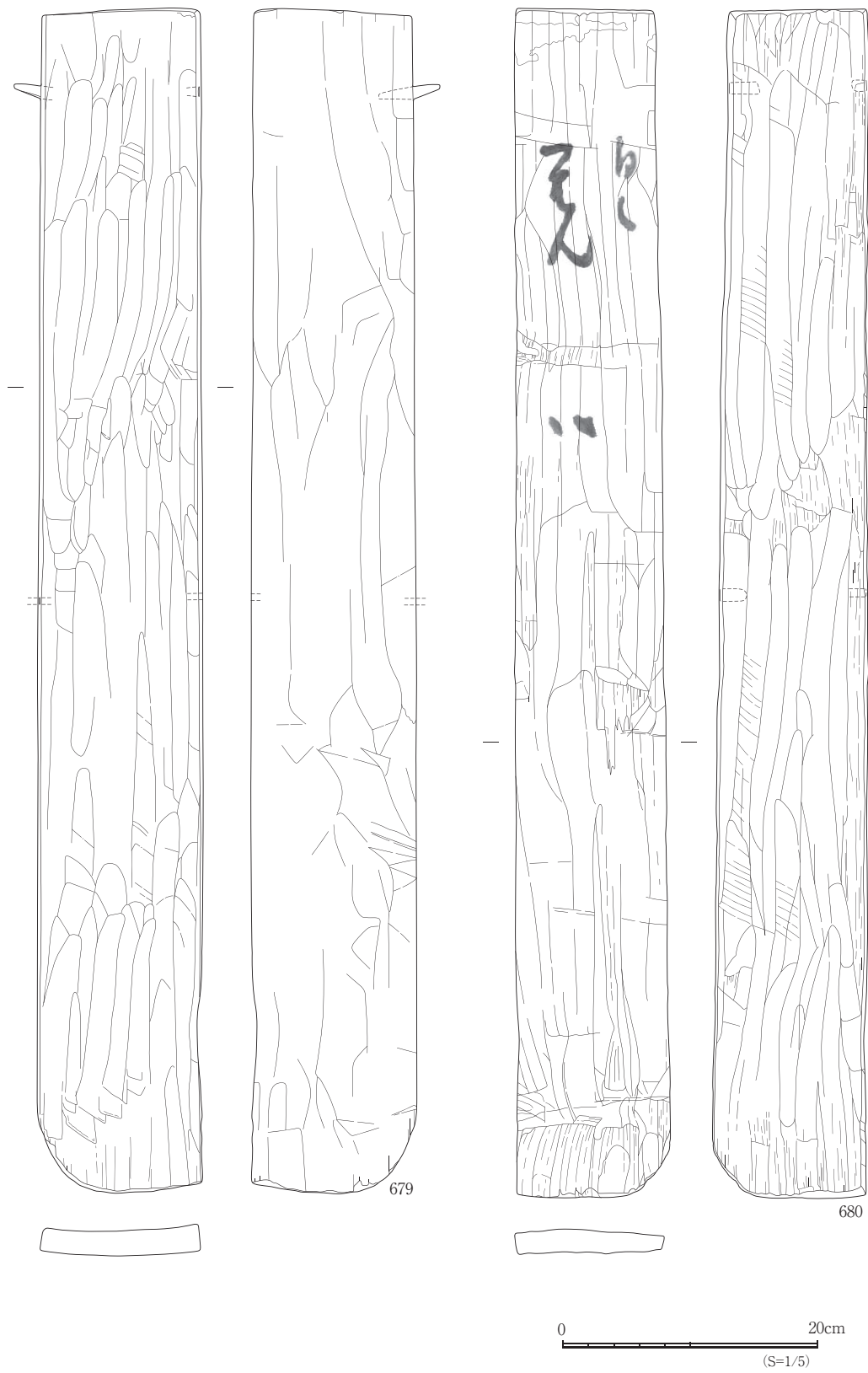


図95 SE2出土井戸側板実測図

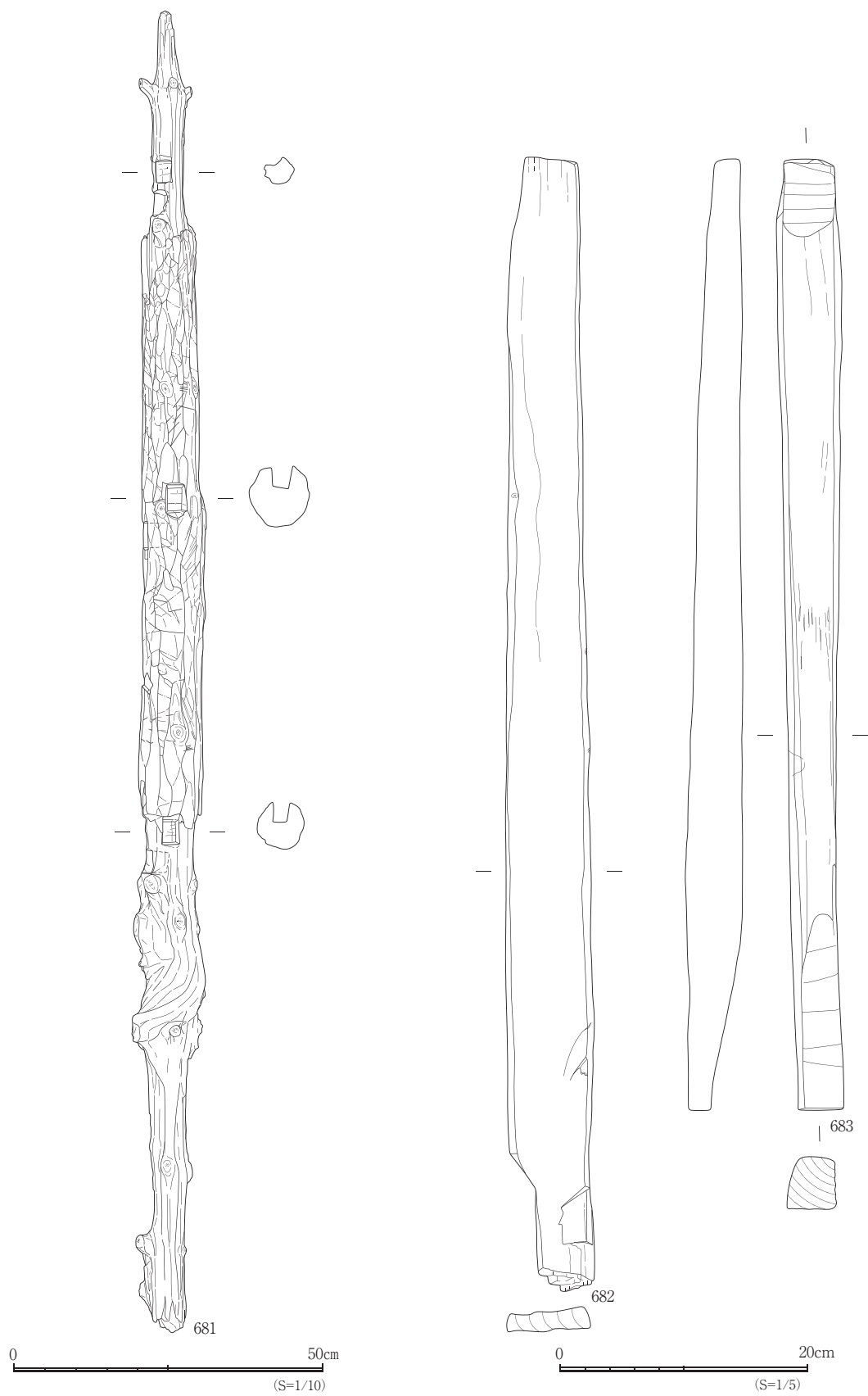
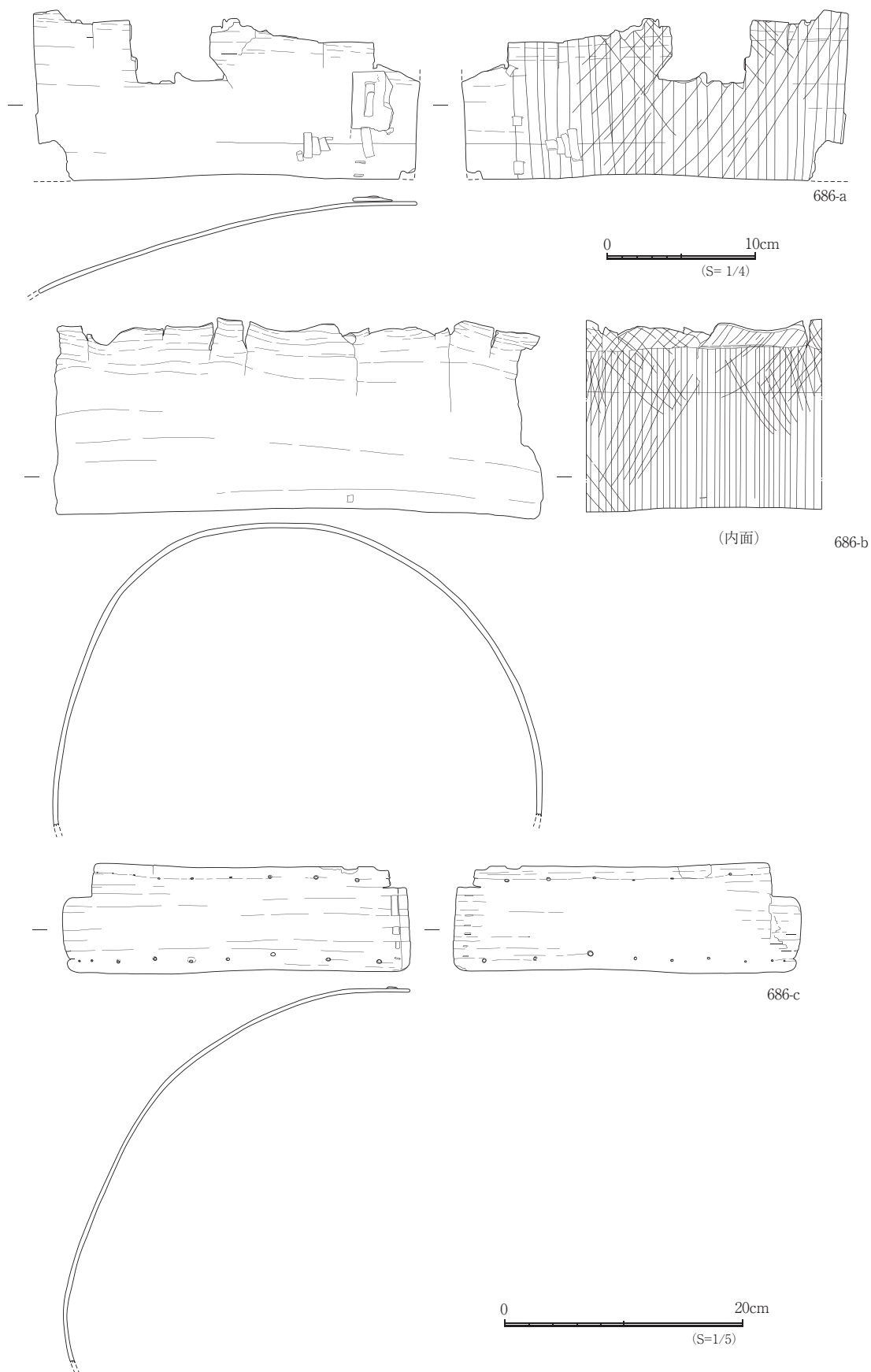


图96 SE3出土井戸杵材実測図



图97 SE4出土井戸側板実測図





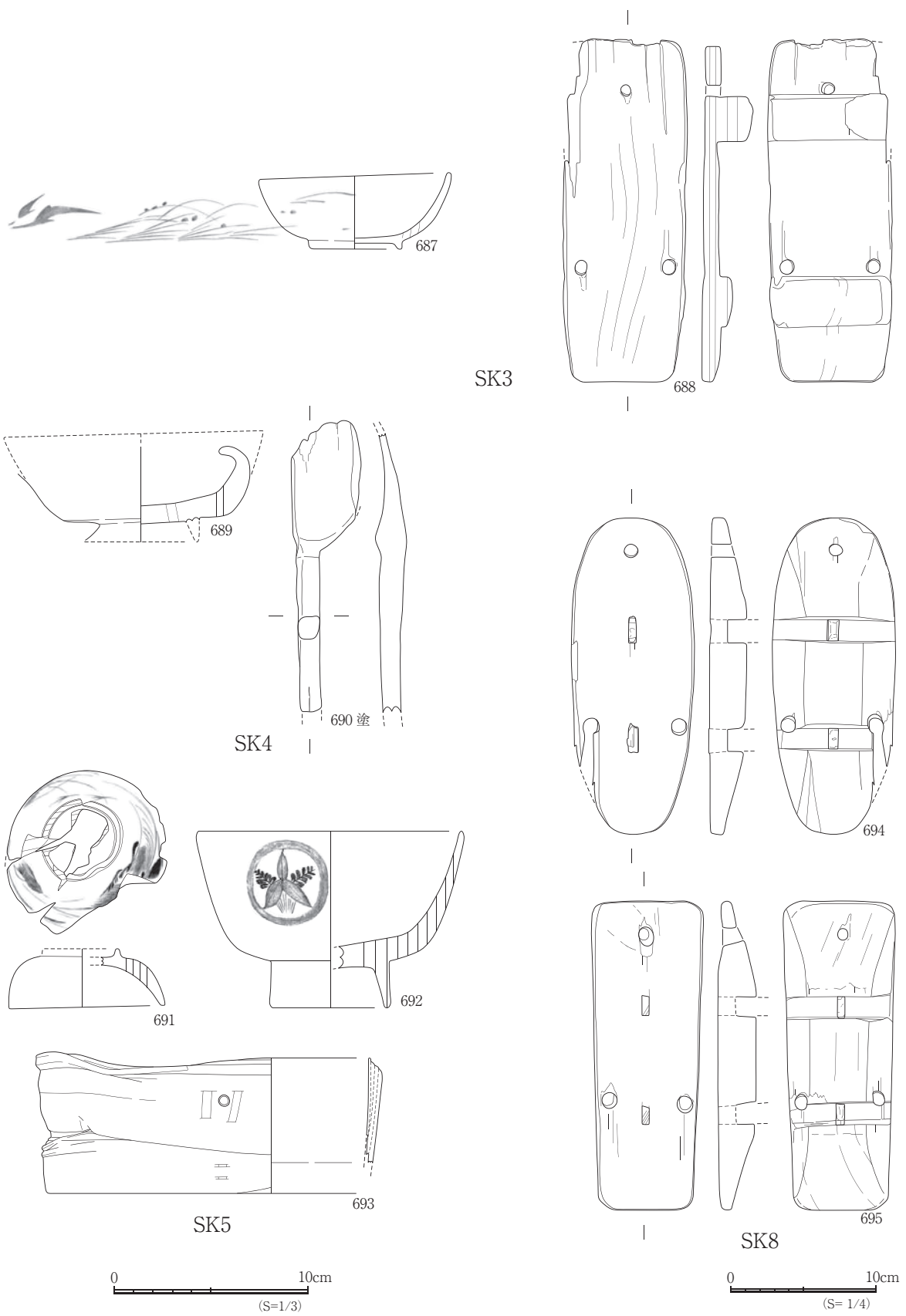


图99 SK3 ~ 5·8出土木器实测图

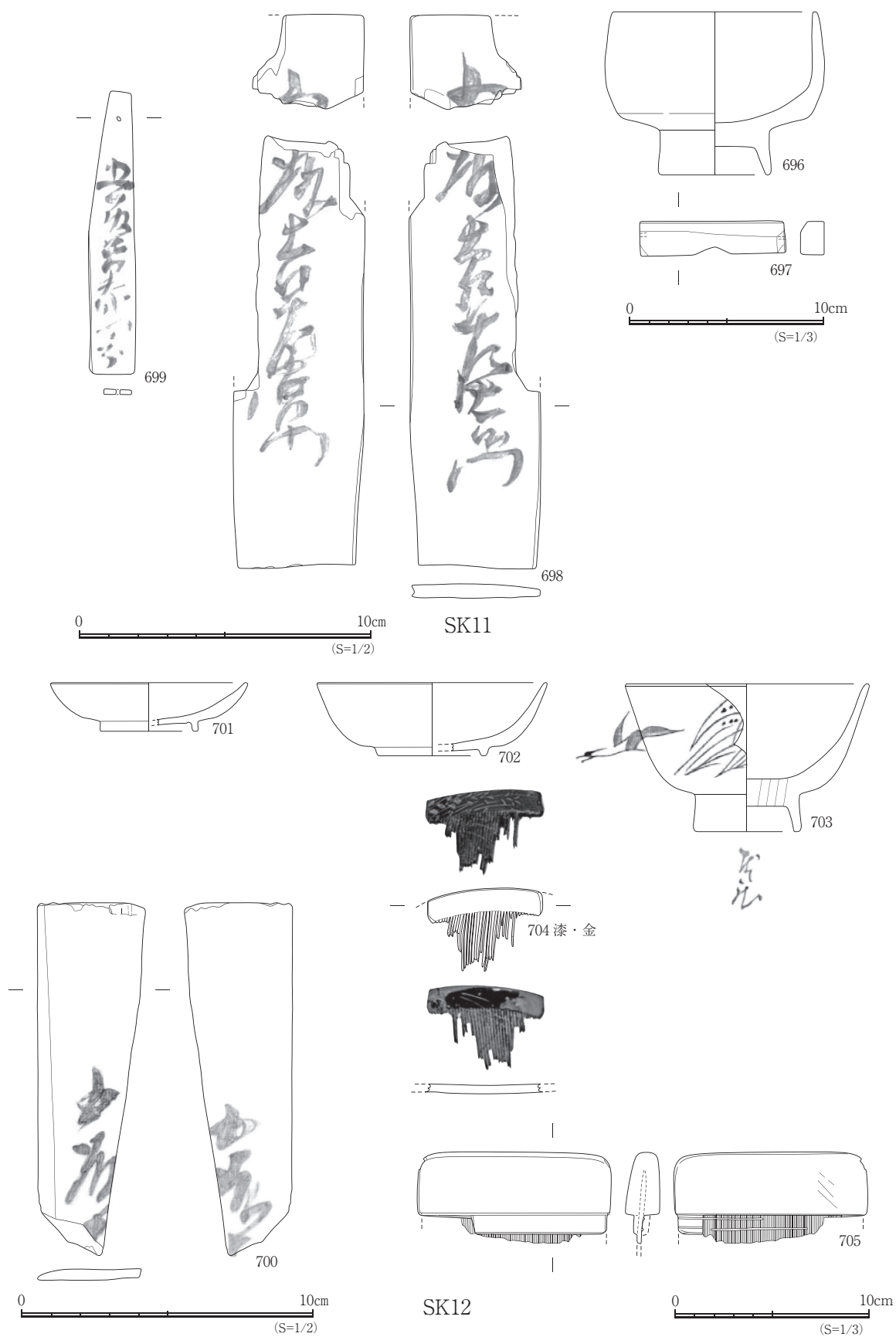


图100 SK11·12出土木器实测图

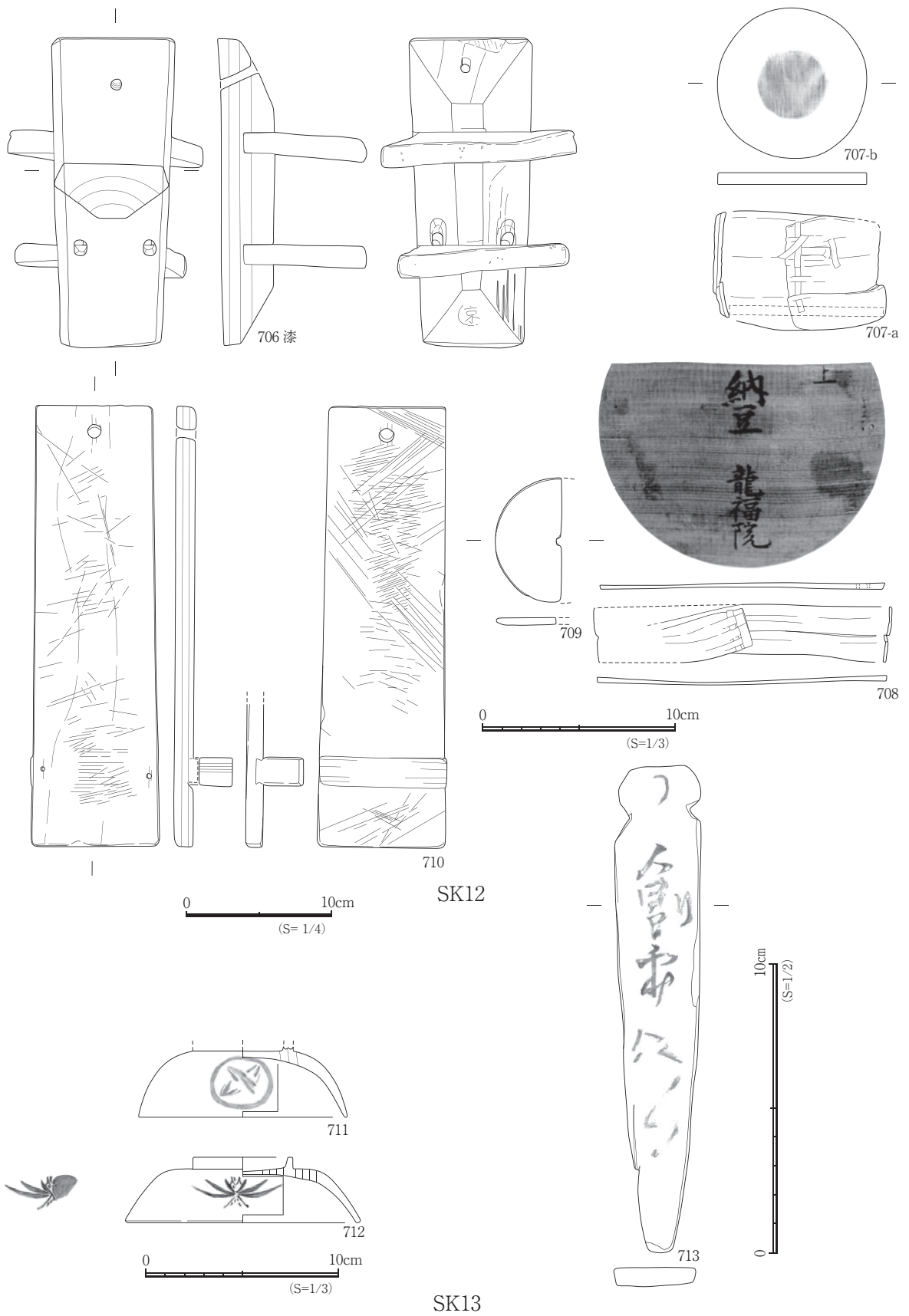


图101 SK12·13出土木器实测图

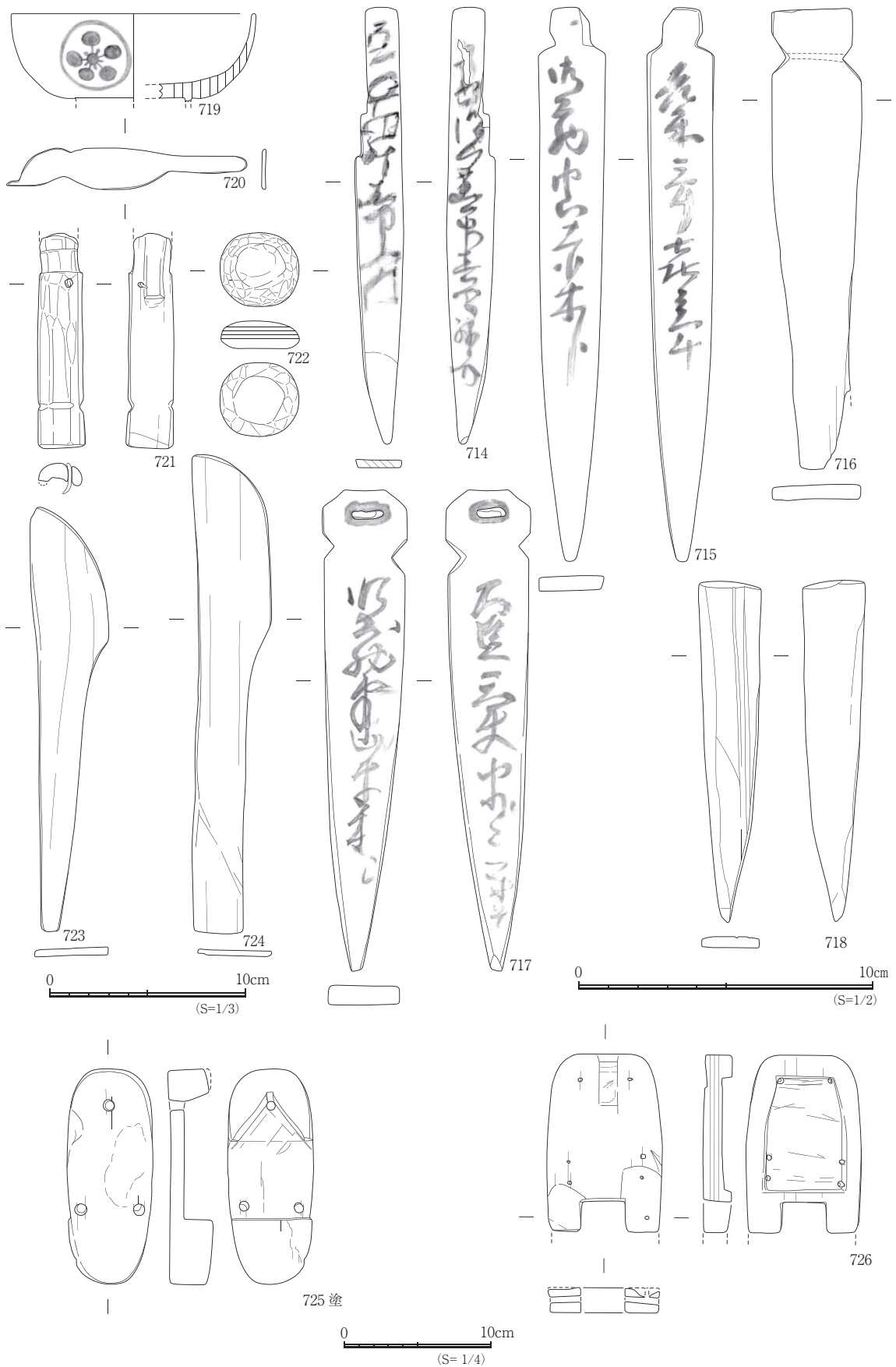
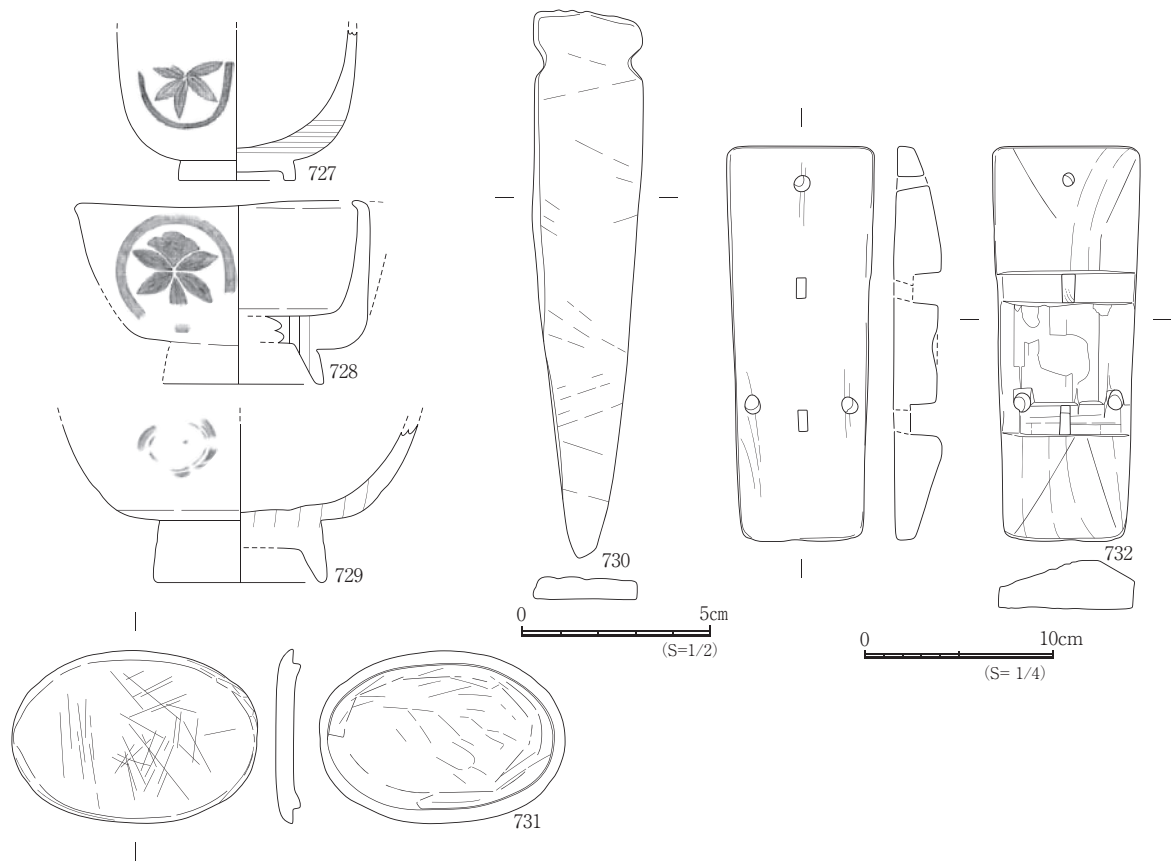
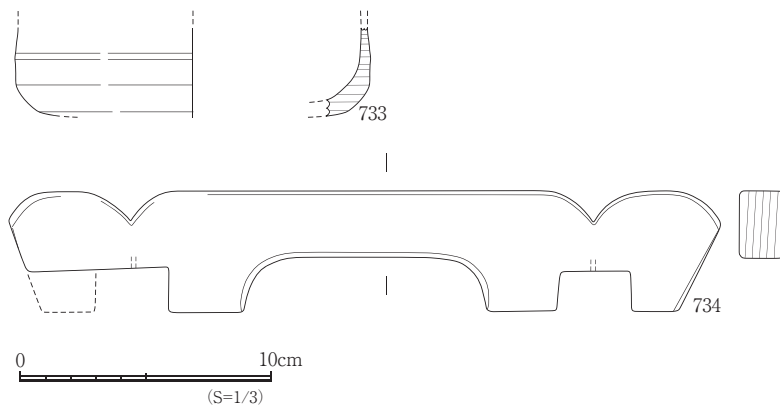


图102 SK14出土木器实测图



SK15



SE5上層(旧SK16)

図103 SK15・SE5上層(旧SK16)出土木器実測図

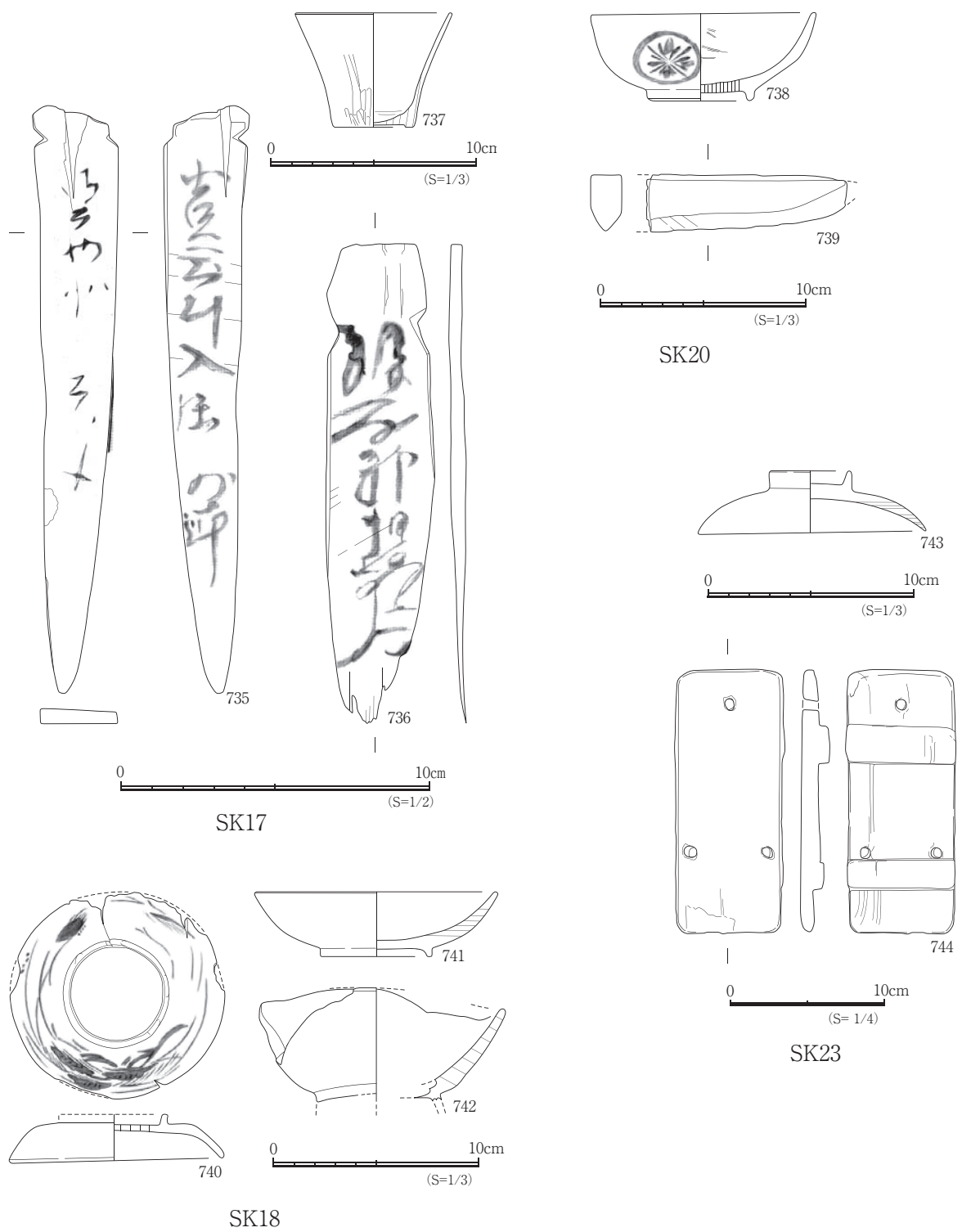


图104 SK17·18·20·23出土木器实测图

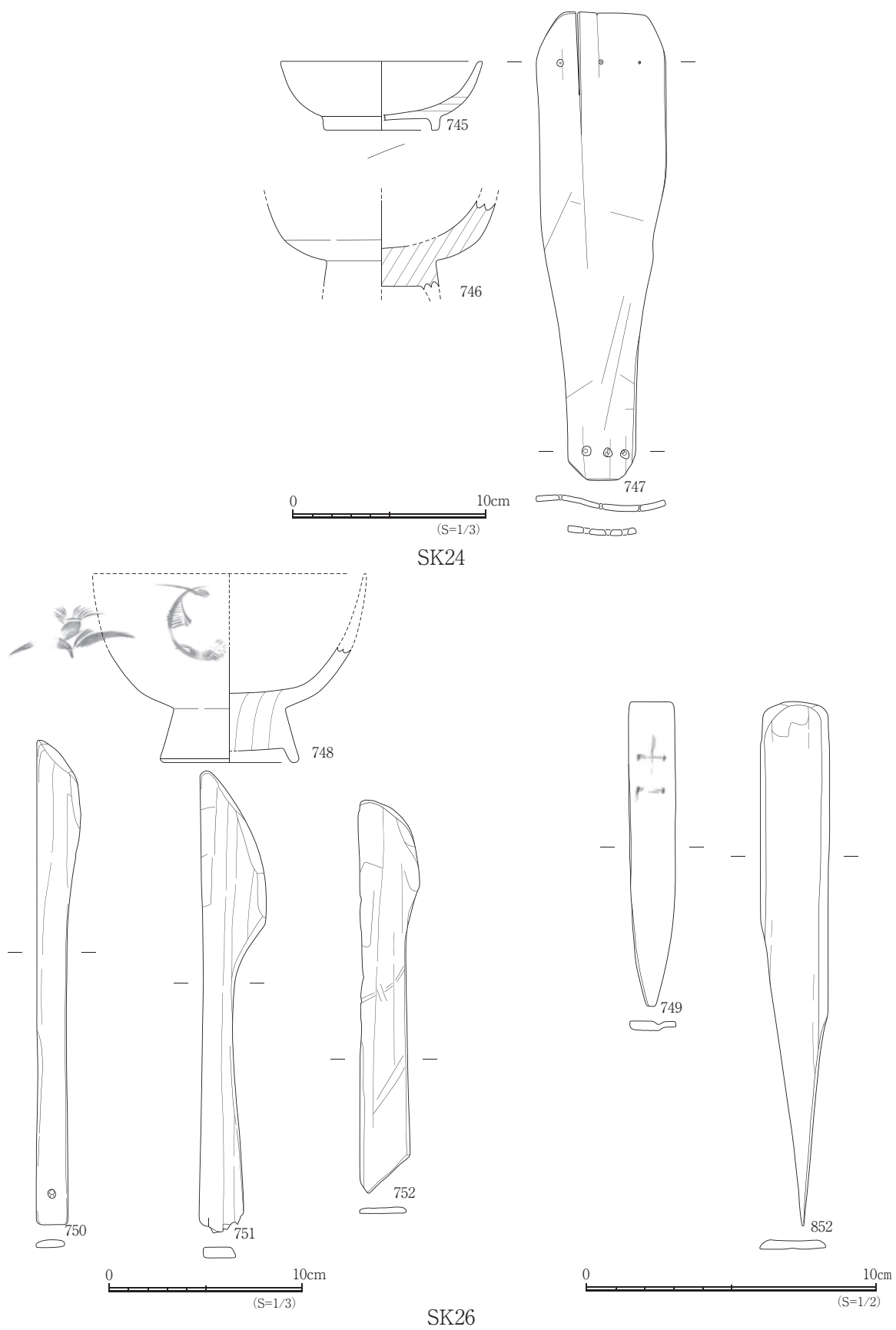


图105 SK24·26出土木器实测图

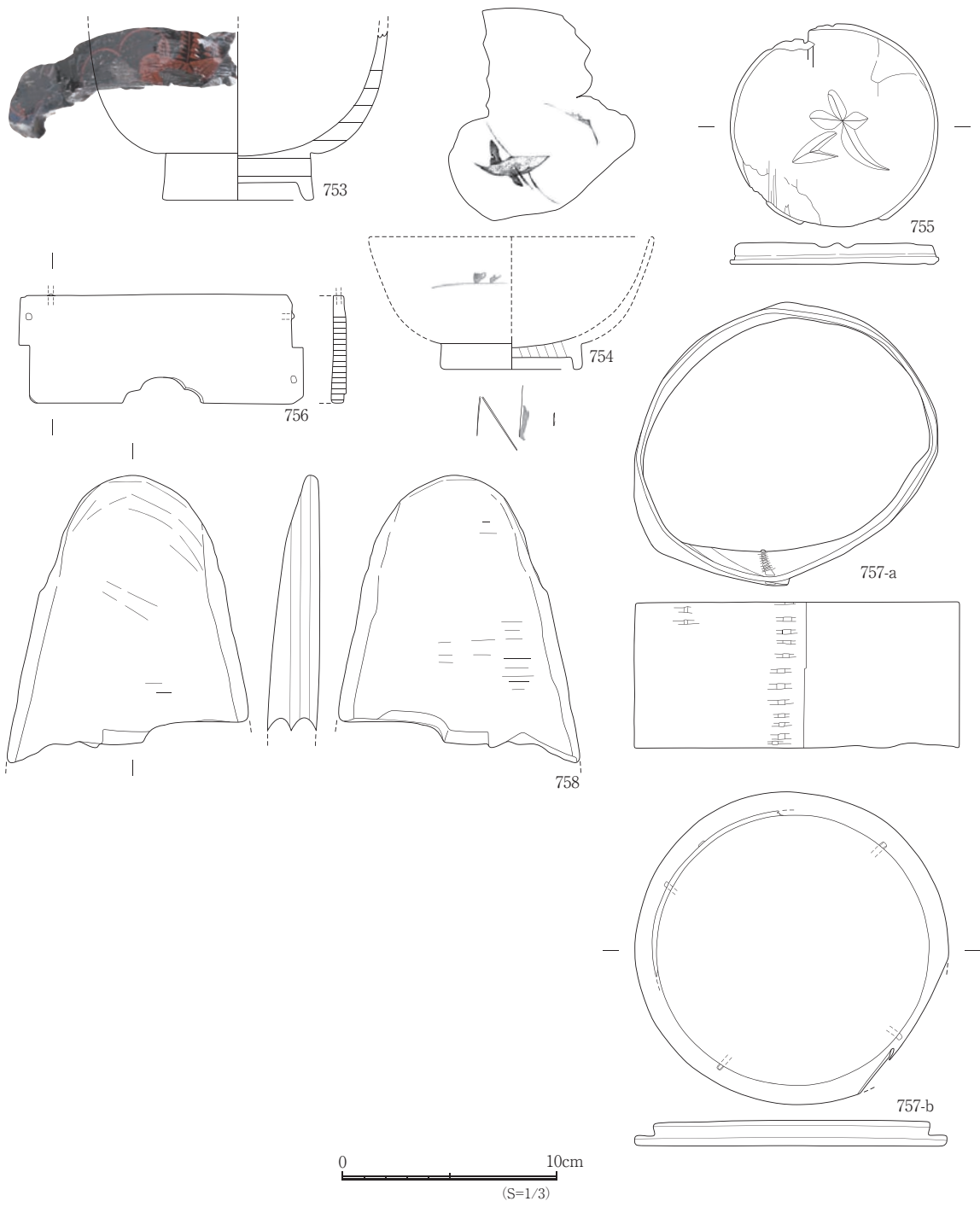


图106 SK28出土木器实测图



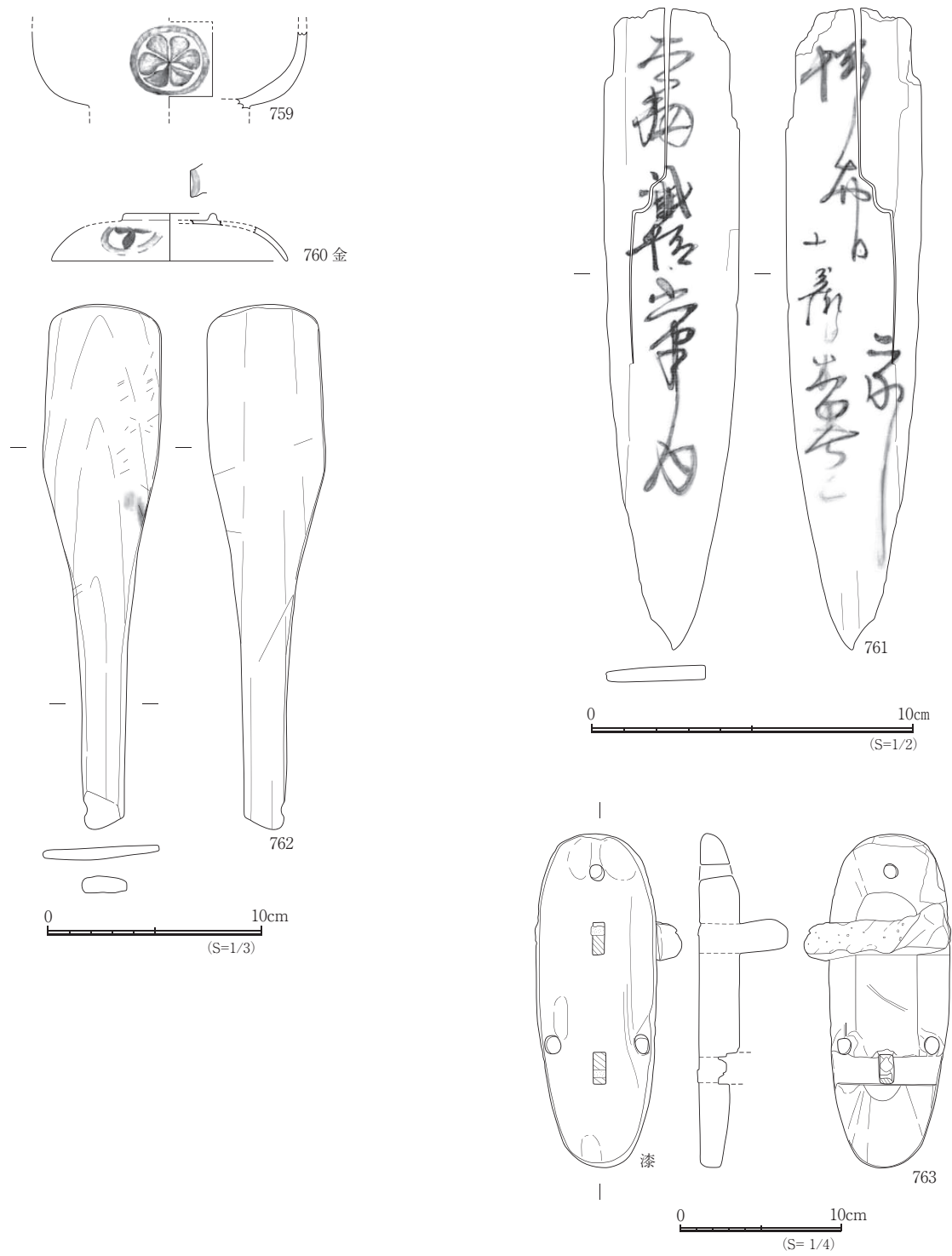


图107 SK30出土木器实测图

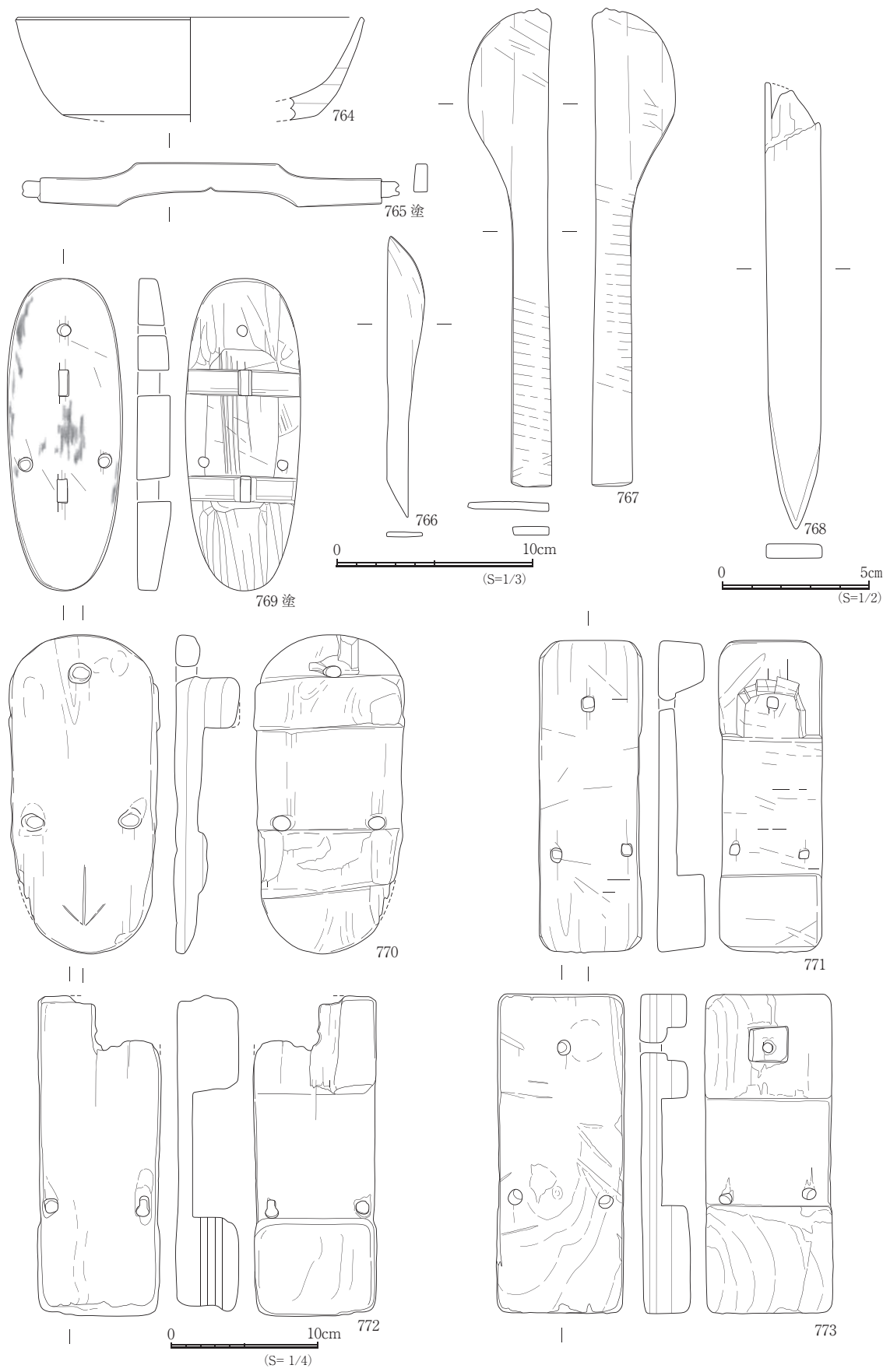
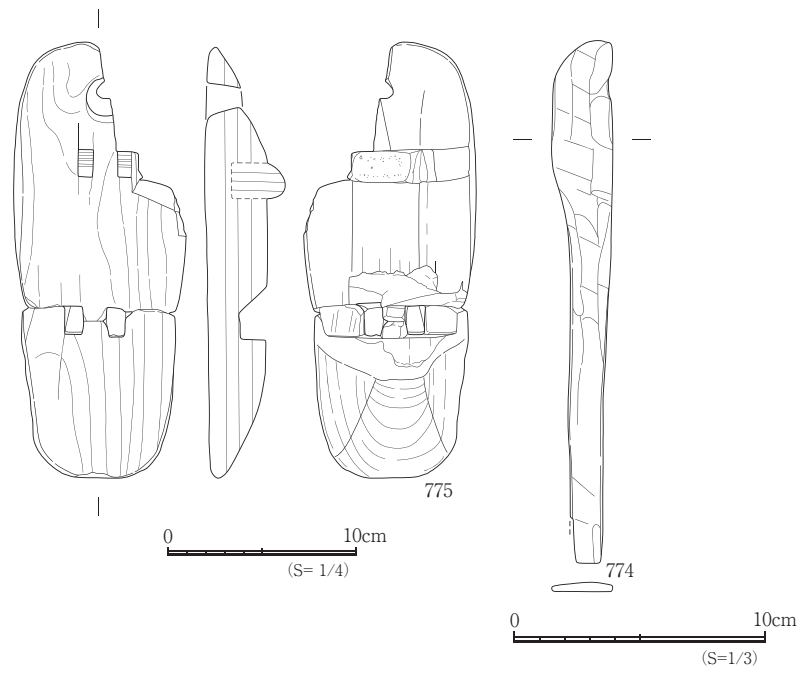
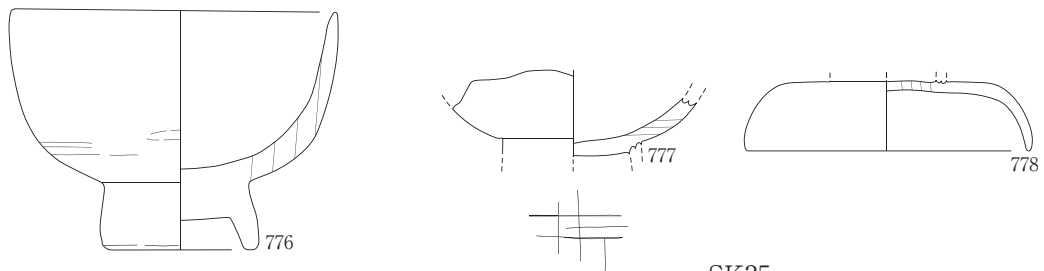


图108 SK31出土木器实测图

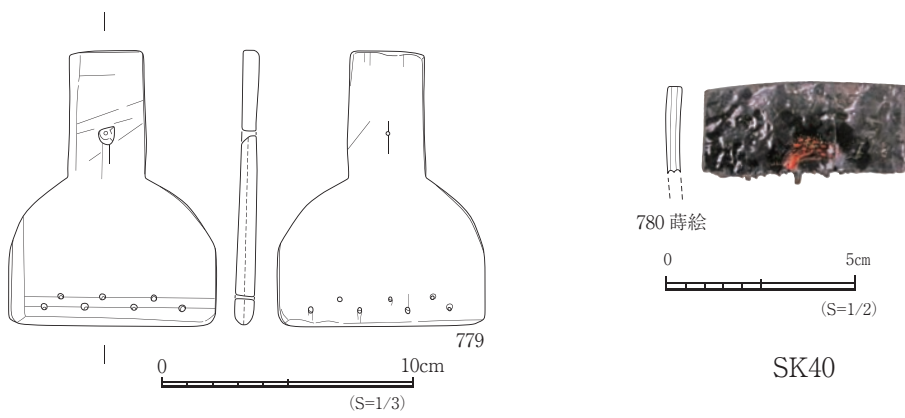


SK32



SK34

SK35



SK39

SK40

図109 SK32・34・35・39・40出土木器実測図

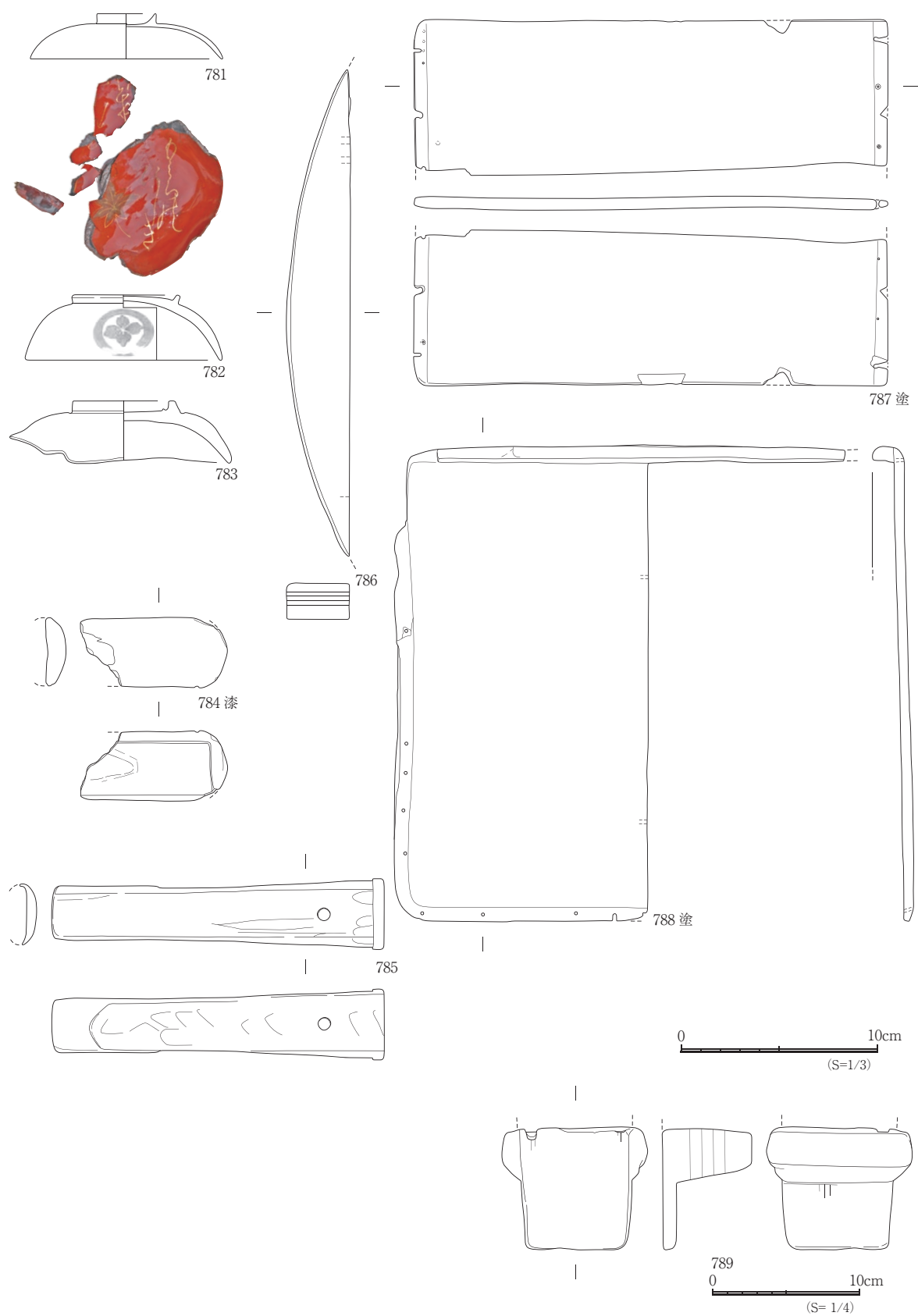


图110 SK38出土木器实测图

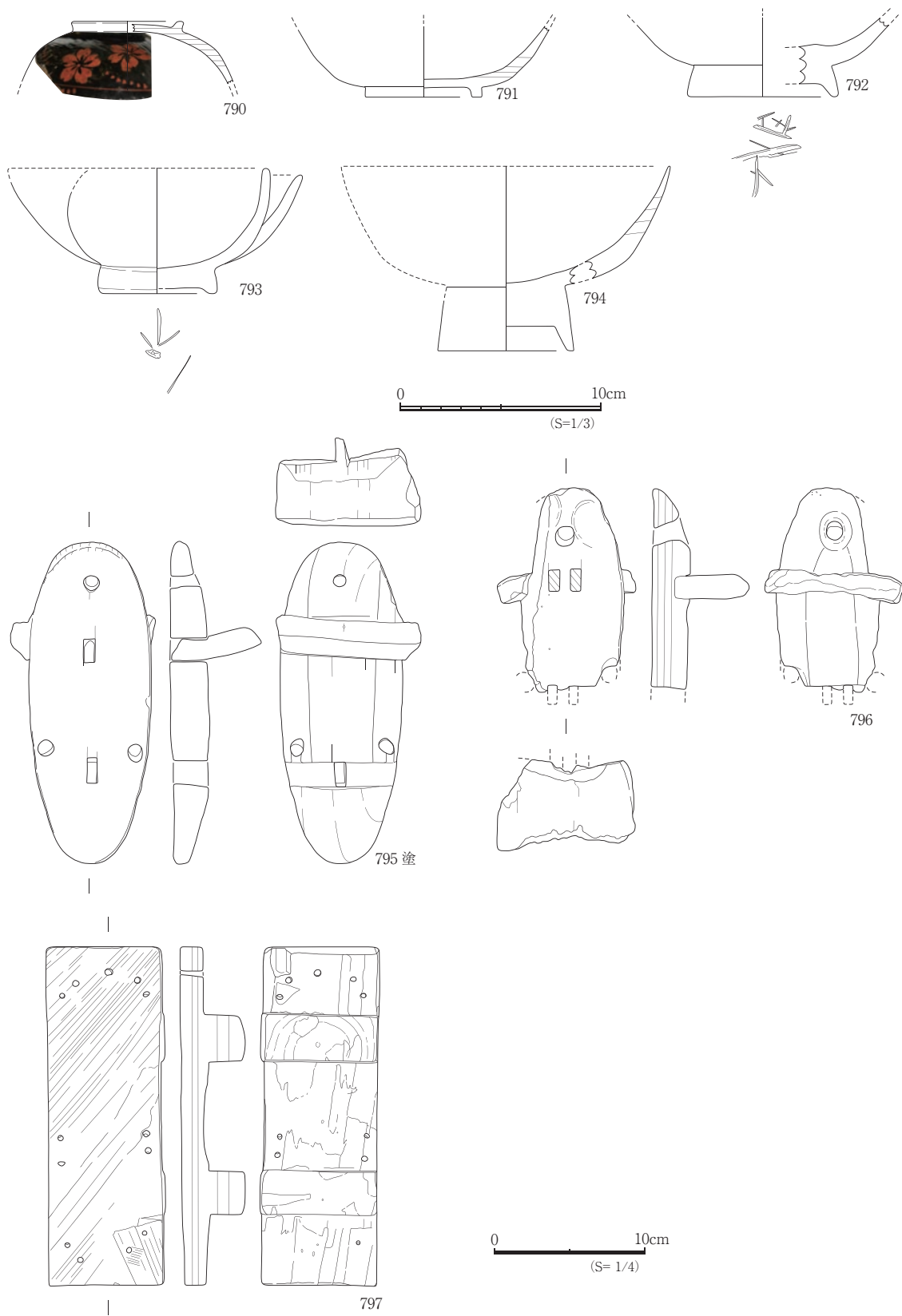


图111 SK41出土木器实测图1

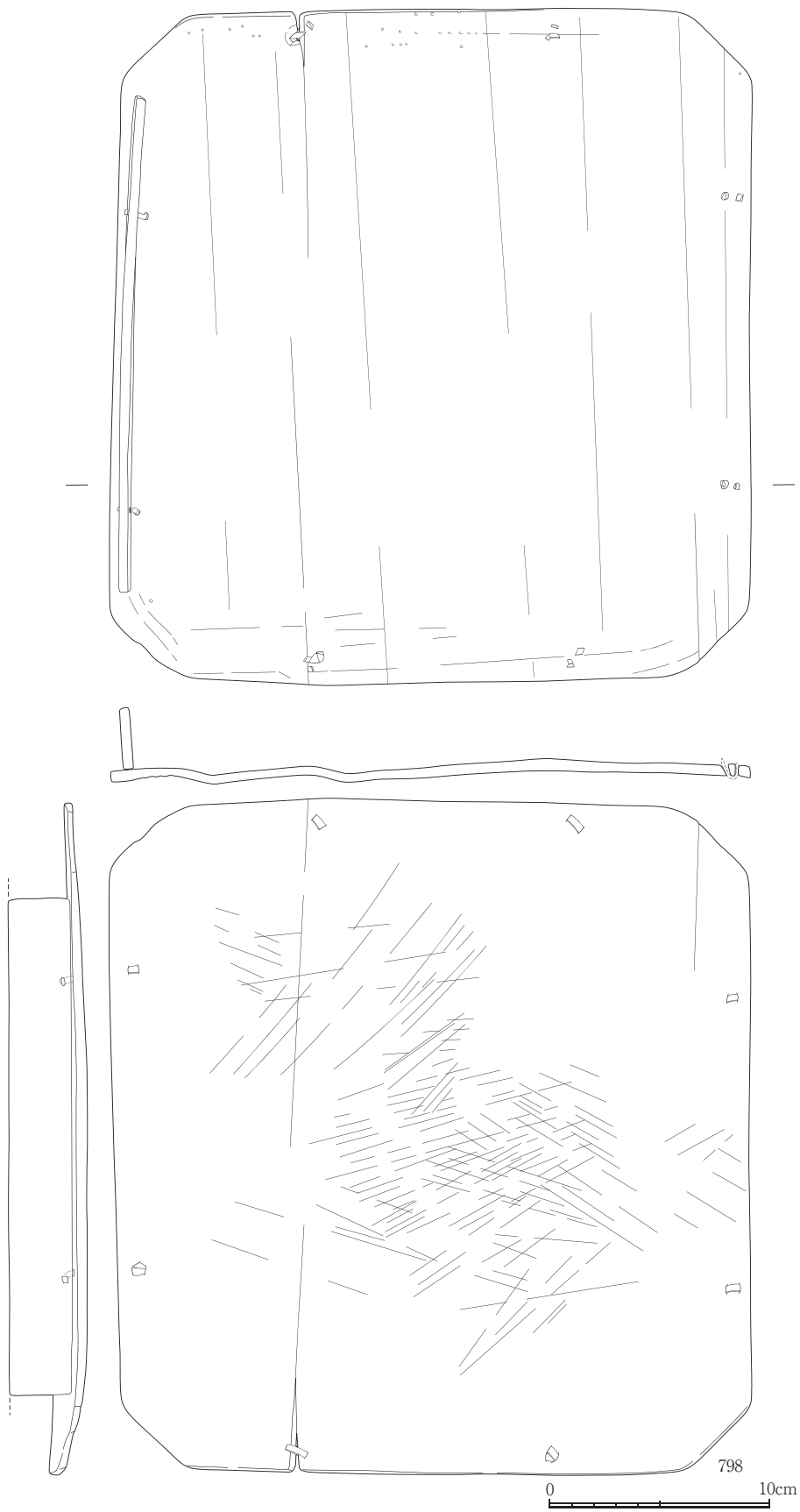


图112 SK41出土木器实测图2

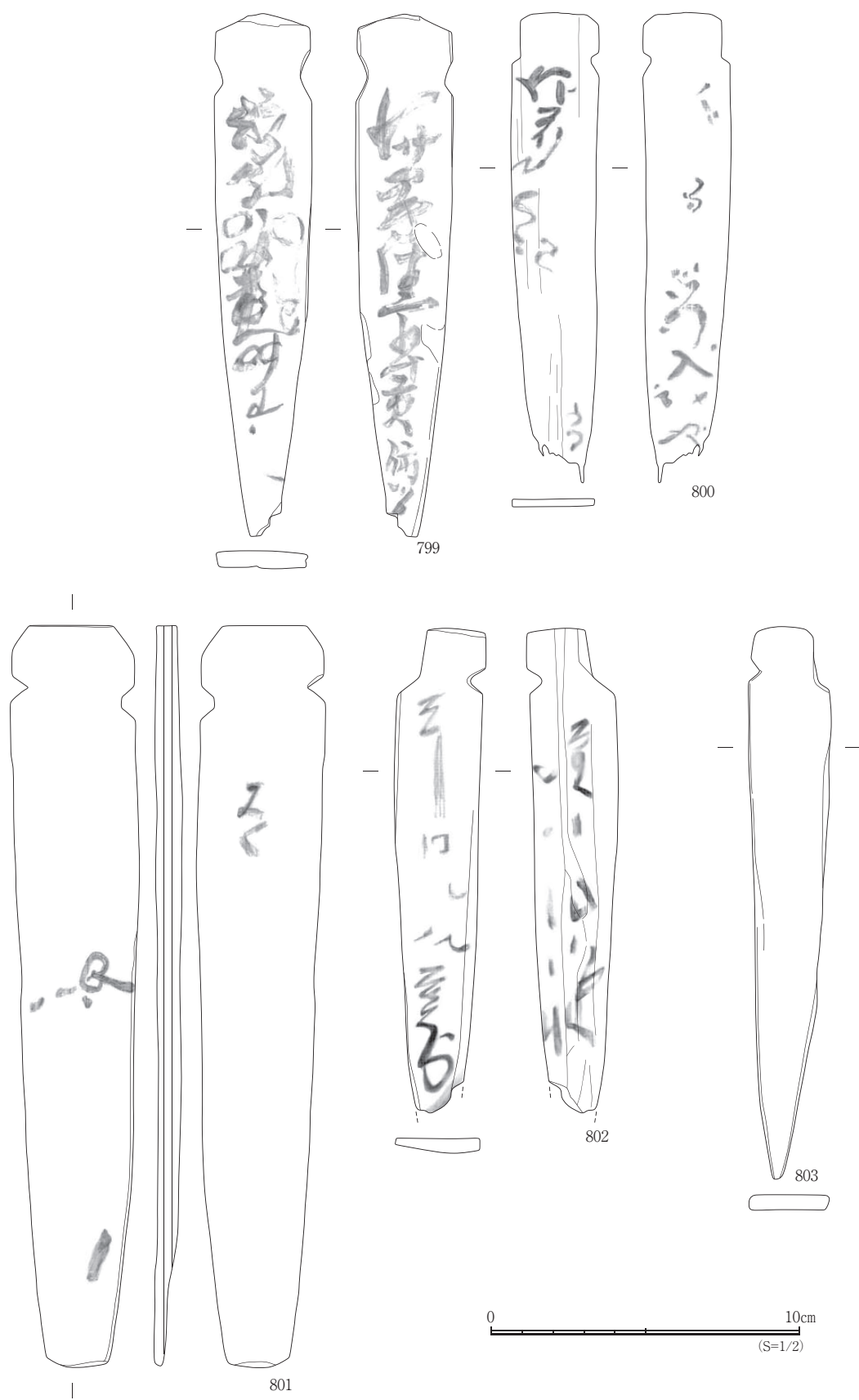
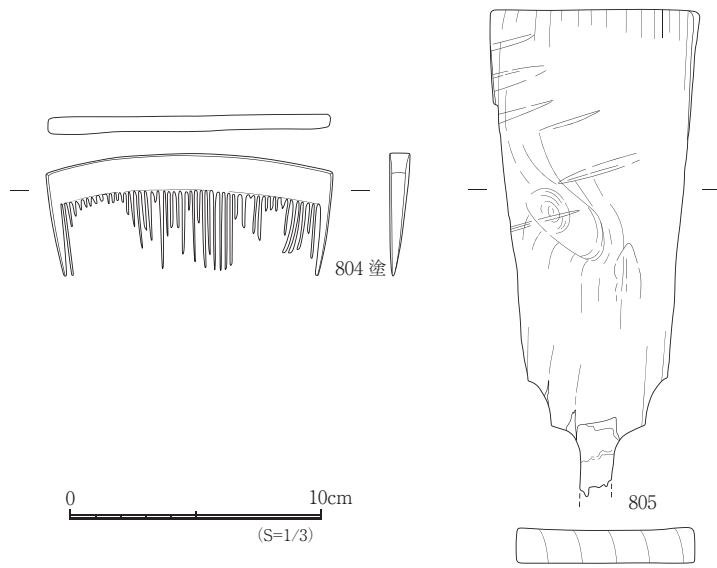
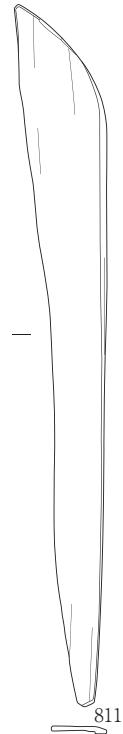
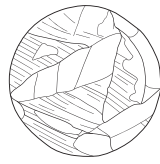
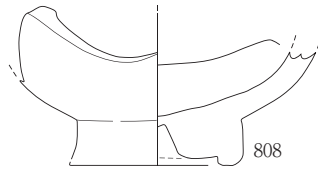
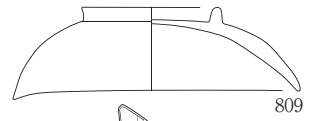
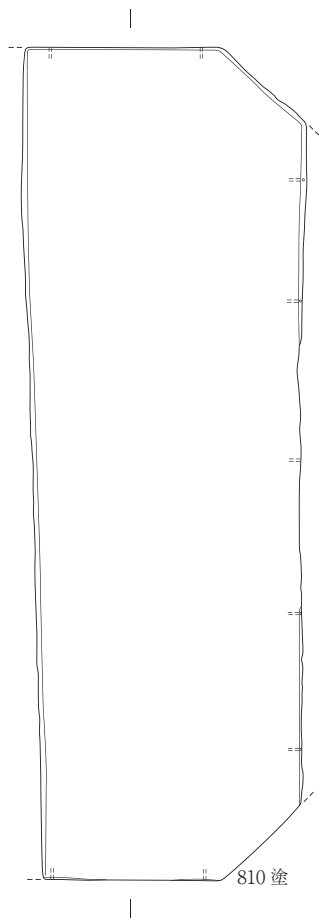
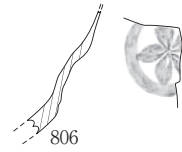


图113 SK41出土木器实测图3



SK43

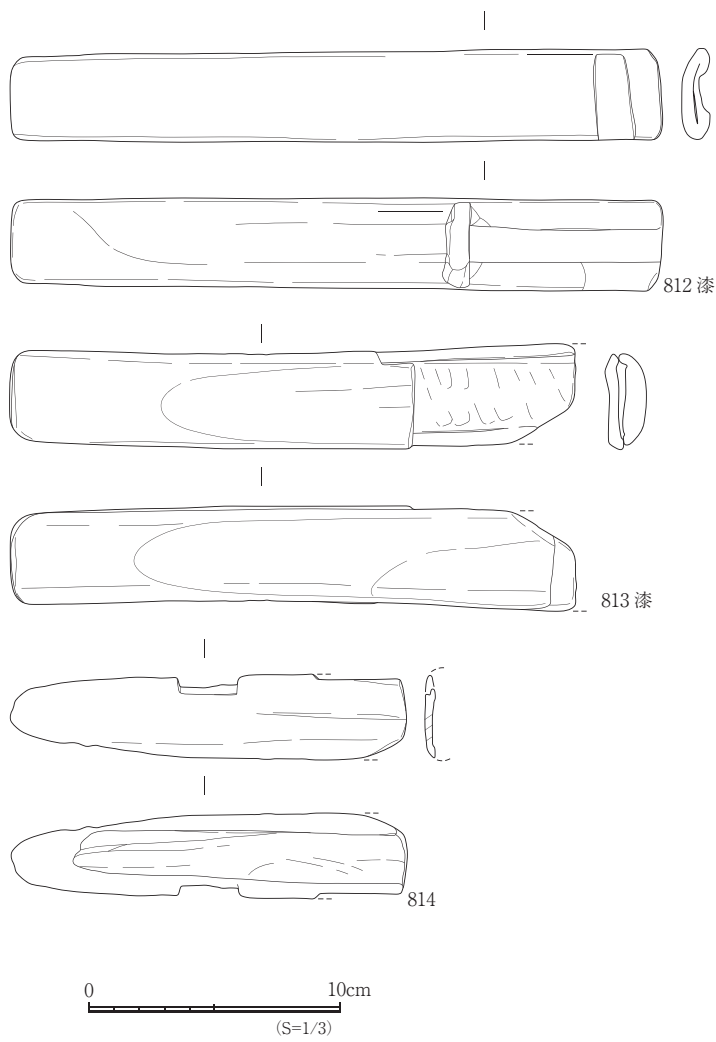


SK45

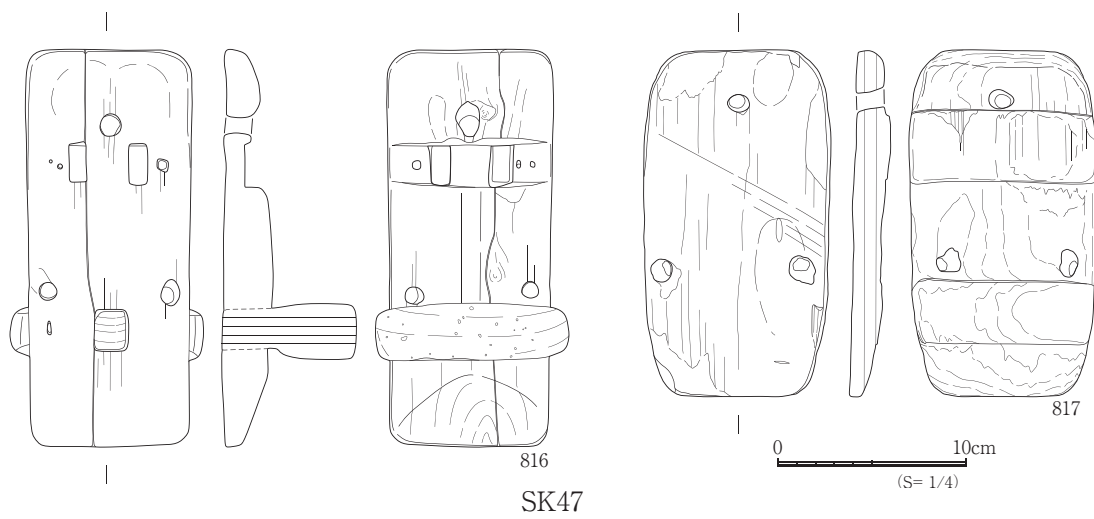
SK48

图114 SK43·45·48出土木器实测图





SK46



SK47

图115 SK46·47出土木器实测图

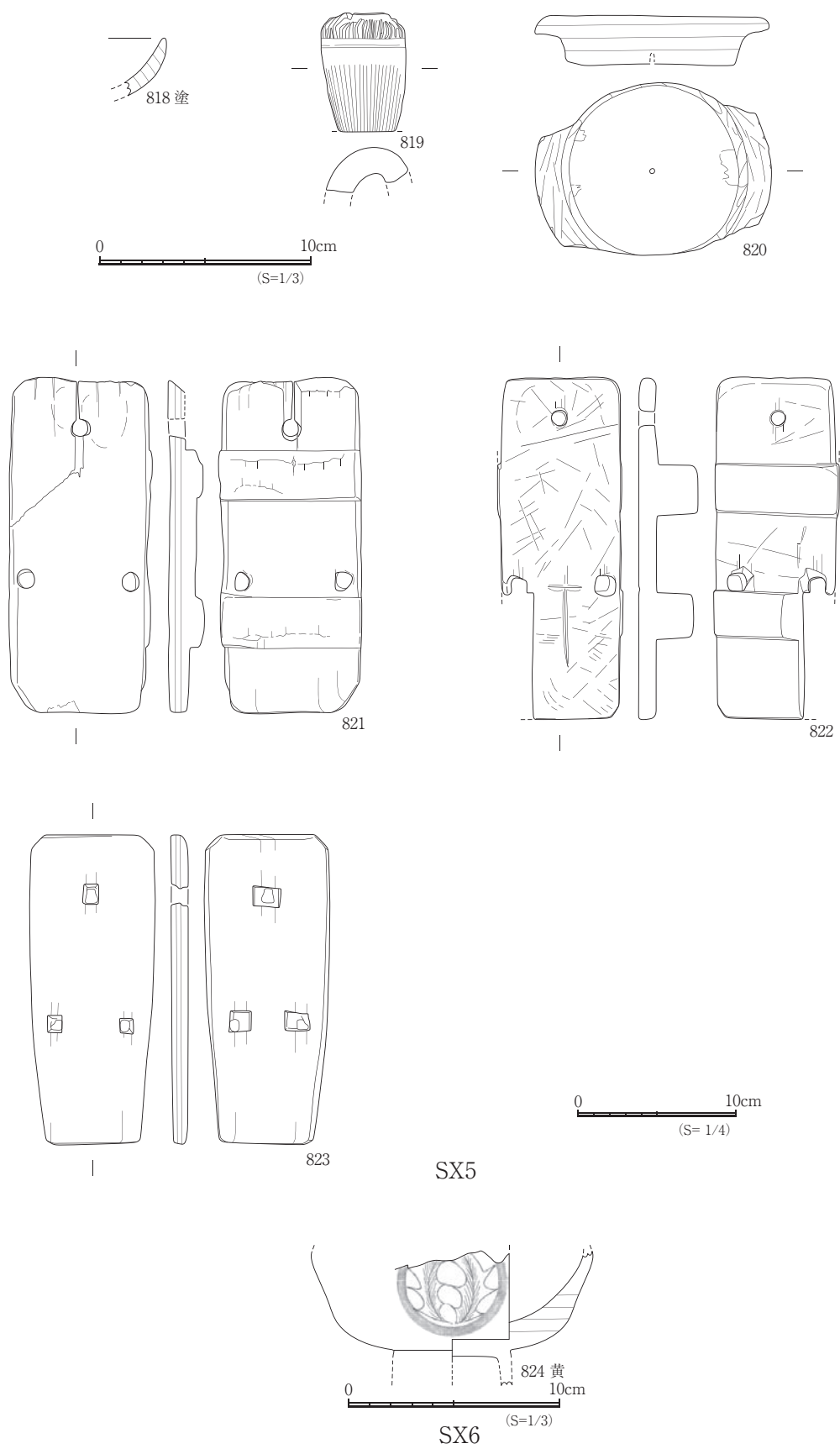
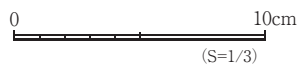


图116 SX5·6出土木器实测图



图117 A層出土木器実測図



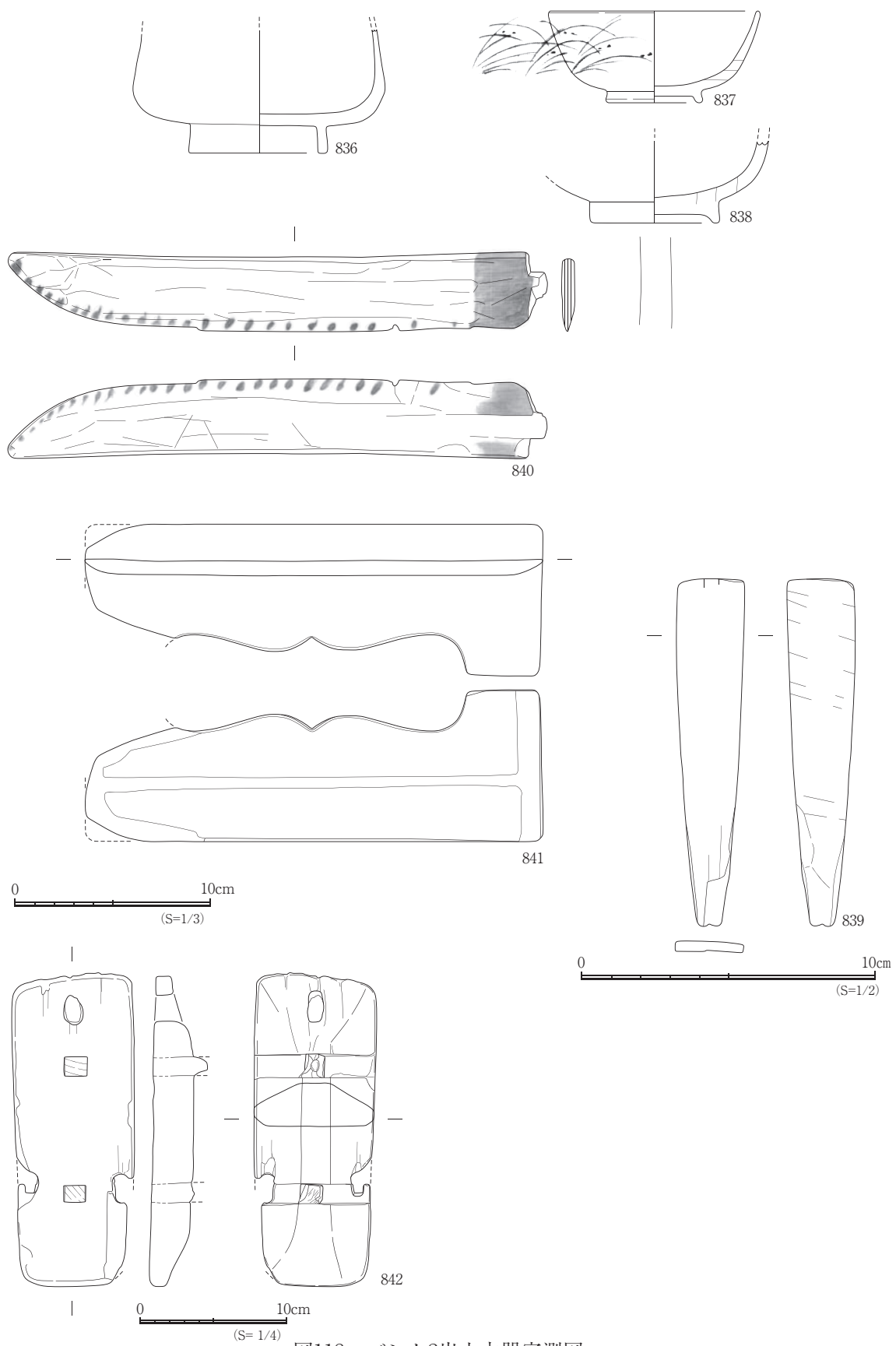
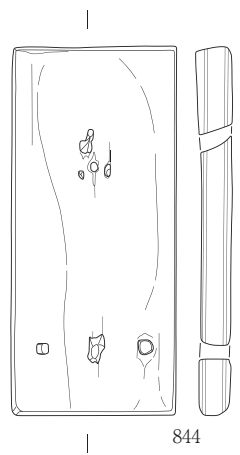
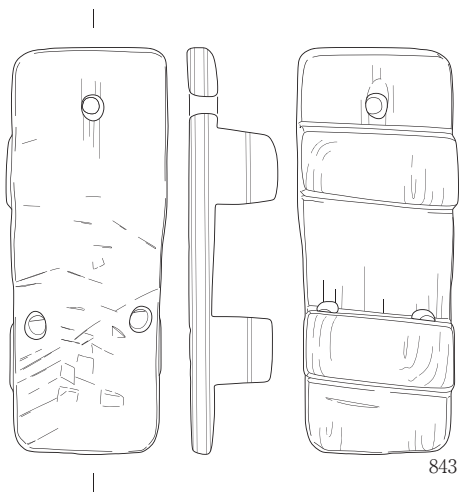
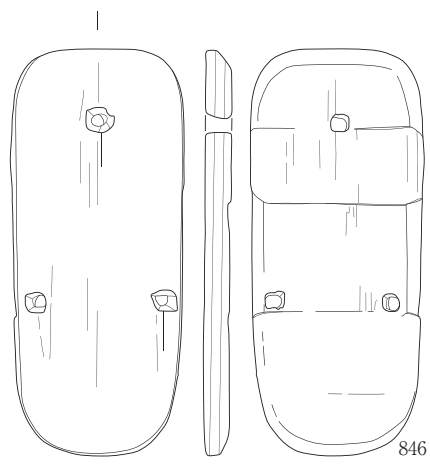
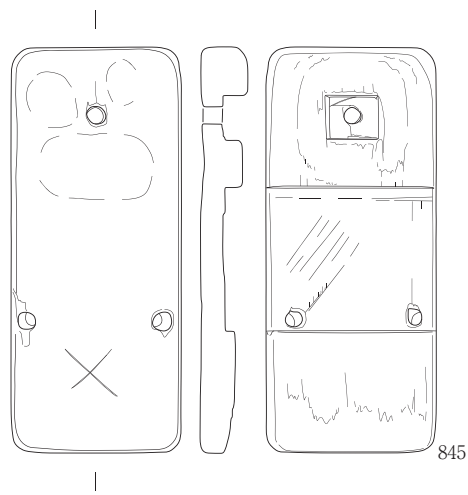


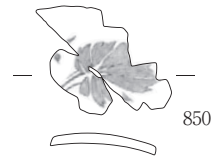
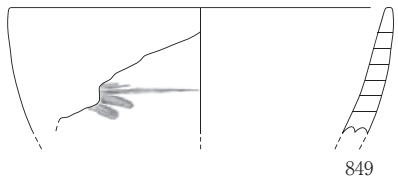
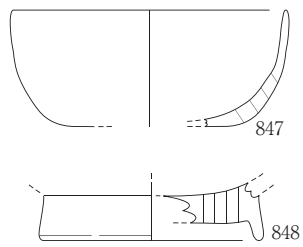
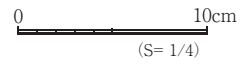
図118 バンク2出土木器実測図



南部中央Ⅶ層



採取

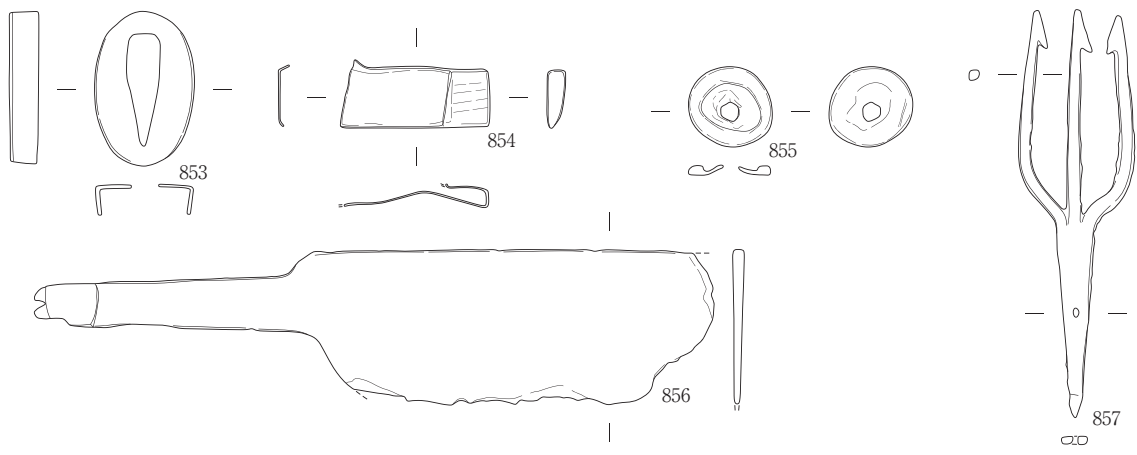


SR1

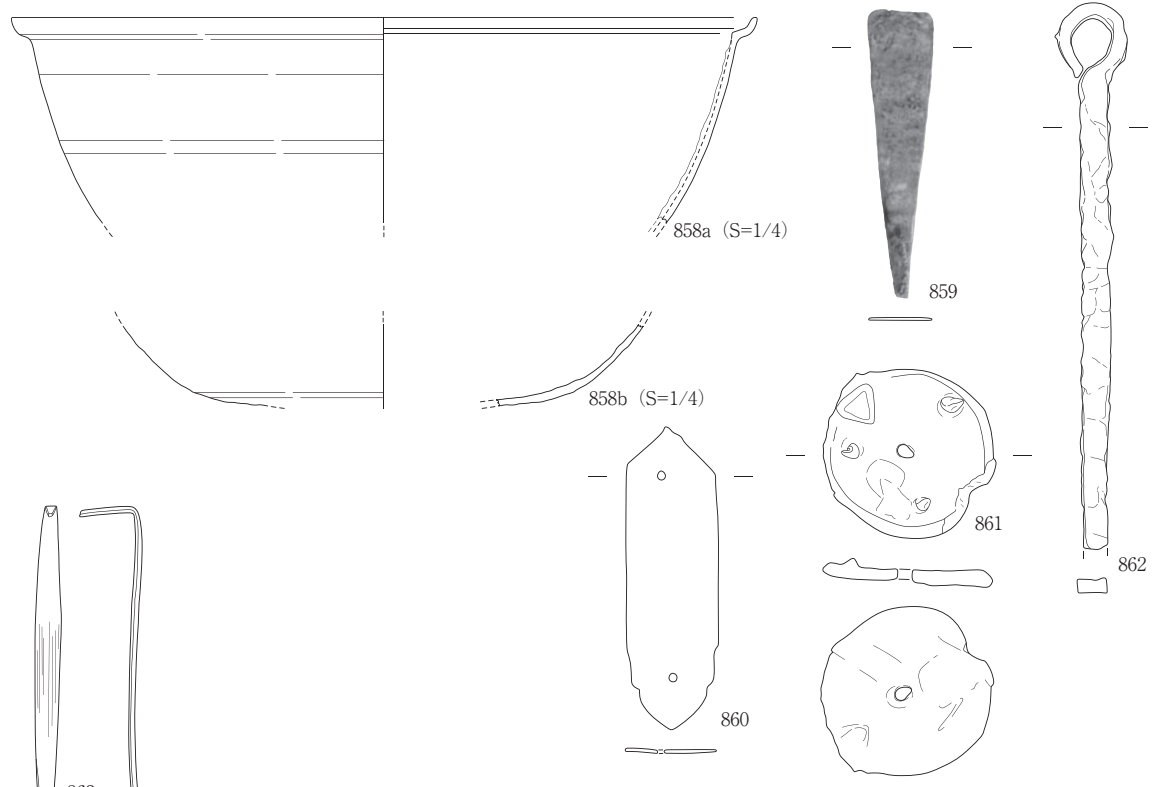
SR2



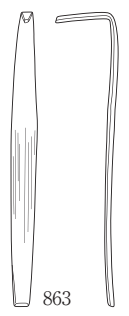
图119 南部中央Ⅶ層・採取・SR1・2出土木器実測図



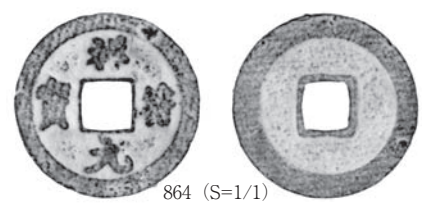
SD2



SD3



SD6



SE5



图120 出土金属製品実測図1

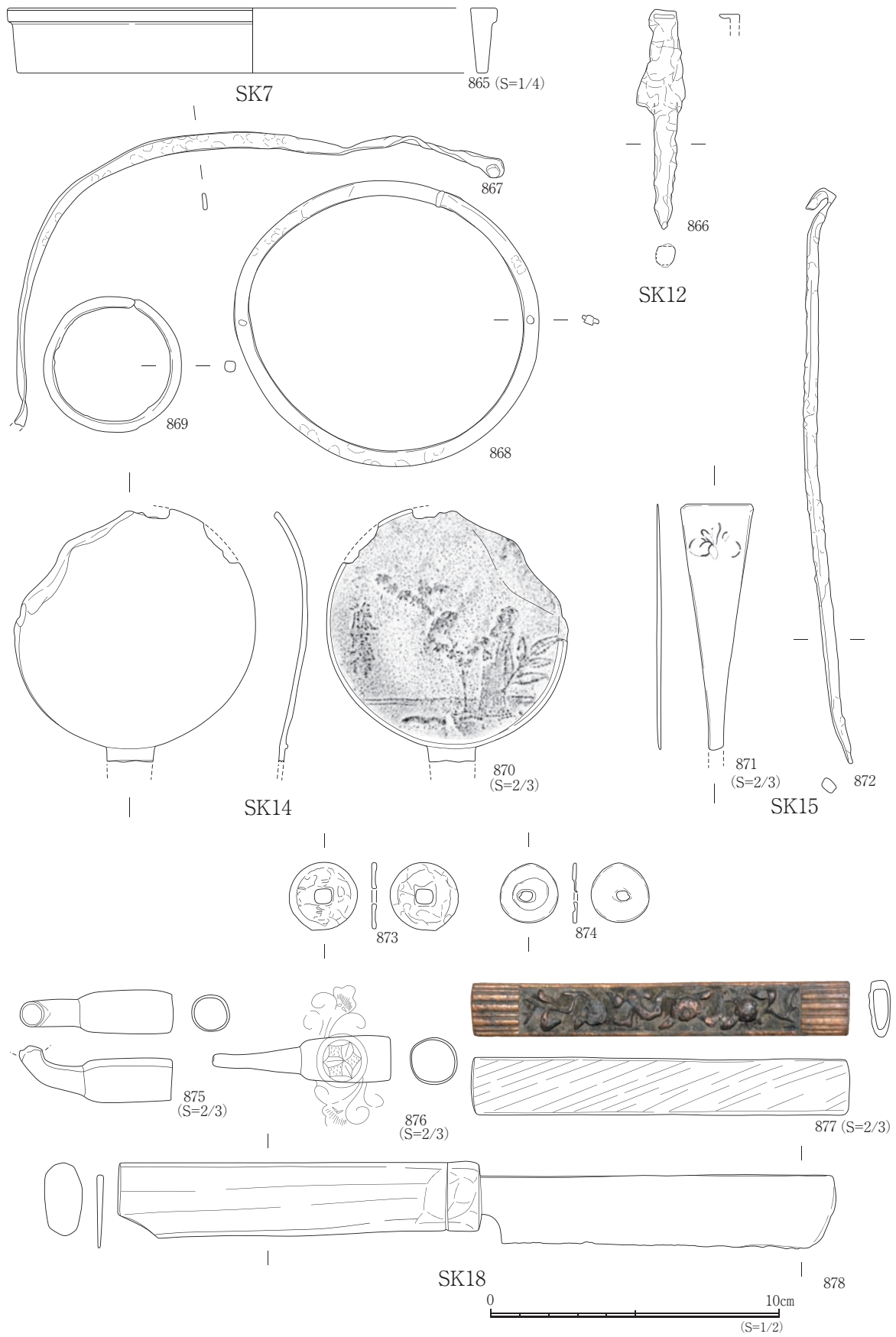


图121 出土金属製品実測図2

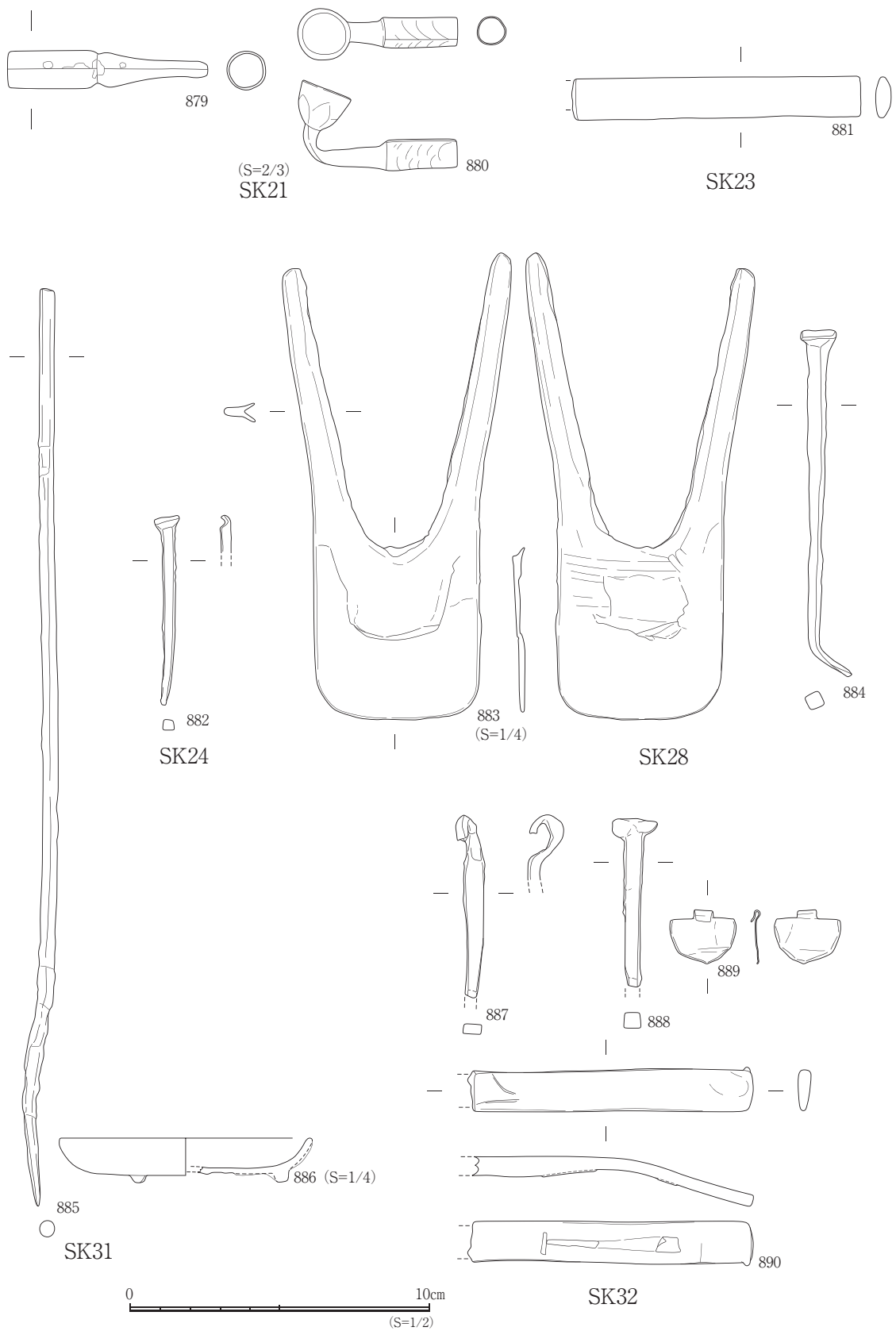


图122 出土金属製品実測図3



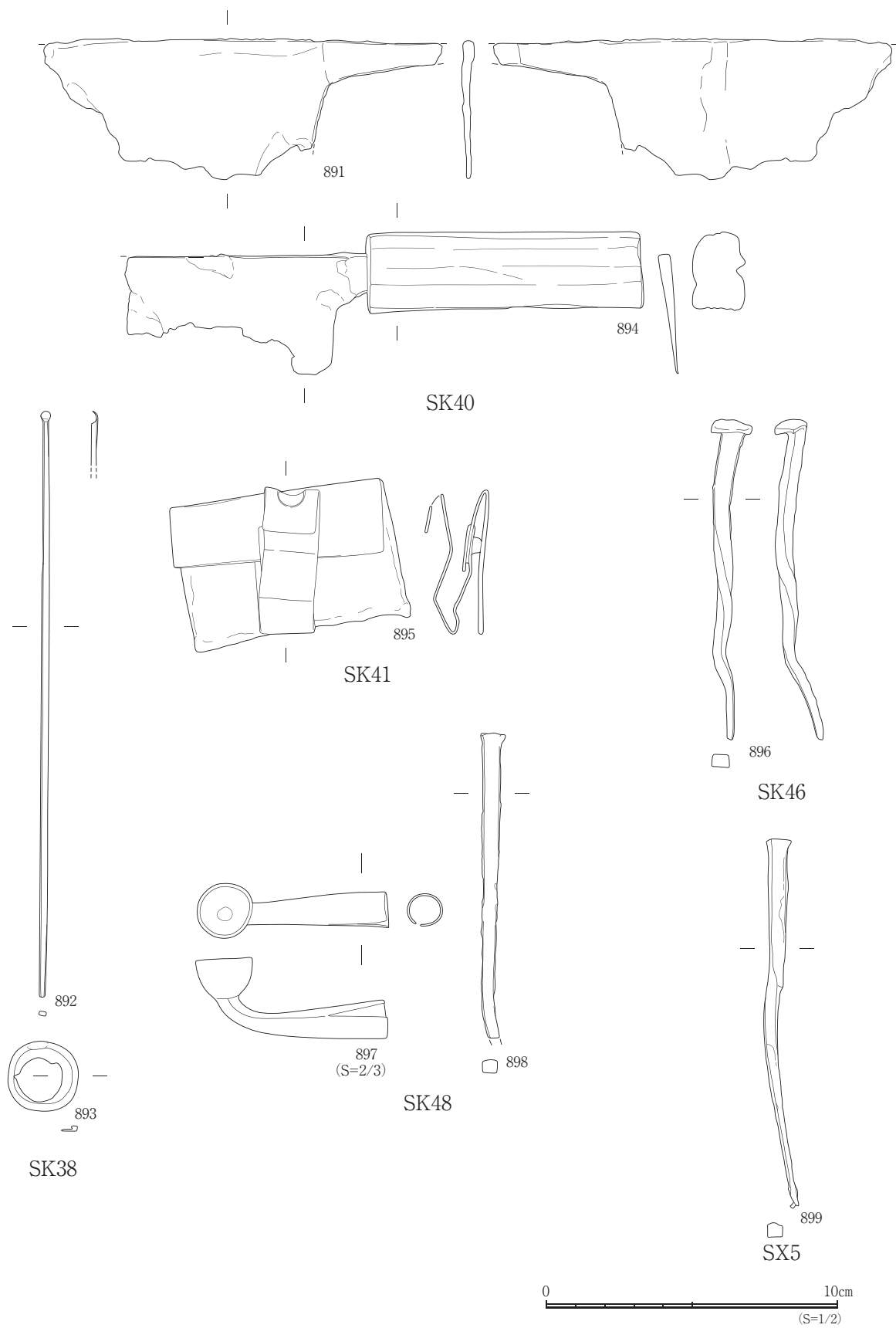


图123 出土金属製品実測図4

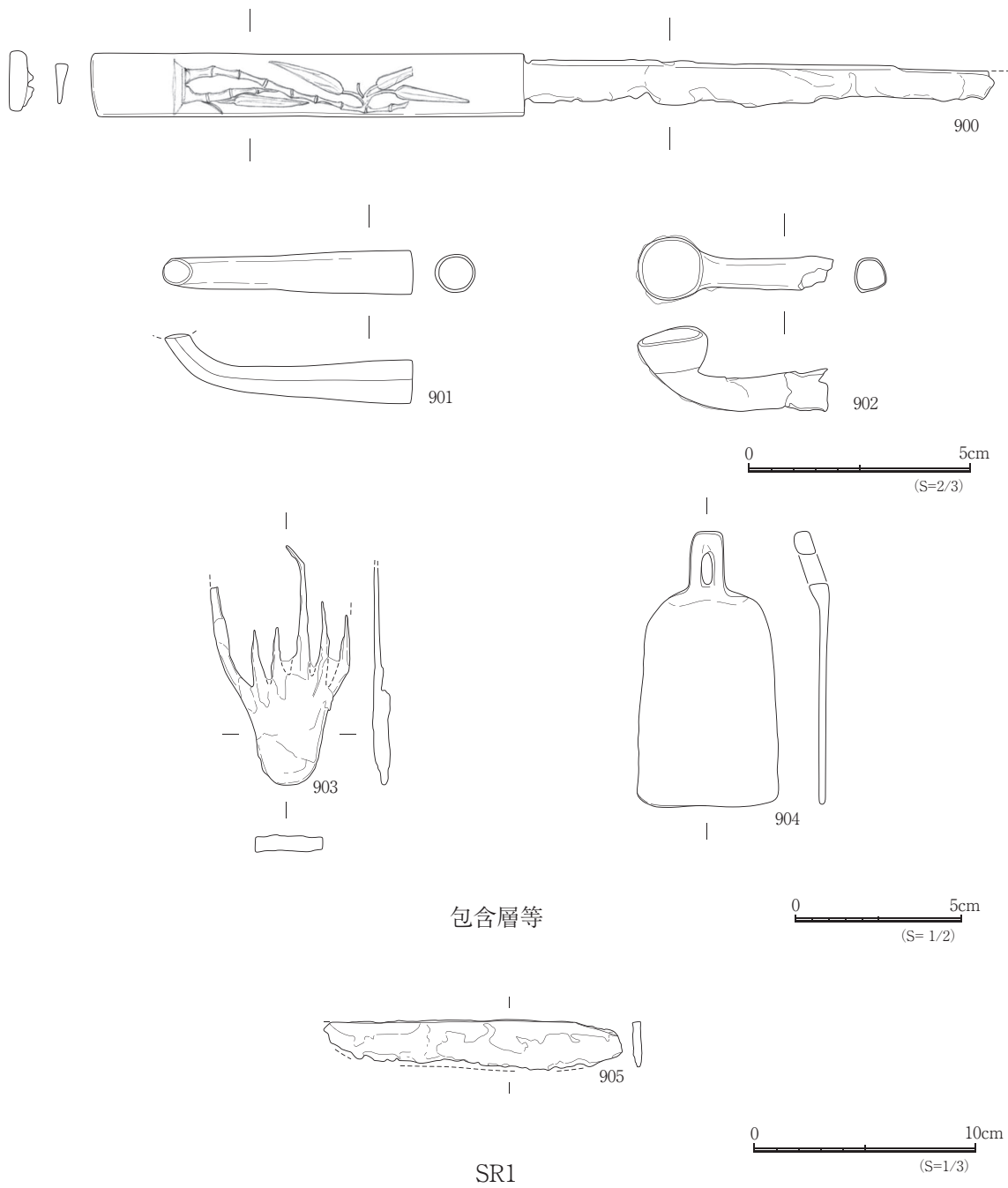


图124 出土金属製品実測図5

遺構名	位置	形状		規模(cm)		埋土等	方位偏差	備考
		平面	断面	平面	高さ			
SK1	ハシク2上層	楕円か	皿状	66+	14	小礫多,陶磁器含	-	SK1と同一遺構の可能性
SK2	W区(上面)	長方形	逆台形	113×91	27	基本層準IV層上面付近	7° -W	
SK3	W区	隅丸方形か	逆台形か	290×70	30	不明	13° -W	
SK4	W区(上面)	楕円か	逆台形	154×86+	30	不明	7° -W	
SK5	MWS区	不明	逆台形か	70×35+	41	黒灰粘に小礫,小木片多含.	9° -W	
SK6	MWS区	2つの遺構か	-	200×140	19	暗灰粘に小礫,有機物多含.	21° -E	
SK7	MWS区	長方形	逆台形	130×60	23	灰色砂礫	24° -E	
SK8	MWN区	方形か	-	75+×32+	-	1群,2層	5° -W	下駄1点
SK9	MWN区	方形か	逆台形	92×87	19	暗灰粘,植物遺体多含.	11° -W	
SK10	MES区	不明	逆台形か	365×126+	47	砂,下層にFe集積	-	SD2関連か
SK11	MEN区	扇形	皿状	240+×230	43	2群	13° -W	
SK12	MEN MES区	円に近い隅丸方形	逆台形	215×210	50	3群,2層,角礫,木片若干含	1° -E	石灰岩数個
SK13	MEN区	不整形	逆台形	185×110	30	3群	22° -W	
SK14	MEN区	不整形	皿状	580×330	70	検出時1群,粘に木片・植物層が互層,部分的に焼土粒(か),粘土塊含.	-	遺物多
SK15	MEN区	楕円形	皿状	270×200	13	1群	6° -W	
SK17	MEN MES区	隅丸長方形	逆台形	247×110	115	褐灰,褐小礫,焼土,炭層多炭粒含	1° -W	
SK18	MEN区	隅丸正方形	一部ハシク	170×150+	68	1群	0°	
SK19	MWN区	楕円か	皿状	68×25+	9	1群	12° -W	下駄1点
SK20	MWN区	不整形	-	160+×60+	29	-	37° -E (西側10° -E)	
SK21	MEN区	不整形	逆台形	165×160	46	2群	21° -W	
SK24	MES区	楕円形	箱形	160×110+	44	灰粘に小礫多,木片	4° -W	
SK25	ハシク2	楕円か	-	250+×197+	81	砂に粘含,灰色に鉄屑橙色斑,小礫多	4° -E	SE7を覆う
SK26	E区	楕円形	逆台形	130×100	19	3群	11° -E	
SK27	MEN区	楕円か	皿状	100+×90+	11	3群	15° -W	備前1片
SK28	MEN区	隅丸長方形	逆台形	290+×200	80	灰粘に粘,小礫含,橙色土塊少含,下層に木片層	6° -W	3層
SK29	MEN区	不明	-	190×180+	17	-	14° -W	
SK30	MEN区	隅丸方形か	広底	380(×380)±	75	灰粘に粘と木片・植物集積が互層	19° -W	SE3,SK31と重複,上位攪乱
SK31	MEN区	矩形指向か	不明	430	80	灰粘に粘と木片・植物集積薄層が4回反復	22° -W	攪乱
SK32	MEN区	楕円か	逆台形か	160×150+	61	灰粘に小礫,小木片,炭粒	25° -W	SK35と重複
SK33	MEN区	不明	皿状か	220+×60+	13	灰粘に小礫,小木片,炭粒	40° -W	
SK34	MEN区	楕円形	逆台形	120×100+	43	-	7° -W	
SK35	MEN区	長方形	逆台形	145×105	49	-	16° -W	SK32と重複
SK36	MES南縁	溝状か	逆台形か	250+×140+	50	地山近似粘,僅かに炭粒	24° -W	TR1,3南端と関連か
SK37	MES区	楕円か	箱形	140	40	4群,3層	-	
SK38	MES区	正方形	逆台形	250×250	115	4群,6層	0°	
SK39	MES区	隅丸長方形	箱形	110×90	58	4群	15° -W	
SK40	MES区	隅丸長方形	皿状	120×100	25	4群,2層	1° -W	
SK41	MES区	楕円形	箱形	230×160	75	4群,7層	10° -W	
SK43	MES区	楕円形	舟底形	132×100	74	4群,5層	21° -W	櫛,羽子板のみ
SK44	E区	不整形	逆台形か	200×110+	18	-	-	

表1 遺構一覧表-1

遺構名	位置	形状		規模(cm)		埋土等	方位偏差	備考
		平面	断面	平面	深さ			
SK45	E区南壁際	長方形か	逆台形	180+ × 60+	65	木片や植物含.6層	7° -W	
SK46	E区	不明	皿状か	320+ × 90+	11	-	18° -W	
SK47	E区	楕円か	逆台形か	120 × 90+	21	-	21° -W	
SK48	MES区	隅丸長方形	箱形	288 × 168	62	褐灰粘シ.小礫多含	19° -W	石,木片
SD2	W ~ MWS区	-	底広	幅780	112	砂粒,有機物,杭,石灰岩	22° -W	SR1の上/底標高1.10 ~ 1.25m
SD3	MEN区	大溝(端部方形)	逆台形	330・(1580+)	88 ~ 125+	検出時1群.木片・植物集中層等が互層.遺物多	26° -W	南端検出.丸太杭.
SD6	MES区	直線	逆台形	95・(740)	22	灰色粘シに炭粒.杭列.	23° -W	SD3方向へ延伸か
SX1	MWS区(上面)	隅丸長方形	-	95 × 78	15	礫	1° -E	上位面
SX2	パンク2上層	-	皿状	40+	5	小礫多	-	SK1と同一遺構か
SX4	W区	台形	逆台形	190 × 120	38		-	近代遺物多
SX5	MES区	長方形	逆台形	650+ × 360	85	暗灰粘シ.木片含.5層.	21° -W	柱状等の杭.上層に木材, 挿鉢,片岩.近世前~後期遺物出土
SX6	MWN区西壁	-	皿状	50+	15	近世埋土.漆器碗1.	-	西壁区にあるのみ
礎石1	MWS区	円形	皿状	径100	12	礎石(35 × 30)と根石		
埋桶1	MWS区	円形	直置き	径60	高35			桶以外には木片のみ
SR1	全区横断	-	緩舟底~U字~広底	800・(4000+)	120 ~ 152	シ粘~砂の互層.木,枝若干含	20° -W(西部は29° -W)	中世遺物
SR2	W ~ MWN区	-	逆台形	480 ± (最大部500)	135	シ粘.下層は砂・有機物混.	18° -E(2° -29° -E)	中層以下より中世遺物

井戸跡	位置	構造等	掘形	井側等規模	掘形規模	埋土等	方位偏差	備考
SE1	MES区	結桶	楕円か	径70,高95	167・残深97	井筒内2分:上層灰粘,下層砂礫	-	-0.69 ~ 0.73m
SE2	E区	底に結桶	円か	径65,高90	200・深165	褐灰粘シ.粘に数mmから数cmの大礫多, 若干の炭,植物含	-	5層.-0.45m
SE3	MEN区	井戸枠は隅柱を持つ組立て式.井壁は割竹貼.	方形又は多角形	枠85 × 80 ±, 高195+	200 × 150・深195+	灰粘,砂,小礫含	22° -W	0.66m
SE4	E区	結桶を積上げ	楕円~隅丸方形	径約70,高220+/(桶1個は高84)	350 × 216・深223+	井筒内より弥生土器135	21° -W	井筒の最上4個目は下端のみ残.-0.7m
SE5	MEN区	底にハンダ?筒	楕円か	径55,高65	210 × 160・深216	仕口加工のある板材や角材	26° -W	-0.92 ~ -0.95m
SE6	パンク2	掘形底に打込	楕円か	打込長275	190 × 140・深125	打込み部分は長板材4枚	-	丸釘,番線,墨書.近代.
SE7	MES区	底に結桶と曲物	楕円か	桶径65 ~ 69, 高85	240・深230+	掘り直しか/上層はSK25	-	SD2東縁に構築か.-0.55m

規模は適切な範囲で最大値を用いた。溝や流路跡の平面規模は幅を記し、適宜検出長を添えた。土坑等で数値が1つの場合は原則長軸或は径。+は攪乱等が明らかで、それ以上の規模が見込まれることを示す。

埋土群についてはp19参照。

方位は、正方位からのずれを記載。Wは半時計方向。

井戸跡備考欄の数値は底標高。

表1 遺構一覧表-2

種類	架付 磁器				陶器・焼締				素焼		焼物年代		瓦		木製品												
	碗	皿	杯	鉢(小・中)	大皿	瓶・壺	鉢・土瓶	罍	中罍	大罍	灯明皿	火入	その他	皿等	その他	計	焼物	最新	主体	本葺	不他	札・木筒	碗皿等	膳・折敷・他	下駄	その他	
選物等	端反2,唇手,青染,青3,くらわんか	紅2角小,染,青花,くらわんか	陶染	1	瓶	仏,滴,猪口3,蓋,白蓋	2,墨書,鉄絵,肥3,天2,灰,京	3,瀨2	瀬美	4	銅鉢	銅2,土瓶	丹波,瓶	2,褐,瓶	3	丹波	1	1	1	丸4	丸4	丸4	6「後藤仁兵衛年貢半山赤木」/「鳴森右衛門」他	無文21,沢瀉文,赤,赤蓋,金蓋3,蓋	調度2	連	主な板,大型結構の材,敷居断片
SD2	2,蓋,青花	青花3	白小,青花小		小瓶	蓋,青盤	1,京2,天3,灰,肥3,三島,肥	繪唐,丹波,繪織,肥,志野	繪唐,丹波,繪織,肥,志野	不	不	不	1,杯,58,灯4	1,杯,燈3,人	19	17後~18初	17前	丸4	丸4	丸4	丸4	6「後藤仁兵衛年貢半山赤木」/「鳴森右衛門」他	無文21,沢瀉文,赤,赤蓋,金蓋3,蓋	調度2	連	絹,小木刀,襦袢,木後,像札,蓋,切起5,手,不	
SD3																											
SD6																											
SE1																											
SE2																											
SE3																											
SE4																											
SE5																											
SE5上	丸2端反4,不4(うち熱1)	2,白	白小	蓋,多角	白小	白,陶染,蓋	肥,京,褐2	銅,灰2	1,不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不						
SE7	筒,肥	蛇目袖割				火入	京	1	1	1																	
SK1	端反,小,不	1				猪口	肥,京,他																				
SK2	不					蓋																					
SK3	4(熱),丸3,陶染	3				水差	京,灰,筒																				
SK4	1,筒						5,天	1	鉢																		
SK5	小	2					灰3	1																			
SK6	小	小	小2				3	1																			
SK7	小	紅				水注	1	繪唐																			
SK8																											
SK9							灰																				
SK10	小					小瓶	不3																				
SK11	2,上手3(熱),青	1,陶染					粉引,尾戸		鉢																		

表2 各遺構・種類別出土遺物計数表-1



種類	架付 磁器				色絵				陶器・焼締										素焼				焼物年代				瓦				木製品												
	碗	皿	杯	鉢(小中)	鉢(小中)	大皿	瓶・壺	その他	等	碗	皿	向付・大鉢・大皿	罎鉢	罎・土瓶・瓶	壺	中鉢	大鉢	灯明皿	炬火入	その他	皿等	その他	計	最新	主体	本葦	不他	札・木簡	碗皿等	勝・折敷・他	下駄	その他											
SK33	丸,端反3		小	白				青香,青染,不		小皿										3		1	1	17後~18前か																			
SK34	端反2,他,青,陶染	青					碗,色鉢		肥8,京,灰	1.銅	1	不			銅蓋	楊小				3(棟)		1	18C.~																				
SK35	1																					9																					
SK36	小																					9																					
SK37	1.丸12,筒,青,陶染	8小,白罽,紅,白稜,青	白小	3.蓋付,白蓋付				碗,人形	唐,肥9,京22,細美2,天,他	唐,胎目,銅,灰3,京	肥3,志野	備3,不	楊瓶3	楊,瀬	唐	唐	20	1	備水甕3,紋香	赤塗(SK40)擦合)	焙,像	149	17~18前	1				赤蓋2,金蓋	膳2														
SK38	筒2,不	白	白小						京信4,瀬美,不	銅	瀬美									1		1	14																				
SK39	丸3,端反,小2,青,不3		白小	1	青			青蓋	京16	銅	1.肥	備,不	銅						備水甕3,瀬美,銅,人,香2	9赤塗	焙2	65	17後頃																				
SK40	筒,青,不	5	白罽	1					唐,京赤緑,楊,肥	唐2	肥	楊	楊							1		19	17C.				5「後藤一年真」	他蓋	折														
SK41																																											
SK42																																											
SK43																																											
SK44		1.青花		1					天													9																					
SK45									1.灰2,天	1	志野											24																					
SK46									4													3																					
SK47																						21																					
SK48	丸,端反3,小2,白,青染,他2	5.罽,白	小2,白,小6	蓋付2	1			皿	肥7,京2,天,不	青釉,唐,銅4,他	肥,他6	唐,備2,銅2,不10	楊瓶,備2	唐,備小			6	不水甕,御人,肥手,蓋,不		焙	98	17後頃																					
SX5	丸2,筒,端反2,小4,青,陶染,不4	5.角皿,白,型紋,白,罽(青花)	白小2					壺	肥5,京7,楊2	唐,胎目,灰2,繪唐	3.灰織,胎目,不	備3,陶,不	灰瓶,緑瓶,銅2	楊2,蓋	楊2		2	水瓶,香,不蓋	23,灯	杯12	123	17後~18前																					
SX6																																											
P2																																											
P3																																											
P6																																											

表2 各遺構・種類別出土遺物計数表-3





種類 遺構等	金属製品			古代・中世以前		
	刀剣 関係	煙 管	その他	貿易 陶磁	国内 搬入	その他 土器 その他
SK43			幕末～ 近代僅含			
SK44						
SK45						
SK46			釘		瓦椀, 瓦質	
SK47			近～現代 磁器碗皿 4,他5			
SK48			釘	雷文 C3	備鉢	
SX5			釘	明末 清初	瓦鍋	須蓋, 弥
SX6						
P2						
P3						
P6						
P9						
P10						
P11						
P12						
P16						
P21						
P22						
P24						
ハ <sup>*</sup> 2 A 層						須杯 蓋,須 甕
ハ <sup>*</sup> 2 E 層						
MES ハ <sup>*</sup> 2						
南VII層						

種類 遺構等	金属製品			古代・中世以前		
	刀剣 関係	煙 管	その他	貿易 陶磁	国内 搬入	その他 土器 その他
SK14			砥石,壁 土敷片, カハト染 コハト染 状態, 僅混	景2		
SK15			柄鏡 五徳 状環, 不2			
SK17			火箸			
SK18			包丁, 銅銭, 不			
SK20						
SK21			鍍 金2			
SK24			釘			
SK25					近世陶磁 器30 (左 記含む)	
SK26						柱状高 台
SK27						
SK28			銅先, 釘			
SK29			現代混入 2 被熱壁土			
SK30						
SK31						青花
SK32			皿,不 碗状 浮釘, 火箸, 火飾			
SK33						
SK34						播釜
SK35						
SK36						
SK37						
SK38			耳か き,不			須甕2
SK39						
SK40			包丁2 不			
SK41						

表2 各遺構・種類別出土遺物計数表-5

種類 遺構等	金属製品			古代・中世以前		
	刀剣 関係	煙 管	その他	貿易 陶磁	国内 搬入	その他 土器 その他
SD2	小柄, 1 刃部	カハト, 包丁, 不	砥石4,石 白,銭	蓮,青 椀	瓦鍋2, 茶釜, 須甕, 備鉢2, 東播	須3,弥 3
SD3		鋪金 具,火 箸,銅, 不	玉石約 150	青		須甕
SD6						
SE1						
SE2						
SE3						
SE4			近世陶磁 器5			弥3
SE5			集水施設			
SK16			壁土7, 寛永通宝			
SE7			近世 陶磁器40 片,上層 はSK25			
SK1					備皿	
SK2					鉢	
SK3						
SK4						
SK5						
SK6					瓦鍋, 備甕	須甕
SK7						
SK8						
SK9					青	
SK10						
SK11			硯		雷文 C2	
SK12			土壁片, 釘			
SK13					青2	

	瓦器	瓦質土器	土師質土器	瀬戸焼	備前焼	貿易陶磁碗皿	在地土器		漆器碗	金属製品	古代		近世	その他
							皿等	その他			後期	前期		
SR1	碗2	鍋2, 播鉢	播釜2		鉢, 甕4	青: 蓮2・端反2・底, 白	杯皿12, 灯	瓦鍋	無文2, 赤	刀子	碗	焼塩	唐津甕1, 他2	箸3(東部上層), 五輪塔
SR2	1	羽釜		把手付片口			杯皿100余	煮2	草花文		須碗	須杯蓋3・杯B, 甕20片	20	炭片2, 二枚貝
集中1							小皿16, 杯11,	錘, 煮		刀子				漆

※ 錘 = 土錘, 播 = 播磨系. その他略記等要領は前表に準ず.

表3 各遺構・種類別出土遺物計数表(中世)

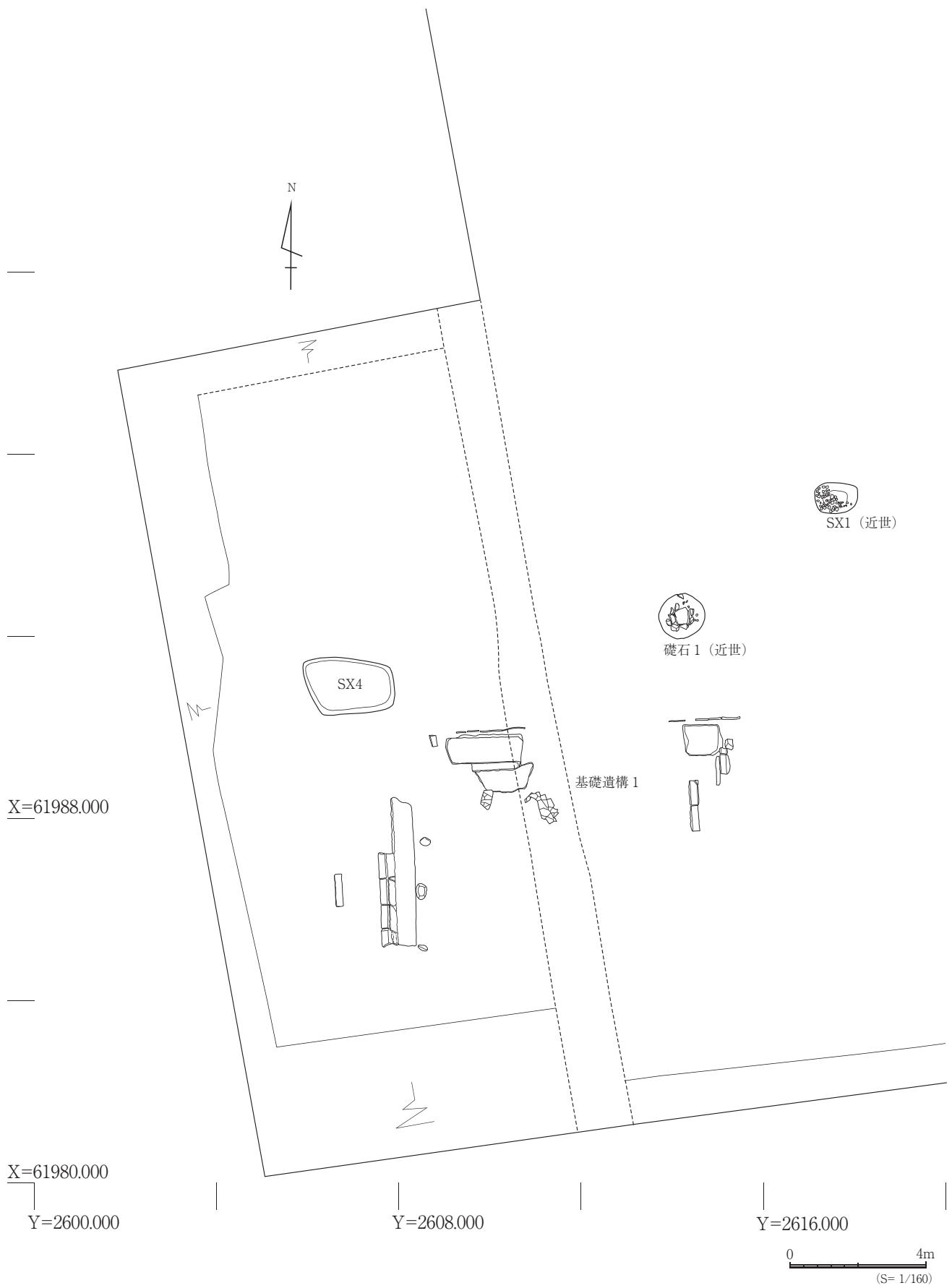


图125 上層遺構配置図

## C. 近代

出土遺物より近代以降に位置付けられる遺構について記す。SE6を除いて上層で検出された。

### 基礎遺構 1 (図 127 ~ 129)

西部で検出したが、特に上面は攪乱により分断されている。北側は東西位のコンクリートが2重に平行しているとみられ、北側は下部に根太、南側は石敷を有する。後者は西側にある南北位のコンクリート部分と同じ構造で、L字形につながっていた可能性がある。方位はN-2°-Wを測る。

構造は、幅3m程度の溝の底に径13cm、長さ195~260cm程度の根太と10数~30数cmの角礫を平行に敷く。根太部分では打設された杭も3本確認した。溝を埋め、左記の根太、敷石の上位に各々幅60cm(西側南北位部分は幅50cm弱)でコンクリートを敷設する。後者の上面縁には図にもあるごとく目張りのような跡が残る。南側にはコンクリートの薄い面等が僅かに残る。前者即ち北側のコンクリートの北側には瓦を立て並べる。

東、西には直方体の切石を南北に連ねた列が各2条あり、各々の間は焼土の濃い埋土が充填されていた。当該部分をSD1とする。当該部には下部構造を伴わない。本基礎遺構自体が図129のごとく焼土の密な基本層準Ⅲ-1層に切られることと併せて、当遺構廃絶の状況を示唆する。

遺構内部からの出土遺物は僅かで、906・907のみを図示し得た。

### 性格不明遺構 SX4 (図 128)

基礎遺構1の北西隅外側で検出した。近代の遺物を多含する。

### 井戸跡 SE6 (図 126, PL23・24 上)

位置はSD3とSD6の延長線上にあたる。バンク2に所在した。長い板材による打込み部分を有し、上部掘形の底部には曲物の残滓状のものが遺存していた。打込み部分は4枚の板材を方形に組合せ、丸釘を使用している。先端はやや尖るように整形し、番線で締めている。表面に墨書がみられるが判読することができなかった。出土遺物は近世陶磁器約70片の他、コバルト使用とみられる染付や型紙刷皿が計4点出土している。

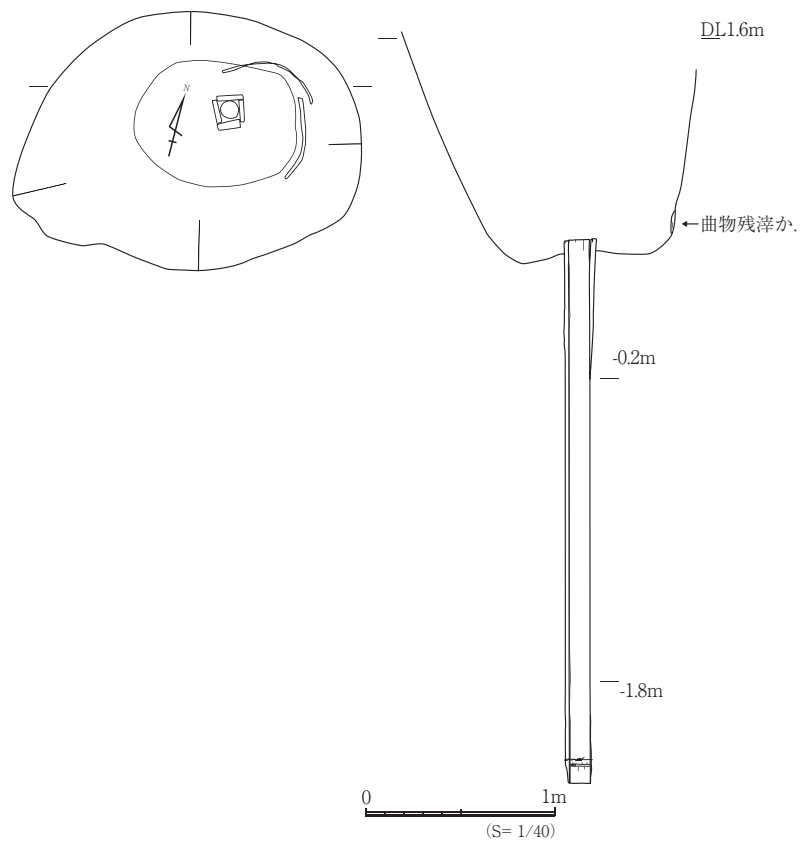


図126 SE6平面・セクション図

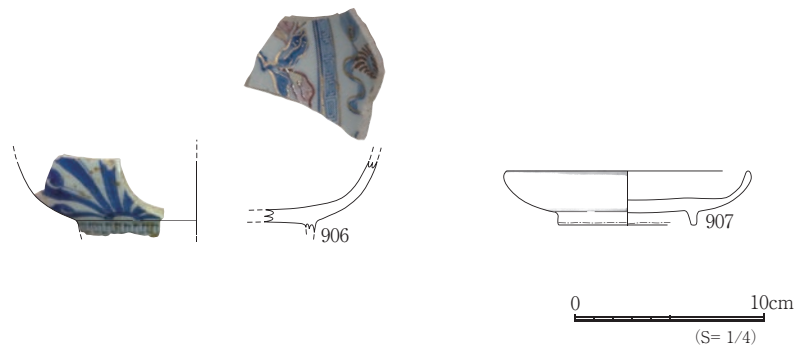


図127 基礎遺構1出土遺物実測図

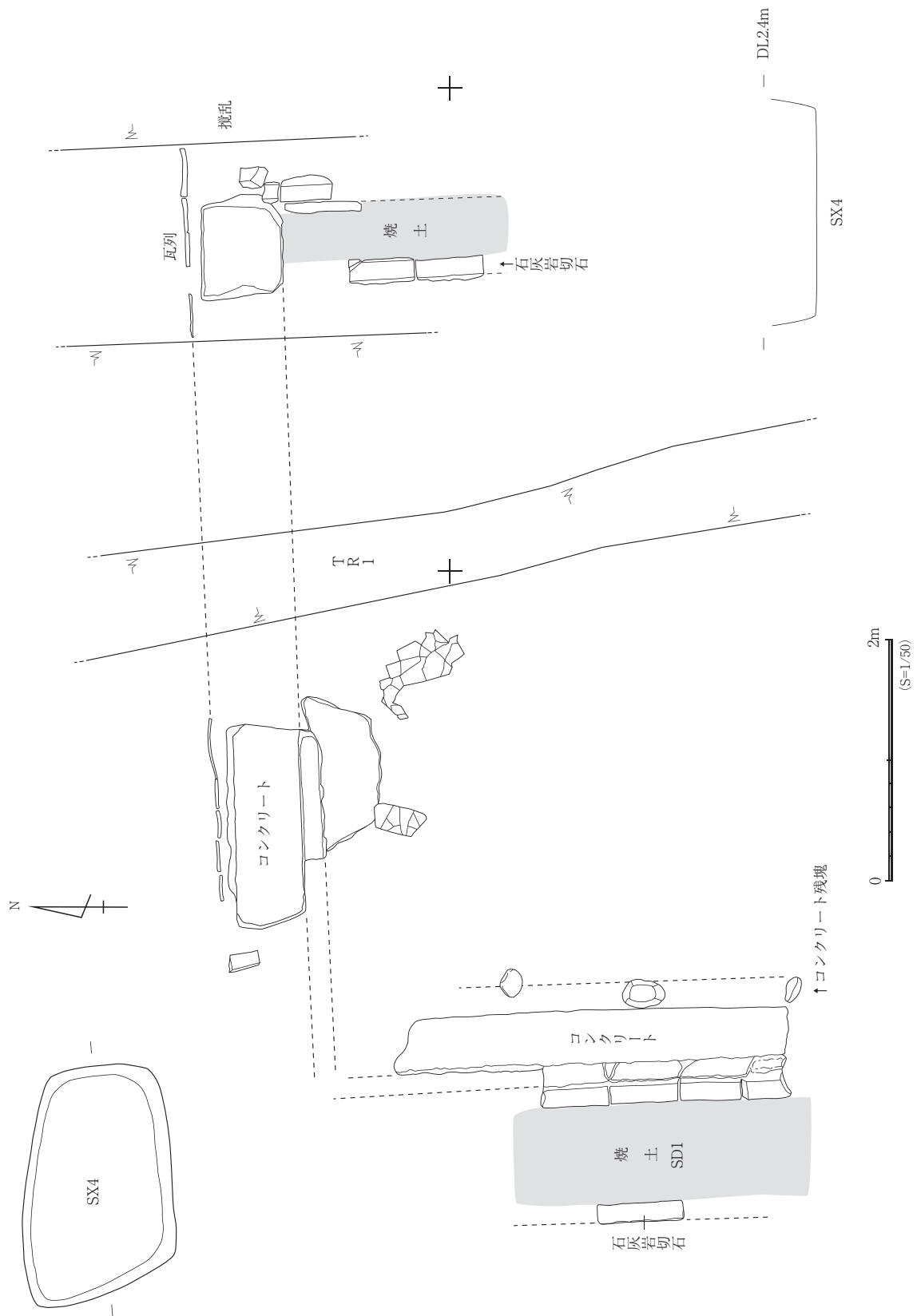


図128 基礎遺構1 (上面)・SX4平面・エレベーション図

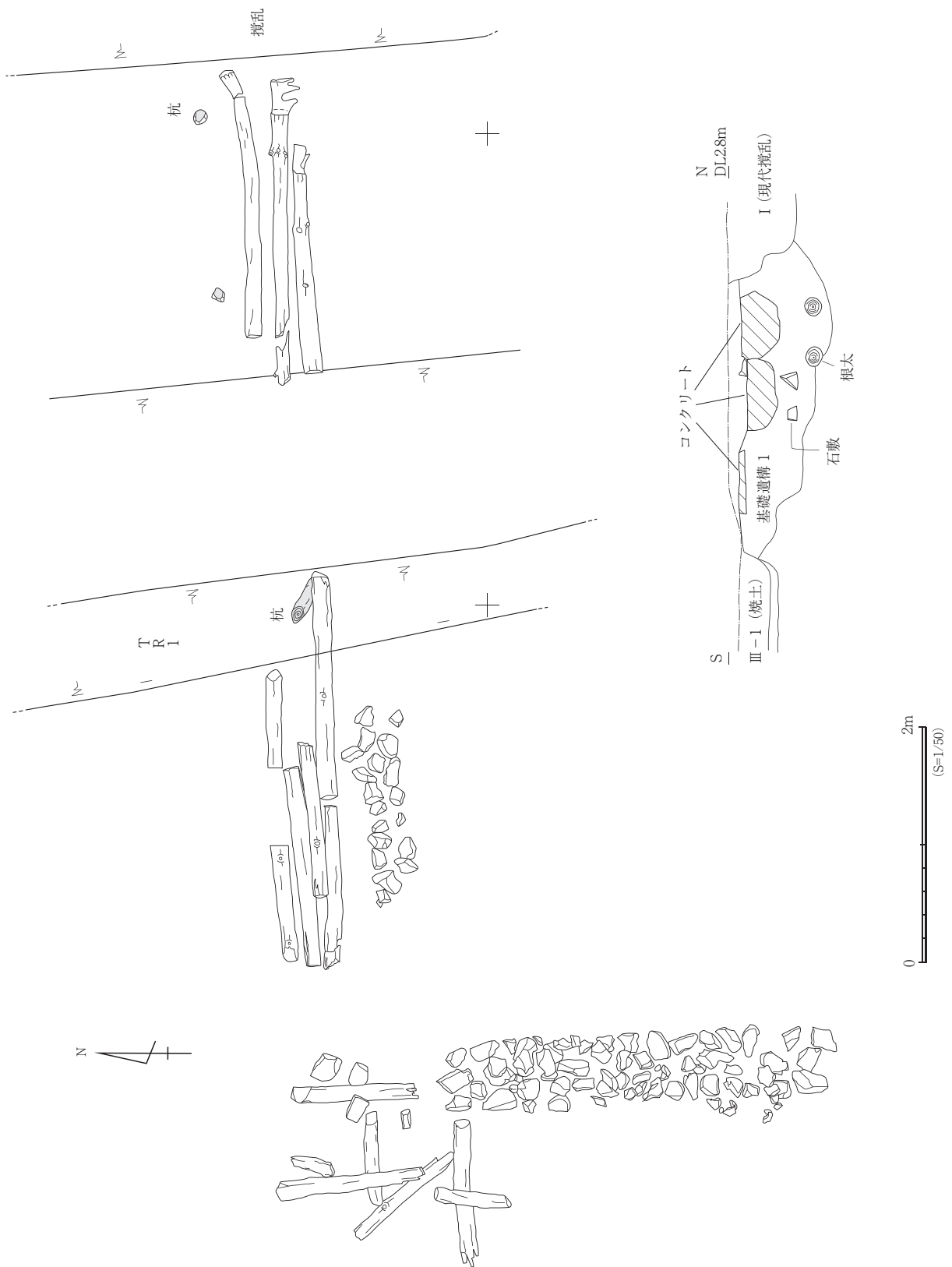


図129 基礎遺構1 (地下構造)平面・セクション図

## 観察表凡例

### 焼き物

瓦質	瓦質土器
土師質	土師質土器
陶染	陶胎染付
青染	青磁染付
不	不明
微	微細な
粗	胎土が粗。素地に細礫や細孔, 摺理がみえるもの含む。
気孔	断面等で観察される微少な空隙。
全釉	全面施釉(原則畳付除く)
白土	白化粧土
刷毛(ハケ)	刷毛塗り(白刷毛=白化粧土によるいわゆる刷毛目文)
ミガキ	ハミガキ
ケ	ケズリ
摩	摩耗
(例)17後	17世紀後半
肥	肥前系
瀬美	瀬戸美濃系
備	備前焼

「包」=包含層, 「バ」=バンク。  
 分類や器形名は九州陶磁の編年(九州近世陶磁学会2000)を参照した。  
 染付は原則全面施釉。  
 志野や織部は釉薬欄に記した。  
 向付は鉢と記した。  
 碗皿等の使用痕について, 特記のないものは使用痕なし又は確認不可能。  
 「白土器」は尾戸窯産で知られる土器。  
 焼締や炆器も含めて一律「陶器」とした。  
 産地欄で窯場名を記したものには, ・・窯「系」を省略した。  
 特記のない磁器も, 肥前系とみられるものが多い。  
 黒・赤は外黒, 内赤。「全」は底部まで残存する場合に用いた。  
 漆器等で特記のないものは無文。  
 「金」や「朱」は見かけの色。成分は第V章。  
 木簡の表記法は「木簡研究」に準ずる。  
 樹種は原則的に第V章参照。



# 遺物観察表

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
1	SD2 4層	染付 碗	10.35	5.75	4.1	内・灰白10Y8/1			完	17末～18 前
2	SD2 北岸(MW)	染付 碗	9.8	5.4	4.2	内・柄-ブ 灰5GY6/1		くらわんか手	底 1/1	
3	SD2 2層	染付 小皿	6.6	2.9	2.8	内・灰白N8/0	雨降文			
4	SD2 2層	染付 碗	16.5		6.4	内・灰白5GY8/1			1/4	
5	SD2 北岸(MW)	染付 皿	13.4	3.4	8.2	内・灰白5GY8/1	松竹梅円形文。高台内渦福。	くらわんか手。内底使用擦痕。	準完	18後
6	SD2 2層	染付 皿	14.4	4.65	8	外・灰白N8/0 断・々	底内外の印文も手描	輪花	1/4	
7	SD2 2層	染付 角皿		1.9		外・灰白5GY8/1			-	
8	SD2 2層	染付 瓶	1.6		胴 7	内・灰白25Y8/1 外・々 N8/0	内・露胎	一輪差	頸 1/1	
9	SD2 4層	染付 大皿	29.9			外・灰白7.5Y7/1 断・々 N7/0	厚い釉, 陶胎的。		1/12	肥系
10	SD2 2層	染付 蓋	7.2			内・灰白5Y8/1 外・呉須	天井全面呉須, 同じ円状に塗。		1/4	
11	SD2 1層	白磁 壺 <small>フツ</small>	9			外・10Y 灰白8/1 断・N 灰白8/		口縁下部露胎	1/6	
12	SD2 下層	白磁 蓋	5.9			外・灰白N8/0		受部のみ露胎	1/2	
13	SD2 3層	陶胎染付 鉢	19.8			外・灰白N8/0 断・にぶい黄橙10YR7/2	素地に微気孔	内・露胎。被熱。	1/16	
14	SD2 5層	青花 皿			14.8	外・灰白N8/1	線描は濃色	畳付は尖る。小野F群。	1/8	明末清初
15	SD2 2層	陶器 小碗			1.9	内・灰白5Y8/2 断・々 5Y8/1	内外透明釉。精土, 白色。	「山」か	底 1/1	京都系か
16	SD2 3層	陶器 天目碗	11.1			内・暗褐7.5YR3/4 外・暗褐～黒褐 断・灰白2.5Y8/2		外底露胎	1/5	瀬・美
17	SD2 3層最下or4	陶器 天目碗	10.3	6.55	4.6	内・黒7.5YR1.7/1 断・黄灰2.5Y6/1	長石等細粒	外下位・回転ヶ, 露胎。漆継ぎ。	底 1/1	
18	SD2 3層	陶器 碗	12.6			外・灰白5Y7/1 断・々	鉄絵。精土。		1/4	
19	SD2 3層	陶器 碗	11.8			内・灰白5Y7/2	外・褐色+白土で文様		1/8	
20	SD2 3層	陶器 碗			4.9	内・暗灰黄2.5Y4/2+灰白 外・々 断・褐灰 7.5YR5/1	内外・白濁釉をヶ塗。密土。	全釉(高台内まで)。折年遺跡に 同品。	底 1/1	
21	SD2 上層	陶器 碗			5.3	内・灰白2.5Y8/1 断・々	薄灰釉, 外底露胎。精土, 砂粒 なし。	高台内刻印。中心円は細凸線。	底 1/1	京都系か
22	SD2 下層	陶器 大皿	12.5	3.75	6.9	外・灰白2.5Y8/1 断・々 5Y8/1	灰釉・乳白色。細気孔。	内型か。高台内露。	1/2	瀬戸
23	SD2 2層	陶器 皿	11.2	3.5	4.4	外・褐+明黄灰 断・明赤褐2.5YR5/6	内・白土ヶ。外・釉溜。	内底M7, 外底露胎	底 1/1	肥
24	SD2 2層	陶器 皿			4.1	内・灰5Y6/1 断・灰白2.5Y7/1	内外灰釉	内底擦痕。外底露胎。	底 1/2	肥
25	SD2 2層	陶器 皿			4.2	内・灰5Y6/1 断・にぶい橙～褐2.5YR6/3	灰釉	畳付摩	1/2	肥
26	SD2 4層	陶器 皿			4.8	内・灰白5Y7/2 断・灰白5Y8/1	全灰釉。内底緑彩。精土。	砂目。内底摩擦痕。	底 1/1	
27	SD2 4層	陶器 皿	19.5			内・にぶい黄橙10YR7/3 外・々 10YR6/4	伊羅保釉。内面・鉄彩。	外・下位回転ヶ, 露胎。薄手。	1/4	
28	SD2 中層	陶器 鉢	15.7	8.3	6	内・薄黄緑 断・灰白	薄緑釉, 外下半露胎。気孔, 長 石粒。	内底M7, 内側融着痕。高台摩。	底 1/1	瀬戸
29	SD2 2層	陶器 土瓶	7.5		胴 14.3	外・黒褐7.5YR3/2 断・浅黄2.5Y7/3	内外褐釉。瀬・美風胎土(微気 孔)。	注口, 把手。	1/4	

表4 観察表(土器・陶磁器) -1

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
30	SD2 TR2砂	陶器 土瓶か急須	7.2	1.8	3.5	内・にぶい黄橙10YR7/3 外・暗褐10YR3/3	上面のみ褐釉。硬。	下面糸切		
31	SD2 4層 2層直上	陶器 鍋			9.2	内・黒褐7.5YR3/2 断・灰	内外褐釉。密土。	外底露胎, 煤け。	1/4	
32	SD2 1層	陶器 播鉢	28.4			外・にぶい赤褐2.5YR5/4 断・明赤褐2.5YR5/6	長石粒	口縁内コナリ部にも播目。外ヶ。	1/2	
33	SD2 1層	陶器 播鉢	-	-	-	外・赤褐10YR4/4 断・々	長石粒	外ヶ	破片	
34	SD2 2層	陶器 播鉢			12.1	外・にぶい赤褐2.5YR5/3 断・明赤褐2.5YR5/6	長石粒等	未摩	1/2	
35	SD2 最上層	陶器 播鉢	39.9			外・褐7.5YR4/4 断・灰	表面飴色を帯びる	長石細粒が溶融	1/9	
36	SD2 3層上	陶器 甕	36.8			外・にぶい褐7.5YR5/4 断・黄灰2.5Y6/1	渋釉か。長石・石英粒。硬。		1/5	丹波
38	SD2 4層	陶器 甕	31.6			内・暗赤灰10R4/1 外・灰N4/0 断・灰黄2.5Y6/2	外・褐釉, 内・渋釉+化粧土。断面縞状。赤レキ若干。	三条の凹線。37接合・廃番。	1/7	
39	SD2 2層	陶器 甕				内・にぶい赤褐5YR5/3 外・灰白2.5Y8/2 断・赤褐	外・白化粧土に褐・緑の二彩。 内・薄釉, 一部露胎。		胴 1/4	
40	SD2 3層	土師質土器 焙烙	26.7			内・橙色7.5YR6/6 外・黒褐7.5YR3/1	花崗岩由来とみられる角粒, 雲母。焼良。	口縁上面から穿孔。外底ヶリ。 外スガ。	1/5	
41	SD2 4層	土師質土器 火入			7.9	内・にぶい橙+灰白 断・々	練上げ。断面8~10層。極精土。	外・丁寧なミガキ。口縁スガ。口縁に摩耗等なし。	底 2/5	
42	SD2 4層	窯道具 -	7.7	1.6	3.9	外・にぶい黄橙10YR7/4 断・灰白2.5Y8/2	硬。長石粒等。		1/4	
43	SD2 2層	窯道具 匣	11.1	4.9	12	内・浅黄2.5Y7/3 外・灰黄2.5Y6/2	硬	糸切。内底に細砂。	1/4	
44	SD2 下層	陶器 灯明受皿	7.9	1.55	全径 10.9	外・褐灰10YR4/1 断・灰N6/0	密土。硬。	外底回転ヶ。口縁にスガ。	2/3	備
45	SD2 3層	土師質土器 小皿	7.4	1.95	3.45	内・黒N2/0 外・橙7.5YR7/6	灯明皿。精土。	内全面黒色付着。糸切。		準完
46	SD2 2層	土師質土器 小皿	6.85	1.25	3.7	外・にぶい黄橙10YR7/2	灯明皿	内・全面に黒色付着		完
47	SD2 3層上	焼締 皿	10.65	1.5	6.9	内・にぶい褐7.5YR5/4 断・々 5Y8/1	硬, 精土。若干長石粒。	外底メト3点。口縁ス。	底 1/1	搬入
48	SD2 TR2	陶器 植木鉢			16.3	内・にぶい赤褐5YR4/4 外・緑灰~濃緑 断・淡黄2.5Y8/3	外・緑釉。内面と高台内は渋釉 ハケ塗。粗素地。	獅子頭把手。高台側面の文様は 線描。内面布痕。	1/1	瀬戸
49	SD2 2層	土師質土器 人形	残長 5.1	残幅 4.2		内・灰白2.5Y8/2 外・灰白5Y 8/1	精土。明色。衣は線描。	上衣の裾部で下半身部を包み、 接合。		各末 端欠
50	SD2 1層	窯道具 ハマ	径 5.4	厚 0.7		外・にぶい黄2.5Y6/3	密土。硬。	糸切。周縁部にメト。	1/2	
51	SD2 4層	土師質土器 小皿			3.7	内・灰白5Y8/1 断・々		糸切。底内外墨書。	底 1/1	
52	SD2 2層	土師質土器 土錘	長 4.9	幅 1.4	孔径 0.4	外・にぶい橙5YR7/4		摩・重量8.2 g		準完
53	SD2 3層	土師質土器 焼塩壺	5.1			外・にぶい橙7.5YR7/4	内・シ, 下位に布痕。長石粒, 赤 レキ若干。		1/4	
54	SD2	石製品 石臼	復元 径 (29)	全厚 11.5			一部変色, 被熱か。	下面は打割未調整。		割れ
55	SD2 4層	石製品 不	37.8			内・灰 外・々 断・々	角閃岩か	磨仕上げ	1/16	
56	SD2 3層(W区)	瓦 軒丸	長 30.4	幅 15.4	厚 15.2	内・暗灰N3/0	内部はやや焼不	内: 鋭い横条線→布・紐痕。初痕 あり。外: 鋭い横条線→丁寧ナゲ (ハ併用か)。段部寄りに1孔。	完	
57	SD2 5層	瓦 軒平		厚 1.3		内・にぶい黄2.5Y6/3 外・にぶい褐7.5YR5/4		瓦当と下面にキ粉	-	
58	SD3	染付 蓋	9.5	2.9	摘径 5.4	外・灰白10Y8/1			1/2	
59	SD3 検面	染付 碗				内・灰白N8/0 外・灰白N8/0		被熱, 釉融, 変形		
60	SD3	染付 碗			5.1	内・灰白10Y8/1	釉白濁	底中心が厚い。 高台内回転ヶ痕。	2/3	
61	SD3	染付 碗			4.9	外・灰白5GY8/1	釉やや厚。	高台砂付着。	3/5	
62	SD3	染付 小瓶	2	6.4	2.2	外・灰白5GY8/1	外底・内底露胎	高台脇ヶリ。	完	
63	SD3 上層	白磁 小杯	5.4			外・灰白N7/0	縦縞		1/2	

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文 様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
64	SD3 上層	青花 小杯	7			内・灰白N8/ 断・ 〃	発色良好。龍文。	薄手	1/7	景德鎮 17前
65	SD3	青花 小皿	10.5			外・灰白N8/ 断・ 〃	発色良好, 光沢あり。	薄手	1/5	景德鎮 17前
66	SD3	青花 皿か				内・灰白5GY8/1 断・灰白N8/ 外・ 〃		薄手	-	景德鎮 17前
67	MEN SD3	青花 皿	14			内・灰白N8/ 外・ 〃		薄手。輪花。		景德鎮
68	MEN SD3 木片層	青花 -				外・灰白7.5GY8/ 断・ 〃 N8/ 外・ 〃		輪花		景德鎮
69	SD3	青花 皿				外・灰白10Y8/1 断・ 〃	龍文			下部 片 漳州窯系 17前
70	SD3	青磁 盤				内・灰白7.5Y6/2 断・灰白7.5Y7/1	陰刻	輪花		
71	SD3 下層	陶器 皿		4.55	幅 12.7	外・灰白2.5Y8/2 断・ 〃 2.5Y8/1	鉄彩で木ノ葉。外側に圈線。志 野釉。瀬戸美濃にしては精土。	外底: 耳状の脚を貼付。マト, ヲス リ痕。	1/2 程度	瀬・美
72	SD3 上・下層	陶器 鉢	15.9	4.55	12.1	外・灰白2.5Y8/1 断・ 〃 2.5Y8/2	鉄絵。厚い志野釉。精土だが やや粗。	全釉。外底マトは抉れたものあ り。481と同名。	1/2	瀬・美 16末~ 1610年代
73	SD3	陶器 鉢			13.4	外・灰白10YR8/1 断・ 〃 2.5Y8/2	内底鉄絵。厚め志野釉。やや 粗。	立上り部で折れる。内底中央の 口目。外底にマト状痕。貫入著。	1/12	瀬・美
74	SD3	陶器 碗	12.3			外・灰白2.5Y7/1 断・ 〃 黄橙10YR7/2	外・鉄絵, 志野釉。やや粗。	腰部を凹ませる変形。内外釉に ビツキ。	1/6	瀬・美
75	SD3	陶器 鉢		4.4	幅 13	外・灰白5Y8/2	鉄絵→灰釉→織部釉。やや粗。	角形変形。貼付脚。	2/3	瀬・美 17前
76	SD3	陶器 -	11.6±			内・灰10Y6/1 断・ 〃 黄橙10YR6/3	内外鉄絵, 厚めの灰釉。素地多 孔。	沓形か	1/4	絵唐津
77	SD3	陶器 鉢			4.8	内・灰7.5Y6/1 外・灰10Y5/1	鉄絵+やや白濁釉。	外底回転, 露胎。小礫が破裂。	1/1	絵唐津
78	SD3 検面	陶器 皿か鉢			4.4	内・灰白7.5Y6/2	内外灰釉。 高台付近に指痕状に釉。灰と 灰濁。	外底回転, 露胎。 内底胎土目。	底 1/1	
79	SD3 南端の西半	陶器 皿	13.6	4.05	4.6	内・灰7.5Y6/1 外・灰7.5Y6/1 断・灰N6/0	溝縁。灰釉。内面有段。	外下位回転, 露胎。マト内面5ヶ 所。	底 1/1	
80	SD3	陶器 皿	12.7	3.2	4.3	内・灰5Y6/1 外・ 〃 黄7.5YR5/4	内外灰釉。	外底回転, 露胎。 体部の口目。内外砂目。	底 1/1	
81	SD3	陶器 皿			4.4	内・灰白10YR7/1 断・ 〃 黄7.5YR7/3	灰釉	高台回転, 露胎, 砂目。	底 1/1	
82	SD3	陶器 皿			4.6	内・灰黄褐10YR6/2 断・ 〃 黄橙10YR7/3	灰釉	高台回転, 露胎, 砂目3ヶ所。	1/2	
83	SD3	陶器 皿			4.7	内・灰白7.5Y5/2 断・灰N6/	鉄絵	屈曲。外底回転, 露胎。内外に 砂目3点。	底 1/1	絵唐津 1600~10 年代
84	SD3	陶器 碗	10.8	7.2	4.4	内・灰白7.5Y6/2 外・灰白5Y7/2	灰釉。素地底部明褐色, 上部黄 灰色。	口形成後外底回転。露胎。	底 1/1	
85	SD3	陶器 天目碗			4.7	内・黒10YR1.7/1 断・灰白2.5Y8/1	素地に孔あり。	外底回転, 露胎。	底 1/1	
86	SD3	陶器 天目碗	10.8	6.7	4.2	内・黒7.5Y2/1 外底・灰褐5YR5/2 断・灰N5/	天目釉, 内面にマト, 内底に円形 痕。	外底回転。露胎。 高台内中心螺旋痕。	底 1/1	
87	SD3	陶器 碗			4.6	内・灰白5Y7/1 断・灰白5Y8/1	全灰釉	高台内回転	底 1/1	
88	SD3 1層	陶器 碗			5.3	内・浅黄2.5Y7/3 外・灰白10YR7/1	灰釉, 外底露胎。精土。	京焼風	底 1/2	肥
89	SD3	陶器 碗			4.2	内・灰N4/0 断・灰N5/0	内外白土質+灰釉。 内底三鳥象嵌。	畳付も釉。マト4点。	1/2	肥
90	SD3 I層	陶器 碗	9.4	6.5	3.9	内・灰白N7/0 外・暗灰黄2.5Y5/2 断・黄灰2.5Y6/1	内外褐釉が被熱か。	外底回転, 露胎。	底 1/1	
91	SD3	陶器 瓶	3.3			内・黒褐10YR3/2 外・黒褐10YR3/2 断・灰N4/0	外面褐釉		口 3/4	
92	SD3	陶器 鉢			6.9	内・灰白N8/0 外・灰黄2.5Y6/2 断・灰白2.5Y7/1	内外灰釉か(被熱か)。 素地炆器質。	外底露胎, 回転。 体部屈曲。	底 1/1	肥か
93	SD3	陶器 不				内・白7.5Y6/1 外・暗7.5Y6/1 断・灰	内外白刷毛+緑釉。 沈線。突帯に刻目。			肥。 17後~18 初
94	SD3	陶器 壺				外・褐7.5YR4/3 断・灰白N7/0	外・褐釉重ね掛。 内・露胎。素地灰白色硬質。	肩部に浮文。耳付茶壺か。	頭 1/5	信楽.17C.
95	SD3 上層	陶器 播鉢	23.2	15.1	14.2	内・赤褐10R4/4	播目は沈線で, 上端不揃。石 英・長石角粒多含。	外面マト, 下端回転。内面使用 摩。	1/4	丹波 世紀
96	SD3	陶器 播鉢	22.8			内・灰赤10R4/2 外・暗赤灰10R3/1 断・灰N5/1			1/9	

表4 観察表(土器・陶磁器) -3

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
97	SD3 I層	陶器 播鉢			9.8	内・灰赤2.5YR4/2 外・明赤褐2.5YR5/6	精土	使用摩。外底欠り。	1/2	
98	SD3	陶器 中甕	26			外・灰褐5YR4/2	内外褐釉		1/7	
99	SD3	陶器 壺か甕	24.7			内・黒褐7.5YR3/2 外・黒褐7.5YR3/2	内外褐釉	薄手。内面同心円当具痕か。外 下位欠。	1/7	肥か。 17前 丹波
100	SD3S 攪乱	陶器 甕				外・灰褐5YR4/3 断・にぶい黄2.5Y6/3	内外薄い釉。 石英・長石角粒多含。			
101	SD3	陶器 甕			21.6	内・黒褐10YR3/2 外・黒褐10YR3/2	素地密。内外褐釉。		1/5	肥
102	SD3	陶器 甕			19.8	内・黒褐2.5Y3/2 外・暗赤-7 褐2.5Y3/3	素地密。	内・同心円当具痕。	1/4	肥
103	SD3	陶器 甕				内・暗赤灰5R4/1 外・暗赤灰5R4/1	内外褐釉。	内・当具、外・欠り痕。 上端は頸部下か。		肥
104	MEN 攪乱(SD3)	陶器 甕	36.6			外・黒褐10YR3/1 断・にぶい褐7.5YR6/3	内外褐釉+白・緑。二彩手。		1/8	肥。 17後～18 初
105	SD3	土師質土器 不			19	外・橙7.5YR7/6 断・にぶい橙5YR7/4	石英・長石細粒多		1/5	
106	SD3 上層	炆器 不	18.8	7.2		内・浅黄2.5Y7/3 外・にぶい褐7.5Y5/3 断・灰白5Y7/1	無釉、硬質	斜穿孔。剥離部分も焼締る。		
107	SD3 I層	炆器 不			18.4	内・黄灰2.5Y5/1 外・褐灰10YR5/1 断・褐灰7.5YR5/1	無釉、硬質	孔や端部の仕上げは粗雑。内面 凹凸目。	1/4	
108	SD3 下層	瓦質土器 火入	10.2	5.4	9.4	外・灰N3/ 断・灰7.5Y6/1	印文と沈線	外面ヘラミカキ	1/2	
109	SD3	素焼 焼塩壺	6.8	2		外・にぶい赤褐5YR5/4	蓋。長石細粒、赤礫含。	内面欠り、黒色付着物。	完	
110	SD3	素焼 焼塩壺	5.6	8.8	2.7	外・にぶい赤褐5YR4/4	長石、赤礫含。	111と同型	完	
111	SD3	素焼 焼塩壺	5.55	8.85	4.55	外・にぶい赤褐5YR5/4 断・灰褐5YR5/2	長石、石英、雲母微片含。	内面粗い欠り。外底離れ砂(石 英、珩とか)。	完	
112	SD3	素焼 人形	幅 3.4	厚 2.5		外・にぶい褐7.5YR5/4 断・灰褐10YR6/1	精土。赤礫、石英細粒少含。珩 粉。	型作り。体側の合せ目を欠る。 内型抜き。		
113	SD3	土師質土器 小皿			6.2	内・にぶい黄橙10YR7/2 外・灰黄褐10YR6/1	精土	灯明皿。内底煤け著。	1/4	
114	SD3 上層	土師質土器 不			5.7	内・にぶい黄橙10YR7/3	精土		2/3	
115	SD3	土師質土器 小皿			4.6	内・灰白5Y7/1 外・灰5Y6/1 断・灰白5Y7/1		灯明皿。煤け。糸切。	1/2	
116	SD3	陶器 小皿	8.6	1.5	5.6	内・浅黄2.5Y7/3 断・灰白2.5Y8/1	全灰釉	底回転	1/4	瀬・美
117	SD3	土師質土器 小皿	9.3	2.15	4.7	内・灰黄2.5Y6/2	精土	灯明皿。煤け。糸切。	1/4	
118	SD3	土師質土器 小皿	9.6	2.5	5.4	内・暗灰N3/ 外・灰5Y4/1 断・にぶい黄褐10YR5/3		灯明皿。内面黒化、外面付着物。 糸切。	1/4	
119	SD3	土師質土器 小皿	8	2.2	5.1	内・灰黄褐10YR6/2 外・にぶい黄橙10YR6/3		糸切。内煤け。	1/2	
120	SD3 下層	土師質土器 不			7.4	内・にぶい黄橙10YR6/3	精土	外底回転	2/5	
121	SD3	土師質土器 不			6.8	内・灰黄褐10YR5/2 外・黄灰2.5Y4/1 断・灰黄褐10YR6/2	精土、火山ガラス多含。	糸切。煤け。	1/3	
122	SD3	土師質土器 不			5.2	内・灰黄褐10YR6/2	精土		底 1/1	
123	SD3	土師質土器 不			5.5	外・にぶい黄橙10YR7/3	精土、長石細粒	糸切。内底ひと欠り。	底 1/1	
124	SD3	土師質土器 不			6.5	内・にぶい黄橙10YR6/3			3/5	
125	SD3	土師質土器 不			7.7	外・にぶい橙7.5YR6/4		糸切。内底多方向欠り。煤け。	1/4	
126	SD3	土師質土器 不			5.95	内・灰黄2.5Y6/2 外・暗灰N3/0 外・暗灰N3/0	精土、火山ガラス多含。	糸切。外煤け。 内底欠り。	底 1/1	
127	SD3	瓦 丸瓦	幅 15.6	厚 6.85				内・若干斜のヒキ後、縄紐痕。 外・巾広ミカキ又はヘラ欠り。段部角 は丸味をもたせ、面取り。		
128	SD3	瓦 丸瓦		厚 2.4			細粒、細孔	内・平行ヒキ後、太紐痕。外・ミカ キ。燻し。被熱で破損か。		
129	SD3	瓦 丸瓦		厚 2.3		内・暗灰N3/0 外・暗灰N3/0 断・灰白N7/0	長石、石英角粒	内・斜ヒキ 外・ミカキ。 焼け、焦げ。		
130	SD3	瓦 丸瓦	幅 16.7	厚 2.1			角礫含	内・斜ヒキ、縄紐痕。 外・縄状痕、ミカキ。 欠損部付近被熱変色。		

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
131	SD6	陶器 甕				外・赤灰25YR4/1 断・灰赤10R5/2	堅。精土に長石粒若干。	外面に粘土紐を捻った輪を貼付。	胴片	
132	SE1 掘形	窯道具	6.4			外・にぶい黄橙10YR6/3 断・灰N6/0	堅。石英,長石粒。	糸切	1/2	
133	SE2 内	色絵 小碗			3.2	内・灰白N8/	外面・黄緑,赤,緑,金による文様。	高台内赤絵による「九谷(か)」。 上絵は褪せ,剥げあり。	底 1/2	
134	SE2 内	陶器 蓋	15.2	4.8	摘径 3	内・灰10Y6/1 外・灰7.5Y6/1 断・黄橙	内外灰釉。外面に白釉による 巴状の文様。精土。	口縁内外露胎	完	
135	SE4 井筒内	弥生土器 壺				内・暗灰N3/0 外・にぶい橙5YR7/3 断・灰白10YR8/1	断面方形の削出し突帯に右下 り刻目。突帯上下は沈線を意 識か。	やや大型の壺。摩。	小片	弥生前期 中～後葉
136	SE5上 (SK16)	染付 皿	14.5	2.9	9.8	外・灰白5GY8/1	繊細な手描+濃味。ミ貝紋。	上手	1/5	有田。 1670 ～90年代
137	SE5上 (SK16)	陶器 土鍋	21.5			外・黒褐5YR2/1 断・にぶい橙5YR6/3	口縁以外褐釉	外面飛皷	1/8	
138	SE5 上層	陶器 蓋	10.5	3.2		外・灰白5Y7/1 断・灰白N7/0	呉須,鉄,白土による草花文。 口縁以外透明釉。	壺蓋か。	1/2	18C.か
139	SE5	陶器 手水鉢	28.2	15.4	15.4	内・灰白5Y5/1 外・黄灰2.5Y6/1	白刷毛。内・透明釉,外・無釉。 密土。	外底回転けと離れ砂。内底7点 ～6点。	2/3	肥。 17後～18 前か
140	攪乱SK16 直上	土師質土器 焼塩壺	5.25	8.65	4.5	内・にぶい赤褐5YR4/3 外・褐7.5YR4/3	硬。石英・赤レキ・金雲母・砂岩円 粒。	内・指痕,外・頸部コナテ	完	
141	SK48 SE6	陶器 (把手)			厚 0.8	外・灰白5Y6/2 断・灰	灰釉	頂部で接合か。上級品。	-	関西系。 17後頃～ 18前
142	SK1	染付 碗	9.6			外・灰白7.5Y8/1 断・灰白5Y8/1	口縁内雷文帯。焼やや不。	端反	1/4	
143	SK1	陶器 碗	11.6			内・黒褐7.5YR2/2 外・々 断・灰白2.5Y8/2	内外・鉛色の褐釉	変形,杓形か	1/8	
144	SK2	瓦 軒平			厚 1.4～ 1.8	内・灰N5/0 外・にぶい黄橙10YR7/3 断・黄灰2.5Y6/1	精土	瓦当文脇に刻銘。橙色,被熱か。 全面7/7。裏面7/7粉か。	瓦当 片	
145	SK3 上層	染付 碗	9.7	5.2	5.5	内・灰白	全釉		3/7	
146	SK3下層 ・SK4	染付 鉢	11	9.9	7.8	内・明緑灰7.5GY8/1	全釉口唇釉ハキ			
147	SK3 上層	染付 皿	14.7			内・灰白N8/0		薄手。上手。	1/4	有田。 1690～ 1730 年代
148	SK3	染付 鉢	20.3	9.6	7.4	外・明初-ブ 灰5GY7/1 断・灰白N7/0	青味のある厚めの釉。内面花 文。		準完	肥,17C.波 佐見か。
149	SK3下層 ・SD2下層 ・SK4	染付 鉢	11.8	9.8	6.7	内・灰N8/0	口縁と畳付のみ釉ハキ		3/4	
150	SK3 上層	瓦質土器 火鉢	20	8.3	19	外・暗灰N3/1		内面指圧痕とコナテ,外面コナガ キ。	1/5	
151	SK4	陶器 鉢	16	8.4	胴17.8 底9.0	内・明黄褐2.5Y6/6 外・にぶい黄2.5Y6/3	伊羅斑斑掛け状,本来褐釉か。 7/7なし。全釉。長石細粒。	体部一部凹	2/5	関西か
152	SK4	陶器 碗	13.4	5.6	4.1	外・灰初-ブ 5Y6/2 断・灰白N7/0	煎じ碗。白と鉄絵。 外底露胎。	内底に7点。SK12に同品。 (170)	2/3	京信系
153	SK4	陶器 皿	10.1	2.5	4.4	内・灰初-ブ 5Y5/2 断・灰N6/0	厚めの灰釉。外底露胎。		1/4	
154	SK4	陶器 甕				内・灰褐7.5YR5/2 外・にぶい褐7.5YR5/4 断・褐灰10YR6/1	石英粒含	耳の凸部分は使用摩耗		
155	SK5 TR	陶染 皿	12.7	3.6	4.5	内・灰白10Y7/1	白濁釉。蛇目釉ハキ。 外底露胎。貫入。		1/2	
156	SK6	染付 小皿	6	2.1	3	外・灰白N8/0 断・灰白N8/0	全釉		1/2	
157	SK10	陶器 碗			3.05	内・灰白5Y7/2 断・灰白5Y8/1	灰釉。細貫入。 外底露胎。	高台内墨書	底 1/1	
158	SK11 or 攪乱	染付 碗	10.9			外・灰白N8/0 断・灰白N8/0			2/5	
159	SK11 検面	染付 碗			4.4	内・灰白10Y8/1	全釉		底 1/1	
160	SK11	染付 皿			7.6	外・灰白5GY8/1 断・々 N8/	発色良好			
161	SK11 検面	陶器 碗	11.1	7.85	4	内・灰初-ブ 5Y6/2 断・灰白N7/0	象嵌磨手。外底沈線で釉がと まる。		1/4	尾戸
162	SK11 下層	陶器 碗	11.3			外・にぶい褐7.5YR5/4 断・にぶい黄橙10YR7/2	白土ハキ		1/5	

表4 観察表(土器・陶磁器) -5

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
163	SK11	瓦 飾瓦	厚 3.7			内・にぶい橙7.5YR7/4 断・にぶい橙2.5YR6/3		三枚の粘土板をはぎ合わせ、表面の一枚をへら工具で削って浮紋を形成。裏に接合痕とけがれ痕。		
164	SK11	瓦 飾瓦	径 7.5			内・暗灰 断・灰	瓦当筈による蓮弁又は菊文	外上けがり、内面指痕。けがれ粉。		
165	SK11 検面	石製品 硯				内・褐灰10YR5/1	粘板岩	使用。刻線。節理面で破断。		
166	SK12	染付 碗			4.5	内・灰白2.5GY8/1	全釉		底 2/3	
167	SK12	染付 小碗	8.9			内・灰白N8/0			1/8	
168	SK12	染付 蓋	8.5	2.65		内・灰白N8/0			1/2	
169	SK12 検面	染付 小皿		1.65	幅 5.0	外・灰白N8/0	全釉	変形	3/4	
170	SK12	陶器 碗	10.6	5.5	3.9	灰白5Y7/2	煎じ碗。白と鉄絵。 外底露胎。	内底4点。高台内回転痕。 SK4 (152)と同品。	1/2	京信系
171	SK12	陶器 碗	9.8	7.4	4.6	外・灰白2.5Y7/1 断・灰白5Y8/1	内外白色釉。外底露胎。	高台内螺旋けがり。 内底桃色。	底 1/1	尾戸か。 18世紀以降か。
172	SK12 検面	陶器 碗	11.1			内・灰白-ブ 5Y6/2 外・灰白5Y7/2 断・灰白5Y7/1	灰釉2度掛。 内～口縁内外のみ厚め。		1/7	
173	SK12 検面	土師質土器 皿	11.7	1.8	7.5	内・灰黄2.5Y7/2	精土	型作り陽刻文。けがれ仕上げ。口縁焦げ。	1/7	白土器
174	SK12	陶器 描鉢	24.2			内・灰赤7.5R4/2 外・灰赤7.5R5/2 断・灰N6/0	小礫多含	口縁外面のみ自然釉	1/8	備
175	SK12	陶器 描鉢			12.8	内・にぶい赤褐2.5YR5/4 外・赤褐10R4/3 断・にぶい橙2.5YR6/4	外面薄い錆釉。 精土に赤礫や長石の細粒。	外下部回転け。 内使用摩。	1/5	関西
176	SK13	陶胎染付 碗	11.7	8.3	4.8	内・灰白10Y7/1 断・	灰色。厚めの釉。		2/5	肥系 18前
177	SK13・ SK11TR	染付 大皿			14.6	外・灰白N8/0	全釉	上手	1/2	有田 1660～90 年代
178	SK13	青磁 碗	19.6			外・青-ブ 灰5GY6/1 断・灰白N7/0			1/10	
179	SK13	青磁 盤				内・青-ブ 灰10Y6/2 断・灰白N7/0				
180	SK13	陶器 碗	11.4	7.15	4.6	外・にぶい橙7.5YR6/4 断・にぶい黄橙10YR7/3	白土や、高台内も。		底 1/1	肥系 17末～18 前
181	SK13	青磁 火入	9.5			内・灰白N8/0 外・緑灰7.5GY6/1			1/7	
182	SK13	陶器 不				内・灰褐7.5YR5/2 外・褐7.5YR4/3 断・赤灰2.5YR5/1	外面陰刻文。薄い釉。精土・堅致。	型作りか。多角形。内面けがれ、露胎。		
183	SK13	陶器 灯明受皿	10.2	2.2		外・灰赤2.5YR4/2 断・褐灰5YR6/1	錆釉。精土・堅致。	外底回転け	1/4	18前
184	SK14	染付 碗	10.1			外・灰白N8/0		両面被熱	1/4	
185	SK14	染付 小碗	9.3			内・灰白N8/0			1/6	
186	SK14	青磁染付 小碗	10.4			内・灰白N8/0 外・明緑灰10GY7/1		被熱	1/7	
187	SK14	染付 碗	11			内・灰白5Y8/1	口唇部に、わずかな呉須。		1/5	
188	SK14	染付 小碗	8.3	4.7	3.2	内・灰白	全釉	畳付に砂著	底 1/1	
189	SK14	白磁 碗	14.7	7.85	5.5	外・灰白5Y8/1	全面釉(畳付除)。 細貫入。	内底周縁部を中心に細く鋭い傷。		
190	SK14	青磁染付 小碗			3.3	内・灰白N8/0 外・明緑灰10GY7/1	五弁花は印判。内面と高台内は透明釉。貫入あり。	外面被熱か	底 1/1	18世紀か
191	SK14	染付 碗				内・灰白N8/0	文様は各々手描。 高台外、外底にも圏線。		1/5	
192	SK14	染付 碗	8.6	5.7	5.7	内・灰白N8/0 断・灰白N8/0		外面より被熱	1/4	
193	SK14	青磁 碗			6.9	外・緑灰7.5GY6/1 断・灰白N7/0	外面蓮弁、内面陰刻文。 全面釉。		1/4	
194	SK14	染付 碗			5.9	内・灰白N8/0	内底の五弁花も手描	素地、絵付、釉とも良品。	1/4	
195	SK14	染付 碗	9.2			内・灰白N8/0 外・灰 断・灰		被熱、変形	-	
196	SK14	青花 皿			11.2	外・灰白N8/0 断・灰白N8/0		被熱	1/9	景德鎮

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文 様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
197	SK14	青磁 碗			8.1	内・緑灰7.5GY6/1 外・緑灰7.5GY6/1 断・灰白N8/0	全釉	畳付釉 <sup>ハギ</sup> 。両面被熱。	1/6	
198	SK14	染付 皿	13.2	3.2	5	外・明青灰10BG7/1 断・灰白N7/0	青味がかった厚めの釉。全面 釉。	畳付に砂	1/2	肥前 初期の 染付 肥。
199	SK14	染付 皿	14	3.2	5.2	外・灰白8/	畳付以外施釉。口 <sup>ハビ</sup> 。	型打	1/4	1640～50 年代
200	SK14	染付 皿	15.4			外・灰白N8/0 断・灰白N8/0		体部は薄手で整形精緻。	1/4	肥前
201	SK14	白磁 小杯			2.5	外・灰白7.5Y8/1	全釉		1/2	
202	SK14	白磁 小杯			3.8	内・灰白N8/1 外・灰白N8/1	釉に光沢	畳付に砂著	底 1/2	
203	SK14	白磁 小杯			2.6	外・灰白2.5GY8/1	外底露胎		1/4	
204	SK14	白磁 小杯	7	4.8	3.1	外・灰白	全釉	高台内～畳付に砂。	準完	
205	SK14	白磁 小杯	5.9	3.7	2.6	外・灰白7.5Y8/1	釉に光沢		2/3	
206	SK14	染付 不 鉢			10.8	内・5GY8/1灰白	手描線+濃味。内外釉。	両面被熱	胴 1/3	
207	SK14	染付 重?鉢				外・灰白N8/1	外底縁以外施釉			
208	SK14 検面	染付 蓋	5.9			内・灰白N8/0		受部釉 <sup>ハギ</sup> 。 外面被熱。	2/5	
209	SK14	染付 不			5.1	内・灰白N8/0 外・青灰5B6/1	内面,外底無釉。 外面呉須。	外底蛇ノ目	1/4	
210	SK14	白磁 又は染付 皿か			6.8	内・灰白N8/1	内底と畳付釉剥ぎ			
211	SK14	白磁 小皿	8.8			内・灰白N8/0 外・灰白N8/0		被熱	1/9	
212	SK14	磁器 瓶			5.1	外・明緑灰5Y8/1	外面青磁釉		1/3	
213	SK14	青磁 鉢か			8.8	外・明 <sup>リ</sup> - <sup>ブ</sup> 灰5GY7/1 断・灰白N7/0	外面釉やや厚。全釉。	畳付釉 <sup>ハギ</sup> 。両面被熱。	1/5	
214	SK14	青磁 不	8.8			内・灰白2.5Y7/1 外・緑灰10GY6/1	外面厚い青磁釉,小気泡含。小 斑状に露胎。内面無釉だが釉 垂れ。		1/4	
215	SK14	青磁 壺	18.9			外・明 <sup>リ</sup> - <sup>ブ</sup> 灰2.5GY7/1 断・灰白N7/0	内外釉	成形,釉調とも優品。	1/4	
216	SK14	陶器 台付鉢	19	6.2	6.5	外・灰白5Y8/1	全面灰釉。 内面同心円文。		1/5	絵唐津
217	SK14	陶器 鉢		残高 3.9		外・灰白2.5Y8/2 断・灰白2.5Y8/1	外底以外全面鉄絵。長石釉。 粗。458と同品。	織部。変形。外底脚剥離痕。	1/3 か	瀬・美
218	SK4	陶器 碗	9.6	5.3	3.2	内・ <sup>リ</sup> - <sup>ブ</sup> 灰	灰釉に緑と黒の厚い絵付。貫 入。外底露胎。	高台内に回転痕。	底 1/1	
219	SK14	陶器 碗	9.8	6.2	5.3	内・灰白2.5Y8/1	呉須絵付。細貫入。外底露胎。 精土。	京焼風	1/3	
220	SK14	陶器 碗			5.5	内・暗黄灰2.5Y5/2	灰釉。 畳付以外全面施釉。		2/5	
221	SK14	陶器 碗			5.2	内・浅黄2.5Y7/3 断・灰白2.5Y8/1	全灰釉	畳付釉 <sup>ハギ</sup>	1/3	
222	SK14	陶器 碗			5.9	内・灰白2.5Y8/2	外底露胎。灰釉。	外底刻書または刻印	1/2	肥
223	SK14	陶器 碗			5.2	内・灰白5Y7/2	灰釉。 畳付以外全面施釉。		底 1/1	
224	SK14	陶器 皿			5	内・灰 <sup>リ</sup> - <sup>ブ</sup> 5Y5/2 断・灰白N7/0	灰釉。外底露胎。		底 1/4	
225	SK14	陶器 碗	10.6			内・灰白7.5Y7/1	灰釉。外底露胎。	内外数条の凹線。 被熱。	1/2 弱	関西系。 17C.か
226	SK3	陶器 碗	9.2	5.7	4.2	内・灰白10Y7/1 外・明 <sup>リ</sup> - <sup>ブ</sup> 灰5GY7/1 断・灰	内面に一条の鉄彩。厚めの灰 釉。外底露胎。		準完	関西系
227	SK14	陶器 皿			4.8	内・青灰5BG6/1 断・灰5Y6/1	内面緑釉	17ト4点か。 高台内 <sup>ハギ</sup> 痕。	底 1/1	肥
228	SK14	白磁 皿			7.7	内・灰白10Y7/1		内面菊花は型打か	1/2	
229	SK14 検面	窯道具 匣鉢	14.5			外・灰褐7.5YR4/2 断・灰白2.5Y7/1	小石を含む。硬質。	被熱,変色。	1/5	
230	SK14	陶器 火入			9.8	内・ <sup>い</sup> 褐7.5YR5/3 外・黒7.5YR1.7/1	外全褐釉。内無釉。	内面回転板 <sup>ハギ</sup> リ状痕。	2/3	

表4 観察表(土器・陶磁器) -7

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
231	SK14	陶器 皿	13.2	4.95	4.4	内・赤-ブ 灰10Y4/2 外・にぶい黄2.5Y6/3	内面緑釉	メなし	底 1/1	内野山 18前
232	SK14	陶器 皿	22	4.5	10.4	内・灰黄2.5Y6/2 断・黄灰2.5Y6/1	灰釉か。高台外まで施釉。	高台削出し。 被熱。	1/4	
233	SK14	陶器 大皿			10.5	内・灰白N7/0 外・暗灰N3/0 断・灰N4/0	内白土々	外下部がスリ。 被熱。	底 1/4	肥
234	SK14	陶器 鉢	22.7			内・にぶい褐7.5YR5/3 断・褐7.5YR4/3	白土波状々文。 外下半露胎。		1/9	肥
235	SK14	陶器 鉢	23.2			内・灰白2.5Y8/1 外・灰N4/0	内白土波状々文。 二彩。外面露胎(口縁以外)。	被熱	1/4	肥
236	SK14 TR	陶器 中甕	19.5			外・灰N6/0 断・にぶい赤褐2.5YR5/4	内面一部露胎		1/4	
237	SK14	陶器 壺	8.9	胴径 19.6		外・赤-ブ 褐2.5Y4/3 断・灰白N7/0	褐釉。内面は口縁のみ。		口 1/5	関西系
238	SK14	陶器 瓶	3.1			内・灰赤-ブ 5Y5/2 断・灰N6/0	内外灰釉		口 1/3	
239	SK14	陶器 瓶	4.2			内・灰赤-ブ 5Y5/2 断・灰N6/0	内外灰釉	被熱	口 1/1	肥
240	SK14	陶器 蓋	5.2	1.45		外・浅黄2.5Y7/4 断・灰黄2.5Y7/2	軟質。薄い透明又は緑釉。低火 度。		2/3	
241	SK14	陶器 鉢	21	11.1	10.4	外・暗褐3/3	白土々			肥
242	SK14	陶器 不				外・赤-ブ 黒10Y3/1	白土々		1/8	
243	SK14	陶器 播鉢				内・褐7.5YR4/3 外・にぶい褐7.5YR5/4 断・灰白2.5Y8/2	内外薄い釉。やや多孔質。 9mm大の小石1点含。		胴 1/8	瀬戸? 信楽?
244	SK14 検面	陶器 播鉢			13.5	外・赤褐10R4/3 断・灰N5/0			1/5	
245	SK14	播鉢	28.8			外・赤褐10R4/3 断・灰N6/0			1/8	
246	SK14	陶器 播鉢			13.6	内・にぶい赤褐2.5YR4/3		使用による摩滅	1/4	
247	SK14	陶器 播鉢				外・明赤褐5YR5/6 断・褐灰10YR4/1				
248	SK14	陶器 甕			20	外・黒褐10YR3/1 断・灰白N7/0	薄い釉。内外。	内面同心円当具痕擦消し		肥
249	SK14	陶器 甕			10.8	外・灰白7.5Y8/1	外面白色釉底面まで。その上 に褐釉。須恵器状の素地。			
250	SK14	陶器 甕			28.4	内・褐灰7.5YR5/1 外・灰赤2.5YR5/2	焼締	外底ワキに板付痕。	1/9	
251	SK14	陶器 甕	44.1			外・にぶい赤褐2.5YR5/3 断・にぶい橙5YR7/4	内外化粧土。長石、石英粒、気 孔。	内外コゲ痕	1/9	
252	SK14	陶器 甕	35.2			内・にぶい赤褐2.5YR4/3 外・青黒5PB2/1	長石、石英角粒多含。	外面微小剝離。荒れ。被熱か。	1/4	丹波 17世紀
253	SK14	陶器 甕	43.4			内・灰N4/0 外・ 々	長石角縁含	全面に小ウロコ状剝離。被熱か。	1/9	丹波 17世紀
254	SK14	陶器 甕				内・灰赤-ブ 5Y5/2 外・灰10Y4/1 断・ 々	二彩手。外・ハケ目。内・灰釉。 硬。精土。	外・強被熱	-	17C.頃
255	SK14	陶器 甕		胴径 48.8		外・暗赤褐7.5YR3/3			胴 1/5	
256	SK14	陶器 中甕	23.8			外・褐灰10YR4/1 断・灰赤10R4/2	外面多条線。薄い褐釉		1/5	
257	SK14	炆器 灯明受皿	9.3			内・灰N5/ 外・灰N4/ 外・灰黄褐10YR5/2	精土	瓦質～須恵質。外底回転ケ。	1/3	
258	SK14	土器 焼塩壺蓋	6.2	1.9		外・灰黄褐10YR5/2		器表荒れ。被熱。	2/3	
259	SK14	土器 焼塩壺蓋	8.3	2.4	7	外・灰黄2.5Y6/2		内面布痕	2/3	
260	SK14	土師質土器 小皿	9.4	1.8	6	内・灰白7.5Y7/1	精土	糸切	1/3	
261	SK14	土師質土器 小皿	7	1.5	4.3	内・にぶい黄橙10YR7/2	精土	糸切	1/2	
262	SK14	土師質土器 小皿	6.4	1.4	3.7	内・灰黄2.5Y7/2	精土	口唇部スリ。糸切。	1/4	
263	SK14 検面	窯道具 トフ			胴径 18.6	外・にぶい橙2.5YR6/4 断・にぶい橙7.5YR7/3 外・灰褐4/1	粗粒含む		1/4	
264	SK14	陶器 建水	18	6.1	17	外・灰褐4/1	外面多条。内底もウロ目。内定 と口縁に自然釉かかる。大礫 含。		1/8	備
265	SK14	瓦 軒丸	厚1.9			外・黄灰 断・黄灰	巴文。素地多孔。	内・縫糸状痕。 外・付仕上。		
266	SK14	瓦 軒平	厚2.2			外・暗灰 断・灰	唐草文	瓦当接合部に条線加工		



図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量(cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
267	SK14	瓦 丸瓦		厚 1.8		内・灰黄～薄橙 外・暗灰	多孔	内・布+縫糸痕。 外・太いコビキ。内面から被熱。		
268	SK14	瓦 丸瓦	幅 15.9	厚 2.1		外・灰褐7.5YR6/2 断・明褐灰7.5YR7/2		内・深いコビキ痕。 外・ナゲ。被熱か。		
269	SK14	砥石	幅 5.7	厚 3.1				粘板岩。使用痕。 被熱。		
270	SK15	染付 碗	10.7	5.6	4	内・灰白10Y8/1			3/4	
271	SK15	染付 小碗	10.4			内・灰白N8/0	雨降文		1/8	
272	SK15	染付 皿	12.2	2.7	7.5	外・明緑灰7.5GY8/1		輪花, 吹墨。	1/3	
273	SK15	染付 大皿			12.7	外・灰白N8/0 断・灰白N8/0	鳳凰	上手。177に近似。	1/5	有田1660 ～90年代
274	SK15	染付 小杯	7.7			内・灰白N8/0		口縁下外面屈曲	1/3	
275	SK15	染付 猪口			5.2	内・灰白N8/0	釉に微気泡	外底融着	1/4	
276	SK15	染付 瓶	胴 12.5			外・灰10Y6/1 断・灰白N7/0			頭 1/1 底 1/1	
277	SK15	陶器 碗	11.8	8.1	5	内・にぶい黄橙2.5Y6/3 外・にぶい黄橙2.5Y6/3	全灰釉。細貫入。			
278	SK15	陶器 碗	10.2	7.25	3.9	内・にぶい黄褐10YR5/3	鉄と白土で絵付。 外底露胎。		底 1/1	京都系ま たは京焼
279	SK15	白磁 壺	6.9			内・灰白N8/ 外・灰白N8/ 内・灰初-ブ	口縁のみ露胎 (体部内面は施釉)		2/5	
280	SK15	陶器か 皿	21	2.5	14.2	外・灰初-ブ 断・灰	外底露胎	被熱釉溶。 初-ブ色釉残。	1/4	
281	SK15	染付 皿			4.4	内・灰白N8/0 外・灰白N8/0 断・灰白N8/0	蛇/目触キ。外底露胎。わず かに文様。	282と同品	底 1/1	肥
282	SK15	染付 皿	11.7			内・灰白N8/0	内底釉キ	281と同品。	1/7	
283	SK15	陶器 皿	19.6			内・灰5Y6/1 外・灰初-ブ 5Y5/2 断・にぶい黄橙10YR7/2	白土ナゲ		1/7	肥
284	SK15	陶胎染付 皿	14.1	4.05	7	外・灰白5Y6/1 断・灰5Y6/1	全釉。素地灰色。	輪花	2/3	18世紀以 降か
285	SK15	土師質土器 火鉢	27	4.8	23.6	内・灰黄2.5Y6/2	石英, 長石, 金雲母含。	外面荒。内面指圧痕とコナゲ。 底内外煤け。	1/8	
286	SK15	瓦質 火鉢	27.8	9.6	24.5	外・灰黄2.5Y6/2	石英, 長石, 矽礫含。軟質。	内面下半以外荒れ(被熱か)。体 部内面コナゲ。	1/5	
287	SK17	色絵 碗			3.6	内・灰白N8/0 断・灰白N8/0	赤で3条		1/4	
288	SK17	染付 碗か				外・灰白N8/ 断・	内面・型打陽刻文	薄手。上手。	-	有田.17後
289	SK17	染付 水滴か				外・灰白N8/1	内面無釉	型作か。内面ナゲリナゲ。		
290	SK17	不 火鉢か		厚 1.1		内・にぶい黄橙10YR7/2 外・にぶい黄橙10YR7/3 断・にぶい黄橙10YR7/2	浮彫や細かい線刻。 一端面と窓状部分。精土。	内面ナゲ		
291	SK18	染付 碗 下層			4	内・灰白10Y8/1			1/3	
292	SK18	染付 皿			6	外・灰白N7/0 断・灰白N7/0	全釉。厚めの釉で, 垂れや溜り あり。	灰色。底中心が厚い。高台内に 砂。	底 1/2	
293	SK18	瓦 軒丸	径 16.8	厚 1.5		外・にぶい橙7.5YR6/4	石英, 赤い細粒, 金雲母含。	外上面ナゲリ, 内面ナゲ。		
294	SK20	染付 小碗	8.8	4.7	3.5	内・明緑灰7.5GY8/1 断・灰白N8/	釉に微気泡		底 1/1	
295	SK20	陶器 鉢			12	内・灰白7.5Y8/ 灰初-ブ 7.5Y4/2 外・褐灰10YR5/1 断・灰5Y4/1	内・白土ナゲ+透明釉	外下・回転キ	1/5	肥
296	SK20	陶器 播鉢	29.4			内・黄灰2.5Y4/1 外・暗赤灰5R4/1	硬, 細粒多含	外口縁下重ね焼痕	1/6	
297	SK21	染付 碗	8.7			内・灰N8/0	口縁内に厚釉帯(施釉後の正立 時か)		1/4	
298	SK21	色絵 碗	9.8	6.5	5.4	内・灰白7.5Y8/1 断・灰白2.5Y8/1	赤絵, 細い口ナゲ。退色。		1/3	
299	SK21	白磁 小杯			2.5	外・灰白N8/0 断・灰白2.5Y7/1	外底露胎	外・細い鑄	1/1	
300	SK21	陶器 天目碗			4.6	内・黒N2/0 断・灰白2.5Y7/1		外下・回転キ	1/2	

表4 観察表(土器・陶磁器) -9

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
301	SK21	陶器 天目碗	11.1			外・暗赤褐5YR3/3 断・褐灰10YR6/2			1/4	
302	SK21	陶器 火入	9.6	6.7	5.9	内・灰黄2.5Y7/2 外・黄褐10YR5/6 断・灰白2.5Y8/1	外・褐釉, 口縁灰釉。 内・露胎。外・回転ケ目後, 丸マ による筋。 素地多孔質。	口縁外面一定間隔で欠け(当遺 構はせぬ出土)。	準完	瀬戸 18世紀
303	SK21 検面	陶器 火入か				内・灰赤2.5YR5/2 外・灰褐7.5YR4/2	体部外面のみ褐釉。密・硬。	多角形。内ナ。内底ケル状の付 着。	1/3	備前か。 18～19世 紀か。
304	SK21	陶器 播鉢	23.8			内・灰褐5YR5/2 外・暗赤灰5R4/1		口縁外のみ光沢	1/8	
305	SK21	陶器 中甕	20.4			内・暗赤灰5RP4/1 外・暗赤灰5R3/1	外・やや厚い褐釉。 内・露胎。		1/6	
306	SK24	陶器 不				内・灰褐7.5YR4/2 外・暗赤-ブ 褐2.5Y3/3 断・灰褐5YR4/2	外・白土+透明釉。 内も薄い透明釉。			肥
307	SK25	染付 (大)皿				外・灰白5GY8/1 断・灰白N8/	内・手描と濃味濃淡	上手。大皿の底中央部。銘あり。		破片 1655～60 年代
308	SK26	白磁 皿				内・灰白N8/1	輪花	薄い。型作りか, 文様。		
309	SK26	白磁 不		厚 0.2		内・灰白N8/0 外・ 断・	陽刻文。凹部は露胎。内も釉。	施文方法不明		
310	SK26	染付 瓶			5.7	内・灰白10Y8/1 外・灰白10Y7/1	釉に微気泡。 内・露胎。	高台に粗砂	1/3	
311	SK26	陶器 皿か			5.2	内・灰赤-ブ 5Y5/2 断・灰5Y6/1	内外灰釉。貫入。	ノト	1/4	肥
312	SK26	陶器 不			6.4	内・灰白5Y8/1 断・	長石釉。外・緑釉。	ビン積み, 痕3ヶ所。外底回転ケ。	1/1	瀬・美 17前か
313	SK26	陶器 碗				内・赤-ブ 褐2.5Y4/4 断・灰	内外灰釉。精土。	外底回転ケ。露胎。	1/4	
314	SK26	土師質土器 小皿	10.5	2.95	5	外・にぶい橙7.5YR6/4 断・	精土	内底ナ。 糸切径4.9cm	底 1/1	
315	SK26	土師質土器 小皿	10.5	2.2	6.4	内・にぶい黄橙10YR7/3 外・ 6/3		黒色付着	1/5	
316	SK26	陶器 播鉢	16.9			内・にぶい黄2.5Y6/3 外・黒N21	外, 口縁黒褐釉。精土緻密。	使用摩か	1/8	
317	SK28 底	染付 皿			19.2	外・明赤-ブ 灰2.5GY7/1	青味がかった釉・全面。 体部外面丸マによる筋。	内面擦痕著。畳付等に砂。	1/5	
318	SK28 下層	陶器 鉢	17.5	6.3	5.6	外・灰白5Y8/1 断・灰黄～灰白	内・鉄絵, 草花文等。厚い志野 釉。粗。長石等。	畳付含め全釉。特に外面は厚く 凹凸。高台脇と内側各4点露胎。	底 1/1	美濃大窯
319	SK28	陶器 鉢				外・灰白5Y8/1	内・鉄絵。志野釉。やや粗。			瀬・美
320	SK28 ナ	陶器 鉢			9.2	内・灰N6/1 外・暗赤褐2.5YR3/4	外下位・ケ描波状文, 外底薄褐 釉。 内外白濁釉。	外底回転ケ	底 1/2	肥
321	SK28 底	陶器 皿	12.1	2.95	4.9	内・灰赤-ブ 5Y5/2 外・ 断・灰5Y6/1	内外灰釉	外底回転ケ。露胎。	底 1/1	
322	SK28 下層	土師質土器 小皿	11.5	2.95	6.1	外・にぶい橙7.5YR6/4 断・	精土。長石角レ少含。	糸切。	1/3	
323	SK28 上層	土師質土器 小皿	10.8	2.9	5.2	内・灰黄2.5Y7/2 断・黄灰2.5Y6/1	精土。灯明皿。	外面ナ。上げあり。糸切。口縁入 入。	底 8/9	
324	SK28	素焼 焼壺			4.1	外・にぶい褐7.5YR6/3	チャート粒	内底布状痕, 上方ナリ。 外面被熱, 荒著。	底 1/1	
325	SK28 底	陶器 播鉢	34			内・にぶい赤2.5YR 褐5/4 断・橙2.5YR6/6	斜位の播目, 口縁5cm下より。 長石等細粒。		1/5	
326	SK29	青花か 碗				内・灰白N8/0		薄手		景徳鎮か
327	SK29	陶器 鉢	36.4			内・褐灰7.5YR5/1 外・灰N6/0 断・灰褐5YR5/2	内・白土+。内外釉。	内外白濁色, 被熱か。	1/9	肥
328	SK29	陶器 中甕か	25.6			内・暗赤褐5YR3/3 外・灰褐7.5YR5/2 断・黄灰2.5Y6/1	内・褐釉, 外・露胎。		1/9	
329	SK29	白磁 小皿	9.3	1.9	4.9	外・黄灰2.5Y6/1	灯明皿。精土。	糸切。内底螺旋ケ目。	完	
330	SK31, 32, 23	磁器 皿	20.6	4.7	8	外・灰白10Y8/1		内底降灰	1/2	
331	SK31 2層	染付 皿	15.4	2.8	9	内・灰白5GY8/1 断・灰白N7/	窓内に文字	輪花, 型打。上手。ナ支え。体 部内面陽刻文。薄手。外底ナ痕 か。底やや垂下。	1/2	有田。 1655～70 年代 肥。
332	SK31	白磁 鉢	14.7			内・灰白N8/0 外・ 断・	輪花	型打。陽刻。極薄。	1/9	17後

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文 様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
333	SK31 2-3層	磁器 皿			4.5	内・明緑灰10GY7/1 断・灰白N8/0	青白釉	内底蛇ノ目、砂付着。外底露胎。	底 8/9	
334	SK31 2層	陶器 鉢	20.4			内・暗初ノブ 7.5Y4/3 外・初ノブ 黄5Y6/3 断・灰白N7/0	内・銅緑、外灰釉。	精土、薄手	1/5	
335	SK31 2-3層	陶器 小杯	5.2	4.85	3.3	内・灰白2.5Y7/1 断・灰黄2.5Y7/2	全面長石釉。 素地微孔。	高台脇ノトカ	2/5	
336	SK31	陶器 碗	11.8		6.2	外・暗赤褐5YR3/2	内外褐釉。外底露胎。多孔。	畳付摩	底 8/9	瀬・美
337	SK31 2層	磁器 人形				内・灰白2.5Y7/1 外・にぶい黄褐10YR4/3	人物の上衣部分に錆。他は露胎。	型押、貼合せ。手は差込み。		有田。 17後～ 18C.
338	SK31	磁器 像 or 水摘	幅 1.7			外・黒褐 断・灰白	獅子前足か。透明釉、足先褐釉。	底面露胎。内面中空で黒ずむ。		
339	SK31	土師質土器 皿	11.9	3.5	6	内・褐 外・々	精土	灯明皿。内底ナ。糸切。	底 1/1	
340	SK31 3層	土師質土器 小皿	8.7	1.55	5.2	外・灰黄褐10YR6/2 断・にぶい褐7.5YR6/3	灯明皿。精土、赤れ含。	煤け。糸切。	2/3	
341	SK32	染付 小碗			3.1	内・灰白N8/0	高台内・外、内底に圈線。	内底に若干の擦痕。	底 1/1	
342	SK32	色絵 碗か				内・灰白N8/0	上絵付	上絵が退色		
343	SK32	色絵 碗か				内・灰白N8/0	赤と緑か。被熱変色。			
344	SK32	青花 鉢	15.7			外・灰白N8/0 断・灰白N8/0		輪花。薄。	1/5	景德鎮
345	SK32	陶器 碗	16.1	4.5		内・灰白10Y7/1 外・々 断・黄灰	象嵌による三鳥、小丸紋、条線。 緻密で灰色の素地。透明釉に 小孔多。		1/6	尾戸か
346	SK32	陶器 皿	15.3			内・暗灰N3/0 外・灰5Y6/1 断・灰白5Y7/1	内・緑、外・灰釉。	口縁部の各後は鋭い。内・被熱 か。	1/8	内野山か
347	SK32	陶器 搦鉢				内・赤褐10R4/3 断・灰N5/0	長石等粒			
348	SK32	陶器 灯明皿	12.3			内・灰黄褐10YR4/2 外・々 断・灰N5/0	精土。硬。	粘土紐の耳を貼付。ヌカ。349と 同品だが同一かどうか不明。	1/7	
349	SK32	陶器 灯明皿			3.2	内・灰黄褐10YR4/2 外・々 断・灰N5/0	精土。硬。	外底糸切後、回転ナ。	底 1/7	
350	SK34	染付 碗	8.8	5	3.4	内・灰白N8/1			1/2	17後～18 前か
351	SK34	染付 小杯	6.5	4.4	2.5	内・灰白N8/1			2/5	
352	SK35	陶胎染付 碗	12.8	6.85	5.1	内・明初ノブ 灰5GY7/1 断・灰白N7/0	乳白色の化粧土? → 呉須 → 釉	厚手	底 3/5	
353	SK35	陶器 皿	14.0			内・灰白7.5Y7/1 外・々 断・々	外・多条凹線。透明釉。		1/8	関西系 17後頃か
354	SK35	陶器 皿	20.2			内・灰初ノブ 7.5Y5/3 外・灰白5Y8/1 断・々 2.5Y8/1	内・銅緑釉後、外・灰釉。口縁部 で掛分け。精土・微孔。	薄手	1/8	内野山か
355	SK37	染付 皿	19.5	4.2	10.8	外・灰白5GY8/1	コニク印五弁花	内底蛇目釉ナ、畳付細砂付着。 高台内かけ痕みえる。	2/3	18世紀～
356	SK38 2層	色絵 小碗			3.2	外・灰白N8/0 断・々	内・赤絵 + 花卉金彩。 外・赤絵。	絵は退色あり。	1/2	
357	SK38 下層	染付 碗	10.3	5.5	3.9	内・灰白N8/0		底厚	底 1/1	
358	SK38 1層	染付 鉢	11.9			内・灰白N8/0 断・々			1/8	
359	SK38 上層	染付 小碗	5.8	3.4	2.6	内・灰白7.5Y8/1			1/2	
360	SK38 1層	白磁 鉢	8.2	4.6	4.2	内・灰白7.5Y8/1 外・々	口縁釉ナ		底 1/1	
361	SK38 1層～下層	陶器染付 碗	10.6	6.8	3.7	内・灰白7.5Y8/1 断・々 N8/0	文様は褐色と青色。精土。	外底露胎	底 1/1	
362	SK38 下層	青磁 皿	19.6			内・明初ノブ 灰5GY7/1 外・々 断・灰白N8/0	丸ノ状工具による蓮弁状文。		1/7	
363	SK38 下層	陶器 碗	9.7			内・灰白5Y7/2 断・々 5Y7/1	化粧土(外底除く) → 褐彩 → 透 明釉。素地密。	腰折	1/5	
364	SK38 2層	陶器 小鉢	8.5	5.6	3.6	外・灰白5Y8/1 断・灰	全面白濁釉	輪花。厚手。	底 1/1	
365	SK38 2層	陶器 皿	12			内・灰白5Y8/1 断・灰白	白化粧土 → 透明釉		1/8	京都系 or 京都
366	SK38 上層	陶器 碗	9.4			外・灰白5Y7/1 断・々 5Y8/1	内外灰釉。素地細孔。	貫入顕著	1/4	瀬・美か

表4 観察表(土器・陶磁器) -11

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
367	SK38 SK40	土師質土器 皿	11.2	1.55	7.8	内・暗赤7.5R3/4 外・ 断・灰白5Y8/1	内底陽刻, 鶴など。	型打。「白土器」。暗赤色塗。灯 明皿として使用。	1/4	
368	SK38 1層	陶器 碗	(9.5)			内・にぶい黄橙10YR7/3 外・緑	外面～口縁内は灰釉。その上 に外面緑釉。点紋は銀色。中 国風の凝った意匠。	変形, 杓形か。漆継ぎか。内面 は口縁以外露胎で指痕。	1/5	17世紀か, 関西
369	SK38 2層	陶器 灯明具	3.4	1.6	2.7	内・にぶい黄2.5Y6/4 外・灰黄2.5Y7/2	細砂若干。外被熱。 上・内面薄い透明釉。		完	
370	SK38	陶器 火入	15.3			内・褐灰7.5YR4/1 外・青灰5BG5/1 断・灰赤2.5YR5/2	頸～口縁部に緑釉。下に白化 粧土。	内・露胎。口縁内端摩滅。	1/6	
371	SK38 2層	陶器 鉢	21.5			内・灰5Y4/1 断・黒褐～赤褐	内面と外面上位に初・が灰色の 灰釉。素粗粒少含。		1/4	肥か
372	SK38 2層	陶器 壺	11.6			内・赤黒2.5YR2/1 外・ 断・灰白5Y7/1	内外灰釉。外面は掛分けか。	有蓋	1/5	
373	SK38	陶器 壺	9		胴 15	内・淡黄2.5Y8/3 外・明黄褐2.5Y6/6 断・灰白2.5Y8/2	外～口縁灰釉, 鉛色, 但し口縁 端は露胎。	耳を貼付	1/4	瀬戸 18世紀
374	SK38	色絵 人形				内・灰白N8/0 断・	呉須+赤	型作り。内面指痕。底は板を貼 付け。その板上面に密な布痕。	下部	
375	SK38 2層	土師質土器 像か	長 3.15	幅 2.6	厚 0.45	内・にぶい橙7.5YR6/4 断・	小鏡。像の部品か。	型作り, 外面の2ヶ所に合わせ 目の欠りあり。内欠り。柄の差 込口は穿孔。		
376	SK38 1・2層	土師質土器 焙烙	26			内・にぶい赤褐5YR5/4 外・黒N2/0	口縁の一部を肥厚, 穿孔。長石 等粒。	外底周縁がり。 体部外面スガ著。	1/9	
377	SK39	陶器 碗	9.3	5.6	3.2	内・灰黄2.5Y7/2	鉄絵。京焼風。	外底露胎。内・使用痕なし。	底 1/1	
378	SK39	陶器 碗	9.1	5.6	2.9	内・初・ブ 黄5Y6/3 断・灰白5Y7/1	外面, 葉は緑と鉄, 枝は灰色の 絵付。	外底露胎。内・使用痕なし。	底 1/1	
379	SK39	陶器 鉢				外・灰白5Y7/2 断・灰白2.5Y8/1	内外灰釉, 外はやや黄味。精土 だが粗。	外・多条		瀬・美
380	SK40	青染付 碗	10.4			内・灰白2.5GY8/1 外・明初・ブ 灰2.5GY7/1 断・灰白5Y7/1			1/4	
381	SK40	青磁 大皿	32.6			内・初・ブ 灰10Y5/2 断・灰白N8/0	陰刻文(凹線による)	稜花	1/8	
382	SK40	染付 鉢	21.5			内・明緑灰10GY8/1	内底染付僅かに残る。青味が かった釉。		3/5	肥。 17後頃か 京信系
383	SK40	陶器 碗	10.4			断・灰黄	緑, 褐の絵付	変色。薄手。	1/7	
384	SK40	陶器 碗			3.1	外・灰初・ブ 5Y6/2 断・灰白5Y8/1	初・が灰色絵付。 内底にも2点。		底 2/3	
385	SK40	陶器 碗	9.2	5.9	3.8	外・にぶい黄2.5Y6/4	外・鉄絵, 内外灰釉。素地密。	外底, 回転。露胎。	底 1/1	
386	SK40	陶器 碗	8.9	5.45	4	外・灰白5Y7/2 断・黄灰2.5Y6/1	厚め灰釉。小孔多。	外下, 回転。露胎。	2/5	
387	SK40	陶器 火入	9.8			内・灰黄褐10YR6/2 外・灰白5Y7/2 断・10YR6/2	白化粧土+灰釉+鉄絵。 長石や気孔含むが硬い素地。	変形。内・露胎。	1/3	産地不明
388	SK40	陶器 碗	8.5			内・灰白2.5Y8/2 外・淡黄2.5Y8/3 断・灰白2.5Y8/2	絵付, 金か。黒変。	薄手	1/9	京都系
389	SK40	陶器 碗	12.5			内・にぶい黄2.5Y6/4 外・	鉄絵	平形	1/4	
390	SK40	陶器 碗			4.3	内・浅黄2.5Y7/3 外・灰黄2.5Y6/2 断・ 2.5Y7/2	内外灰釉	内底ハズレ。高台内中心を小円錐 形に残す。内底若干の擦痕。	2/3	
391	SK41	染付 皿	12	3.4	4.6	内・灰白10Y8/1 断・ N8/0	釉厚い部分あり	被熱	2/3	肥。 1630～50 年代
392	SK41	染付 皿	14.1	3.6	5.4	外・灰白10Y8/1	厚手の釉	蛇/目釉が、砂目	底 1/1	肥 17世紀
393	SK41	陶器 碗			4.3	内・灰初・ブ 断・黄灰	全灰釉, 畳付も釉がなし。精 土。		1/2	肥
394	SK41	陶器 小壺	9.9			内・にぶい赤褐5YR5/4 外・黒褐10YR3/2	褐釉, 白と褐で彩文。内・露胎。	口縁外縁連続的に欠け	1/5	
395	SK44	染付 鉢			6.9	外・灰白N8/0	線描と濃味	8角	1/2	
396	SK45	青花 皿	16.8			外・灰白N8/0	やや青味がかる釉		1/9	景德鎮
397	SK45	陶器 天目碗	11			外・暗青灰5PB4/1 断・灰N6/0～灰黄	天目釉	被熱か	1/4	
398	SK45	陶器 鉢				外・灰白2.5Y8/1 断・ 2.5Y8/2	内・鉄絵。志野釉。やや粗。		-	瀬・美
399	SK45	陶器 碗			4.4	内・灰黄2.5Y6/2 断・灰黄	灰釉, 外下位露胎。粗粒は無。 細孔。	外下位欠り	底 1/1	

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量(cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
400	SK47	陶器 搦鉢	23.7			内・赤灰2.5YR5/1 外・暗赤灰7.5R4/1 断・灰10Y6/1	堅。長石細粒等。	口縁外面帯状に自然釉	1/6	備
401	SK47	陶器 搦鉢	35			外・にぶい黄褐10YR5/3 断・灰5Y5/1	石英粒等	口縁内外若干降灰、外面ヨコナテ 痕。被熱。	1/8	丹波
402	SK48 ハ <sup>2</sup>	染付 碗	13.7	6.4	5.4	外・灰白N8/0 断・々	線描と濃味	口縁シヤブで端部わずかに外反。	1/3	
403	SK48	染付 碗	10.9			内・灰白N8/0	線描と濃淡のある濃味		1/8	肥
404	SK48	磁器 碗	10.7	6	4.3	外・明緑灰10GY8/1 断・灰白N8/0	口靴。青味のある釉調。		1/4	
405	SK48	白 小杯	8.5			外・灰白N8/0 断・々	型押による陽刻文	薄手	1/9	
406	SK48	染付 小杯			2.6	外・明緑灰10GY8/1 断・灰白N8/0	やや青味のある釉。 外底露胎。	内底周縁に円を描くような擦 痕。	底 3/4	肥
407	SK48	白磁 小杯	5.3	3.7	2.6	外・灰白5GY8/1	下部露胎	小丸ノミによる鑄	底 1/1	
408	SK48	白磁 小杯	6.7	3.95	3.1	外・明初ブ 灰5GY7/1 断・灰白N8/0			準完	
409	SK48	染付 仏飯	8.75	6.05	4.3	外・明緑灰7.5GY7/1 断・灰白N8/0			準完	
410	SK48 ハ <sup>2</sup>	染付 皿	14.3	2.55	6.6	外・灰白N8/0	芙蓉手	段皿	1/4	肥。1650 年代頃
411	SK48	染付 皿			5.4	外・灰白N8/0 断・々	底部は厚く、やや焼不良	花型	1/5	肥前系
412	SK48	染付 皿		器厚 0.35		外・灰白7.5Y8/1 断・々	焼不良気味	シヨ葉か、型打陽刻に具須。或は 糸切細工か。「宣徳年製」。	破片	肥。17後
413	SK48	染付 瓶				内・灰白N8/0 外・々	内露胎		頭 1/5	
414	SK48	陶器 皿				内・青 外・明青 断・灰白2.5Y8/1	内外青釉。明色の精土。	菊花。型打。	破片	中国。 16C.
415	SK48 ハ <sup>2</sup>	色絵 小皿	8.3			外・5GY 灰白8/1 断・N 灰白8/	内底に緑色絵付	型打。輪花。変形皿か。	1/4	
416	SK48 ハ <sup>2</sup>	青磁 香炉	10.9			内・橙5YR6/6 外・初ブ 灰2.5GY6/1 断・灰白N8/0	外面浅い凹線。内露胎。	素地釉からみて416aと416bは 同一個体か。	1/4	
417	SK48	陶器 皿	12.4			内・初ブ 灰 外・灰白5Y7/2 断・々 5Y8/1	外・灰釉、内・銅緑釉。	(418)と同一個体かと思われる 諸属性を有するが、外底の施釉 範囲に不整合の可能性もみられ る。	1/7	内野山
418	SK48	陶器 皿			4.9	内・暗緑灰5G3/1 外・灰 断・灰白2.5Y7/1	内・銅緑、外底露胎。 黒細粒多含。	蛇ノ目軸ハキ、砂目4点。高台内ナ リ工具痕。	底 1/1	内野山
419 -12	SK48	陶器 甕	30.7			内・初ブ 黒7.5Y3/1 外・黒7.5Y2/1 断・灰褐	黒褐色釉をヨコ塗り。その釉 を掻きとって施文。口縁外に 白釉1点。長石細粒、赤い含。	胴部に獅子頭を貼付。口縁上面 5条の凹線。	1/9	
420	SK48 ハ <sup>2</sup>	陶器 蓋	13.4			内・にぶい橙7.5YR6/4 断・にぶい黄橙10YR6/3	内面と天井外面周縁に褐釉、他 は露胎。精土。	天井外、飛鉤	1/4	
421	SK48	陶器 瓶			9.4	内・明褐灰7.5YR7/2 外・黒褐5YR2/1	外・底まで全褐釉。内露胎。赤 い、長石の微細粒。	縦に凹ませる。	底 2/3	
422	SK48	土師質土器 焙烙				内・黄灰2.5Y5/1 外・黒N1.5/0黒 断・灰白2.5Y7/1	小角礫(花崗岩由来か)多含。	外面ヌケ。口縁外下ヌケ著。	1/10	
423	SK48	陶器 皿か鉢				内・にぶい黄橙10YR7/2 外・灰黄褐10YR6/2 断・にぶい黄橙10YR7/2	内・杓状工具による刻文+部分 的に緑釉。やや粗。	外面・回転による条線。	-	瀬美。 17C.か
424	SK48	陶器 -				内・にぶい赤褐2.5YR5/4 外・暗赤褐2.5YR3/4	外・褐釉。精土。	瓶類か。内底凹目。外底ケ。	-	
425	SK48	土師質土器 小皿	8.2	1.75	3.5	外・灰白2.5Y7/1	精土	内底螺旋痕、外面ナゲ上げ、糸切 痕。	2/3	
426	SK48	土師質土器 小皿	8.4	1.95	6.4	外・黄灰2.5Y6/1 断・にぶい褐7.5YR6/3	精土	糸切	1/3	
427	SK48	陶器 小瓶			4.9	内・暗赤褐5YR3/4 外・灰褐5YR4/2 断・にぶい赤褐5YR5/4	自然釉、窯変による景色あり。 細粒含。	糸切	底 1/1	備か
428	SK48	陶器 搦鉢			12	外・にぶい赤褐2.5YR5/4	長石粗粒等	使用摩	3/5	
429	SK48	陶器 搦鉢	26.7	11.75	7.4	外・褐灰7.5YR5/1 断・にぶい橙2.5YR6/3	長石、赤い含。	使用摩	1/9	備
430	SK48	陶器 搦鉢	22.8			内・褐灰5YR4/1 外・々 10YR4/1 断・灰N6/0	環元された黒色細粒含。堅。	口縁外面窯変。	1/5	備

表4 観察表(土器・陶磁器) -13

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
431	SK48	陶器 搦鉢	16.4			内・黄褐10YR5/6 外・暗赤褐5YR3/4 断・黄灰	内・薄い褐釉。 外～口縁内赤褐釉	外底露胎。 内摩耗なし。	1/9	
432	SK48	陶器 鉢			15.1	内・灰褐5YR4/2 外・灰赤2.5YR4/2 断・にぶい赤褐5YR5/4	全面薄い褐釉。長石細粒。	外底テ	1/2	
433	SK48	瓦 丸瓦			厚 2.1	外・灰 N4/0 断・ N6/0	斜条線。硬。燻され、内・外面 銀色。		-	
434	SX5	染付 碗			4.3	外・明赤-ブ 灰25GY7/1 断・灰白 N8/0	内底も手描	内底に細かい使用痕。底やや厚 手。	1/3	
435	SX5	染付 碗			4.9	外・灰白 N8/0 断・ク		内底に細かい使用痕。底やや厚 手。	1/2	
436	SX5	染付 碗			4	外・灰白 N8/0 断・ク	外底も手描		底 1/3	
437	SX5 IV層	染付 碗			4.4	外・灰白 N8/		「宣徳年製」	底 4/5	
438	SX5 1層	染付 筒形碗				内・灰白10Y8/1			1/3	
439	SX5	染付 皿	15.2			外・明緑灰10GY8/1	線描+濃味。 内・呉須が流れている。		1/5	肥
440	SX5	染付 皿	14.6			外・灰白 N8/	線描+濃淡の濃味。丁寧で繊 細。		1/6	有田か
441	SX5 II層	白磁 碗	14.6			外・灰白 N8/0 断・ク			1/7	
442	SX5	色絵 鉢	11.1			内・灰白 N8/	赤絵	蓋受部露胎。上絵退色。	1/7	
443	SX5 3層	染付 花瓶			5.5	外・灰白 N8/0 断・ク	内面と畳付は露胎		3/4	
444	SX5	白磁 皿			5.2	外・灰白 N8/0 断・ク	内定に印刻文	畳付以外全釉	1/3	
445	SX5	青染付か 碗	12.5			内・灰白10Y7/1 外・赤-ブ 灰5GY5/1	外面と口縁内は青磁釉。素地 は陶胎風。		1/5	
446	SX5 III層	青磁 火入	10.8	7.6	8.0	内・灰白5Y7/1 外・明赤-ブ 灰2.5GY7/1 断・灰白 N8/0	内・露胎, 外底釉ハギ。	口縁に使用痕なし。内面下位若 干スツカ。	1/3	
447	SX5	磁器 瓶か			7.8	内・灰白 N8/ 外・ 断・灰白5Y8/1	内外釉	高台角面取り。 外底露胎。	底 1/1	
448	SX5 III層	青花 皿				外・灰白 N8/0 断・ク			-	明末清初
449	SX5 III層	染付 仏飯具			4.5	外・灰白 N8/0 断・ク	外面条線	外底露胎	底 1/1	
450	SX5	青白磁 皿	13	3.5	8.4	外・明緑灰7.5GY8/1 断・灰白10Y8/1	菊花	型打。蛇目高台。内底ピン跡。 高台脇融着物。	2/3	
451	SX5	陶器 蓋	9.4			外・灰黄褐10YR4/2 断・黄灰2.5Y6/1	白土ハ	口縁のみ露胎	1/8	肥系
452	SX5 IV層	陶器 碗	9.3			外・暗褐7.5YR3/3 断・灰	内外薄い褐釉。硬。	陶器としては薄手。	1/4	
453	SX5 IV層	陶器 皿			4.8	内・赤-ブ 灰5Y6/2 断・にぶい黄橙10YR7/2	灰釉, 外底露胎。精土, 細粒。	高台は粗いケスリ出し。胎土目。	1/3	肥 (胎土目)
454	SX5 IV層	陶器 碗	9.5			外・暗灰黄2.5Y5/2 断・黄灰2.5Y6/1	内外灰釉(伊羅保風)		1/8	
455	SX5	陶器 皿	11	4	5.6	外・灰白5Y7/2 断・黄灰2.5Y6/1	灰釉, 畳付のみ露胎。精土。や や不良。	腰折	2/5	
456	SX5 IV層	陶器 壺	9.6			外・にぶい黄褐10YR5/4 断・淡黄2.5Y8/3	外～口縁内外: 褐釉	肩上部に小円貼付。口縁上端に 蓋痕。	1/4	瀬・美か
457	SX5	陶器 火入			12	内・黒 N2/0 断・灰白2.5Y7/1	内外黒褐釉。素地気孔。	外底露胎, ケスリ。 貼付脚。内底メト。	1/6	瀬・美か
458	SX5 4層	陶器 鉢			4.5	外・灰白2.5Y8/2 断・ク 2.5Y8/1	217と同一意匠の別個体	織部	1/4 か	瀬・美
459	SX5 I層	陶器 甕			19.2	内・灰赤2.5YR4/2 断・黄灰2.5Y6/1	内外褐釉, 内面に横位のメカ。 密な素地。	外底露胎	1/5	
460	SX5 I層	陶器 甕又は鉢			17.1	外・にぶい赤褐5YR4/3 断・灰白	全面褐釉, 外面黒釉掛流し。 硬, 小孔。	底の内外に長石・石英粗粒付着 (施釉後)	1/5	
461	SX5 I層	陶器 搦鉢	36	12.7	16.8	外・にぶい赤褐2.5YR5/3 断・明赤褐2.5YR5/6	長石粒等	断面色キントイナ状。使用摩。外テ。	1/2	
462	SX5 上層	陶器 搦鉢	34.5			外・にぶい赤褐2.5YR5/4 断・ク	細粒		1/11	
463	SX5	瓦 軒平		瓦当 高4.3			赤レキ他僅か	内側にキ粉か	-	
464	SX5 IV層	土師質土器 皿	9.8	1.9	6.2	外・にぶい黄橙10YR6/3 断・ク	赤レキ等	手捏ね, 外底粗布と複数の糊痕。	2/3	
465	SX5	土師質土器 小皿	8.6	2.25	5.2	外・にぶい黄橙10YR6/3 断・ク	赤レキ等	灯明皿	3/4	
466	SX5 IV層	土師質土器 杯か			7.4	外・灰白5Y7/1 断・ク	チャート粗粒僅か	糸切。摩。	1/6	

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量(cm)			色 調	文 様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
467	採取	染付 碗	11.5			内・灰白N8/0 断・ 〃			1/5	
468	採取	染付 碗			3.9	外・灰白N8/0 断・ 〃	素地やや黄		1/1	能茶山
469	MWN 検出面	染付 碗			3.2	外・灰白5GY8/1 断・灰白N8/ 〃		内底摩。高台内に銘あり。		
470	MES 攪乱	染付 大碗か鉢	14.8			内・灰白N8/0	光沢あり		1/10	肥。 18前頃
471	MWS 攪乱	染付 大皿			16	外・灰白5GY8/1	手描+濃味	上手	1/9	有田。 1730～60 年代頃
472	MEN 採取	染付 皿			7.6	外・灰白N8/0	墨弾き。濃味は整った濃淡で かき分け。	上手。被熱。	1/4	有田。 1660～90 年代
473	MEN 採取	染付 皿	12.7	2.9	5.9	外・灰N6/0 断・灰白N7/0	灰色。外・釉厚めで垂れあり。	高台小径。畳付砂付着。	底 1/1	肥前・ 有田 以外か。 1650～60 頃
474	MEN 検面上	色絵 皿(大)	22.7	6.9		外・灰白10Y7/1 断・灰白5Y7/1	全釉。内・圈線は赤、唐草文様 は緑か、退色。外・赤絵。素地 灰色。		底 1/6	肥。 1650 年代頃
475	MEN 上層	陶器 碗			4.6	外・灰白10Y8/1 断・灰白	白濁釉。外面は微気泡多。細粒 含、やや粗。	外底露胎。ケリ後、高台中央に 螺旋削込み。	底 1/1	瀬・美か
476	MEN 採取	陶器 向付		8.9		外・灰白2.5Y7/1 断・ 〃 2.5Y8/1	鉄絵。志野釉。粗。	茶道具。隅九方形。外隅に丸ミ による縦凹線。口縁下にるい座 (貼付)。	1/3	瀬・美 17前
477	MW 北西 攪乱	陶器 鉢	18.9			外・灰白N8/0 断・灰黄2.5Y7/2	鉄絵。志野釉。やや粗。		1/12	瀬・美
478	MEN 採取	陶器 鉢				外・灰白2.5Y8/1 断・ 〃	鉄絵。志野釉。やや粗。	外面気孔多	-	瀬・美
479	MES 攪乱	陶器 (台皿)	14.7	5.25	5.5	外・灰白5Y7/1 断・ 〃 5Y8/1	鉄絵。やや粗、黒粒含。	貼付高台。ヒン積み痕。	底 1/1	瀬・美 初期
480	MWN 攪乱	陶器 皿			4.1	内・灰白-プ 5Y5/3 外・灰黄褐10YR6/2	灰釉	内底胎土目、摩。外底糸切後、削 出し、露胎。	1/1	肥系
481	MEN 攪乱	陶器 鉢			13.2	外・灰白2.5Y8/1 断・ 〃 2.5Y8/2	鉄絵。志野釉。精土だがやや 粗。	全釉。外底付は扱れたものあ り。72と同名。	1/4	瀬・美 16末～ 1610年代
482	MW. 検面	土師質土器 泥面子	径 2.35	全厚 0.7		外・にぶい橙7.5YR7/4 断・ 〃			準完	
483	MWN 攪乱	骨角製か	全長 4.65	全幅 4.2	全厚 1.55	外・にぶい黄橙10YR7/3	鮑形	ボタン状に穿孔	完	
484	MEN. A層	土師質土器 紡錘車	径 5.2	全厚 1.25		外・黄灰2.5Y6/1	長石、赤レキ、雲母or火山がら。	片面・削れ痕、他面・回転させてナ デ <sup>レ</sup> 仕上。	完	
485	TR1	瓦 平瓦		全厚 1.65		内・灰N4/0 断・灰白2.5Y7/1	粗粒。不良。	「源秋」「本用信質」	-	
486	MW	陶器 碗	9			外・灰白5Y7/2 断・ 〃 5Y8/1	薄い鉄絵。透明釉		2/5	
487	MW	染付 小杯	7.5			内・灰白N8/0			1/6	
488	MW S Ⅶ層	陶器 碗				外・灰白N7/0 断・灰黄褐10YR6/2	薬灰風釉。鉄彩。		1/8	肥系
489	MW S Ⅶ層	陶器 碗				外・暗灰黄2.5Y4/2 断・黄灰2.5Y5/1	白土々。硬。		-	
490	MW S Ⅶ層	陶器 碗				内・灰白7.5Y7/1 外・暗褐7.5YR3/4 断・灰白5Y7/1	外・褐釉+盛り上がった白釉。 内・灰釉。やや粗。	沓形碗か	-	瀬・美か
491	MW S Ⅶ層	窯道具 チャツ	7.6	1.75	3.8	内・淡黄2.5Y8/3 断・灰白2.5Y8/2	やや粗	自然釉か。糸切とみられる。	1/4	
492	MW S Ⅶ層	土師質土器 焙烙	31.4			内・灰黄褐10YR6/2 外・黒N2/0 断・灰黄褐10YR6/2	石英・長石、赤レキ、円粒。硬。	外スサ著。外底荒。内底黒変。	1/9	
493	MEN ハ <sup>2</sup> SK12の上	染付 蓋付鉢	11.4			内・灰白N8/0	獅子と牡丹唐草	口縁釉ハキ	1/5	
494	ハ <sup>2</sup>	陶器 鉢			5.5	外・灰白N8/0 断・ 〃 2.5Y8/2	鉄絵。厚い志野釉、やや粗。	畳付含め全釉。畳付非摩。	1/2	瀬・美
495	MW. TR2ハ <sup>2</sup>	染付 蓋	9.9	2.9	摘径 3.7	外・灰白N8/0	望料碗蓋。薊文。	「富貴長春」。上手。	摘み 1/1	有田。 18中
496	ハ <sup>2</sup> 下層	染付 蓋			摘径 5.8	外・灰白5GY8/1				
497	ハ <sup>2</sup> A層	陶器 碗		器厚 0.4		内・灰褐7.5YR5/2 外・灰白5Y7/2	外・化粧土+鉄絵+透明釉。粗、 硬。	型作りとみられる変形。沓形 か。	-	関西系
498	MES ハ <sup>2</sup>	陶器 碗	10.3			内・灰白2.5Y7/1 外・暗緑灰10G4/1 断・灰白2.5Y8/1	外・緑。内・透明掛分け。素地非 密。		1/4	

表4 観察表(土器・陶磁器) -15

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
499	ハ <sup>2</sup> A層	陶器 碗	10.5			内・灰白-ブ 5Y6/2 外・ 断・灰N6/0	内外白土々		1/8	肥系
500	MESハ <sup>2</sup> B層	陶器 皿か鉢			6.4	外・灰N5/0 断・ぶい橙7.5YR6/4	内面鉄絵・灰釉。外底露胎。素地、表面とも粗。	砂目。高台内螺旋削。	底 8/9	福岡 17前か 関西系 18C.頃か
501	ハ <sup>2</sup> A層	陶器 不				内・灰白2.5Y7/1 外・赤-ブ 黒10Y3/2 断・灰白5Y7/2	外面緑釉、金属光沢あり。型による梅・松文、小点。やや粗。低火度。	内・押圧痕。型押。一端に剥離痕。置物等か。	-	
502	ハ <sup>2</sup>	陶器 皿			18.3	断・灰白5Y7/1	三彩。毛彫り。 精土・非硬。	底面露胎・回転け。被熱。	1/4	明末 16C.か
503	ハ <sup>2</sup>	陶器 皿	13.8	2.9	4.2	内・ぶい黄橙10YR7/2 外・ぶい黄橙10YR7/2	釉白濁。外底露胎。精土。	溝縁。内底周縁に段。畳付の一部が切れ、下に糸切状の痕みえる。糸切→高台削出→高台付足しか。	底 1/1	肥。 胎土目
504	ハ <sup>2</sup>	白磁 壺	6.1			内・灰白10Y8/1 外・ 断・ 断・ 断・			1/3	
505	ハ <sup>2</sup> B層	陶器 壺	7.9			内・褐灰5YR4/1 断・灰褐5YR4/2	外・白土々+褐釉 内・灰釉		1/8	肥
506	ハ <sup>2</sup>	陶器 瓶	胴径 13.1		9.9	内・灰褐7.5YR5/2 外・黒褐7.5YR3/2 断・灰N4/0	褐釉。硬、薄手、砂粒。	内面と外底は露胎。上胴部に明確な接合部。頸部はロロ目著。	底 1/1	関西系
507	MES ハ <sup>2</sup> 包	陶器 瓶	胴径 9.8		5.8	内・黄灰2.5Y6/1 外・灰白-ブ 5Y6/2 断・灰白2.5Y7/1	全灰釉、2度掛け、外下に褐色斑。粗。	外下半スリ、内凹目。いわゆる貧乏徳利。	底 1/1	瀬戸
508	ハ <sup>2</sup> A層	土師質土器 皿	11.5	2.05	6.8	内・灰白2.5Y8/1 外・灰白2.5Y8/1		内底型押陽刻文。 煤又は墨付着。	1/2	尾戸「白土器」
509	ハ <sup>2</sup> A層	土師質土器 小皿	8.95	1.4	4.75	内・灰黄2.5Y7/2		灯明皿。煤・付着物。糸切。	1/1	
510	MESハ <sup>2</sup>	土師質土器 泥面子	径 2.4	厚 0.7		内・ぶい橙7.5YR7/3 外・ぶい橙7.5YR7/3				準完
511	W.包	染付 小碗	7.3	3.95	3.15	外・灰白10Y7/1 断・ 断・ 断・	雨降文		底 1/1	
512	W.包	染付 小碗	8.8	5.05	3.6	外・灰白7.5Y7/1 断・ 断・	雨降文。釉やや黄。		底 1/1	
513	W.包	染付 蓋	10.5	2.2	摘径 5.3	外・灰白N8/	絵付優美		1/8	
514	W.包	染付 碗	10.5	5.5	3.4	外・灰白5GY8/1	光沢あり。素地ややガラス質。		2/5	瀬・美。 18初～か 肥前
515	W.包	染付 大碗			7	外・灰白2.5Y8/2 断・ 断・		内底五弁花の手法は不明。底部内外釉にピンホル。内底摩、使用痕か。素地焼結はやや弱。		
516	W.包	染付 仏飯具			4.4	内・灰白5Y8/1 外・ぶい橙5YR6/4 断・灰白N8/0	白濁釉	脚露胎、酸化色。上部を打ち欠き、転用。	脚 1/1	
517	W.包	染付 壺	6.4			外・灰白N8/0 断・ 断・	内外釉	口縁内露胎	1/1	
518	W.包	染付 花瓶				内・灰白N8/0 外・ 断・	内外釉		1/2	
519	W.包	染付 仏花器				外・灰白10Y8/1		上下を接合	脚 1/5	
520	W. 近代	染付 小杯	3.9	1.85	1.9	外・灰白N8/0 断・ 断・	白濁釉	「紅小やみ」	1/2	
521	W.包	染付 皿	20	3.3	12.8	外・明緑灰7.5GY8/1	手描に細かく濃味を加える。見込み松竹梅か。	型打・輪花。上手。	底 1/4	有田.18後
522	W.包	青磁 火入			胴 9.5	内・明赤-ブ 灰5GY7/1 外・緑灰7.5GY6/1 断・灰白N8/0	素地外面・断面低台形の凸帯を削出し、さらに凹縁。	一部被熱	1/5	
523	W.包	青磁 火入			6.3	内・灰白N8/0 外・明緑灰10GY7/1				
524	W.包	青花 碗	12.1			内・灰白N8/0 断・ 断・		薄手	1/5	景德鎮
525	W. 近代	窯道具 ハマ	径 10	全厚 1.6		外・灰黄褐10YR5/2 断・灰5Y5/1	硬、密。	両面仕上げ時の条痕。	1/5	
526	W. 近代	土師質土器 泥面子	径 2.3	全厚 0.7		外・ぶい黄橙10YR 7/4	良			完
527	W. 近代包	陶器 植木鉢	32.2	25	18.7	内・ぶい赤褐5YR4/4 外・赤-ブ 灰10Y4/2	内面と外底は渋釉々塗。口縁内～外面緑釉。龍浮文。雷文や芭蕉文は型押。粗、長石、赤れ、若干の大円粒含。	底に円孔。畳付摩。	1/4	瀬・美
528a	SX4	陶器 壺			11.8	内・暗灰黄2.5Y5/2 外・灰褐5YR4/2 断・灰黄2.5Y6/2	外・褐釉。素地密。	内・同心円当具痕をすり消す。外・若干のヘラケ状痕。	1/5	肥
528b	SX4	陶器 壺				内・暗灰黄2.5Y5/2 外・黒2.5Y2/1 断・灰黄2.5Y6/2	褐釉。内面は一部釉。やや粗。	内・同心円当具痕をすり消す。接合痕。	-	肥



図版 No.	出土位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・年代等
			口径	器高	底径					
529	SR1最下 (MEN~E)	土師質土器 釜	18.2			内・にぶい褐7.5YR5/3 断・々7.5YR6/3	硬。長石等微細粒。	外・鏝下ヌケ著。内も黒変。	1/8	播磨系/15 世紀
530	SR1最下 (MEN~E)	土師質土器 釜				外・灰黄褐10YR5/2 断・にぶい褐7.5YR6/3	硬。長石等細粒。	外・タタ。鏝下ヌケ。内も黒色付着。	-	播磨系/15 世紀
531	SR1最下 (MEN~E)	瓦質 鍋	23.4		胴 25	外・灰N4/0	長石微細粒。	外・指痕。下方からヌケ著。口縁コナテ。	1/8	在地/室町
532	SR1最下 (MEN~E)	瓦質 鍋				外・灰N5/0 断・灰白N7/0	精土。若干の微気孔。	外・指痕。口縁コナテ。	-	
533	SR1最下 (MEN~E)	土師質土器 皿			5	外・褐灰10YR4/1 断・にぶい橙7.5YR6/4	精土。灯明。	内外付着物。特に外面煤著。糸切。	1/1	
534	SR1最下 (MEN~E)	土師質土器 杯	11.1			外・にぶい橙7.5YR7/4 断・々 5YR6/4	精土	口縁端部シャブ。ワコ成形。	1/4	
535	SR1-1 (MEN)	瓦器 椀			46	内・黄灰2.5Y5/1 外・灰白2.5Y7/1 断・灰白2.5Y8/1	内底・格子ミガキ。若干の赤い等。	外底押圧痕	1/4	和泉型 12末~13 前
536	SR1-1 (E区)	青磁 碗	13.9			外・明切ノ灰5GY7/1 断・灰白N7/0	蓮弁文(片刃彫)		1/9	龍泉窯系。 鎌倉後~ 室町前
537	SR1-2 (E区)	青磁 碗				外・明切ノ灰2.5GY7/1	蓮弁文	太宰府 I-5類	-	龍泉窯系/ 鎌倉
538	SR1最下 (MEN~E)	青磁 碗				外・初ノ黄5Y6/3 断・黄灰	焼不良		-	龍泉窯系。 15世紀か
539	SR1最下 (MEN~E)	青磁 碗				外・灰7.5Y6/1 断・灰		比較的薄手。内底使用擦痕。高台内橙色。	-	中国 中世
540	SR1最下 (MEN~E)	土師質土器 焼塩土器				外・灰白10YR8/2 断・々	泥岩等小円粒。軟。	摩。内・布痕か。	-	古代前期
541	SR1	石製品 五輪塔	全長 22.2	直径 15			花崗岩	底部軸受は基部が凹む。下端に刻みor疵。		空風 輪完 形
542	SR2 下層	土師質土器 杯	12.4	3.9	7	外・灰白2.5Y7/1 断・々	赤い多	糸切。摩。	2/3	室町
543	SR2 上層	土師質土器 杯	12.4	4.3	6.9	外・にぶい黄橙10YR7/3 断・々	赤い他微細粒	摩。糸切。	底 1/1	中世
544	SR2 上層	土師質土器 杯	12.05	4.4	7.1	外・灰黄2.5Y7/2 断・々	赤い多含	摩。糸切後ノコ状痕。口縁部に黒変部。	3/4	中世
545	SR2 上層	土師質土器 杯			7.4	外・橙7.5YR6/6 断・々	赤い	糸切	1/2	中世
546	SR2 上層	土師質土器 杯	11.4			外・にぶい黄橙10YR6/4	精土		1/7	
547	SR2 下層	土師質土器 杯	12	3.85	7.2	外・灰白5Y7/1 断・々	やや粗	内底にテ。内底周縁の一部は指で押されて歪む。糸切。	1/3	中世
548	SR2 上層	土師質土器 皿	12.7	3.9	7.8	内・灰白色10YR8/2 外・にぶい黄橙10YR7/2	内面比較的滑らか、テ仕上。細粒含。	糸切後、ノコ状痕。内外に煤様の跡。	1/4	15世紀後 葉
549	SR2 中層	土師質土器 皿	14.3			外・にぶい橙7.5YR7/4 断・々	砂粒	摩	1/9	中世
550	SR2	土師質土器 杯			7	内・にぶい褐7.5YR6/3 外・灰黄褐10YR6/2	微細粒		1/11	
551	SR2 上層	土師質土器 杯			6.8	外・浅黄橙10YR8/3	赤い	糸切	1/4	中世
552	SR2 上層	土師質土器 小皿	6.4	1.7	4.5	外・にぶい橙7.5YR7/3	細粒	糸切。摩。	1/3	
553	SR2 上層	土師質土器 -	全径 3.6	全厚 0.5		外・にぶい黄橙10YR7/3	赤い等多含	上面螺旋。下面糸切後線状圧痕。	1/1	
554	SR2 検面	瓦質土器 釜	25			内・灰N4/0 断・灰白N7/0	やや粗	体部外指痕。煤著。	1/5	在地/室町
555	SR2 下層	瓦質土器 皿	19.2			外・灰N6/0 断・灰白5Y7/1	細粒	内面滑。摩。	1/9	中世
556	SR2 中・上層	陶器 柄付片口	15.6	7.5	9.8	内・灰白5Y7/2 外・々 5Y7/1	灰釉	外・釉剥離。本来下半は露胎か。外底やや黒変。糸切。	2/5	14世紀頃 古瀬戸中 期
557	SR2 中層	石製器 鍋	29		銜径 30.5	外・黒N1.5/0 断・灰白N7/0	滑石	外面黒付着。口縁上端面線擦痕著。	1/10	中世前期 彼杵半島
558	SR2	須恵器 椀			6.6	内・灰白2.5Y8/1 外・々	精土	高台シャブで畳付凹。内・ミガキ。体部外面回転。内底重ね焼変色。摩。	2/3	

表4 観察表(土器・陶磁器) -17

図版 No.	出土 位置	種類 器形	法量 (cm)			色 調	文様・釉薬・胎土	特徴(成形・銘等)	残存	産地・ 年代等
			口径	器高	底径					
559	SR2 上層	須恵器 杯蓋か				外・灰7.5Y6/1	長石粒	天井ハ切後、フ。内面中央極め て滑らか。転用石見の可能性。	1/3	古代前期
560	SR2 上層	須恵器 杯蓋	15.1			外・灰白7.5Y7/1	口縁外面凹線、内面下方に突。	外全面に回転スリ。	1/8	8世紀前葉
561	SR2 下層	須恵器 杯蓋	12			外・灰N6/0 断・ク	密	薄手	1/8	古代前期
562	SR2 下層	須恵器 杯又は皿			15.8	外・灰白2.5Y8/1 断・ク	非硬	畳付弱凹線。摩。	1/11	古代
563	SR2 下層	須恵器 甕				内・灰白7.5Y8/1 外・ク	軟	外・格子クサ。 内・当具痕。摩。	-	古代
564	MWN 集中1	土師質土器 小皿	5.3	1.85	4	外・にぶい黄橙10YR7/2 断・灰白10YR7/1		糸切	1/4	
565	集中1	土師質土器 小皿	6.7	1.4	4.25	内・にぶい黄橙10YR7/2 外・ク	精土、やや軟	糸切	完	
566	集中1	土師質土器 小皿	6.45	1.35	4.45	内・にぶい黄橙10YR7/3 外・ク	精土、やや軟	糸切	完	
567	集中1	土師質土器 小皿	6.9	1.35	4.4	内・灰黄2.5Y7/2 外・ク	精土	糸切	底 1/1	
568	集中1	土師質土器 小皿	6.75	1.35	4.2	内・灰黄2.5Y7/2 外・ク	精土	糸切	完	
569	MWN 集中1	土師質土器 杯	11.7	3.55	7	外・にぶい黄橙10YR7/2	精土	摩。糸切。	2/3	中世
570	MWN 集中1	土師質土器 杯			5.7	外・にぶい黄橙10YR7/2 断・ク	赤れ含	摩。糸切。	1/5	中世
571	MWN 集中1	土師質土器 杯			8.5	外・にぶい橙7.5YR7/4	やや硬。粗粒若干。赤れ含。	糸切	1/4	中世
572	MWN 集中1	土師質土器 杯			14.5	外・にぶい橙7.5YR7/4 断・ク	粗粒、赤れ含		1/8	
573	MWN 集中1	土師質土器 土鍾	全長 3.7	全幅 2.05	孔径 0.7	外・にぶい黄橙10YR6/3	石英、長石等細粒多含。やや 硬。	摩耗非著	完	
574	MWN 攪乱	青磁 碗				外・釉-ブ 灰5GY6/1 断・灰白N7/0		太宰府 I -5類	-	龍泉窯 13世紀
575	ハ 2 A層	青磁 碗				外・明緑灰7.5GY7/1 断・灰白N8/0	鎚蓮弁			龍泉窯系
576	MEN 上層	青白磁 碗				内・明緑灰5G7/1 外・明釉-ブ 灰5GY 7/1 断・灰白N8/0	内・片刃彫		-	中世前期
577	SK11	青磁 碗	13			外・釉-ブ 灰5GY6/1 断・灰白N7/0	外面雷文帯		1/8	龍泉窯系 C2
578	SK48	青磁 碗	13			内・灰5Y6/ 1 外・灰7.5Y6/1	沈線による凝雷文帯		1/6	龍泉C3 室町
579	SK9	青磁 碗				内・灰釉-ブ 5Y6/2 外・灰釉-ブ 5Y6/2 断・灰白N7/0	高台内露胎	内底に圈線。摩。	1/4	龍泉窯系
580	MWS TR最下	青白 or 白 皿			5.5	内・明釉-ブ 灰2.5GY7/1 断・灰白N8/0	内・毛彫	外底削り出し。畳付平滑。	1/2	中国 中世
581	MW 北西 攪乱	白磁 皿			4.1	外・灰白2.5Y8/1 断・ク		外底露胎、かた削痕。	2/5	華南 15世紀中 〜後
582	SK46	瓦器 碗			4.8	内・橙灰〜暗灰 外・灰白2.5Y7/1 断・ク	ミガキ不明。石英粒少、長石微 粒。	高台は明瞭な断面三角	底 2/3	(古代末 〜)中世前 期
583	MWS TR1最下 (Ⅷか)	土師質土器 碗			5.7	外・にぶい橙5YR7/3	精土。泥岩小円粒、長石細粒 含。	摩著	1/4	11世紀頃
584	SD3	土師質土器 碗か杯			6.3	外・明褐灰7.5YR7/2		糸切。摩。	底 1/1	平安
585	SK26	土師質土器 杯か			5.4	外・にぶい黄橙10YR7/3	精土	糸切	1/3	平安後期 頃
586	SK6	瓦質 鍋	20.6			内・灰N5/1 外・灰N4/1 断・灰N5/1		内面はヨコをナゲ 消しか。	1/7	中世。 土佐型。
587	MEN TR	土師質土器 釜	24.8			内・にぶい橙7.5YR7/4 外・褐灰7.5YR5/1	長石、石英細粒。	外・クサ、内・ヨコハ。 播磨型。	1/9	室町
588	SX5	須恵器 蓋	10			外・灰白2.5Y7/1 断・ク	やや不、赤れ。	摩	1/9	飛鳥藤原 期
589	MEN	須恵器 壺				外・灰白N7/0 断・ク 2.5Y7/1	長石粒等		1/3	古代
590	TR1-MWS	陶器 播鉢	27.9			外・にぶい赤褐2.5YR4/3 断・灰白N7/0	硬。長石等。	播目認む	1/9	備前IVか
591	SK1	陶器 播鉢	29.6			外・黄灰2.5Y5/1 断・にぶい赤褐2.5YR5/3	長石粒等	全摩	1/8	備Ⅲ期 中世
592	SK48	陶器 播鉢	23.2			内・赤褐10R5/4 外・灰N6/	堅。若干の粗粒。	口縁外のみ還元。	1/8	備 室町

図版 No.	出土位置	種類器形	法量 (cm)			色調	文様・釉薬・胎土	特徴 (成形・銘等)	残存	産地・年代等
			口径	器高	底径					
593	SD2 5層 W区	瓦質土器 茶釜			胴24.6 (鋳除く)	内・灰N5/ 外・暗灰N3/ 断・灰7.5Y5/1	精土。雲母多含。	下部外型作りか。底は薄い。内底・回転板けり様、その後内側に指痕。鋳付近コナテ。	1/6	中世・畿内か
594	SD2 2層	炆器 甕	22.7			外・黄灰2.5Y5/1 断・灰N	長石粒、黒色粒等若干。	器表はやや艶色がかかる。	1/10	不明
595	SD2 下層	陶器 搦鉢	29.5			外・におい赤褐5YR5/3 外・におい橙7.5YR6/4	硬、長石他	口縁外、重ね焼痕	1/11	備 中世
596	SD2 砂利層	陶器 搦鉢			12.5	内・灰N6/ 外・	硬、長石細粒	使用、摩	1/4	備 中世
597	SD2 5層	陶器 壺	12.2			内・灰褐7.5YR5/2 外・褐灰7.5YR5/1 断・灰褐7.5YR6/2	細礫含	仕上はやや不整	1/6	備前。中 世
598	SD2 5層	瓦質 鍋	20.3			内・灰白5Y7/1 外・灰N4/0 断・灰N6/1	精土	口縁上端弱い凹面。外面痕跡の性格は不明。	1/8	土佐型。 室町
599	SD2 2層	瓦質土器 鍋	22.2			外・灰白7.5Y7/1 断・灰白5Y7/1	内・竹後、口縁コナテ	摩	1/9	室町期
600	SD2 5層	土師質土器 鍋	24			内・褐灰7.5YR4/1 外・におい橙7.5YR6/4	石英、長石、赤、細粒、雲母	外・煤け	1/9	播磨系。 室町
601	SD2 TR3	青磁 碗			4.8	内・リブ 灰2.5GY6/1 断・灰	厚い釉	内底中央擦痕著。内底僅かに凸。高台内かナ割痕。	2/3	龍泉窯系
602	SD2 5層	青磁 碗				内・リブ 灰5GY6/1 断・明灰	縞蓮弁	I-5類	-	龍泉窯系。 鎌倉
603	SD2 3層	須恵器 鉢			8.6	外・灰N6/0 断・	長石細粒	内底摩滅	1/3	東播系。 中世前期
604	SD2 TR3	須恵器 碗 or 杯				外・灰N6/ 断・	精土		-	産地不明 古代か
605	SD2 5層	須恵器 甕				内・灰N6/ 外・灰白N7/ 断・	長石や鉄分の多い細粒含	外・細かい方形の歯形がつくタキ。内・指痕を横方向へナテに消す。	-	古代
906	基礎遺構1	色絵			9.3	外・灰白N8/0 断・	呉須、赤、桃、黄、金		1/6	近代か
907	近代基礎 最下(W)	染付 小皿	9.6	2.15	5.4	外・灰白N8/0 断・	表面光沢	内面花紋は型打。ナテ2点認む。	1/2	近代

表4 観察表(土器・陶磁器) -19

図版 No.	区	位置	器種	法量 (cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
606	W	SD2 4層	漆器蓋	11.2	4.1	摘径6.8	赤。外面に黒で紋。		7/8
607	MWS	SD2-4 層	まな板	全長24.3	全幅15.8	全厚1.6		片面、無数の刀物痕。特に中央～右下寄は使用により陥没。木表を使用面に。欠け、割れ。	完
608	MWS	SD2上 層	桶	全長15.9	全幅6.8	厚1.4	外面と内面下位に朱塗残る。	全体に傷みあり	部材。完
609	MWS	SD2-3 層	下駄未成 か	全長17.8	全幅8.5	全厚2.5		2ヶ所に非貫通孔。荒。若干の切削痕。	完
610	MWS	SD2	下駄	全長22.4	全幅10.4	高5.1		元は連歯か。小判形。前歯跡に釘痕。歯はやや斜形。	前歯のみ欠
611	MWS	SD2	下駄	全長19	全幅8.9	全高2.4		連歯・階円形。薄手。歯摩か。台面陥没。	左後欠
612	MWS	SD2-3 下層	下駄	全長16.6	全幅7.9	全高3.2		連歯・隅丸長方形。子供用。材は木裏を上向きに使用。接地面摩。	準完
613	W	SD2 4層	下駄	全長15.7	全幅11	全厚4.8		連歯・隅丸方形。短い。壺やや大径。	ほぼ完
614	MEN	SD3	漆器碗			6.8	外黒、内褐	高台内刻み	底1/4
615	MEN	SD3	漆器碗		5.7	6.4	両黒か	内・焦げ	下部1/1
616	MEN	SD3	漆器碗			5.2	黒・赤	体部歪んで開く。高台外削り痕。	底3/4
617	MEN	SD3	漆器碗			6.6	黒・赤		底1/1
618	MEN	SD3 1層	漆器碗	11.6			両赤	剥離あり。端反り。	
619	MEN	SD3	漆器碗			6.4	黒・赤		底1/3
620	MEN	SD3	漆器碗			7.3	外黒に赤点。内暗赤。		
621	MEN	SD3	漆器碗	12.7			黒	口縁薄くシャブ。塗膜整美。	1/5

表5 観察表(木製品) -1

図版 No.	区	位置	器種	法量(cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
622	MEN	SD3	漆器椀				黒・赤	塗装剥離あり。畳付摩耗。	下半のみ
623	MEN	SD3北	漆器椀			6.3	黒・赤	高台内に浅刻	底4/5
624	MEN	SD3	漆器椀	13.3	5.25	5.9	全黒	外・腰2段折れ	2/3
625	MEN	SD3	漆器椀			7	黒・赤	塗装剥離あり。畳付摩耗。	下半のみ
626	MEN	SD3	漆器椀				黒・赤。赤で沢瀉文。	絵付精美	4/9
627	MEN	SD3	漆器椀	17	6.6	6.3	外・楓?文。 内赤。	劣化、剥離	歪
628	MEN	SD3	漆器椀	12.2	9	6.3	外黒,内褐	高台内刻印	下1/1歪
629	MEN	SD3	漆器椀	13.9			黒		
630	MEN	SD3	漆器蓋			摘径(5.7)	黒・赤。赤と金彩か。	金彩は退色	天井部
631	MEN	SD3	漆器蓋	11.8			黒・赤。赤と金彩か。	630と同一の可能性	径1/3
632	MEN	SD3	漆器蓋か	9.2	2.1	受部径9.6	黒赤	受部あり。上面に2段。	
633	MEN	SD3	漆器蓋	12			外・黒に赤文様。内赤。		1/7
634	MEN	SD3北	漆器蓋	10.9		摘径5	黒・赤。金(黄土色) + 朱彩。	口縁歪み	2/3
635	MEN	SD3	漆器	残長14.8	全幅2.9	全厚0.3	黒漆。朱色で繊細な絵。山なみ、 樹木、人物。	薄い。細小な木釘残る。端部に接合痕。歪み あり。	-
636	MEN	SD3北	蓋か	径11.2	2		木地	内外に轆轤かじ痕。節のある材。	1/2
637	MEN	SD3	下駄	全長21.2	全幅8.6	全高2.9	薄塗が側面や歯の側面に残る。	連歯・小判形。歯の水平断面階円形。側面下角 の面取りにより中央の横断面は扁平六角形。木 理は横断でみて斜位。女物の諸属性を具備。	完
638	MEN	SD3上 層	下駄	全長21.6	全幅8	全高2.6	薄塗(接地面と台面除く)	連歯・小判形。横・縦断面台形。表面比較的良 好。後歯端下面摩。女物。637と酷似だが歯の 断面相違。	完
639	MEN	SD3	下駄	全長21.3	全幅8.6	全高5.4	全黒	連歯・階円形。下面周縁角面取。	前歯一部欠
640	MEN	SD3	下駄	全長22	全幅9.3	全高2.4		連歯・階円形。摩。接地面に小石。後端下面に 刻印。	完
641	MEN	SD3	下駄	全長21.1	全幅9.3	全高4.8		連歯・階円形。台面後部に刻印「△」。	ほぼ完
642	MEN	SD3底	下駄	全長23.1	全幅9.7	全高5		連歯・小判形。台面に後尾に刻印「×」。	前端のみ欠
643	MEN	SD3	下駄	全長21.6	全幅9.6	全高3.2		連歯・長方形。前剝歯。台面に凹み。裏中央に 焦げ。	完
644	MEN	SD3	下駄	全長22	全幅9.6	全厚2.7		連歯・長方形。歯の列りは方形。木目で縦割。	完
645	MEN	SD3上 層	下駄	全長22.6	全幅9.6	全高2.7		連歯・隅丸長方形。前壺は大径。剝歯。接地面 摩。小石をかむ。男物。	左後のみ欠
646	MEN	SD3 1層	下駄	全長21.5	全幅10.7	全厚3.1		差歯・長方形。後歯摩。砂粒多。	前歯欠
647	MEN	SD3	下駄	全長21	全幅8.2	全高2.6		差歯・小判形。相は密で整美。歯摩。前歯接 地面に砂粒多数食込む。	完
648	MEN	SD3	下駄	全長21.8	全幅10.3	全高5.5		連歯・長方形。歯の左方が摩着。木目で縦割。	半
649	MEN	SD3	下駄	全長20	全幅7.9	残高3.4		連歯・長方形。壺小径。歯先摩。	完
650	MEN	SD3	下駄	全長21.6	全幅7.7	全幅7.7		連歯・長方形。台面前方が僅かに凹。壺穴に 残るのは紐か。木理は横断でみて縦位。	ほぼ完
651	MEN	SD3	下駄	全長21.2	全幅9.2	全厚2.7		連歯・長方形。接地面に小石くい込む。	準完
652	MEN	SD3	下駄	全長21.3	全幅8.65	全厚2.7		連歯・隅丸方形。特に後歯の摩着。	完
653	MEN	SD3	下駄	全長18.6	全幅8.6	全高2.6		連歯・隅丸方形。後歯が特に摩。接地面に小石。	完
654	MEN	SD3	下駄	全長18.7	全幅8.5	全高3.3		連歯・小判形。後壺に紐残。台面中央に焦げ。	完
655	MEN	SD3肩	下駄	全長21.7	全幅9.9	全高3		連歯。歯の特に前縁荒著。上面も荒・腐。	完
656	MEN	SD3	木筒	全長19.9	全幅3.5	全厚0.5		焦げ。加工痕。	完
657	MEN	SD3	鞘	全長20.8	幅2.1	残厚1.3		全面に加工痕。表面良好。	1/2
658	MEN	SD3	小刀鞘	全長12.7	全長12.7	厚1.1			片側完

図版No.	区	位置	器種	法量(cm)			塗 装	特 徴・備 考	残存度
				口径	器高	底径			
659	MEN	SD3	小木刀	全長11.7	全幅2.65	全厚1.1	「□」	柄。茎が残っており、小楔で固定。	柄
660	MEN	SD3	模擬刀状		幅3.2	厚0.6		刃部、峰部とも面取りし、断面扁平六角形。	折損
661	MEN	SD3	木像	全長11.9	全幅4.1	全厚3.6		棒状材。多数の加工痕。下部斜め切断か。状態は良好。	下部切断か
662	MEN	SD3	札形	全長6	全幅4.1	全厚1.1	-	片面に人面を彫刻	完
663	MEN	SD3	切匙	全長32.5	全幅4.6	全厚0.5		大型	完
664	MEN	SD3北	切匙	全長26.9	全長3.3	全厚0.4			完
665	MEN	SD3	切匙	全長17.1	全幅2.6	全厚0.4			完
666	MEN	SD3	切匙	全長15.1	全幅2.6	全厚0.3			準完
667	MEN	SD3	調度	残長32.1	幅4.8	全厚1.5		部品	一部欠
668		SD3	角材	72.1	10.4	6.6		6.6×3.6×深1.8の鑿による加工穴。両端に荒れ。一端は切断面。他端は欠損。	
669	MEN	SD3	木筒	全長11.45	全幅1.85	全厚0.5	〔蒲かへカ〕 「吉米」	片面は墨書図示不能	完
670	MEN	SD3	木筒	全長11.5	全幅2.2	全厚0.2		文字あり	完
671	MEN	SD3	木筒	全長17.4	全幅2.9	全厚0.4	・「>後藤仁兵衛年貢半山赤木」 ・「>吉米□京三斗入□右衛計」	両面墨書明瞭。木目により若干難。	完
672	MEN	SD3北	木筒	全長12.6	全幅2.5	全厚0.3	・嶋孫右衛門 ・□	両面墨書。上から割ったか。幅広。	完
673	MEN	SD3	木筒	全長8.2	全幅2.4	全厚0.35	両面黒書 ・「> ・「>	小型	完か
674	MES	SD6	漆器椀			5.4	外・黒に赤文様。内赤。		1/3
675	MWS	SE1掘形	下駄	全長17.8	全幅8.9	全高3.8		連歯・逆砲弾型。子供用。摩。木裏を上向きに。	後歯欠
676		SE1	井戸側	長103.5	幅10.0	厚2.8		かけによる切削痕。外面鋸痕。3条の「か」痕。各側面は2ヶ所で竹釘で接合。下端の一隅を丸く整形。	
677	MES	SE2	漆器椀	12.3		4.7	黒・赤、赤紋。	塗装劣化、退色。高台剥離。	底1/1
678	E	SE2井側内	木筒	全長9.2	全幅3.2	全厚0.7		長方形。文字。	完
679		SE2	井戸側	全長92.8	全幅13	全厚2.6		両面に加工痕。上部と中央部の2ヶ所で竹釘により接合。下端の一隅を丸く整形。材は状態良好。堅致な柁目材。	
680		SE2	井戸側	全長93.0	全幅11.9	全厚1.8	上方外面に墨書	内外かけ痕。外に2条の「か」痕か。下方に「あ」あり。その他は679と同。	
681		SE3	隅柱	全長198	全幅10			丸太の全周を切削。上下は腐蝕。鑿状工具で横木を接合する方形の「お」穴を加工。	
682		SE3	横木	全長91.3	全幅6.8	全厚1.6		両端を加工して「お」に入れる。3面は木割後未加工。	
683		SE3	横木	全長76.6	全幅5.5	全厚5.4		両端を加工して「お」に入れる。他の2面は木割後未加工。	
684		SE4	井戸側	全長99.5	全幅18.5	全厚2.6		内外かけ痕。外面「か」痕2条認める。685よりは材の状態良好。上端面はやや内傾、下端内角は面取り。	
685		SE4	井戸側	全長90.8	全幅10.4	全厚2.3		外面、鋸痕か。内面荒れ。3条の「か」痕。SE4井戸側は竹釘等による接合なし。材質はSE2に比して軟弱。	
686		SE7	曲物	高30.9	幅37.5	厚0.3		内面に縦・斜の切込み。端を樹皮で接合。上部は変形・亀裂あり。686の端部は、製作時に亀裂を補修。図98は取上げ時に分解した5点中の3点。出土時の状態は図28。法量は出土時の全形サイズ。	
687	W	SK3	漆器椀	9.8	3.8	4.7	黒。外・赤で草花文。	歪著	
688	W	SK3上層	下駄	全長23.5	全幅8.4	全高3.5		連歯・長方形	若干欠
689	W	SK4	漆器椀	(13.3)	(5.5)	5.1	全赤(朱色)	腰折形。歪著。	底1/1
690	W	SK4	木匙	全長15.1	全幅3.6	全厚1.6	濃茶 塗		各部欠損

表5 観察表(木製品) -3

図版 No.	区	位置	器種	法量(cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
691	MWS	SK5上 下層	漆器椀	8.05	3	摘径3.9	黒・赤。外の文様退色。金等か。	蓋か	4/5
692	MWS	SK5	漆器椀	13.5	9.1	5.8	黒・赤。赤で沢瀉文。	内底に焦げ	1/2
693	MWS	SK5上 層1 下層	曲物	17	7.3			四重。一枚は1mm強。接合部に孔。分裂、破断、 歪みあり。	-
694	MWN	SK8	下駄	全長21.8	全幅8.5	全厚2.6	全塗とみられる。台上面・側面に 薄塗残。	差歯・隋円形。横・縦断面台形。女物。	歯欠失
695	MWN	SK8	下駄	全長21.3	全幅7.6	全厚2.6		差歯・長方形(やや前広)。横・縦断面台形。木 理は横断面で斜。	歯欠失
696	MEN	SK11	漆器椀		8.4	5.7	全赤	腰折形。歪・剥離。	底1/1
697	MEN	SK11	不明部品	全長7.5	全幅1.8	全厚1.2		両小口に木釘	-
698	MEN	SK11	木筒	長14.8+3.1	全幅4.5	全厚0.5	・「五藤吉左衛門」 ・「五藤吉左衛門」	両面墨書	上方折損
699	MEN	SK11	木筒	全長9.8	全幅1.6	全厚0.25	〔吉カ〕 「五藤□左衛門□」	片面墨書。上端小孔。小型。	完
700	MEN	SK12	木筒	残長12.1	残幅3.7	全厚0.4	・「五藤□□」 ・「五藤□□」	両面墨書。刃物で削がれている。	-
701	MEN	SK12	漆器蓋	10.2	2.5	5	両赤		半
702	MEN	SK12	漆器椀	11.8	3.8	5.6			半
703	MEN	SK12	漆器椀	12.3	7.6	5.4	黒・赤。朱彩。	草化文。高台内銘。口縁歪み。木目密。	底1/1
704	MEN	SK12	櫛	残長5.9	残幅4.8	全厚0.5	切金。両面蒔絵。黒漆と赤漆の 上にAu・As。歯にも線彩	780と類似。イヌ。V章参照。Au。	欠損
705	MEN	SK12	刷毛状		幅9.9	全厚1.8		極細かいウシ状部品をはさみ込む。接合部はさ らに別材で挟んで補強、固定を強める為のズ グが剥離して残る。	-
706	MEN	SK12	下駄	全長21.5	全幅13.5	全高10.2	全黒漆	差歯・長方形(僅かに前広)。縦横断面六角形。 歯は下方へ大きく広がる。本体整美。左後裏 に縦溝5条。刻印「京」。	完
707	MEN	SK12	曲物	8.2	6.2	8.2		円板分離	準完
708	MEN	SK12	曲物	14.8	2.85			薄い円板に小孔。「上 納豆 龍福院」	1/1
709	MEN	SK12	小円板	径6.4		全厚0.4		中心に孔	1/2
710	MEN	SK12	不明	全長34.5	全幅9	全高4.1		両面刃物痕。角材をボツと木釘で接合、中央でカ シメたか。	完
711	MEN	SK13	漆器椀	10.2		摘径5.2	黒・赤。朱紋。	木目密	
712	MEN	SK13	漆器椀	11.9	3.4	摘径5.1	黒・赤。2種の紋を対面4ヶ所。		準完
713	MEN	SK13	木筒	全長19.8	全幅3	全厚0.7	「>□□」	片面墨書認める。表面荒れ。	完
714	MEN	SK14	木筒	全長14.9	全幅1.6	全厚0.25	・「□□壺弁 孫介？」 ・「□□」	両面墨書。上から割ったか。巾広。	完
715	MEN	SK14	木筒	全長18.9	全幅2.3	全厚0.5	・「>御工物半山赤木分」 ・「>吉米三斗喜兵衛計」	両面黒書	完
716	MEN	SK14	木筒	全長11.65	全幅3.1	全厚0.5	・「>初四斗五弁入」？ ・「>」	両面墨痕(赤外視)。頸部に明色線=紐痕か。ヒ キ。	完
717	MEN	SK14	木筒	全長16.4	全幅2.9	全厚0.7	〔米年カ〕 ・「>御工物半山□□」 ・「大豆三斗入半兵衛計」	両面黒書	完
718	MEN	SK14	木筒	全長16.5	全幅2.1	全厚0.35		僅かに墨痕。小型。	完
719	MEN	SK14	漆器椀	12.2		5.3	黒(やや茶)・赤。外に赤で「加賀 梅鉢」。	歪み。木目は縦。	1/2
720	MEN	SK14a とc	鳥形	全長12.2	全幅2.1	全厚0.2			完
721	MEN	SK14	小刀柄		全幅2.4	厚1		柄尻に絞り溝。装着部脇に釘残る。先方は摩。	1/2
722	MEN	SK14	面子状	長径4		全厚1.4			完
723	MEN	SK14	切匙	全長21.7	全幅3.9	全厚0.4			完
724	MEN	SK14	切匙	全長24.6	全幅3.7	全厚0.3			完
725	MEN	SK14	下駄	全長14.7	全幅5.8	全高3.1	全塗	連歯・隋円形。小さい。剝歯。全体に良好。裏 や側面にわずかな加工痕。	完

図版No.	区	位置	器種	法量(cm)			塗 装	特 徴・備 考	残 存 度
				口径	器高	底径			
726	MEN	SK14	下駄	全長12.1	全幅7.9	全厚2		裏面削り。台面前端に加工。各所に孔。裏面周縁やや摩。	部分
727	MEN	SK15	漆器椀			4.8	黒・赤、金彩文。丸に葉文。	荒	半残
728	MEN	SK15	漆器椀	12.6	7.1	6.4	黒・赤。朱紋か。丸に葉？。	紋様退色。歪み。	口縁以外残
729	MEN	SK15	漆器椀			6.9	黒。外・赤紋。	塗膜剥落著。歪。	底4/5
730	MEN	SK15	木筒	全長14.55	全幅2.95	全厚0.6		両面やや劣化、荒れ。文字は認めず。	完
731	MEN	SK15	蓋	全長6.9	全幅9.7	全厚1		受部あり。裏面加工痕。上面若干の傷。木目密。	完
732	MEN	SK15	下駄	全長21	全幅7.8	全厚3.55		差歯・方形(やや先広)。裏面峰は片寄る。	菌なし
733	MEN	SE5上層(旧SK16)	漆器椀	胴径14.2			黒	筒型。胴部外面に一条の稜線	
734	MEN	SE5上層(旧SK16)	調度	全長4.9	全幅28.3	全厚1.8		部品。木釘2ヶ所。全ての角を面取。	部分
735	MEN	SK17	木筒	全長19.1	全幅2.8	全厚0.5		両面墨書。ヒ/キ。	完
736	MEN	SK17	木筒	全長15.6	全幅3.6	全厚0.5	「> 村(カ)惣(カ)右衛門」	片面墨書。両面とも木割りのままの粗面。下端剥片状。コ/キ/キ。	完
737	MEN	SK17	漆器小杯	7.4	5.6	3.8	黒。薄い塗膜。	薄い。外・細かい加工痕。歪。	1/2
738	MW	SK20	漆器椀	10.7	4.3	5.2	黒。対面2ヶ所に朱紋。丸に鬼花菱か。	紋様退色。内面所々に暗赤色。木目密。	ほぼ完
739	MEN	SK20	木刀か		残幅2.8	厚1.5		芯のある素材。表面荒れ。	一部
740	MEN	SK18	漆器蓋	10.3	2.4	摘径5.3	黒・赤。外・金彩か。	絵付退色	ほぼ完
741	MEN	SK18	漆器皿	11.6	3.15	5.4	内外赤、高台内のみ黒	歪	底3/4
742	MEN	SK18	漆器椀	(9.5)	(5)	(5)	両赤、高台内黒。	歪著	口縁欠け
743	MEN	SK23	漆器椀(蓋)	11.1	3	摘径3.9	赤漆		8割
744	MEN	SK23 3層	下駄	全長17.2	全幅7.1	残高1.8		連歯・長方形。小型。裏摩。	完
745	MES	SK24	漆器椀	10.3	3.6	5.90	全赤	高台内に刃物で線刻か。	1/2
746	MWN	SK24	漆器椀			6	赤漆	荒れ、摩。	
747	MES	SK24	不明	全長24.3	全幅6.55	全厚0.4		杓子形。両端付近に各3孔。薄いため歪む。	完
748	MEN	SK26	漆器椀			7.0	黒。外に赤文。	厚い高台。歪、分裂、剥離著。	
749	MEN	SK26上層	木筒	全長10.5	全幅1.6	全厚0.3	[藤カ] 「五□□□□」	小型。少なくとも片面に墨書あり。	完
750	MEN	SK26上層	切匙	全長25.1	全幅2.3	全厚0.4			完
751	MEN	SK26上層	切匙	全長24	全幅3.5	全厚0.6			完か
752	MEN	SK26上層	切匙	全長20.4	全幅3.1	全厚0.3			完か
753	MEN	SK28	漆器椀			7	黒・赤。赤で桐文。		1/2
754	MEN	SK28	漆器椀		5.1	6.5	両黒。内外面と高台内に赤彩。	高台内に鋭い線刻。体部歪。	準完
755	MEN	SK28 下層底	不明	径9.7		全厚1		円板。周縁は受部削出し。片面に刻文。密な木目。	部品
756	MEN	SK28	漆製品	幅13.2	高5.1	全厚0.7	全黒	隅で組合せ、木釘でとめた痕。4.5mm巾の接合痕残。3方の端面に木釘残。他の1端面に顕著な摩なし。	-
757	MEN	SK28	曲物	径15.1	6.8	厚0.3		体部接合部付近裏に切込み。	完
758	MEN	SK28 2層底	鋤先	残長13.4	残幅11.2	残厚2.3		縦・横断面、片面が緩U字。	先端のみ
759	MEN	SK30	漆器蓋か				黒赤。外面に黄で丸に花文3ヶ所。	文様退色	3/5
760	MEN	SK30	漆器蓋	10.9			黒赤。外面に金で三葉柏文。摘み内にも金彩。Au。	薄手。上手V章参照。	1/4

表5 観察表(木製品) -5

図版 No.	区	位置	器種	法量 (cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
761	MEN	SK30	木筒	全長20.1	全幅4.2	全厚0.4	・「> 二匁」 ・「> 吉初貳拾六半之内」	両面墨書。上から割ったか。巾広。	完
762	MEN	SK30	杓子	全長24.6	全幅5.5	全厚0.8			ほぼ完
763	MEN	SK30	下駄	全長20.3	全幅9.1	全高5.6	黒漆	差歯・小判形。裏面中央が台形に高まる。差歯 ボゾに台面上から楔。接地面に小石多。	後歯欠
764	MEN	SK31	漆器椀	17.4			両赤		1/5
765	MEN	SK31	調度	全長19.2	全幅2.3	全厚0.7	黒塗	両端	部品
766	MEN	SK31	切匙	全長14.4	全幅1.8	全厚0.3		薄い	完
767	MEN	SK31 3層	切匙	全長24.6	全幅4.2	全厚0.5		柄に弱い加工痕	完
768	MEN	SK31 2層	木筒	残長15.3	幅1.9	厚0.5		上端は人為的	ほぼ完か
769	MEN	SK31西 部中層	下駄	全長21.4	全幅7.9	全厚2.3	全黒	差歯・隋円。裏面中央が低台形に高まる。細い 縦溝は塗装前。加工痕。観察可。状態良好。	台完
770	MEN	SK31	下駄	全長21.8	全幅12.5	全厚4.4		連歯・小判形。踵部に「↓」。特に後歯の摩著。 前壺に切削痕。	完
771	MEN	SK312 ～3層 下層	下駄	全長21.4	全幅7	全高3.3		連歯・隅丸長方形。前壺に削り。	完
772	MEN	SK31西 部2～ 3層	下駄	全長21.9	全幅8.3	全高4.3		連歯・隅丸長方形。歯は摩。	前隅欠
773	MEN	SK31	下駄	全長21.8	全幅8.7	全厚3.4		連歯・長方形	完
774	MEN	SK32	切匙	全長20.8	全幅2.5	全厚0.4			完
775	MEN	SK32	下駄	全長23.1	全幅9	残高4.3		差歯・小判形。歯の前で各々折損。前歯摩著。 縦・横断面台形。	一部欠
776	MEN	SK34	漆器椀	12.7	9.5	6	全赤	厚手。剝離著。素地外面に整形痕。	口縁以外完
777	MEN	SK35	漆器椀			5.4	全赤	高台内に切刻	底1/1
778	MEN	SK35	漆器蓋	11.4		摘径4.6	全赤	下地黒	ほぼ完
779	MES	SK39	刷毛	全長11	全幅8.3	全厚0.8		狭み込むために大きく切込み。先端に朱色付 着。	柄
780	MES	SK40	櫛	残長5.1	残幅2.6	全厚0.35	両面蒔絵。細い描線の金彩は剥 落著,詳細不分明。	704と類似。歯は殆ど欠失しているが,歯にも 金彩。	一端のみ
781	MES	SK38	漆器蓋	9.8	2.3	3	両赤・金彩。Au。	隅丸方形。薄手。	2/3
782	MES	SK38	漆器蓋	10	3.4	摘径5.4	黒・赤。外に赤文。丸に鬼花菱。	文様整美。退色。	完
783	MEN	SK38	漆器蓋	10.4	3.3	摘径5.2	両赤。摘み内黒(+赤彩か)	下地黒。歪み。	ほぼ完
784	MES	SK38	鞘		幅3.8	残厚1	黒漆		先端部
785	MES	SK38	刃物柄	全長16.9	全幅3.5	全厚0.9		両面加工痕。一穴。	1/2
786	MES	SK38	桶か			全厚1.8		厚・大。径70～80cm前後。木釘。	一部
787	MES	SK38	膳	長24.1		全厚0.6	全黒	788と同様。縁裏にボツ状加工1ヶ所。裏縁部は 若干反る形状。	底板の一部
788	MES	SK38	膳	残長24.2	残幅22.8	高1.7	全黒	縁を木釘で接合。一部縁残る。底板中央部で 接合。	1/2強
789	MES	SK38	下駄		全幅9.9	全高6.1		連歯。後歯前で人為的に切断。	後方のみ
790	MES	SK41	漆器蓋			摘径5.6	黒・赤。外・赤彩。		4/9
791	MES	SK41	漆器椀			5.7	金彩文		底1/1
792	MES	SK41	漆器椀			7.5	黒	荒。歪。高台内に切刻。	底1/1
793	MEN	SK41	漆器椀		5.9	5.9	黒・赤	歪み著。塗膜剝離特に外面著。高台内刻印。	準完形
794	MES	SK41	漆器椀	16.2	9.2	6.8	黒・赤		底1/1
795	MES	SK41	下駄	全長21.4	全幅9.6	全高6	黒,薄塗(台面は不明)。	差歯・隋円形。縦・横断面台形。歯傾斜。	後歯のみ欠
796	MES	SK41	下駄	残長13.6	全幅9.1	高6.4		差歯・小判形。縦・横断面台形。前歯の左右台 面が凹む。	左,後方欠 失



図版 No.	区	位置	器種	法量(cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
797	MES	SK41	下駄	全長22.5	全幅7.7	全高4.2		連歯・長方形。貫通10穴、非貫通は右後方の2穴(外径3.5mm)。台面鋸痕か。	完
798	MES	SK41上層	折敷	全長30.8	全幅29.1	全高3.5		底板周縁より内側数mmに縁板を樹皮で固定。底面に浅い傷。	底板完存
799	MES	SK41	木筒	全長17	全幅3.1	全厚0.6	・「>後藤 <sup>(ニカ)</sup> □□年貢□□」 ・「>□□」	両面墨書	ほぼ完
800	MES	SK41	木筒	残長(14.5)	全幅2.6	全厚0.3	両面墨書 ・「>□□」 ・「>後藤□□」		先欠か
801	MES	SK41	木筒	全長24.1	全幅4	全厚0.8	両面墨書 ・「>□□」 ・「>□□」	長い	完
802	MES	SK41	木筒	全長15.8	全幅2.8	全厚0.5	・「>□□より」 ・「>□□□□」	両面墨書。先端焦げ。モ属。	先端のみ欠
803	MES	SK41	木筒	全長17.9	全幅2.7	全厚0.5		両面墨痕	完
804	MES	SK43	櫛	全長11.4	全幅4.9	全厚0.8	黒・薄塗。	正位で見て縦方向の緻密な柀目。木目で割れる。	完
805	MES	SK43	羽子板	全長24	全幅8.3	全厚1.4		切削痕。板目材、筋あり。	柄欠
806	MES	SK48	漆器椀				黒・赤。朱文。丸に花文。	歪み	-
807	MES	SK45	漆器椀	13.4	5.2	6.1	沢瀉文(赤彩)外面4ヶ所。黒・赤。	亀裂あり	完
808	MES	SK45	漆器椀			5		厚い高台を三角錐形に挟る。	
809	MES	SK48	漆器蓋	11.4	3.7	摘径5.4	全赤	下地黒。歪み。	上1/1
810	MES	SK45	漆器膳	全長33		厚0.8	両面黒	底板、及び側部を木釘で接合。底の周縁は極僅かに上反。片側は木理で割れ。	部分欠損
811	MES	SK48	切匙	全長27.9	全幅3.5	全厚0.3			完
812	MES	SK46	刀剣鞘	全長25.8	全幅3.6	現厚1.1	黒漆	両面に各々溝を加工。木目に沿って潰れ。塗装剥落著。	完
813	MES	SK46	刀剣鞘	全長22.5	全幅3.8	現厚1.7	黒漆	内側切削痕。溝部分で切損。塗装殆ど剥落。	片側
814	MES	SK46	刀剣鞘	残長15.7	残幅3.3	残厚0.5		内側切削痕。塗装残っていない。モ属。	先方片側
815	MES	SK46	木筒	全長27.5	全幅1.4	全厚0.8	墨書・片面		完
816	MES	SK47	下駄	全長21.1	全幅10.2	全高7.1		差歯・長方形。後歯のホゾは大。前後歯の上面部に釘痕。木目で割れ。	前歯のみ欠
817	MES	SK47	下駄	全長18.5	全幅9.9	残高1.5		連歯・隅丸方形。齒摩。	完
818	MES	SX5	不				黒	大盤状等の一部か	断片
819	MES	SX5 1層	傘口	全長5.7	径4.3			上端若干破損か。外面加工痕。中軸通孔。歪み。	側2/5
820	MEN	SX5	栓か	長11.1		全厚2.4		中心に小穴。受部に加工痕。	摩滅あり
821	MEN	SX5	下駄	全長21.3	全幅9	全高2.3		連歯・長方形。接地面摩滅。前方破断。	完
822	MES	SX5	下駄	全長21.7	全幅7.9	全高3.7		連歯・長方形。台面後方にT字形刻印。全面に浅い傷や加工痕。	後方隅のみ欠
823	MEN	SX5	下駄	全長19.6	全幅7.9	全厚1.1		板状。外形方形の壺穴。前方やや開く形。非摩。	完
824	MWN	SX6	漆器椀			5.6	黒・赤。外に金彩ビイギ文。	歪	底1/1
825	MEN	A層	木筒	全長11.5	全幅1.65	全厚0.4	・「>三右衛門?計」 ・「>太米三右衛門?計」	両面墨書。部分的に剝離や傷み。小形。	ほぼ完
826	MES	ハ' 2の A層	木筒	全長17.3	全幅2.8	全厚0.45	・「>後藤仁兵衛年貢半山赤木」 ・「>もち米京舂三斗入与介計」	両面墨書。木理に沿ったビ'あり。	完
827	MES	ハ' 2の A層	木筒	全長13.7	全幅2.3	全厚0.4	・「>初四斗六升入」 ・「>□□」	両面墨書	完
828	MEN	A層	木筒	全長11.4	全幅2.4	全厚0.4		文字か	完
829	MEN	A層	木筒	全長11.4	全幅2.4	全厚0.4		文字。両面に墨書認めるが、片面は図示不能。	端部欠か
830	MES	ハ' 2の A層	木筒	全長21	全幅2.9	全厚0.4	・「>後藤仁兵衛年貢半山之内赤城」 ・「>吉米京舂三斗入盛右衛門計」	両面墨書。明瞭。長い。	完
831	MEN	A層	木筒		全幅2.1	全厚0.4		片面に墨書認めるが、図示不能。	半ばで切損

表5 観察表(木製品) -7

図版 No.	区	位置	器種	法量 (cm)			塗 装	特徴・備考	残存度
				口径	器高	底径			
832	MES	ハ 2A	漆器椀か			5.5	両赤, 高台内のみ黒。	高台欠損	1/4
833	MEN	A層か	漆器椀			6.4	黒赤。金(黄土), 朱彩。	歪著	ほぼ完
834	MES	ハ 2 SK24の 上	調度	長さ11.3	残幅3	厚0.45	黒・赤。外面螺鈿。	貝殻片は殆ど剥落し, その痕が残る。貝殻片若干残。/ 部品接合部で剥離。ヒキ属。	一部
835		ハンク2	鉢か	20.2			赤。口縁外面黒, 金彩文。Au。	荒	
836	MEN	A層か	漆器椀			7.1	全黒	腰折, 筒形。表面美。	口縁以外完
837		ハンク2	漆器椀	10.6	4.7	4.8	黒・赤, 赤紋。		底8/9
838	MEN	包	漆器椀			6.6	黒・赤	荒。高台内2本の刻線。	底1/1
839	MEN	Ⅲ層	木筒	全長11.9	全幅2.3	全厚0.4		文字はみられない	完
840		ハンク2	模擬刀か	全長27.5	幅3.9	全厚0.7	両面刃部に墨?で列点, 基部塗り。	両面に整形痕	刀身部完
841		ハンク2	膳か	全長7.8	全幅23.3	全厚0.8	全黒	脚~側部か。内側に部材剥離痕。外隅は丸みをもたせる。	部材
842	MES	ハ 2 B層	下駄	全長21.4	全幅8.3	全厚2.6		差歯・隅丸長方形。横・縦断面台形。木理は横断面でみて縦。	台は完
843	MWS	Ⅶ層上層	下駄	全長21.7	全幅8.5	高4.7		連歯・隅丸長方形。後歯は歯の上方から斜前方へ抜ける。密な柁目材。上面後側に切痕多。	完
844	MWS	Ⅶ層上層	下駄	全長19.6	全幅8.7	全厚1.9		長方形。前方(か)に3穴。角釘1ヶ所残。片面の中軸部が僅かに凹。	完
845	MEN	攪乱	下駄	全長21.5	全幅9	全厚2.5		連歯・隅丸長方形。前歯下面は方形割穴。裏面切削痕。摩。木表を上向きに。台面後方に×印。	完
846	MEN	表採	下駄	全長21.6	全幅9.2	全厚1.4		連歯か, 歯摩著。隅丸長方形。	完
847	MES	SR1	漆器椀	10.8			黒	荒, 歪。	1/3
848	MEN	SR1東	漆器椀			8.7	黒・赤		底1/3
849	E	SR1下層	漆器椀	14.9		器厚0.9	黒・赤。外・赤彩文。	やや厚	口1/2
850	W	SR2	漆器椀				黒・赤, 草花文	破片	破片
851	MEN	SD3	漆器椀			厚0.9	黒。外に赤絵(草花文か)。	分裂, 荒, 焦げ。	完
852	MEN	SK26上層	木筒か	全長18.2	全幅2.4	全厚0.3		縁部面取り。文字なし。	完

表5 観察表(木製品) -8

図 NO.	位置	種類	法量 (cm)				備 考
			長さ	幅	厚さ	重 g	
853	SD2 直上	刃剣部品	全長4.1	全幅2.6	全厚0.8		縁。真鍮か。内部1ヶ所溶接痕, 外面は仕上げ。
854	SD2 5層	小柄		1.6	全厚0.5		柄の外側。0.2mm以下の銅板で作る。剥ぐように切り取る。
855	SD2 4層	不	直径2.2		全厚0.3		潰れ。金色。
856	SD2 下層	包丁	残長18	残幅4.1	全厚0.3		刃部に欠損あり。
857	SD2 3層	カサ	全長10.8	全幅3.1	全厚0.3		茎に小孔。
858 a, b	SD3	鍋	口径39.4	器高16			铸造。外黒色。
859	SD3	かんざし	全長7.7	全幅1.8	全厚0.1		真鍮鍛造。先端欠。
860	SD3	飾金具	全長8	全幅2.5	全厚0.1		2穴。真鍮か。
861	SD3	不	全長4.5	全幅4.6	全厚0.6		ピン状突起3点。鉛铸造。
862	SD3	火箸		全幅1.9	全厚0.4		上端は環。下方欠損。
863	SD6	不	全長7.8	全幅0.7	全厚0.2		一端は屈曲し, 尖る。完形。真鍮。
864	SE5	銅銭	径2.5				

表6 観察表(金属製品) -1

図 NO.	位置	種類	法量 (cm)				備考
			長さ	幅	厚さ	重 g	
865	SK7直上	鋳物	径33.8	4.5			重い
866	SK12	釘	全長7.6	全幅1.7			
867	SK14	不	全長23.5	全幅0.6	全厚0.2		端をリベット状にガメ。他端は欠損。鍛造。真鍮か。煤付着。
868	SK14	五徳か	径10.6	幅0.6	厚0.3		4ヶ所のかみは脚接合痕か。輪の1ヶ所で溶接。真鍮か。煤付着。
869	SK14	不	径4.8		0.4		1ヶ所が開く。若干歪み。
870	SK14	柄鏡	径6.3		0.2		裏面陽刻文。「藤原作」。一部溶損。
871	SK15	簪か		幅1.9	厚0.1		角製。残端は施文で端縁を薄く整形。他方は欠損。
872	SK15	火箸か	全長19.9	全幅0.5	全厚0.4		片端はかぎ状。他端は尖る。歪みあり。
873	SK18検面	銅銭	径2.4		全厚0.2		銭種不明
874	SK18検面	不	径2.1		全厚0.2		鍍金か。穿孔。
875	SK18	煙管	全長4	全幅1.2		8.8	雁首。火皿は欠。黄金色。接合部あり。
876	SK18	煙管	全長4.8	径1.2		7.7	吸口。鍍金。地金は銅。凹付け。毛彫。被熱。鍍金層が火彫れ。
877	SK18	小柄・鞘	全長9.8	全幅1.5	全厚0.6		陽刻花文。裏面線刻。真鍮。900類品。
878	SK18	包丁	全長24.9	刃幅2.5	刃厚0.3		柄付き
879	SK21	煙管	全長5	径1		3.9	吸口。鍍金。接合部付近に、ハダ？痕。
880	SK21	煙管	全長4	火皿径1.3		5.9	雁首。鍍金。火皿に蓮弁。雁首に草花文の毛彫。極薄。首は歪みあり。
881	SK23 3層	小柄	長9.6	全幅1.4	全厚0.5		真鍮。刃部欠失。
882	SK24	釘	全長6.3	全幅0.9	全厚0.4		
883	SK28下層	鋤先	全長31.1	全幅15.4	全厚1.2		刃の両面に製作時以来のヒケあり。
884	SK28下層	釘	全長11.6	全幅1.2	全厚0.6		
885	SK31 2層	不	全長30.7	全幅0.6	全厚0.6		鉄
886	SK31	皿	口径16.6	器高3			角型の足付。
887	SK32	火箸か		全幅0.7	全厚0.4		上端はかぎ状。欠損。
888	SK32	釘		全幅1.5	全厚0.5		先欠損。
889	SK32	飾金具か	全長1.8	全幅2.2	全厚0.1		真鍮か。縁を丸める。
890	SK32	小柄	全長9.6	全幅1.4	全厚0.7		(背からみて)左側に彫金。右側に部品接着。真鍮か。歪み。刃欠失。
891	SK40 1層	包丁	残長13.7	残幅4.8	全厚0.4		腐蝕。曲がり。
892	SK38 1層	-	全長20.1	全幅0.2			真鍮か
893	SK38 2層	不	径2.4		全厚0.2		真鍮色
894	SK40	包丁	残長17.8	全幅4.1	刃厚0.4		刃欠損あり。木柄。
895	SK41	不	全長7.5	全幅4.9	厚0.03 ~ 0.11		小封筒状の本体に、幅1.8cmの帯をかみ止め。真鍮か。
896	SK46	釘	全長11	全幅1.4	全厚0.5		太い。曲がりあり。
897	SK48	煙管	全長5	火皿径1.3			雁首。小口は接合部で裂ける。金色。
898	SK48	釘		全幅0.8	全厚0.4		赤色化。先欠損。
899	SX5	釘	全長12.6	全幅0.8	全厚0.5		中ほどで捻れる。
900	ハ 2	小柄	残長20.3	全幅1.5	全厚0.4		柄の竹文は貼付け。柄の外側は薄い銅板で、下縁で接合。丁寧な細工。
901	MEN採取	煙管	残長5.6	径0.9		4.3	火皿は欠。鍍金残る。片側にある接合部の処理は丁寧。被熱。

表6 観察表(金属製品) -2

図 NO.	位置	種類	法量 (cm)				備考
			長さ	幅	厚さ	重 g	
902	W南のⅢ層	煙管	全長4.4	火皿径1.4		5.7	雁首。全面に緑青。被熱。鍍金わずか残る。若干破損あり。
903	W区近代層	かた	残長7.2	残幅4.1	全厚0.5		先欠失。
904	MEN E境包含層	小鍬	全長8.3	全幅4.3	刀厚0.2		完形
905	SR1-1 東部砂層	刀子	残長13.4	残幅2.3	厚0.4		劣化, 黒色化。背～茎は遺存。

表6 観察表(金属製品) -3

整理 NO.	位置	種類	法量 (cm)		鑑定・所見	備考
			長さ	幅		
1	SD2 2層直上	骨	5.7	3.8		約10片。脆い。
2	SD2底	骨	10.5	2.0		
95	SD2 2層	核	3.1	1.7	㊦ 核(内果皮)	完形
96	SD2 3層	核	3.4	1.9	㊦ 核(内果皮)	完形
3	SD3	巻貝	8.0			3片
4	SD3北部 底	巻貝	5.9	厚0.1	㊦ 部分	
5	SD3	骨	13.0	2.4		骨髄抜ける
6	SD6	骨	9.6(完)	0.8	㊦。大腿骨。左・遠位端破損, 最大長97mm ±, 近位端幅17.99mm。右・ほぼ完存, 最大長97.24mm, 近位端幅17.92mm, 遠位端幅17.02mm。(同一個体)	
7-1	SD6	骨	9.2	1.0	㊦。脛骨:左・両端欠, 左・遠位端・遠位端幅11.82mm。(同一骨)	
7-2	SD6	骨			㊦?上腕骨?近位端欠。(骨端破損)	
8	SE2	二枚貝		3.5		割れ
9	SE2	蚌	7.9	7.6		
10	SE6	巻貝	6.5	5.1		
11	SK3上層	二枚貝	7.5			
12	SK11	二枚貝	6.0(完)	5.2 厚0.4	ハガイ	
13	SK11	キノコ	7.9	4.6		脆い
14	SK11	蚌	8.1	5.0		
15	SK11	骨	3.5	3.0	中型獣類。腰椎。破片。椎体長36.79mm。(若獣, 椎体板未化石外れ)	
16	SK11	骨	27.0	2.4	㊦。大型。二の腕部分。	
17	SK11	骨	14.5	2.0		
18	SK11	骨	6.0	2.1		
19	SK11	骨	16.5	3.4		3片
20	SK11	骨	16.0	2.0	㊦	
21	SK11	骨	19.0	2.6		
22	SK12	骨	16.6	1.5		二つに折れる。黒膜付着。
23	SK14	蚌	13.0	8.2 厚1.5		
24	SK14	巻貝	7.6			
25	SK14	巻貝	6.4			4片
26	SK14	巻貝	径2.5			脆い
27	SK14	骨	4.3	0.6	魚類(タイ類か)第2背鰭棘。ほぼ完存。全長43.67mm	
28	SK14	骨	20.6	2.5	㊦。二の腕。	
29	SK14東部	骨	18.8	1.8	㊦。二の腕。	

表7 観察表(動植物遺体) -1

整理 NO.	位置	種類	法量 (cm)		鑑定・所見	備考
			長さ	幅		
30	SK14	骨	19.9	2.3	ニホンジカ。中足骨。	
31	SK14	骨	1.8	3.3	シカ	背骨か。2片。
32	SK15	二枚貝	2.9	2.2		
33	SK15	二枚貝	6.4(完)	5.2		2片
34	SK15	二枚貝		6.3		3片
35	SK15	二枚貝		4.6		
36	SK15	二枚貝		7.2		2片
37	SK15	二枚貝		6.3		
38	SK15	二枚貝	5.9(完)	4.9		
39	SK15	二枚貝	6.0	4.9		2片
40	SK15	蚌	17.0(完)	6.0	イソガキ	左・右ほぼ完存
41	SK15	巻貝	9.0	6.5	サザエ	数片
42	SK15	巻貝	5.0	1.3		
43	SK15	巻貝	6.7	5.9	サザエ	
44	SK15	骨	20.9	2.5	ニホンジカ。中足骨。左。ほぼ完存。最大長208mm, 近位端幅24.03mm, 遠位端幅28.32mm	かなり大型
97	SK15	核	3.1	2.1	ササキ核(内果皮)厚さ:16.55mm	完形。頂部鋭く尖る。
45	SK17 2-4層	骨	13.6	2.7	シカ。二の腕。	
46	SK17 2-1層	骨	8.4	1.9		
47	SK18	二枚貝		7.0		
48	SK18	二枚貝	7.0	5.3		
49	SK20	二枚貝		7.0		
50	SK21	二枚貝		4.0	アサギ	
51	SK21	巻貝	6.8	4.0		数片
52	SK21	巻貝		4.5		
53	SK21	骨	8.0	2.4	シカ。二の腕。	
54	SK22	骨	12.3	2.3		骨髄抜ける
55	SK23 3層	蚌	6.5	4.7		
56	SK23	巻貝	5.1	2.4		
57	SK31北西部 2～3層	蚌	13.7	6.9		4片
58	SK31	蚌	15.0	9.5		
59	SK31 西部1層	巻貝	5.4	2.4		
60	SK31	巻貝	2.2	2.3		
61	SK31 西部1層	骨	22.9	3.0	ニホンジカ。二の腕と肩甲骨。	3片
62	SK32	二枚貝		4.0		
63	SK32	二枚貝		9.9		
64	SK32	二枚貝	2.6(完)	2.4		
65	SK32	蚌	14.6	11.0		ヒメマが穿孔。フシマ付着。
66	SK32	蚌	4.2	5.2		
67	SK32	蚌	15.1	9.4		
68	SK32	蚌	3.7	4.3		
69	SK32	巻貝	6.7	3.8		5片

表7 観察表(動植物遺体) -2

整理 NO.	位置	種類	法量 (cm)		鑑定・所見	備考
			長さ	幅		
70	SK32	骨	5.0	1.7	イシノブタ。上腕骨・左。両端欠。(幼獣)	骨髄抜ける
100	SK32	不明 種実	1.4	1.2		完形。木質、一端が尖る。
101	SK32	核	3.0	1.9	モモ核(内果皮)厚さ:14.72mm	完形。頂部鋭く尖る。
71	SK34	巻貝	8.1	3.1		
72	SK35	蚌	12.0	7.7		
73	SK40	二枚貝		5.0(完)		
74	SK40	骨	5.7	1.5	和科下顎。成獣に近い。	奥歯2本残
75	SK43	骨	15	2.5		骨髄抜ける
76	SK44	骨	9.5	1.2		骨髄抜ける。切削痕か?
77	SK48	二枚貝	6.5	5.0		
78	SK48	二枚貝		8.0		5片
79	SK48	蚌	9.9	8.7		
80	SK48	蚌	8.5	8.4		
81	SK48	巻貝		3.5		
82	SK48	巻貝	8.0	4.0		
83	SK48	巻貝	8.2	2.8		3つ有り
84	SK48	骨	8.5	3.0	コウジカ。二の腕。	
85	SK48	骨	24.9	3.0	コウジカ。二の腕。	
86	SX1	骨	4.8	1.6		4片
87	SX5	骨	17.0	3.4	イシノブタ。脛骨。左。近位端欠。遠位端幅32.46mm。(成獣)	
94-2	SX4	骨			腹足綱:殻。破片。	
94-3	SX4	骨			獣類:部位不明。破片	
88	SR1	骨	11.5	4.6	大型獣類。四肢骨。破片。	
90	SR1	骨	8.6	1.2		破片
91	SR1上層	骨	6.2	2.5		破片
92	近代層	骨	10.5	8.0	大型獣類。部位不明。破片。	
93	SX4	骨	15.0	3.8	カ。大腿骨か。	両端切断痕
94-1	SX4	骨	9.5	4.4	カ:脛骨。左。近位端部。(接合,切断)	
98	SK16	核	2.6	2.6	カクミ核(内果皮)	完形
99	SK26 上層	核	1.6	1.1	ウメ核(内果皮)厚さ:9.44mm	完形
102	SK38 下層	核	2.6	2.3	カクミ核(内果皮)厚さ:13.57mm	縫合部で割れた半分。頂部 僅かに欠損。
103	SK38	核	2.6	2.1	カクミ核(内果皮)厚さ:11.03mm	縫合部で割れた半分。頂部 僅かに欠損。
104	SR2 上層	核	2.4	2.1	モモ核(内果皮)	完形

註

- 1)骨・貝は特記しない限り破断や切断により非完形。良好に遺存するもの等の状態は各々の所見欄参照。
- 2)法量に「完」とあるものはほぼ原値を留めるもの。
- 3) 6. 7. 15. 27. 44. 97. 70. 101. 87. 94. 88. 92. 99. 102. 103. は(株)バリノ・サーヴェイによる分析結果。
- 4)上記3)以外の骨、貝殻については高知大学 近藤康生、四国自然科学研究センター 谷地森秀二の教示を得た。

表7 観察表(動植物遺体) -3

# 第IV章 考察

## 1 年代観および絵図との比較

「侍屋敷」地区である当遺跡において、大溝 SD3 や SD6 が敷地の区画を示唆、或は区画そのものに関連することは明らかである。本章でも触れるように、周辺で一定の調査成果があがってきた中で、屋敷境あるいは屋敷裏手といった具体的な地点、並びに居住者を踏まえて様相を把握できることが今次調査成果の1つである。

遺構の時期について表2及び遺物観察表をみれば、今次検出した近世遺構群の廃絶年代は17世紀後半～18世紀前半を主体としている。遺構群に時期差は看取されるが、共存関係を整理して確定することは難しく、切合い関係から個々の新旧を指摘できるのみである。SD3は重なりを持つ近世遺構の全てに切られており、出土遺物は17世紀前葉のものが一定数を占めることと符合する。一方、18世紀に下る遺物を含む遺構は表2のとおり限定的である。図130に示した。SD2は埋没年代が18世紀後半まで下る。

木簡の出土状況をみると、「後藤」又は「半山」の文字が判読されるものはSD3, SK14・41, バンクAから、「五藤」はSK11, 12から出土しており、いずれもSD3南端部付近に集中している。その他も含めた木簡全体の出土位置が、このSD3南部付近に集中している。「後藤」等木簡が出土したSD3, SK14・41は、最も時期の下る陶磁器等をみれば17世紀後半～18世紀前半のものがあり、既述した今次検出遺構群の中心的な時期に該当するが、SD3は上述の遺物年代観や調査時の検出状況、埋土が17世紀前半からの存在と元禄の大火以前の埋没を示唆している。SK14・41出土遺物は、17世紀後半～18世紀前半のものを少量含むが中心は17世紀代にある。これらより、「後藤」が「五藤」に先行する可能性が高い。なお、SK11・12出土遺物にはいずれも尾戸窯産とみられるものが含まれる。SK12からは切金加飾の櫛が出土している（第V章等参照）。

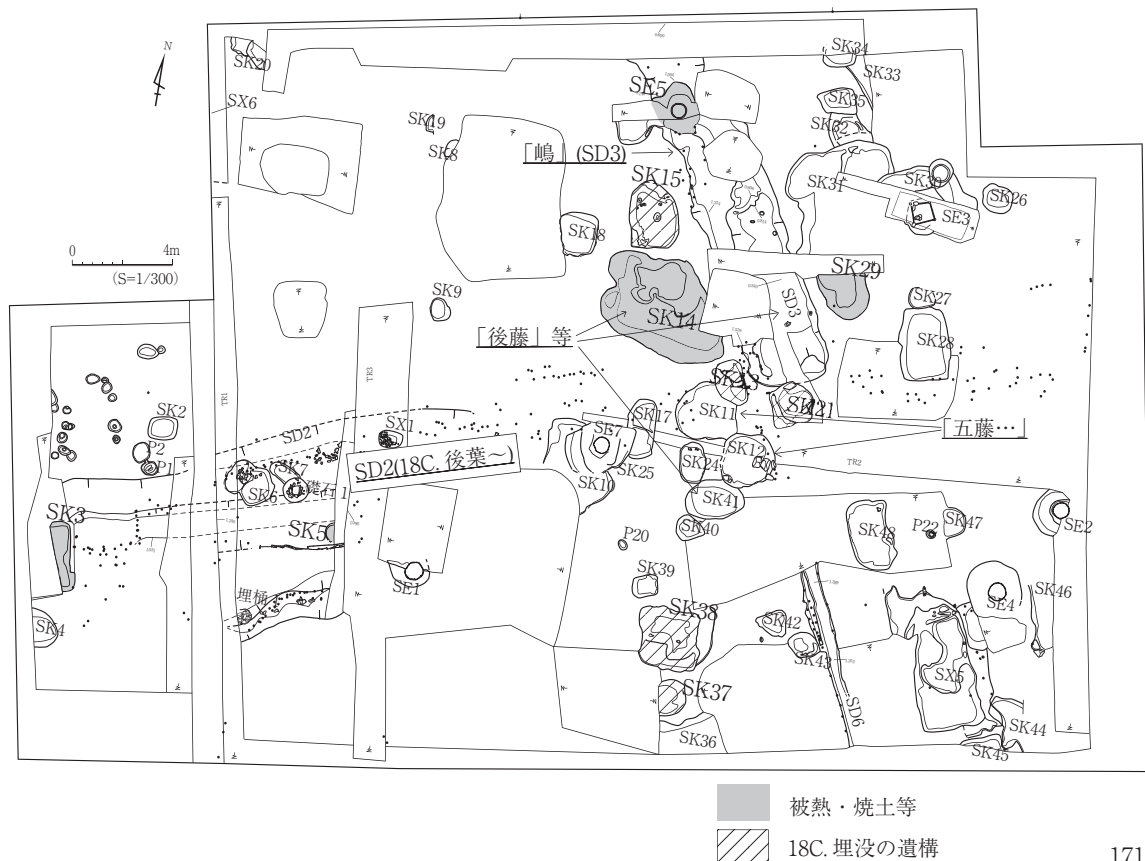


図130 記名木簡・被熱遺物出土遺構, 及び18世紀以降の遺構

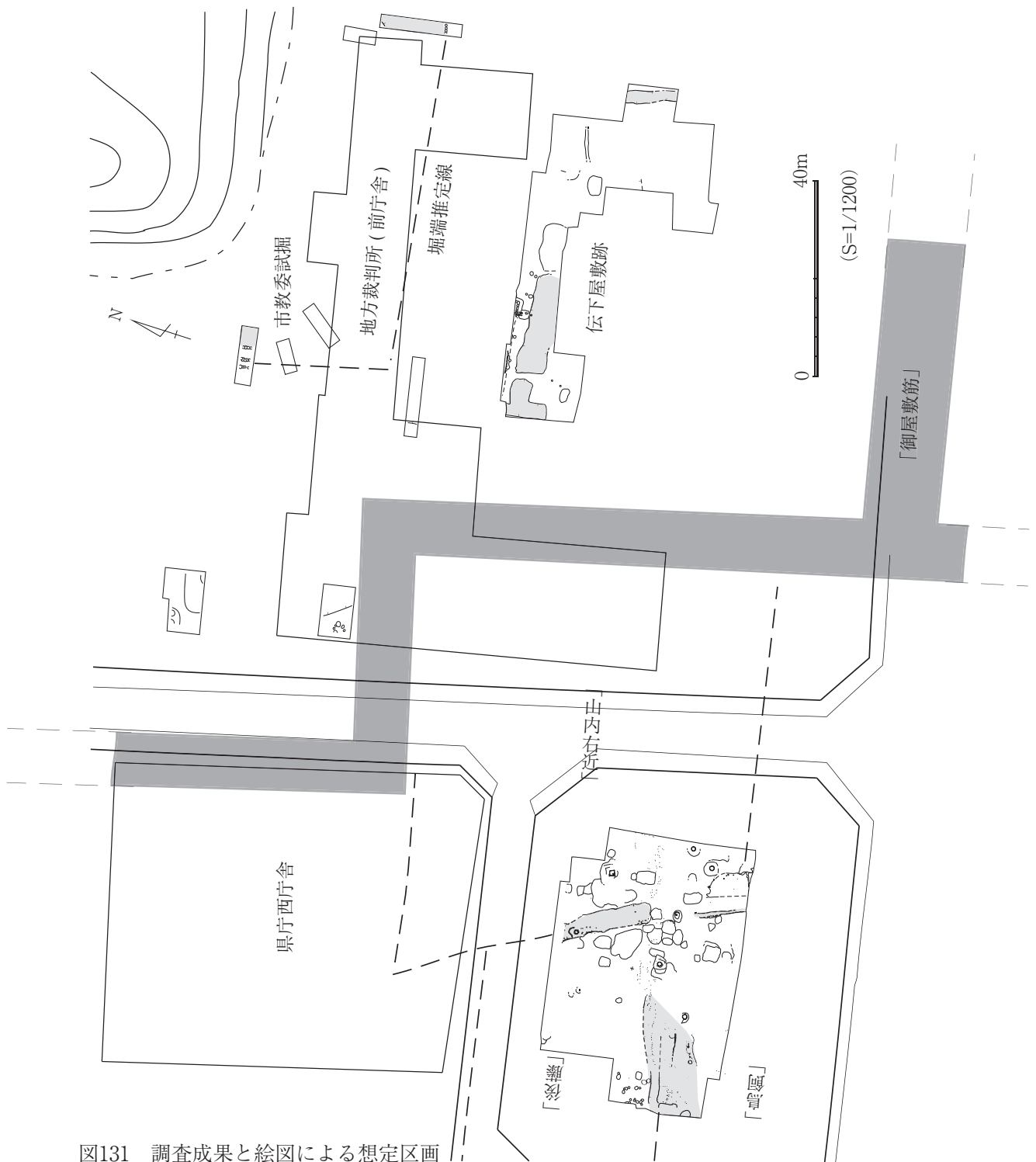


図131 調査成果と絵図による想定区画

今次の遺構配置図 10 や 130 と、「寛文己酉高知絵図」（以下寛文己酉図）をみると、SD3 は図 132 西部を斜めに縦断する境界線に合致するとみられる。したがって、この SD3～SD6 の形成する境界以東が同図の「山内右近」、以西が「後藤仁兵衛」及び「鳥飼」に該当する。同図に記されている間数から推測すると、SD3 以西の調査区北側は「後藤仁兵衛」の屋敷地に該当し、その北境は県庁西庁舎南縁付近に求められる。その場合、SD2 は同屋敷地の南境に沿っている可能性があり、同 SD の埋没時期は表 2 のごとく下るが、このような区割りを一定踏襲している可能性がある。なおその場合、SD2 以南は寛文己酉図で「鳥飼」と記された敷地となる。

SD3 東側の SK30 からは山内家の家紋である三ッ葉柏文の漆器椀が出土しており、第 V 章のごとく特に上質な手法で、分析した漆器椀で唯一金を検出した。山内右近邸の東境は、図 131, 132 よ





図132 寛文己酉図(部分 高知市立図書館より掲載許可)

り高知裁判所の現庁舎西側の敷地内に推定される。なお、両図の位置関係を確認するため図 131 に堀に関する試掘調査(高知市教委 2009)や伝下屋敷跡の成果(高知埋文 2002)と推定線を記入したが、大きな齟齬はなく符合している。また、「後藤」関連木簡の出土位置も既述のとおりで、絵図でいえば後藤氏敷地の背面際～隅に集中している。

## 2 被熱遺物等と画期

調査区各所で被熱した遺物が出土しているが、分布に幾つかの傾向を指摘できる。

遺構ではSK14での多さが目立ち、表2にある150点余の焼き物の約1/3に2次被熱がみられる。約100片の瓦もほとんどが被熱或は被熱の可能性がみられる。土壁片も少ないが出土している。

調査区全体でみると、四分したうちの北東域では、近世包含層中に焼土由来とみられる土粒が含まれ、冒頭の基本層準にも表れている。被熱した瓦や陶磁器は全域で出土しているが、SD2からSD3南端の先付近より北側では残深があまり深くない遺構も含めて数片以上の被熱瓦片や陶磁器が出土するのに対して、同南側では深い遺構でも被熱遺物がみられない。その境界は、既述した屋敷境と考えられる付近に相当する。なお、土坑群に先行するとみられるSD3では、既述のように被熱した陶磁器は原則的にみられず、瓦に若干みられるのみである。

高知城下町では、元禄11(1698)年と享保12(1727)年の大火がその様相を塗り替える画期として知られている。それを踏まえて、既述した調査成果について叙述すれば、SD3、SE3は大火以前に機能し、少なくともSD3は最初の大火までに埋没が進行或いは廃絶、SK14や調査区北東域に広がる橙色粒等含有層(第II章等)は享保大火と関連する可能性が考えられる。また、今次出土遺物の全体について、18世紀中頃以降の遺物がそれ以前のものに比して途絶状態であることに関して、史料では大火後当地区では区画が大きく改変され、拡張された「西弘小路」や堀端の植栽帯が設けられていることとの関連が考えられる。今次調査地点は、以後「御厩」の一面になっている史料が散見され、このような状況が出土遺物の様相に反映されているとみられる。

18世紀後半以降の遺物が上層から少量出土しているSD2は、絵図等で該当するものが管見に存在しない。しがらみ遺構や杭列、配石を伴う。また、遊漁具が出土しているが、伝下屋敷跡でも幕末頃の全容不明の池或は川辺状跡から魚籠が出土しており、史料に現れない部分の実態やそこでの活動を知ることができる。

## 3 出土遺物

### (1) SD3 出土遺物

志野、織部、唐津、青花の他、薄手で内面同心円(青海波)当具痕の唐津甕等がある。南四国では一般に普及していない丹波焼も鉢・甕が揃って出土している。年代観の面では、最新は17世紀後半～18世紀初とされるものだが主体は17世紀前葉で、今次検出した遺構出土資料群の中で明らかに古い様相を呈する。褐釉耳付壺94は信楽焼茶壺とみられる。石黄等(第V章)で金彩にみえる漆器は3点を数える他、刀関係や鑄造鍋が出土している。

### (2) その他の注目遺物について

表2、5のとおり、蒔絵や切金、螺鈿手法の製品が出土した。その他、漆器635には繊細な絵が描かれている。煙管には鍍金や細かい毛彫りを施されたものがある。このように高度あるいは丁寧な手法のものが多様な製品で確認できる点が、県下における今次調査成果の特徴である。

また、文献にも登場する「白土器」は、城周辺ではこれまでも一定数出土しているが、367のように塗装されたものは初見である。

高知城伝下屋敷跡をはじめとする周辺の調査成果と比較した場合、以上のような出土遺物の様相は、今次調査地点の居住者及び検出された遺構・遺物の時期に由来するものとみられる。

### (3) 全体の概要と傾向（表2）

焼き物をみると、織部、志野、肥前系陶器、青花といった奢侈的な陶磁器が様々な遺構や包含層から出土しているが、それらを含む一括性資料は、総じて表2等のとおり17世紀後葉を中心に18世紀前葉までにおさまる範囲に集中しており、明らかに18世紀に下る資料群は少ない。

当遺跡の北方で高知市教委が実施した調査では（序章）、17世紀～18世紀等の茶の湯関連や稀少な陶磁器等が出土している。輸入品や瀬戸美濃系製品等に今次成果との一定の共通性を指摘でき、城直近に居を与えられる中上級武家の所持品として把握することができる。

なお遺構別にみて、螺鈿や蒔絵、鍍金、刀剣関連といった品と、上記の奢侈的陶磁器の比率に明らかな相関関係は見出せない。そのような中で、SD3、SK14・15・32・38に奢侈品や上手の品が多い傾向はみられる。一方、SK48やSX5、SE5上層は遺物量の割に奢侈的な遺物が少ない。後者は、上層等にやや時期の下る遺物を含む傾向がある。

## 4 木簡の記名と居住者について

出土した木簡で判読できた人名より、屋敷地の居住者について考える。

「後藤仁兵衛」は、「御侍中先祖書系図牒」（土佐山内家宝物資料館）に80石と記される。同牒によれば後藤氏の2～4代目が仁兵衛を名乗っており、寛永11（1634）～安永3（1774）年の間に該当する。2代が「御城中大御目付役」、3・4代には「御馬廻」「江戸勤番」「御城下火消役」等と記されている。「七郡本田新田地払帳」によれば、後藤氏は「半山村」に100石の知行地を持っている。半山は市町村合併前の葉山村で、同帳にある「赤木」は現存する。今次出土の671、826と符合する。

五藤氏も、御侍中先祖書系図牒に80石と記される。「吉左衛門」は2人みえ、各々元禄15～宝暦11年、享和年間にあたる。前者に江戸勤番、御城下火消役、後者に御馬廻等の記述がみえる。

## 5 動植物遺体

表7のごとく諸遺構から多様な動植物遺体が出土した。目立つのはニホンジカで、諸遺構から二の腕をはじめとする部位のものが多数出土している。大型個体のものや、切削痕等を認めるものがある。ネコも出土している。SX4は近代に位置付けたが、ウマの骨が出土している。同じく近代層から出土した大型獣類骨の一部があるが、鑑定でも種類は特定できなかった。

貝類も諸種あり、カキは判断可能なものは全てイワガキで、海岸岩礁域に生息する種類である。サザエ同様浦戸湾外で採取されたものと思われる。ハマグリやアサリといった内湾に生息するものと、岩礁域に生息するものが運ばれていることになる。遺構では、SK15に貝類が豊富である。

植物では、オニクルミの核がいくつかの遺構から出土した。いずれも縫合部で半割された内果皮である。ウメやモモは諸遺跡で時折みられるが、オニクルミが年代のわかる遺構で確認されたのは県下初例である。

ニホンジカやイノシシについて、既述の木簡から年貢を出したことがわかる現在の葉山（村）は山間部にあり、これら獣類骨との関連も考えられる。

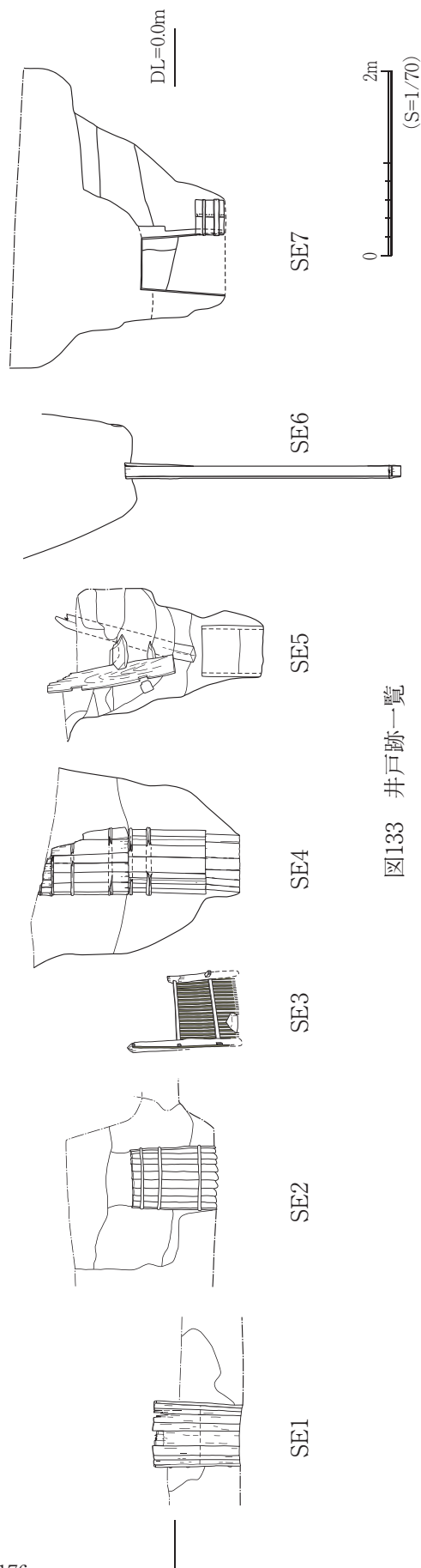


図133 井戸跡一覧

## 6 井戸

図133及び表1のごとく近世の井戸の底面は海拔0.45～0.7mを中心としており、当地で地下水を得られる深度がわかる。SE5では海拔0.95mを測る。東側の高知城伝下屋敷跡の調査では、結桶を使用した井戸跡が5基検出されており、底面は海拔0.3m余のものと0.6m余のものがある。コウヤマキの良質堅緻な井戸側を使用した近世後期の井戸の底の砂層からは、調査時も澄んだ湧水がみられた。

SE3とSE7は、各々上位に掘形より大きい土坑が重複しており、井筒等を除去した跡に関わる可能性がある。SE3は隅柱を有する組立て式の井戸枠、SE7は2時期あるうちの旧段階で底に曲物を使用し、いずれも結桶使用のSE1・2・4とは異なる構造で、切合い関係や出土遺物からそれらに先行する可能性がある。SE7は先行する流路跡SR1内に設置している。

結桶を使用したSE2やSE4ではSE3、SE7のような上層の遺構或は落込みが検出されていない。SE4は残存する最上段4段目の結桶が下端を残して削平されており、仮に4段目が3段目と同じ高さであった場合の上端は標高約2.1mとなる。因みに調査前の地表は標高2.9m前後であった。

SE6は今次唯一の打抜き式で、丸釘、番線の使用や出土遺物から近代に属する。各部寸法は表1のとおりである。類似した打込み式の井戸が伝下屋敷跡の立会調査で検出されており、打込み部分の長さは3.85mで、中に節を抜いた竹筒が入れられ、下端には番線が使用されている。このような、下端が近世の井戸にはなかったような深さに達する井戸が近代に至って構築される背景が留意される。

## 7 古代・中世

須恵器杯蓋588は7世紀代、559～562は高知平野東部等の資料との比較で8世紀後半～9世紀前半に位置付けられる(野市町1998)。土器碗558や583は各々10世紀後葉～11世紀前葉、11世紀後葉～12世紀前葉に属する(池澤2004)。須恵器甕片は約20点を数えるが、ほぼ調査区北西区域に集中している。

近接する高知城伝下屋敷跡では8世紀後半～9世紀台の須恵器皿・杯、土師器蓋・面取り脚の高杯・甕、

10世紀後半～11世紀の土器椀が、高知城跡北曲輪地区では土坑等から8～9世紀の須恵器・土師器が一定まとまって出土している（高知埋文2002, 高知市教委2011）。今次調査成果と併せ、「大高坂山」周辺には律令期からかなりの可住地が展開し、集落が営まれていたと考えられる。施設の性格については明言できないが、古浦戸湾（高知埋文2010）縁部にあつて水運至便な要所であることを背景にしたものと考えられる。また、土器椀は伝下屋敷跡でも同種のものが出土しており、一帯で活動は継続していたことがわかる。

中世では、包含層やSR1等から瓦器椀535, 582が出土しており、明確な断面三角の高台等から12世紀後葉に位置付けられる。複数出土している青磁蓮弁文碗は13～14世紀代の所産である。流路跡SR2出土の古瀬戸柄付片口は、県下に他例がない。中期後半で13世紀後葉に位置付けられる。石鍋は13～14世紀の所産とみられる。供伴している土師質土器杯皿もこれらの年代観と齟齬がない（池澤2004）。瓦器は含まれないことも、13世紀後葉以降は南四国で瓦器の出土が限定的となることに合致しており、SR2の時期は上記の年代に求められる。再び包含層等を含めて中世遺物をみれば、外底露胎の白磁皿や播磨系の土師質土器釜、備前IV期鉢といった15世紀代のものが年代の明らかな中世遺物としては最も時期の下るもので、青花等は中世の流路や層位からは出土していない。近世遺構等から出土している景德鎮は、供伴遺物からみて伝世品であった蓋然性が高い。

SD2の下にあるSR1も、備前焼IV期や播磨系土釜等の出土遺物、及び遺構の切合い関係からみて15世紀頃に位置付けられる。

## 8 近代

基礎遺構1は構造と遺物より近代以降のものである。冒頭章で記した検察庁資料によると昭和28年以前の官舎に関わる可能性があるが、それ以上の追究ができない。

伝下屋敷跡のある高知裁判所敷地では、明治期庁舎の基礎遺構が検出されている（高知埋文2002）。同遺構は、構築部分に掘った深さ0.64mの溝の底に丸太杭を多数打込み、その上に加工石材を3段に積み地下構造を有し、今次の基礎遺構1とは異なるが、溝状に掘った中に丸太と石を使用する点は共通している。伝下屋敷跡の遺構は、最高裁資料より明治28年起工、翌年竣工した「木造瓦葺二階建及平屋建」の遺構とみられる。

今次の基礎遺構1の方位N-2°-Wは前庁舎と一致せず、近世後期のSD2の方位（直交軸が西へ22°）とも異なる。図131や図6にある裁判所前庁舎や検察庁前（調査前）庁舎、間の現南北道はN-13～16°-Wで、近世後期と近代の建物遺構、現代の建物や道路の企画方位が異なっている。なお、検察庁前庁舎はN-15°-W、裁判所前庁舎はN-13°-W、間の現南北道はN-16°-Wを測る。

該期の遺構として井戸跡SE6がある。今次の井戸跡では唯一近代に属し、構造も近世の井戸とは大きく異なる。詳細は既述のとおりである。

註

『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会1998

『高知城伝下屋敷跡』高知県文化財団埋蔵文化財センター2002

池澤俊幸「四国における古代後期から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究XⅧ』日本中世土器研究会2004

『高知城跡－西堀地区試掘確認調査報告書－』高知市教育委員会2009

『竹林寺跡』高知県文化財団埋蔵文化財センター2010

『史跡 高知城跡』高知市教育委員会2011

## 第V章

# 高知城下町西弘小路遺跡出土漆器椀の材質・技法に関する調査

東京文化財研究所 保存修復科学センター  
伝統技術研究室 北野信彦

### 1, はじめに

高知城下町西弘小路遺跡は高知城に近接した一等地に位置するため、絵図面との対比からも上級武家屋敷地が所在した区画である。この遺跡からは、中世期、江戸時代前期～中期の武家屋敷関連の遺構と遺物が大量に検出され、この中には数多くの漆器資料も含まれている。今回、これら出土漆器資料、とりわけ椀・皿・酒杯などの挽き物類の材質・技法に関する分析調査を行う機会を得たので、結果を報告する。

### 2, 出土漆器椀の調査

#### 2.1 調査対象資料

本調査では、現在、松江市教育委員会・松江市教育文化振興事業団で保管されているろくろ挽き物である椀や酒盃などの実用的な生活什器類およびその破片である近世出土漆器の合計305点を調査対象資料とした。これらは、国産陶磁器編年と出土層位の検討から、一部は室町期の資料も交えるが基本的には堀尾氏により月山富田城から松江城に城下町機能が移転した堀尾期(1620～1633)の第4面検出資料群、それより若干年代が下る江戸時代前期頃の第3面検出資料群、それ以降の18世紀代～幕末期の第2面および第1面検出資料群の大きく3時期のグループに分類される。そして、このうちの第4,3面に相当する近世初頭期～江戸時代前期頃の家老屋敷敷地内のゴミ穴廃棄土坑から出土した比較的江戸時代でも年代観が古い段階の資料群がその中核を為している。

#### 2.2 調査方法

一般に漆器の製作は、原木から木地をつくり、挽き物や板物の形態にする「木胎製作」の工程と、その木胎に下地および漆を塗布し、蒔絵・漆絵などの加飾や研磨作業を行う「漆工」の工程から成っている。本報では、まず各出土漆器資料の器形や残存状態、漆塗り表面の状態などを肉眼観察した後、実体顕微鏡による細部の観察を行った。次に、自然科学的な手法を用いた①木胎部の樹種同定、②木取り方法、③漆塗り構造の分類、④赤色系や黄色系漆における使用顔料や蒔絵粉材料の材質に関する定性分析、などの漆器の材質・技法といった生産技術面の組成に関する調査を行った。以下、調査方法を記す。

##### (1)木胎部の樹種同定

樹種の同定は、出土木材の内部形態の特徴を顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、本体をできるだけ損傷しないよう、破切面などオリジナルでない面から木口、柃目、板目の三方向の切片をカミソリの刃を用いて作成した。切片は、サフラニン・キシレンを用いて常法に従い染色と脱水を行い、検鏡プレパラートに仕上げた。

##### (2)木取り方法

挽き物類である漆器資料の木取り方法の検討は、樹種同定の切片作成時に細胞組織の方向を生物顕微鏡で確認することで、同時に行なった。

### (3) 漆塗り構造の分類

まず肉眼で漆塗り表面の状態を観察した後、実体顕微鏡を用いた細部の観察を行った。次に1mm×3mm程度の漆膜剥落片を採取して合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルダイトGY1251J.P ハードナー HY.837)に包埋した後、断面を研磨した。この断面試料の漆塗膜面の厚さ、塗り重ね構造、顔料粒子の大きさ、下地の状態などについて、金属顕微鏡による落射観察を行い、一部の代表的な漆器資料については生物顕微鏡を用いた薄層プレパラートの透過観察を併用した。

### (4) 赤色系漆および黄色系漆の使用顔料、蒔絵材料の材質

赤色系漆および黄色系漆の使用顔料、蒔絵材料の材質に関する定性分析は、採取可能な部分の漆膜剥落片をカーボン台に取り付けた上で(株)堀場製作所MESA-500型の蛍光X線分析装置に設置し、電子線(X線)を照射し、特性X線を検出した。設定条件は以下の通りである。分析設定時間:600秒、試料室内は真空状態、X線管電圧:15kVおよび50kV、電流:240 $\mu$ Aおよび20 $\mu$ A、検出強度:50,000cps、定量補正法:スタンダードレスである。

### (5) 分析結果の集計方法(生産技術面からみた漆器の組成)

個々の漆器資料から最も一般的な8つ(Aタイプ)の材質・技法上の品質の優劣ランクの項目を抽出し、それぞれの比率を総個体数の中で集計した。この結果をレーダーチャート方式で図化し、時期別、さらには同じ金沢城下町に所在した他遺跡から出土した近世漆器資料の材質・技法上の組成との比較を行なった。この集計方法は以下の通りである。

まず、レーダー中心軸・上の項目には一括出土漆器の加飾率(一括の総個体数の中で漆絵や家紋などの装飾を施した資料が占める割合)を取る。その右側に赤色系漆の使用顔料であるベンガラ・炭粉下地・ブナ材などのいわゆる廉価な量産型の漆器資料の材質・技法の特徴を取り、それと相対する左側には、赤色系漆の使用顔料である朱・サビ下地・ケヤキ材などの優品資料の特徴を示す項目をとる。さらに中心軸・下にはケヤキ材とブナ材の中間に位置するトチノキ材の占有比率(%)をそれぞれ配置した。この配置で示されるレーダーチャートは、その重点が右に寄るほどランク的に廉価な資料が多いことを、左に寄るほど優品資料の占める割合が高いことを示す。

## 3. 調査結果

本漆器資料のうち、挽き物類である漆器碗の加飾は、(1)内面を赤色系漆、外面を黒色系漆で地塗りし、地外面に赤色系漆で漆絵を描く。この際、引っ搔き技法を用いる場合もある。また資料によっては高台部が高く、この高台内に所有を表す刻印を入れることもある。(2)内面赤色系漆・外面黒色系漆を塗布し、地外面に赤色系漆と黄色系漆併用、もしくは黄色系漆で家紋もしくは漆絵を描く。(3)内面赤色系漆・外面黒色系漆を塗布し、地外面に赤色系漆、もしくは赤色系漆を下絵漆として銀蒔絵で家紋もしくは漆絵を描く。などのグループに分類された。北野によるこれまでの調査結果では、このうちの(1)資料群は基本的には近世初頭期(17世紀第1四半期)頃、(2)資料群はそれよりやや年代が下の江戸時代前～中期期(17世紀中～後半)頃、(3)資料群は江戸時代中期以降の出土漆器にみられる材質・技法上の特徴である。本漆器資料の場合も共伴する出土遺構別の国産陶磁器編年の年代観と大枠で齟齬が無いため、年代観を考える上で参考となる。以下、個々の資料における材質・技法上の分析結果を述べる(表1)。

まず樹種同定の結果、挽き物類である椀や皿、酒盃の資料群には資料 No.5 の酒盃が針葉樹材（カヤ）が確認された以外はいずれも広葉樹材が使用されていた。内訳は、トチノキ（30点）、ブナ（14点）、ケヤキ（20点）、ホオノキ（7点）、シオジ（7点）、コナラ節（2点）、カツラ（3点）、サクラ亜属（1点）、カバノキ属（3点）、ハンノキ（1点）。などの合計10種類である。一方、その他の什器類では漆塗り櫛でイスノキが、出土資料では希少な螺鈿（青貝）加飾がある調度類破片でスギが使用されていた。北野によるこれまでの挽き物類である近世出土漆器椀の用材選択性に関する調査結果では、数ある広葉樹材のなかでもトチノキ・ブナ・ケヤキ（近世初頭期段階ではシオジ）材の利用頻度が高いことがわかっている。本漆器資料の場合も、この4樹種が全体の74.7%を占めていた（写真1）。これらの木材の組織、工作の難易、割れ狂い、色光沢、塗りなどを考慮に入れて用材選択の傾向をみると、堅牢で寸法安定性が高い最良材であるケヤキ・シオジ材などと、かたや若干寸法安定性に欠くが加工や入手の容易さという大量生産の点からみて極めて一般性が高いブナ・トチノキ・ハンノキ・コナラ節などの2つのグループに分かれた（表2）。本漆器資料の2つのグループの比率は、前者が全体の28.4%であり、これは他の地域の資料群に比較して前者の出現比率がやや高かった。挽き物類である椀型資料の木取り方法を見てみると、横木地と縦木地に大別され、その大半は板目取りもしくは柾目取りの横木地であった（図1）。個々の漆器表面の漆塗り技法をみると、塗りは地と文様からなり、無文様で地塗りのみの資料と、家紋や漆絵などの加飾を地上面に描く資料に分かれた。漆膜面の塗り構造、特に各漆器資料の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、無機物を含んでいないため無機元素の検出ピークがほとんど見出だされない資料と、粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークで認められる資料に分かれた。これらを顕微鏡観察することにより、前者は炭粉を柿渋などに混ぜて用いる炭粉下地（代用下地）、後者は細かい粘土もしくは珪藻土を生漆に混ぜて用いるサビ下地（堅下地もしくは本下地ともいう）と理解した。なお、一部の資料については、細かい粘土や珪藻土とにかわなどを混ぜて用いる泥下地（堅下地・本下地より堅牢性に欠ける）の可能性もある。しかし、出土資料の場合、にかわと生漆の明確な科学的識別が技術的に困難な現在、両者をまとめて「サビ下地」とした。また炭粉下地の名称についても炭粉を柿渋に混ぜて用いる渋下地以外にも、にかわや生漆を用いた例が知られる。これも同様の理由から両者を纏めて「炭粉下地」とした。本漆器資料の場合、2つのグループの比率は、前者のサビ下地が全体の18.4%、後者の炭粉下地が81.6%であり、後者の出現比率が高かった。このことは、本資料群が非日常のハレの什器というよりは日常の生活什器としての漆器椀類が中核を為していたことを意味しよう。地の上塗りの漆塗膜層については、多くは1層塗りの簡便な塗り構造であったが、一部の資料、とりわけ内外赤色系漆を地塗りしたのみの資料群では多層の塗り構造を有する資料も幾例か見出だされた。この点も本資料群の特徴の一つである。なお、家紋や漆絵などの加飾はいずれも地の上塗り層の上に描かれていた。このような近世漆器の製法を示す民俗事例に、新潟県糸魚川市大所のナカジマ家小椋丈助氏による実用に即した近世木地師、漆器椀の製法に関する口承資料がある（文化庁1974）。それによると、『[上品] 布着せ補強（椀の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く）～サビ下地（砥の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布）～下塗り（生漆）～上塗り（生漆に赤色顔料もしくは黒色顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒色漆）の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。[下品] 炭粉下地（柳炭粉や松煙粉を柿渋に混ぜて用いるサビ下地の代用下地）～上塗り（生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入し



て用いる粗悪な漆)。[中品] 下品とほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したり、ミガキを丁寧にしたりする。下品よりかなり持ちが良い。』などとしており、漆器ランク別の工程をよく示している。本漆器資料の場合、地塗りとして1層塗りにとどまる簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料が多いものの、その一方で明らかな塗り直し補修の痕跡や椀の口縁部に布着せ補強を施す資料も幾例か見出されており、幾つかの材質や製作技法上の品質ランクに分類された(図2, 写真2)。特に、資料 No.72,75 の漆塗り櫛や資料 No.119 の山内家家紋が金・銀平蒔絵された破片資料、資料 No.89 の螺鈿(青貝)調度品破片など優品資料も僅かながらも含まれており、この点が本資料群の大きな特徴の一つであろう。次に、内面の地塗り、もしくは外面の家紋や漆絵加飾に用いられた赤色系漆の使用顔料を定性分析すると、Fe(鉄)のピークが強く認められる資料と Hg(水銀)のピークが強く認められる資料に大別された。これらをさらに顕微鏡観察することにより、それぞれベンガラ(酸化第二鉄  $Fe_2O_3$ ) および朱(水銀朱  $HgS$ ) の異なる赤色顔料を用いたベンガラ漆もしくは朱漆であると理解した。ベンガラ・朱ともに赤色顔料としての歴史は古い。しかし近世漆器の色漆の使用顔料としては、幕府朱座を中心とした統制物資であった朱に比較して、江戸時代中期以降は人造ベンガラの工業生産化により量産体制が確立するベンガラの方が廉価で一般的となる。本漆器資料の場合、炭粉下地に地塗りの上塗り漆を一層塗布するような簡素で一般的な塗り構造を持つ資料にはベンガラ漆を、堅牢で複雑な多層塗り構造を持つ資料には朱漆を、地内面にはベンガラ漆を塗布するが地外面の家紋や漆絵の加飾部分のみに朱漆を使用するなど、朱漆とベンガラ漆の使い分けを意識した事例も見出された。また、黄色系漆の使用顔料における無機物の定性分析の結果では、いずれも石黄(三硫化二砒素:  $As_2S_3$ ) が認められた。近世出土漆器における石黄の使用は、江戸時代前期頃の漆絵や蒔絵加飾に黄色系漆を施す漆器資料群と、その後約一世紀の石黄使用の途絶期を挟み、18世紀以降の江戸時代後期以降を中心として漆器の地塗りに緑色系漆を塗布する漆器資料群の二種類に大別される。このうちの前者は、江戸時代前期頃を中心としてシャム(現在のタイ)・トンキン(現在のベトナム)・林邑(現在のカンボジア)などの東南アジアから大量に海外貿易品目の一つとして我国に輸入されたものである。本資料には、石黄顔料による黄色系漆を地外面に加飾した漆器椀のみであり、この点も本漆器資料群の年代観を考える上で有力な参考となろう。

(参考文献)

- 文化庁文化財保護部(1974)『木地師の習俗 民俗資料選集2』国土地理協会  
橋本鉄男(1979)『ろくろ ものと人の文化史31』法政大学出版局  
北野信彦(2002)「第3節 高知城伝下屋敷出土漆器資料の材質と製作技法」『高知城伝下屋敷跡』, p.200-215, 高知県文化財団埋蔵文化財センター  
北野信彦(2005)『近世出土漆器の研究』, 吉川弘文館  
北野信彦(2005)『近世漆器の産業技術と構造』, 雄山閣  
北野信彦(2005)『漆器の考古学 -出土漆器からみた近世という社会-』あるむ出版

(図版)

|          |   |  |
|----------|---|--|
| A<br>環孔材 | a. ケヤキ系<br>ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリ<br>ギリ、クリ、ヤマグワなど                  | 木目が明瞭に表れる。堅硬であるが靱性もあり、木皿など薄手の物に適する。  |
|          | b. サクラ、カエデ系<br>イヤタカエデその他のカエデ<br>類、ヤマザクラ、ウワミズサ<br>クラ、ミズメなど | 白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。割れ狂いが少なく、やや堅さはあるが加工は容易。下地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。                  |
| B<br>散孔材 | c. プナ、トチノキ系<br>トチノキ、プナ、ミズキ、カ<br>ツラ、ホオノキなど                 | 軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大きである。                                      |
|          | d. エゴノキ系<br>エゴノキ、アオハダなど                                   | 白い軽軟で加工が容易である。仕上げは見た目によく、彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくにエゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割れにくいので使用に適する。 |

橋本鉄男「ろくろ、ものと人間の文化史31」1979などを参考にして作成

(表1:ろくろ挽き物の用材分類一覧表)

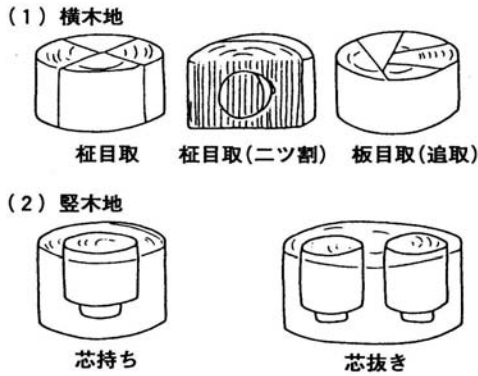


図1-1 横木地と縦木地の要領  
(末沢春一朗「近世以降木地師の  
ろくろ製品技術の研究」原図)

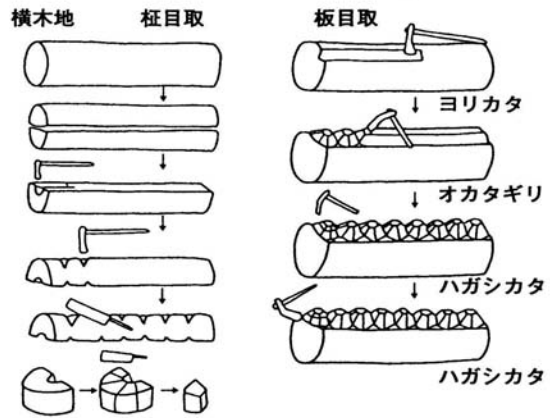
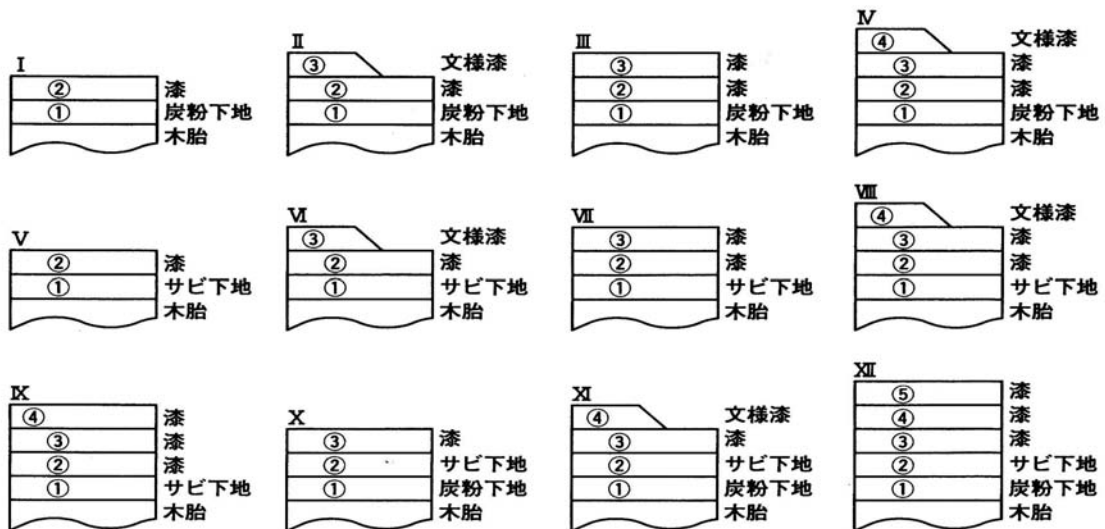
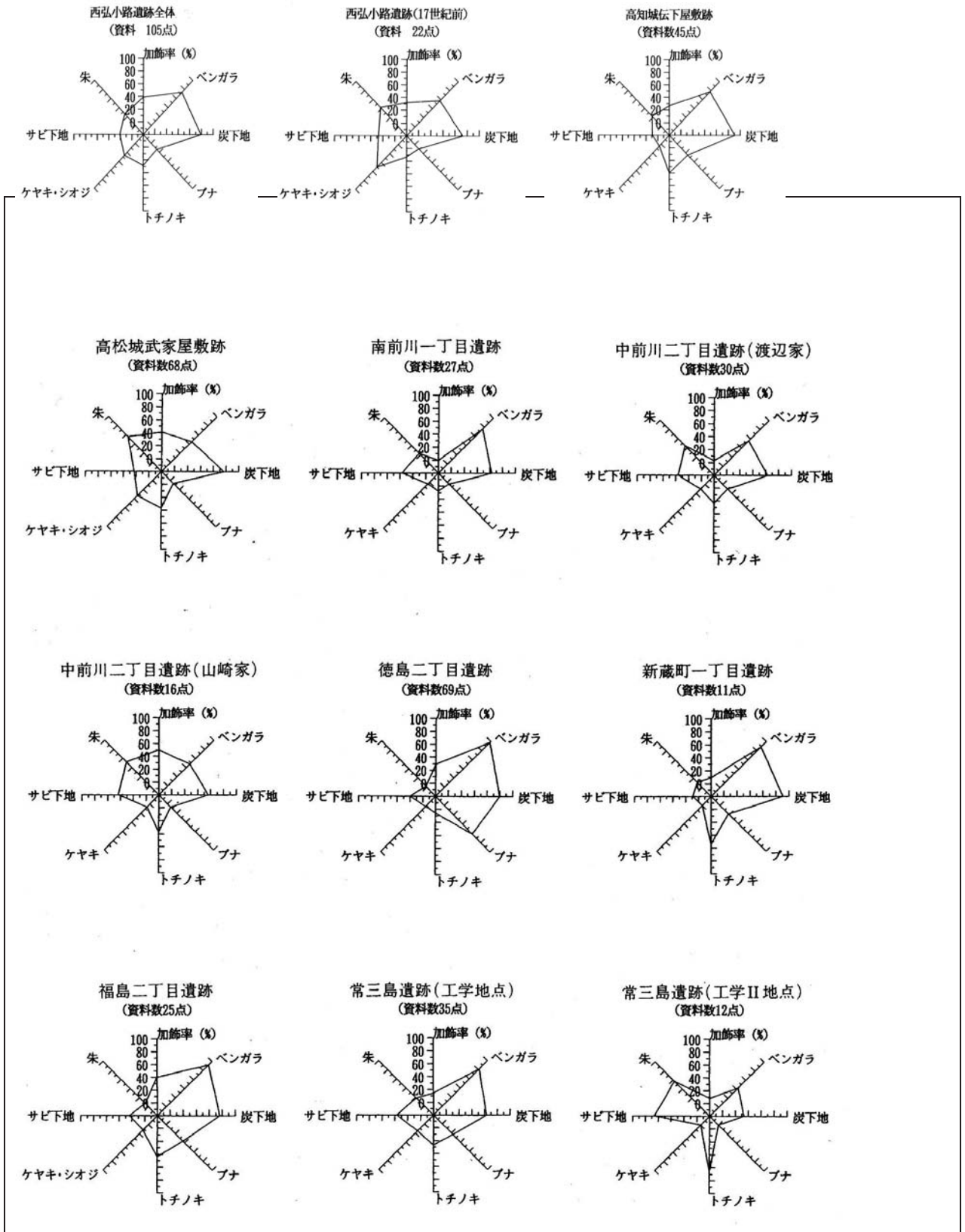


図1-2 近世会津木地師の木取りの方法  
須藤(1982)より原図引用

(図1:近世以降の漆器(挽き物類)の木取り方法)



(図2:漆塗り構造の分類)



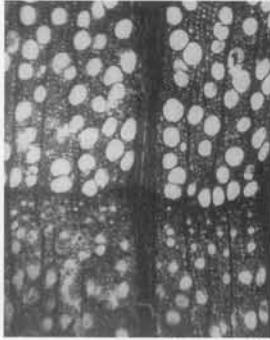
(図3:本資料群を含む各遺跡出土漆器資料(挽き物類)の組成(集計例))

| 分析No. | 挿因No. | 器型  | 樹種    | 木取 | 表面塗り技法 |   |          | 漆塗  |     | 構造     | 使用   | 顔料        | 陶磁器年代<br>(最新) | 出土遺構   | 備考      |
|-------|-------|-----|-------|----|--------|---|----------|-----|-----|--------|------|-----------|---------------|--------|---------|
|       |       |     |       |    | 内      | 外 | 文様       | 内   | 外   |        |      |           |               |        |         |
| 1     | 851   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  | ベンガラ   |      | ベンガラ      | 17後～18初       | SD3    |         |
| 2     |       | 漆器椀 | ブナ    | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | 朱      |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 3     | 807   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  | 朱      |      | 朱         | 17末18前か       | SK4    |         |
| 4     | 808   | 漆器椀 | カツラ   | A  | 黒      | 黒 |          | I   | I   |        |      |           |               | SK45   | 薄い膜面    |
| 5     | 743   | 酒杯  | カヤ    | A  | 赤      | 赤 |          | X   | X   | ベンガラ   | ベンガラ |           |               | SK23   | 鉛(Pb)検出 |
| 6     | 746   | 漆器椀 | ブナ    | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           |               | SK24   |         |
| 7     |       | 漆器椀 | ホオノキ  | A  | 赤      | 赤 | 縁-黒      | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           | 17後～18C       | SK12   |         |
| 8     | 741   | 漆器椀 | ブナ    | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           |               | SK18   | 高台内-黒   |
| 9     |       | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 赤 | 縁-黒      | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           | 17後～18C       | SK12   |         |
| 10    | 629   | 漆器椀 | ケヤキ   | B  | 黒      | 黒 |          | V   | V   |        |      |           | 17後～18初       | SD3    | 布着せ補強   |
| 11    | 727   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 朱      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 18～か          | SK15   |         |
| 12    |       | 漆器椀 | カバノキ属 | 不明 | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           | 18～か          | SK15   |         |
| 13    | 618   | 漆器椀 | ケヤキ   | A  | 赤      | 赤 |          | V   | V   | 朱      | 朱    |           |               | SD3 1層 | 反端椀     |
| 14    | 835   | 鉢か? | ブナ    | B  | 赤      | 黒 | 外-絵-金    | I   | II  | ベンガラ   |      | Au        |               |        | 会津系?    |
| 15    | 733   | 漆器椀 | ケヤキ   | A  | 黒      | 黒 |          | VII | VII |        |      |           |               | SK16   | 玉縁あり    |
| 16    | 850   | 漆器椀 | ケヤキ   | B  | 黒      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  |        |      | 朱         |               | SR2    |         |
| 17    |       | 漆器椀 | カツラ   | B  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 18    |       | 漆器椀 | 広環孔材  | 不明 | 黒      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  |        |      | 朱+ベンガラ    | 17後～18C       | SK31   |         |
| 19    | 625   | 漆器椀 | サクラ亜属 | B  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 20    | 622   | 漆器椀 | カバノキ属 | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    | 薄い膜面    |
| 21    | 615   | 漆器椀 | シオジ   | A  | 黒      | 黒 |          | I   | I   |        |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 24    | 628   | 漆器椀 | シオジ   | B  | 黒      | 黒 |          | III | III | 朱      | 朱    |           | 17後～18初       | SD3    | 高台内刻印   |
| 25    | 627   | 漆器椀 | トチノキ  | B  | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  | 朱+ベンガラ |      | 朱         | 17後～18初       | SD3    |         |
| 26    | 614   | 漆器椀 | シオジ   | B  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 27    | 674   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-赤・黄  | I   | II  | ベンガラ   |      | ベンガラ・石黄   |               | SD6    |         |
| 28    | 633   | 漆器蓋 | トチノキ  | A  | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  | ベンガラ   |      | 朱         | 17後～18初       | SD3    |         |
| 29    |       | 漆器椀 | ホオノキ? | B  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    | 薄い膜面    |
| 30-1  |       | 漆器椀 | ケヤキ   | A  | 黒      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II  | 朱+ベンガラ |      | 朱・石黄+ベンガラ | 17後～18C       | SK31   |         |
| 30-2  |       | 漆器椀 | ケヤキ   | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | 朱      |      |           | 17後～18C       | SK31   |         |
| 31    | 764   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           | 17後～18C       | SK31   |         |
| 32    |       | 漆器椀 | ケヤキ   | A  | 赤      | 黒 |          | III | III | ベンガラ   |      |           | 18C           | SK38   |         |
| 33    | 791   | 漆器椀 | ホオノキ  | A  | 赤      | 黒 |          | III | I   | ベンガラ   |      |           | 17C           | SK41   |         |
| 34    | 677   | 漆器椀 | ブナ    | B  | 朱      | 黒 | 外-紋-赤    | I   | II  | ベンガラ   |      | ベンガラ      |               | SE2    |         |
| 35    | 837   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 茶 | 外-絵-銀(ベ) | I   | II  | ベンガラ   |      | Ag+ベンガラ   |               |        |         |
| 36    | 616   | 漆器椀 | ブナ    | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |
| 37    |       | 漆器椀 | シオジ   | B  | 赤      | 黒 |          | X   | X   | 朱      |      |           | 18～か          | SK15   |         |
| 38    | 832   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           |               | バ2A    | 高台内黒    |
| 39    | 745   | 漆器椀 | ホオノキ  | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I   | ベンガラ   | ベンガラ |           |               | SK24   | 高台内刻印   |
| 45-1  | 631   | 漆器蓋 | シオジ   | B  | 朱      | 黒 | 外-絵-黄・赤  | X   | XI  | 朱      |      | 朱・Ag      | 17後～18初       | SD3    |         |
| 45-2  | 630   | 漆器椀 | トチノキ  | A  | 赤      | 黒 |          | I   | II  | ベンガラ   |      |           |               |        |         |
| 46-1  |       | 漆器椀 | シオジ   | B  | 黒      | 黒 |          | III | III |        |      |           | 17後～18初       | SD3    | 灰炭下地    |
| 46-2  |       | 漆器椀 | ケヤキ   | B  | 赤      | 黒 |          | I   | I   | ベンガラ   |      |           | 17後～18初       | SD3    |         |

| 分析No. | 挿図No. | 器型   | 樹種   | 木取 | 表面塗り技法 |   |          | 漆塗  |         | 構造     | 使用           | 顔料      | 陶磁器年代<br>(最新) | 出土遺構      | 備考 |
|-------|-------|------|------|----|--------|---|----------|-----|---------|--------|--------------|---------|---------------|-----------|----|
|       |       |      |      |    | 内      | 外 | 文様       | 内   | 外       |        |              |         |               |           |    |
| 47    | 777   | 漆器椀  | ブナ   | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | SK35          |           |    |
| 48    | 620   | 漆器椀  | シオジ  | B  | 褐      | 黒 | 外-絵-黄・赤  | X   | XI      |        | 朱・石黄         | 17後～18初 | SD3           | 高台内刻印     |    |
| 49    | 624   | 漆器椀  | ケヤキ  | B  | 黒      | 黒 |          | VII | VII     |        |              | 17後～18初 | SD3           | 布着せ補強     |    |
| 54    | 696   | 漆器椀  | ブナ   | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   | ベンガラ         | 17後～18C | SK11          |           |    |
| 55    | 742   | 漆器椀  | 広散材  | B  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | SK18          | 高台内黒      |    |
| 56    | 824   | 漆器皿  | ホオノキ | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | SX6           |           |    |
| 57    |       | 漆器椀  | ブナ   | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   |              | 18～か    | SK15          | 高台内黒      |    |
| 58    |       | 漆器椀  | トチノキ | B  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | SK18          |           |    |
| 59    | 691   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | SK5上・下層       |           |    |
| 72    | 704   | 椀    | イスノキ | -  | 黒      | 黒 | 外-金蒔絵    | I   | II      |        | Au + As+ベンガラ | 17後～18C | SK12          |           |    |
| 75    | 780   | 椀    | イスノキ | -  | 黒      | 黒 | 外-金・朱絵   | I   | II      |        | 朱・Au + Ag    | 17後頃    | SK40          | 切金加飾      |    |
| 77    | 818   | 不明   | ケヤキ  | B  | 黒      | 黒 |          | V   | V       |        |              |         | SX5           | 布着せ補強     |    |
| 79    | 790   | 漆器蓋  | 広散材  | 不明 | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II      | ベンガラ   | 朱            | 17C     | SK41          |           |    |
| 85    | 812   | 刀剣鞘  |      | -  | 黒      | 黒 |          | VII | VII     |        |              |         | SK46          |           |    |
| 86    | 813   | 刀剣鞘  |      | -  | -      | 黒 |          | -   | V       |        |              |         | SK46          |           |    |
| 87    |       | 刀剣鞘  |      | -  | -      | 黒 |          | -   | V       |        |              |         | SK46          |           |    |
| 88    | 814   | 刀剣鞘  |      | -  | -      | 黒 |          | -   | V       |        |              |         | SK46          |           |    |
| 89    | 834   | 調度品  | スギ   | 不明 | 赤      | 黒 |          | IX  | VII + V | 朱・ベンガラ |              |         | バSK24の上       | 螺鈿(青貝)加飾  |    |
| 97    | 748   | 漆器椀  | ホオノキ | 不明 | 黒      | 黒 | 外-絵-銀    | I   | II      |        | Ag+ベンガラ      | 17前か    | SK26          |           |    |
| 98    | 692   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 赤 | 外-紋-銀(ベ) | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      |         | SK5           |           |    |
| 99    | 719   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-赤    | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      | 18前1点   | SK14          |           |    |
| 100   | 794   | 漆器椀  | コナラ節 | B  | 赤      | 黒 |          | III | I       | ベンガラ   |              | 17C     | SK41          |           |    |
| 101   | 849   | 漆器椀  | ケヤキ  | B  | 赤      | 黒 | 外-絵-赤    | I   | II      | 朱      | 朱            |         | SR1下層         |           |    |
| 102   | 793   | 漆器椀  | コナラ節 | B  | 赤      | 黒 |          | III | I       | ベンガラ   |              | 17C     | SK41          | 高台内刻印     |    |
| 103   | 621   | 漆器椀  | ケヤキ  | A  | 黒      | 黒 |          | V   | V       |        |              | 17後～18初 | SD3           | 布着せ補強・反端椀 |    |
| 104   |       | 漆器皿  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-絵-黄    | I   | II      | ベンガラ   | 石黄+ベンガラ      | 17前か    | SK26          | 引掻き技法     |    |
| 105   | 606   | 漆器椀  | ケヤキ  | A  | 赤      | 赤 | 外-絵-黒    | V   | VI      | 朱      | 朱            |         | SD24層         |           |    |
| 106   | 626   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-銀    | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      | 17後～18初 | SD3           |           |    |
| 107   |       | 器物   | ハンノキ | C  | 赤      | 赤 |          | V   | V       | ベンガラ   | ベンガラ         | 17末18前か | SK4           |           |    |
| 108   | 689   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ   |              | 17末18前か | SK4           |           |    |
| 109   | 729   | 漆器椀  | ブナ   | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-赤    | I   | I       | 朱調     | 朱            | 18～か    | SK15          |           |    |
| 110   |       | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-赤    | I   | II      | ベンガラ   | ベンガラ         |         |               |           |    |
| 111   | 687   | 漆器椀  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-絵-銀(赤) | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      | 17末18前  | SK3           |           |    |
| 112   | 740   | 漆器蓋  | トチノキ | A  | 赤      | 茶 | 外-絵-銀    | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      |         | SK18          |           |    |
| 113   | 737   | 漆器小杯 | タケ   | C  | 黒      | 黒 |          | 直接  | 直接      |        |              | 17後     | SK17          | 下地なし      |    |
| 114   | 776   | 漆器椀  | ブナ   | A  | 赤      | 赤 |          | I   | I       | ベンガラ調  | ベンガラ調        |         | SK34          |           |    |
| 115   | 792   | 漆器椀  | ケヤキ  | A  | 黒      | 黒 |          | I   | I       |        |              | 17C     | SK41          | 高台内刻印     |    |
| 116   | 847   | 漆器椀  | ホオノキ | A  | 黒      | 黒 |          | I   | I       |        |              |         | SR1           |           |    |
| 117   | 838   | 漆器椀  | ケヤキ  | A  | 赤      | 黒 |          | I   | I       | ベンガラ   |              |         | 包             | 高台内刻印     |    |
| 118   | 782   | 漆器蓋  | トチノキ | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-銀    | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      | 18C     | SK38          |           |    |
| 119   | 760   | 漆器蓋  | ケヤキ  | A  | 赤      | 黒 | 外-紋-金・銀  | VII | VII     | 朱      | 金+朱・銀+朱      |         | SK30          | 山内家家紋     |    |
| 120   | 759   | 漆器蓋  | トチノキ | 不明 | 赤      | 黒 | 外-紋-銀    | I   | II      | ベンガラ   | Ag+ベンガラ      |         | SK30          |           |    |

| 分析<br>No. | 挿図<br>No. | 器型  | 樹種        | 木<br>取 | 表面塗り技法 |   |         | 漆塗  |    | 構造     | 使用         | 顔料<br>文様 | 陶磁器年代<br>(最新) | 出土遺構     | 備考 |
|-----------|-----------|-----|-----------|--------|--------|---|---------|-----|----|--------|------------|----------|---------------|----------|----|
|           |           |     |           |        | 内      | 外 | 文様      | 内   | 外  |        |            |          |               |          |    |
| 121       | 848       | 漆器碗 | ケヤキ       | A      | 赤      | 黒 |         | I   | I  | 朱+ベンガラ |            |          | SR1東          | 薄い膜面     |    |
| 122       | 806       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-赤   | I   | II | ベンガラ   | ベンガラ       | 17後頃     | SK48          |          |    |
| 123       | 781       | 酒杯  | ブナ        | B      | 赤      | 赤 |         | I   | I  | ベンガラ   | ベンガラ       | 18C      | SK38          | 和歌と紅葉    |    |
| 124       | 728       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-銀   | I   | II | ベンガラ   | Ag+As+ベンガラ | 18~か     | SK15          |          |    |
| 125       | 711       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-銀   | I   | II | ベンガラ   | Ag+ベンガラ    | 18前      | SK13          |          |    |
| 126       | 753       | 漆器碗 | カツラ       | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-赤   | I   | II | 朱      | 朱          |          | SK28          | 引掻き技法・桐紋 |    |
| 127       | 754       | 漆器碗 | ブナ        | B      | 黒      | 黒 | 内-絵-赤   | II  | I  |        | 朱          |          | SK28          | 中世的      |    |
| 128       | 703       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-赤   | I   | II | ベンガラ   | Ag+ベンガラ    | 17後~18C  | SK12          | 高台内赤文字   |    |
| 129       | 738       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-紋-銀   | I   | II | ベンガラ   | Ag         |          | SK20          |          |    |
| 130       | 712       | 漆器碗 | トチノキ      | A      | 赤      | 黒 | 外-絵-銀   | I   | II | ベンガラ   | Ag+ベンガラ    | 18前      | SK13          |          |    |
| 131       | 634       | 漆器蓋 | カバノキ<br>属 | A      | 赤      | 黒 | 外-絵-朱・黄 | I   | II | ベンガラ   | 朱・石黄+ベンガラ  | 17後~18初  | SD3北          | 高台内まで絵柄  |    |
| 132       | 836       | 漆器碗 | ケヤキ       | B      | 黒      | 黒 |         | V   | V  |        |            |          |               | A層か?     |    |
| 133       | 809       | 漆器蓋 | 広散材       | B      | 赤      | 赤 |         | I   | I  | ベンガラ   | ベンガラ       |          | SK48          |          |    |
| 134       | 783       | 漆器蓋 | ケヤキ       | B      | 赤      | 赤 |         | I   | I  | ベンガラ   | ベンガラ       | 18C      | SK38          | 高台内黒     |    |
| 135       | 833       | 漆器碗 | シオジ       | B      | 赤      | 黒 | 外-絵-赤・黄 | X   | XI | 朱      | 朱・石黄+ベンガラ  |          |               | A層か?     |    |
| 136       | 778       | 漆器蓋 | ブナ        | B      | 赤      | 赤 |         | I   | I  | ベンガラ   | ベンガラ       |          | SK35          |          |    |
| 137       | 632       | 漆器蓋 | ケヤキ       | B      | 赤      | 黒 |         | IX  | IX | 朱      |            | 17後~18初  | SD3           | 多層塗り     |    |
| 156       | 756       | 漆製品 | ヒノキ       | 無      | 黒      | 黒 |         | I   | I  |        |            | 大窯       | SK28          | 灰炭下地     |    |
| 197       | 608       | 桶   | スギ        | 無      | 赤      | 黒 |         | III | I  | ベンガラ   |            | 18後      | SD2上層         |          |    |
| 198       | 683       | 横木  | ヒノキ       | 無      | 黒      | 黒 | 外-絵-赤   | V   | VI | ベンガラ   | ベンガラ       |          | SE3           |          |    |
| 199       | 682       | 横木  | トチノキ      | B      | -      | - |         | -   | -  |        |            |          | SE3           | 白木       |    |

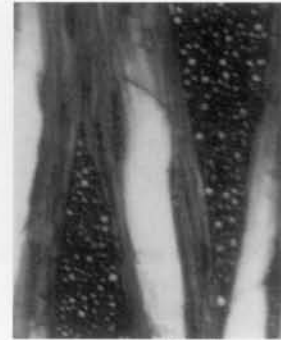
ブナ科ブナ



木口(30×)

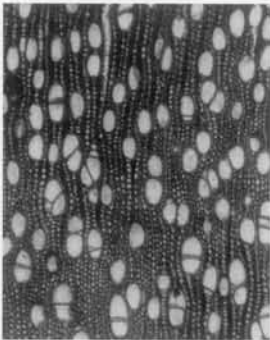


柁目(100×)

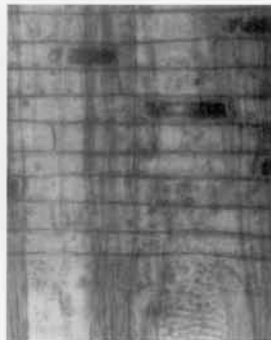


板目(50×)

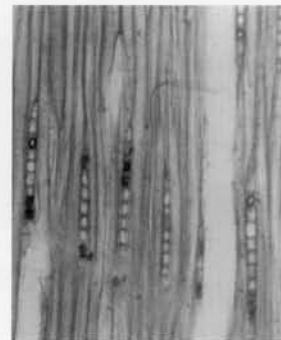
トチノキ科トチノキ



木口(30×)

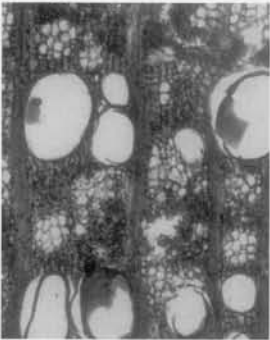


柁目(100×)

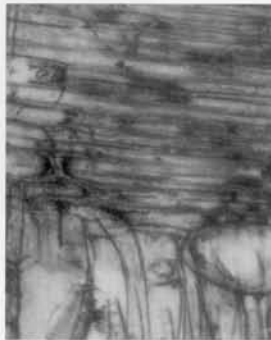


板目(50×)

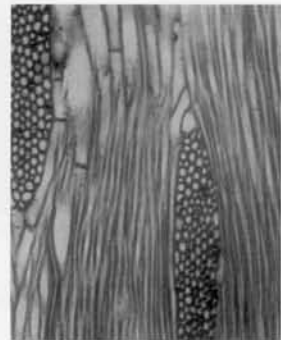
ニレ科ケヤキ



木口(30×)

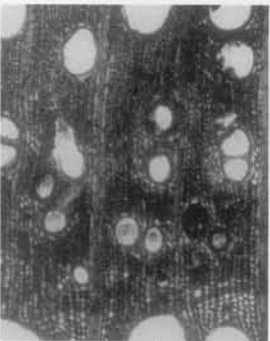


柁目(100×)

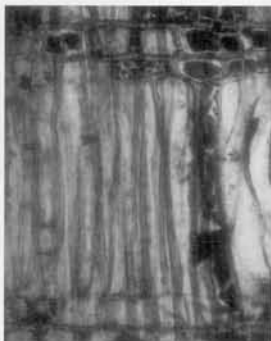


板目(50×)

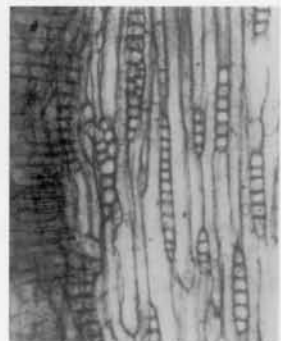
モクレン科シオジ



木口(30×)

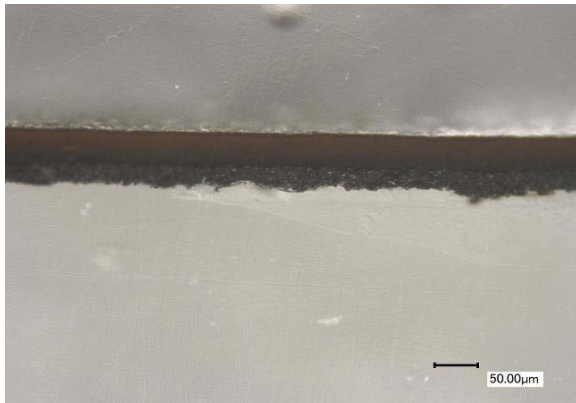


柁目(100×)

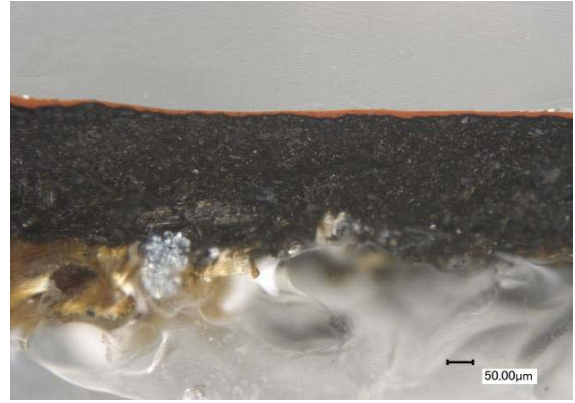


板目(50×)

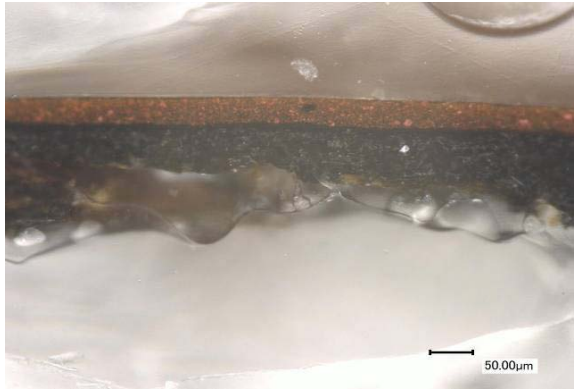
(写真1: 代表的な樹種の顕微鏡写真)



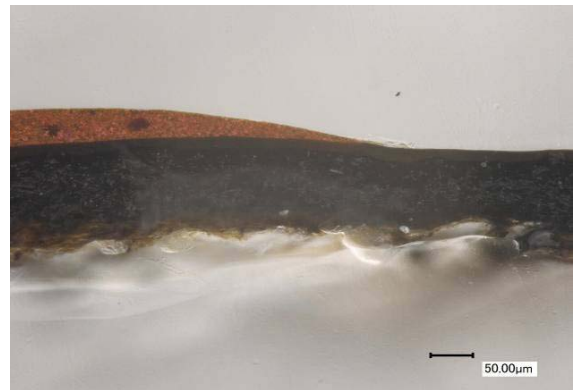
(1: 炭粉下地+赤褐色系漆: I)



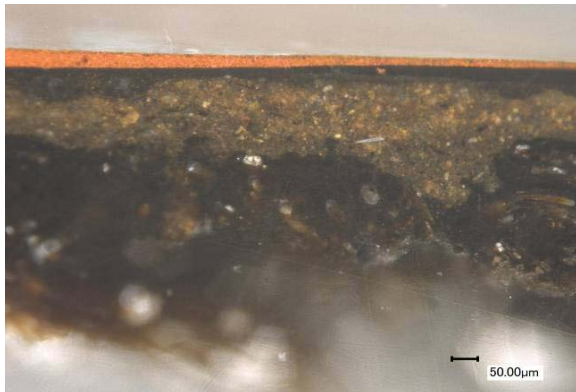
(2: 炭粉下地+ベンガラ漆: I)



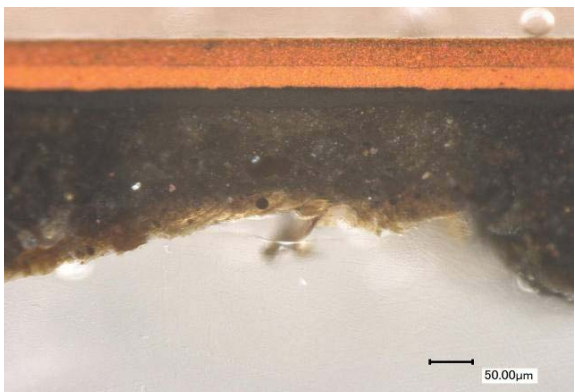
(3: 炭粉下地+朱潤み漆): I)



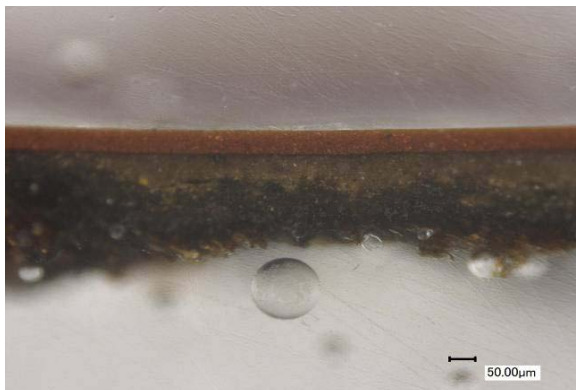
(4: 炭粉下地+黒漆+色漆(朱漆): II)



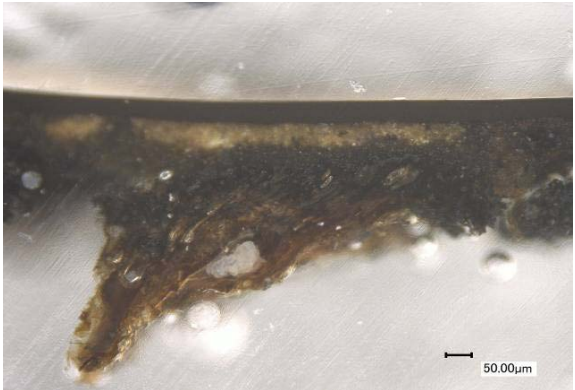
(5: 布着せ補強+サビ下地+黒漆+色漆(朱漆): VI)



(6: サビ下地+黒漆+朱(細)漆+朱(粗)漆: IX)



(7: 炭粉下地+サビ下地+.朱漆: X)



(8: 炭粉下地+サビ下地+黒漆: X)

(写真2: 漆塗膜の断面観察)



# 写 真 图 版

PL1



調査前全景（北より）



調査区北半遺構検出状況（北より）. 西部上層遺構掘削済. 南東部は調査前



調査区南東部 遺構検出状況（南より）



調査終了段階全景（北より）

PL3



近代基礎遺構検出状況及び TR1 (南より)



近代基礎遺構セクション (東より)



近代基礎遺構検出状況（西より）



近代基礎遺構下部（南より）

PL5



近代基礎遺構基部全景（西より）



SX4 セクション（南より）



SK2 セクション (南より)



調査区西部 焼土層出土状況 (南西より)

PL7



上層遺構検出状況（SK1, SX1, 礎石1. 東より）



礎石1 検出状況（南より）





SX1 検出状況（南より）



調査区西端部遺構検出状況（SD2等、南より）

PL9



SD2 調査状況及び TR3, TR1 (東より. 手前左は攪乱坑)



SD2 断面及びしがらみ状遺構 (東より)

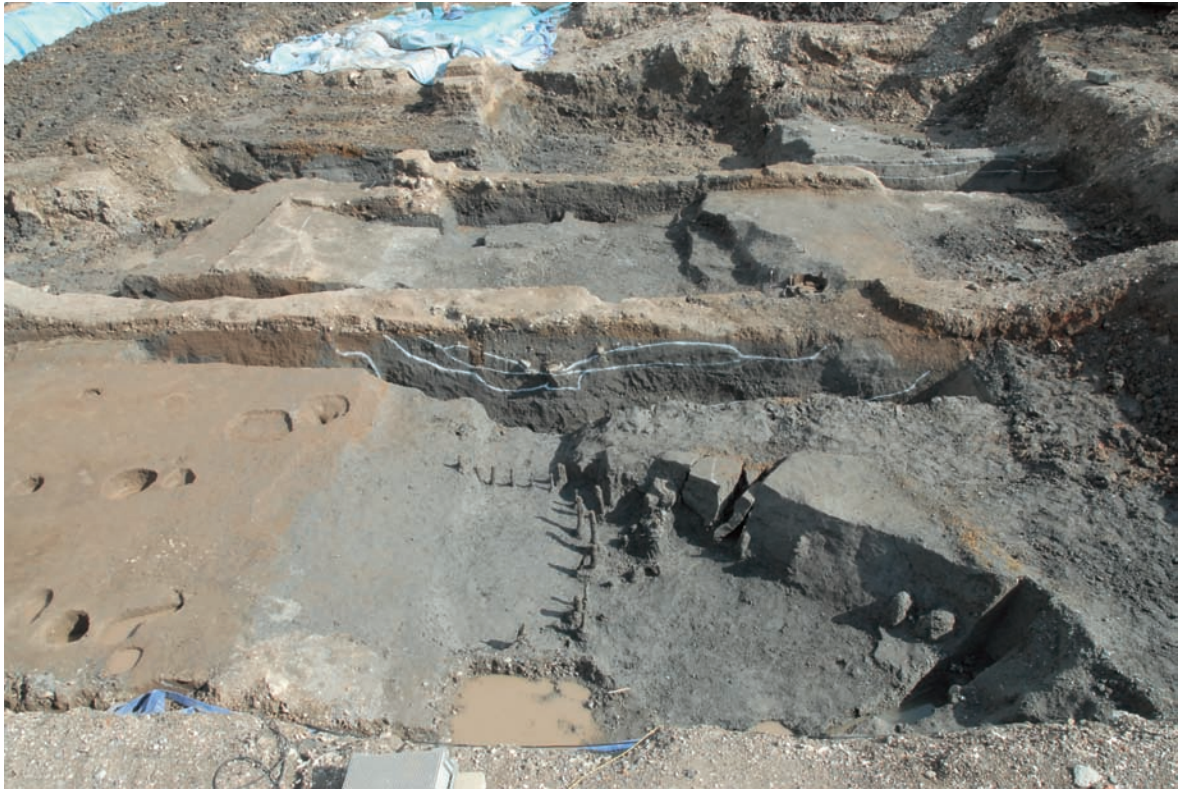


SD2 北岸杭等検出状況（西より .MWN 区）



SD2 遺物出土状況（西部 .西より）

PL11



SD2 等完掘状況（調査区西半 中層、西より）



SD2 漆器出土状況



SD2 遺物出土状況



埋桶 1 (西より)



SD3 検出状況・断面 (画面左側 / 南より)

PL13



SD3 南端縦断セクション（西より）



SD3 南端遺物出土状況（西より）



SD3 南端遺物出土状況（西より）



SD3 セクション（北より）

PL15



SD3 南部遺物出土状況（北より）



SD6 完掘状況及び杭列（北より）





SE1 内部（北より）



SE1 断割り（北より）

PL17



SE2 セクション（東より）



SE2 遺物出土状況（東より）



SE2 遺物出土状況（東より）



SE2 完掘状況（東より）

PL19



SE3 竈状遺物出土状況（南より）



SE3 内側（東より）



SE3 井戸枠等（東より）



SE4 井筒（南より）

PL21



SE4 セクション（南より）



SE5 上層遺物出土状況（東より）



SE5 断面 (南より)



SE5 底 (南より)

PL23



SE6 打込み部断面（南より）



SE6 打込み部





SE6 打込み内部



SE7 セクション (北より)

PL25



W区SK3 遺物出土状況（西より）



SK5 遺物出土状況（西より）



北部遺構検出状況（東より）



SK11 遺物出土状況（南より）

PL27



SK12 遺物出土状況（北より）



SK12 櫛出土状態



SK12 セクション (北より)



SK14 セクション (北より)

PL29



SK8 遺物出土状況（東より）



SK5 検出面遺物出土状況（西より）



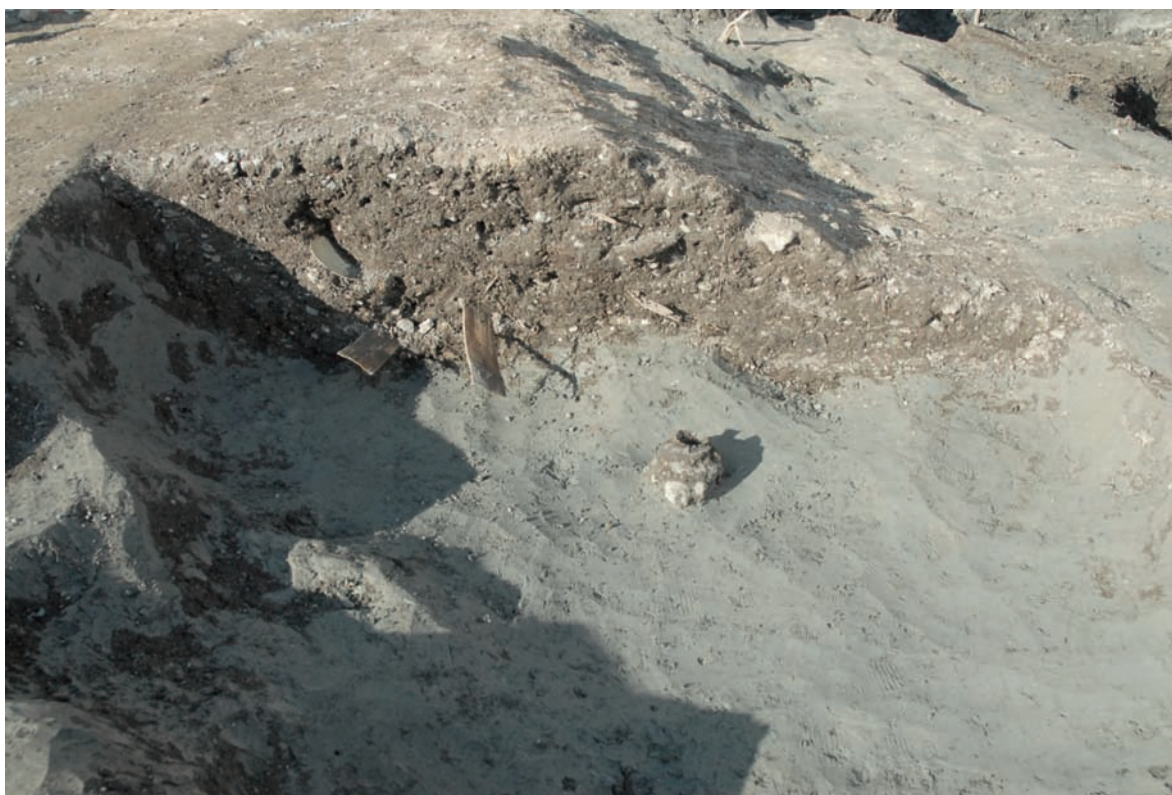
SK13 遺物出土状態（西より）



SK14 遺物出土状況（西より）



SK14 漆器碗出土状況



SK15 セクション（南より）

PL31



SK15 完掘・遺物出土状況（南より）



SK18 遺物出土状況（北より）





SK18 完掘状態（東より）



SK20 遺物出土状況（東より）

PL33



SK21 遺物出土状況（北より）



SK21 完掘状態（北より）



SK25 検出状況（南より）



SK26 遺物出土状況（南より）

PL35



SK27 セクション（東より）



SK28 遺物出土状況（西より）



SK29 遺物出土状況（南より）



SK30, 31 セクション（南西より）

PL37



SK31 遺物出土状況（南より）



SK32（奥側）・SK35 遺物出土状況（南西より）



SK37 完掘状況（西より）



SK38 セクション（南西より）

PL39



SK38 遺物出土状況（西より）



SK39 遺物出土状況及びセクション（西より）





SK40 セクション（南より）



SK40 遺物出土状況（北より）

PL41



SK43 遺物出土状況（南より）



SK45 セクション（北より）



SK45 遺物出土状況・セクション



SK46 検出状況（北より）

PL43



SK47 遺物出土状態（北より）



SK48 遺物出土状況（南より）



SX5 北部 廃材・播鉢等出土状況（北より）



SX5 セクション（南より）

PL45



SR1 東部検出状況（西より）



SR1 セクション（調査区東壁）



SR1 調査状況（西より）



バンク 2 (TR2) セクション（北西より）

PL47



SR1 及び杭跡 (東より)



SR1 五輪塔出土状況 (東端部・西より)





SR2 検出状況 (MWN 区下面・南より)



調査区西部下面 SR2 検出状況 (南より)

PL49



SR2 セクション（調査区西部・北より）



SR2 古瀬戸柄付片口出土状態（調査区西部）



MWN 区 土器集中 1 検出状態(東より . 中央右に漆膜)



TR3 VII層上層遺物出土状態

PL51



SK47 西側ピット遺物出土状況（南より）



バンク 2 遺構検出状況（手前から SK24,41,12. 西より）



バンク 2 遺物 (835) 出土状況



調査区南東部完掘状態 (南より)

PL53



SD2



PL55

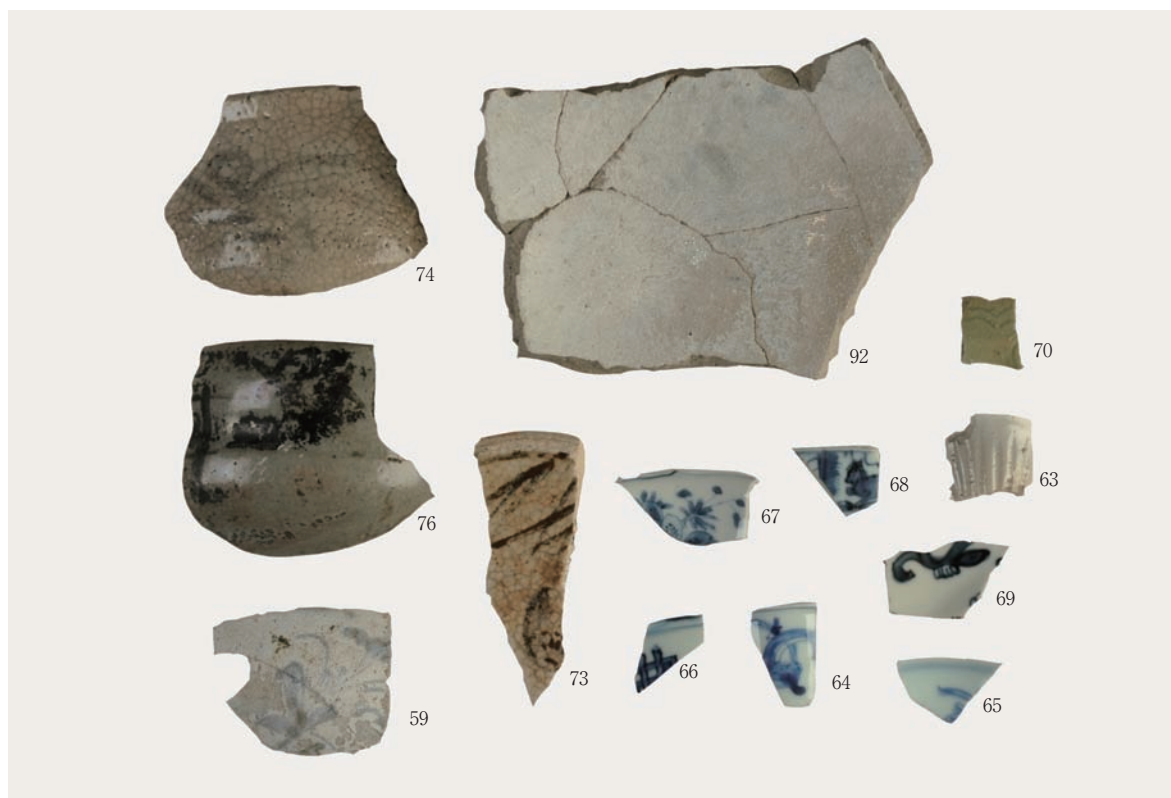


SD2

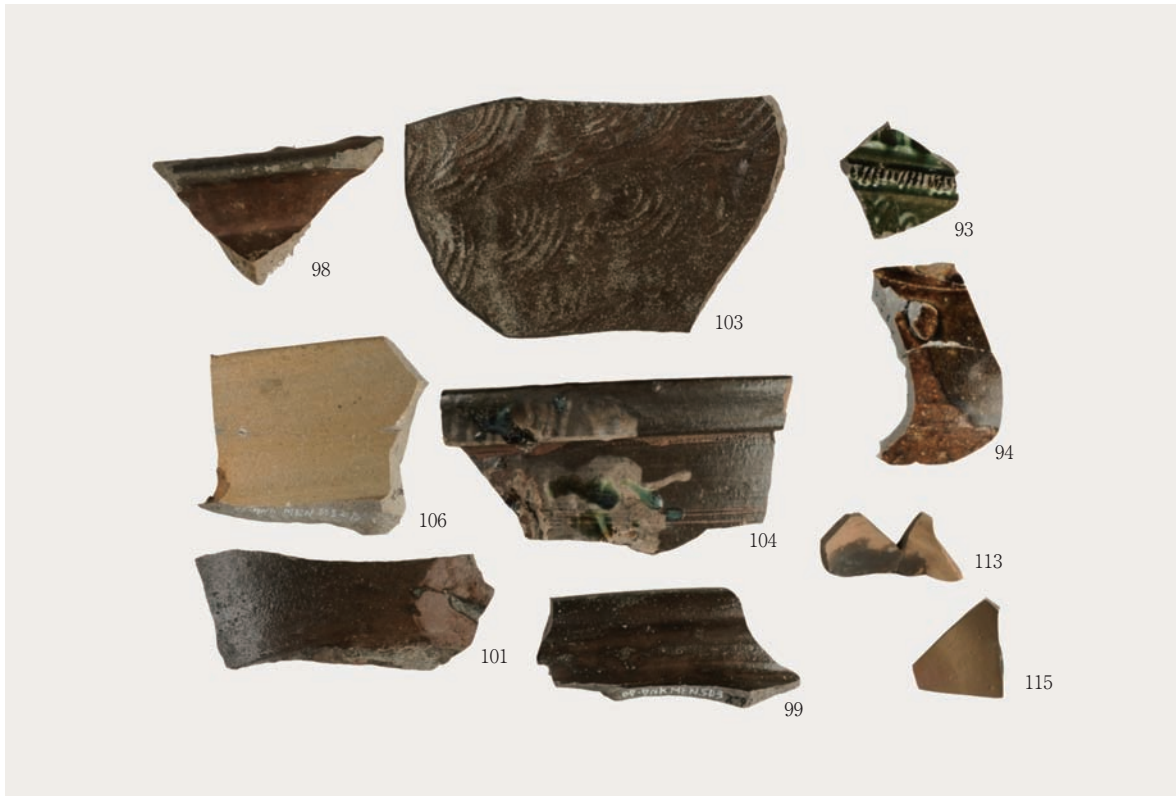


SD3





PL57



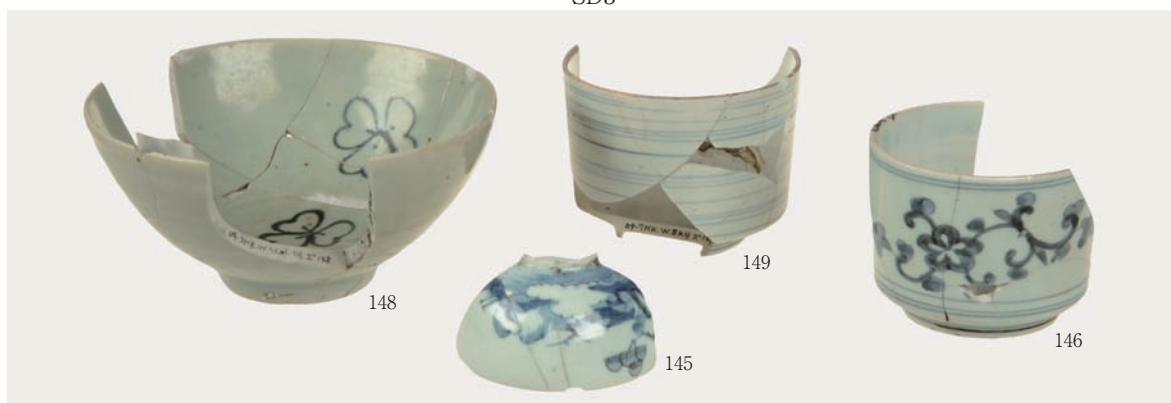
SD3



SD2



SD3

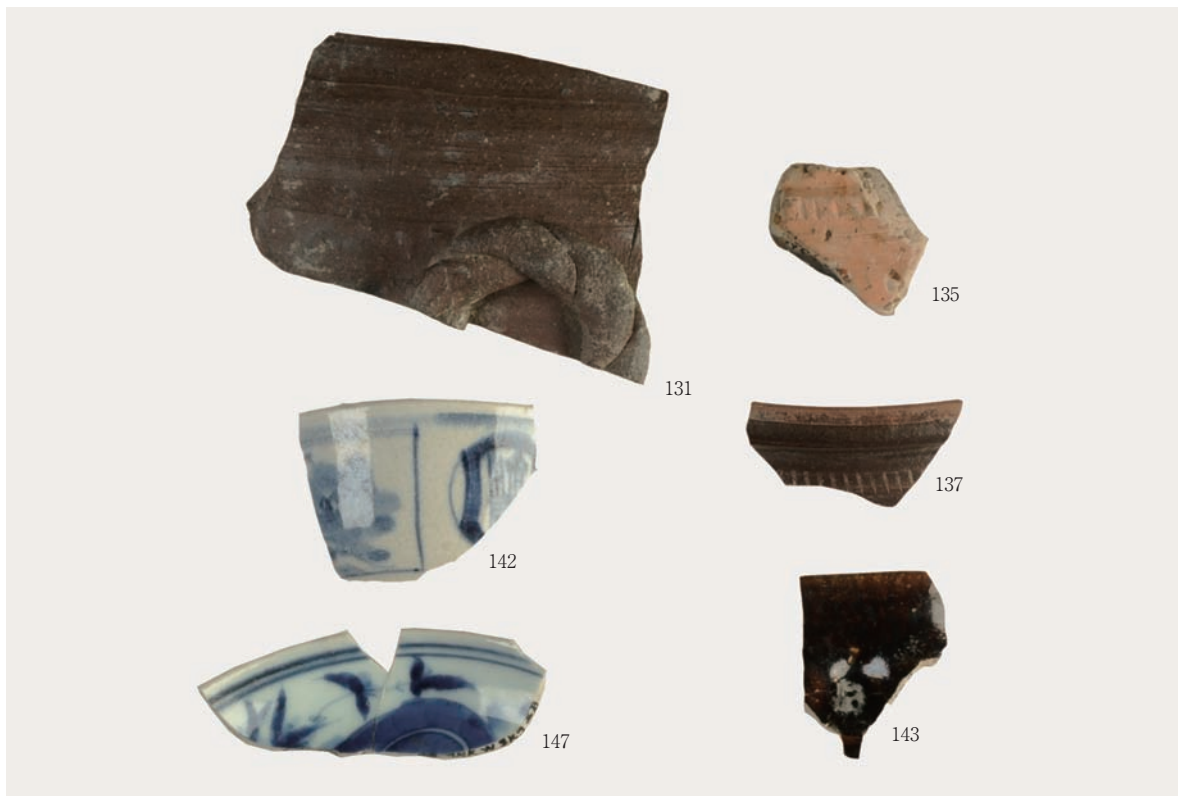


SK3

PL59



SE5



SD6·SE4·SE5·SK1·SK3



SD3

130



SE1

132



SE2

134

133



SK48·SE6

141



SK2

144



SK3

150



176

180

177

183

SK13

PL61



SK4·SK5·SK6·SK10



SK11

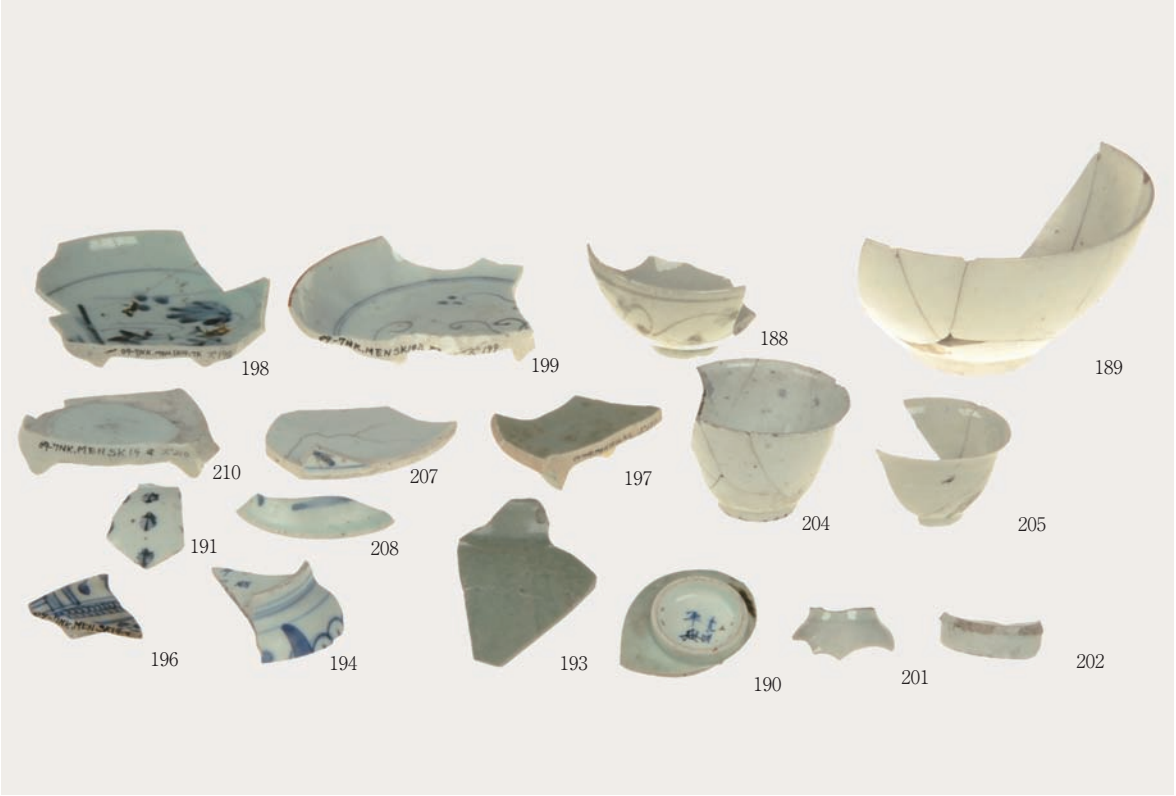
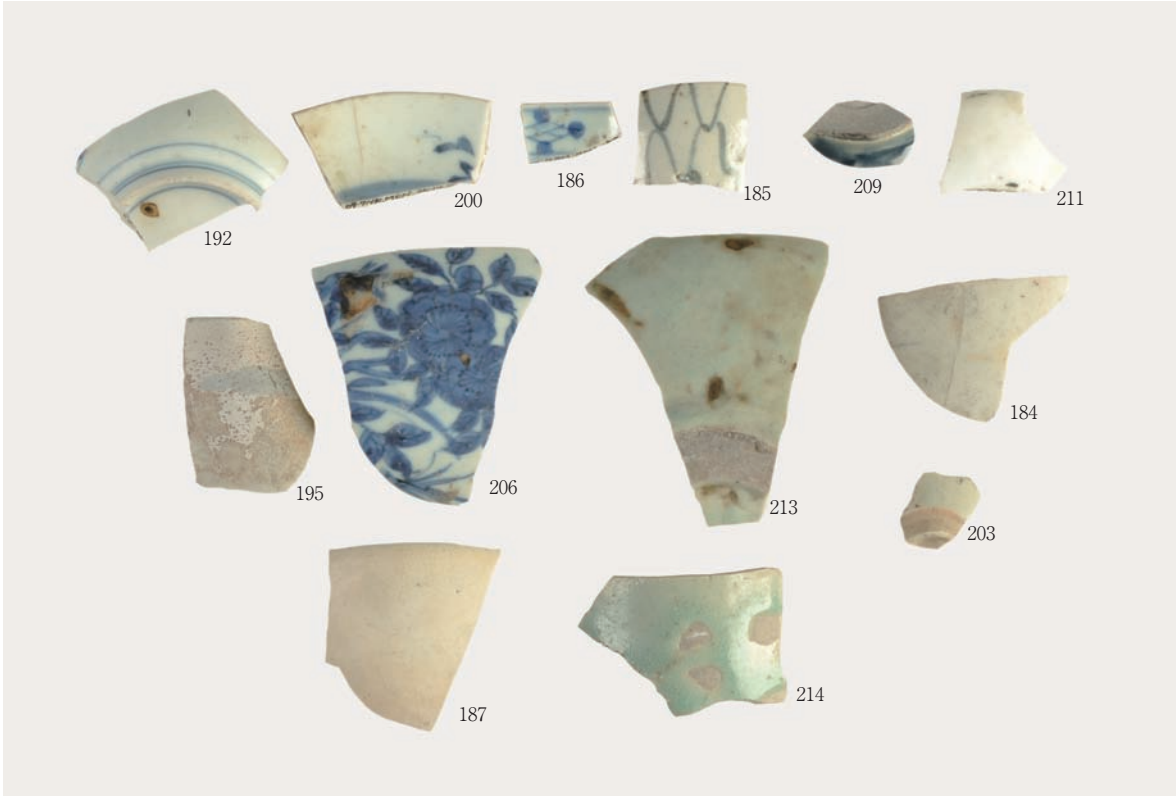


SK11·SK12



SK12

PL63

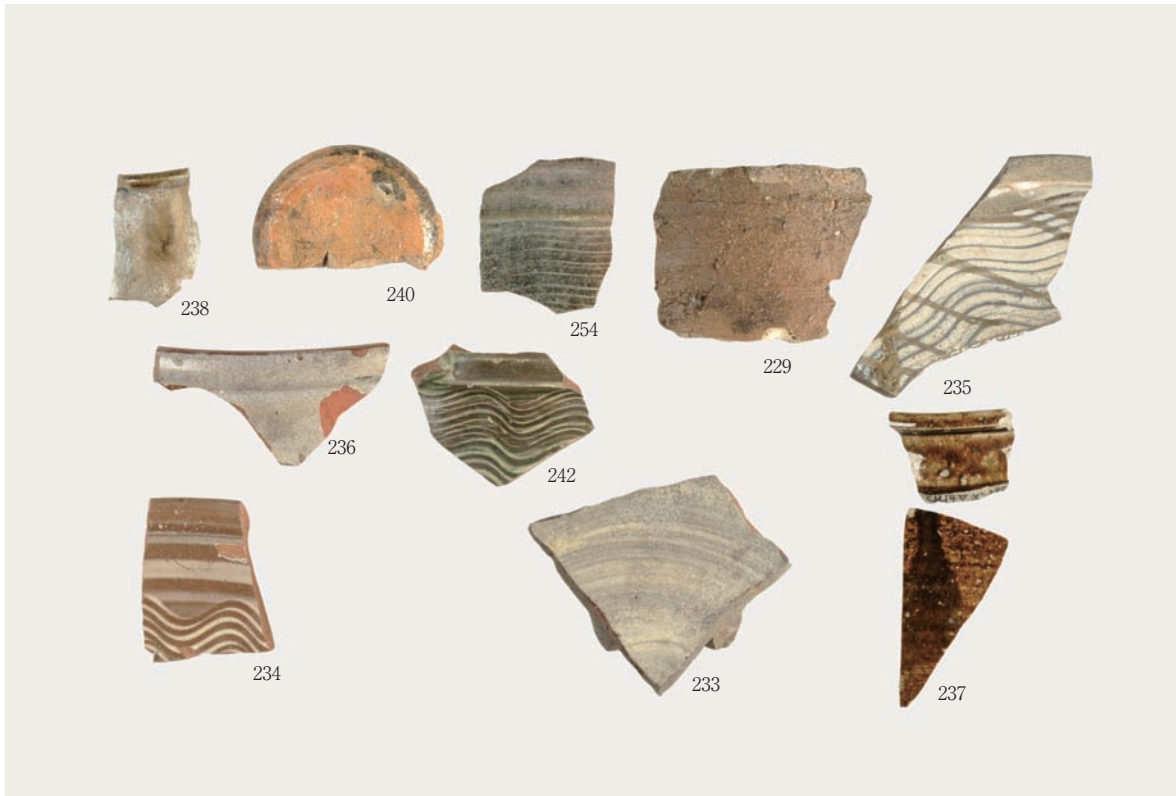


SK14





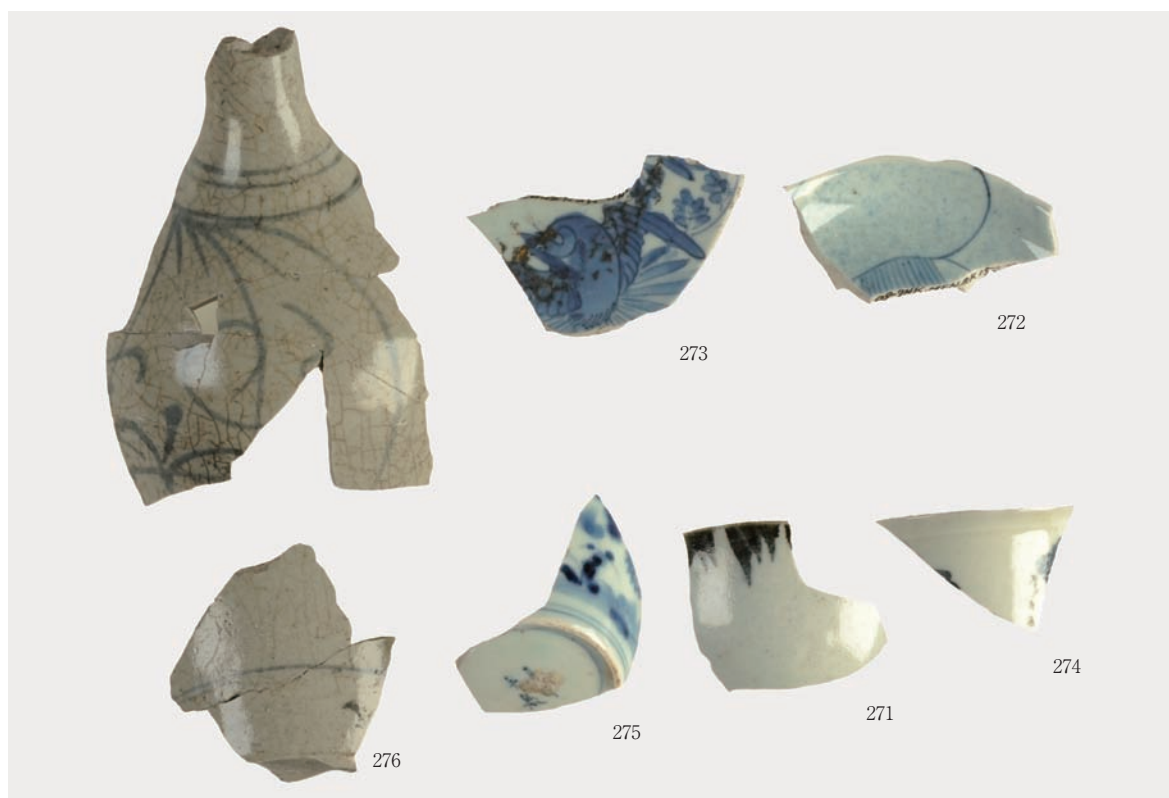
PL65



SK14



SK14



SK15

PL67



SK15



SK14

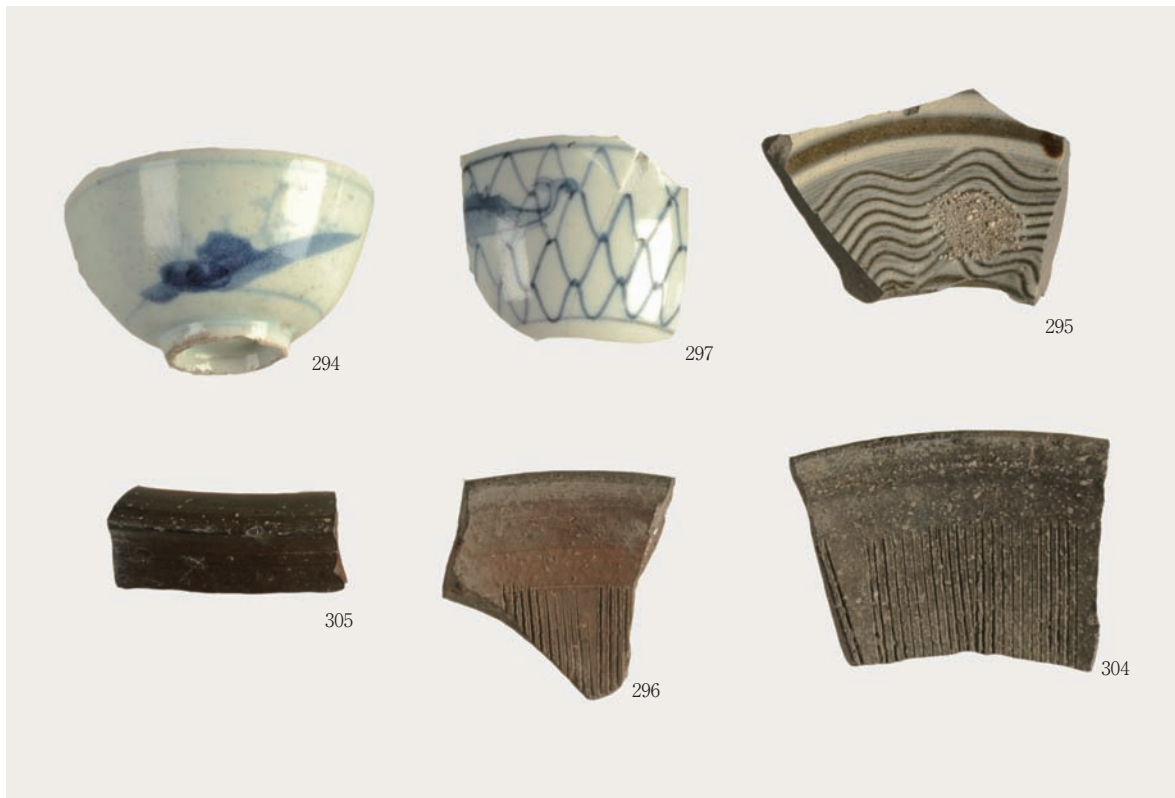


SK14



SK18

PL69



SK20·SK21



SK21·SK24·SK25·SK26

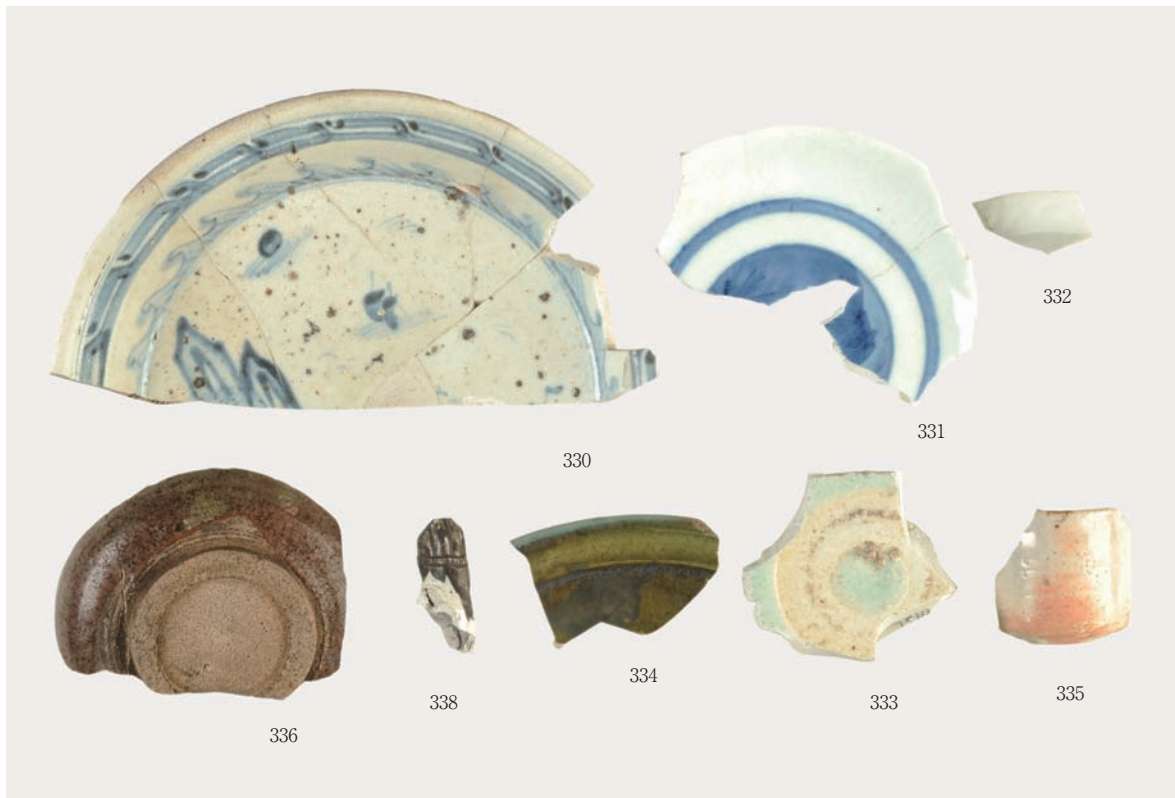


SK26·SK28·SK29

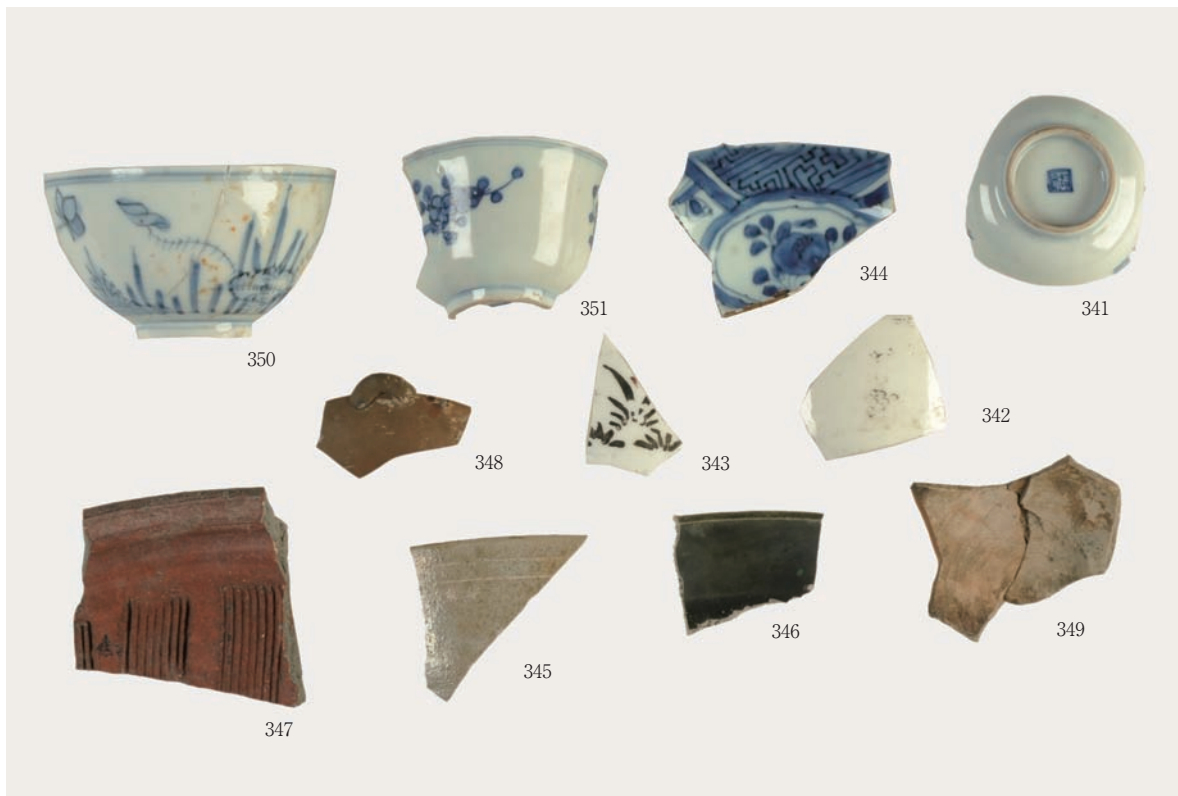


SK28·SK29

PL71

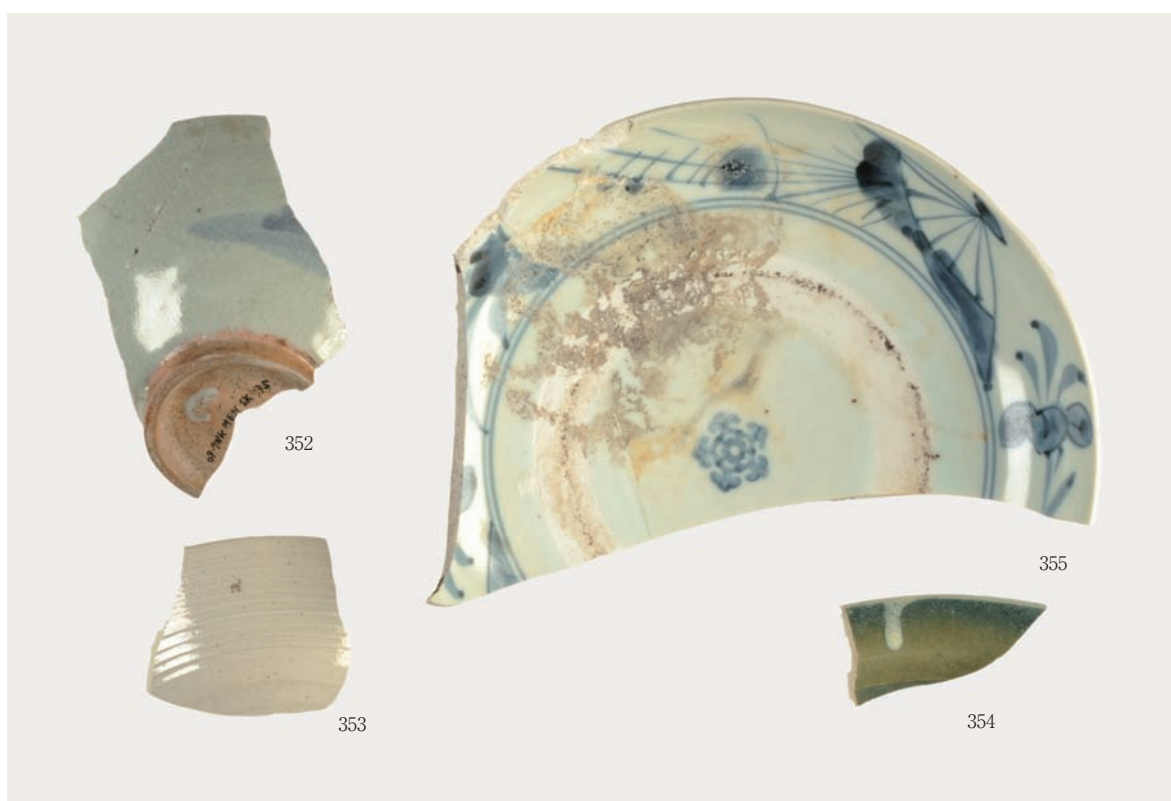


SK31



SK32·SK34





SK35·SK37



SK38

PL73



SK38



SK40



SK14



SK21



SK38·SK39

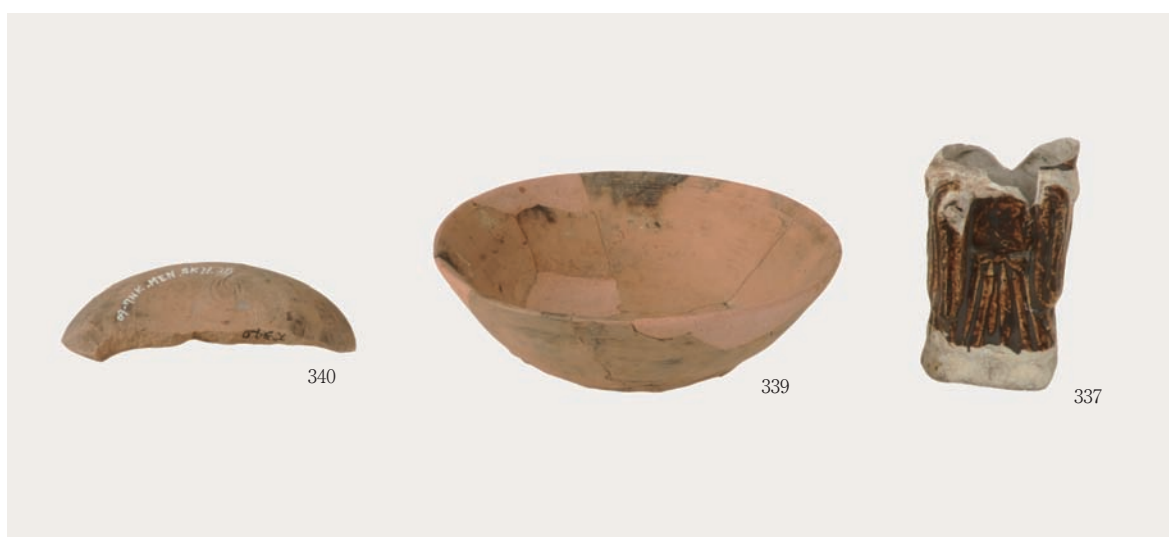
PL75



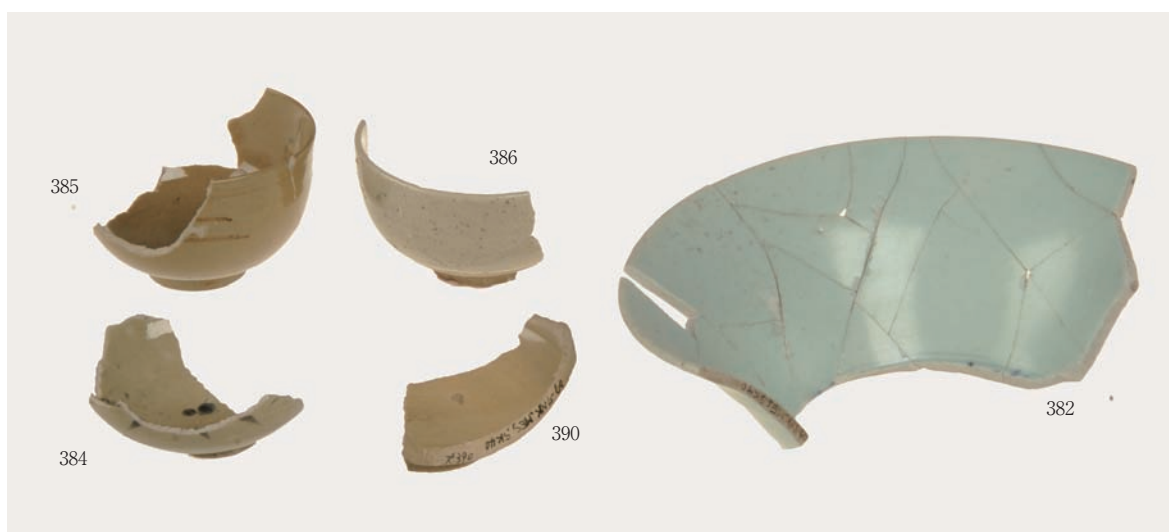
SK41



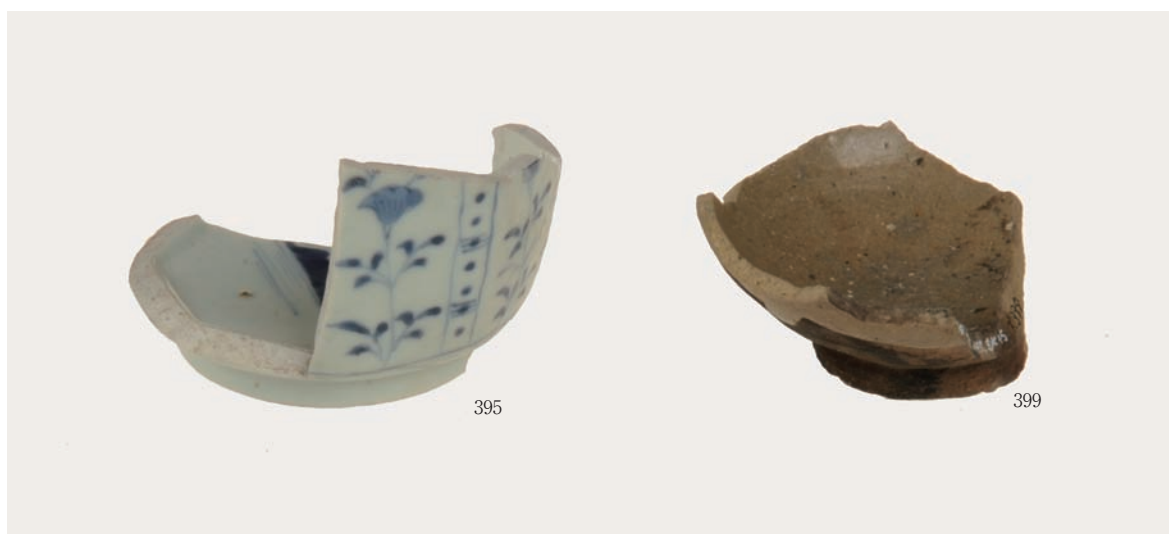
SK45-SK47



SK31

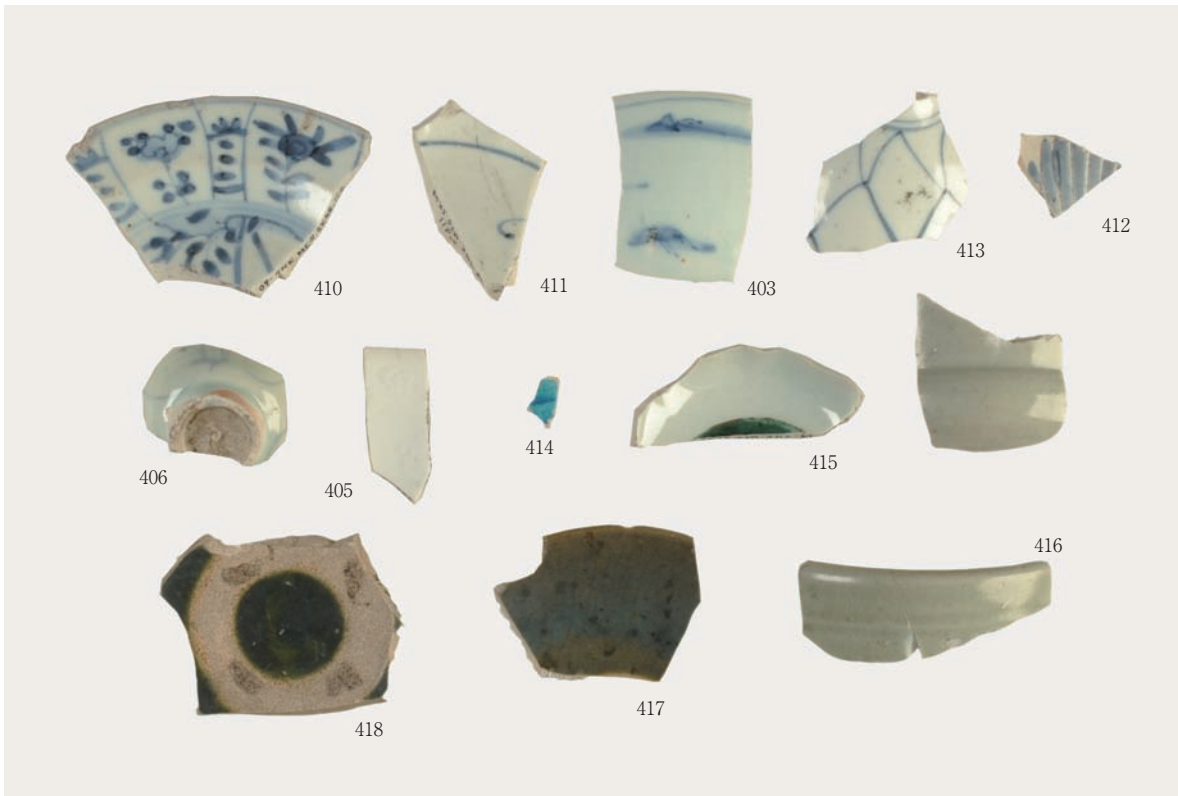


SK40



SK44·SK45

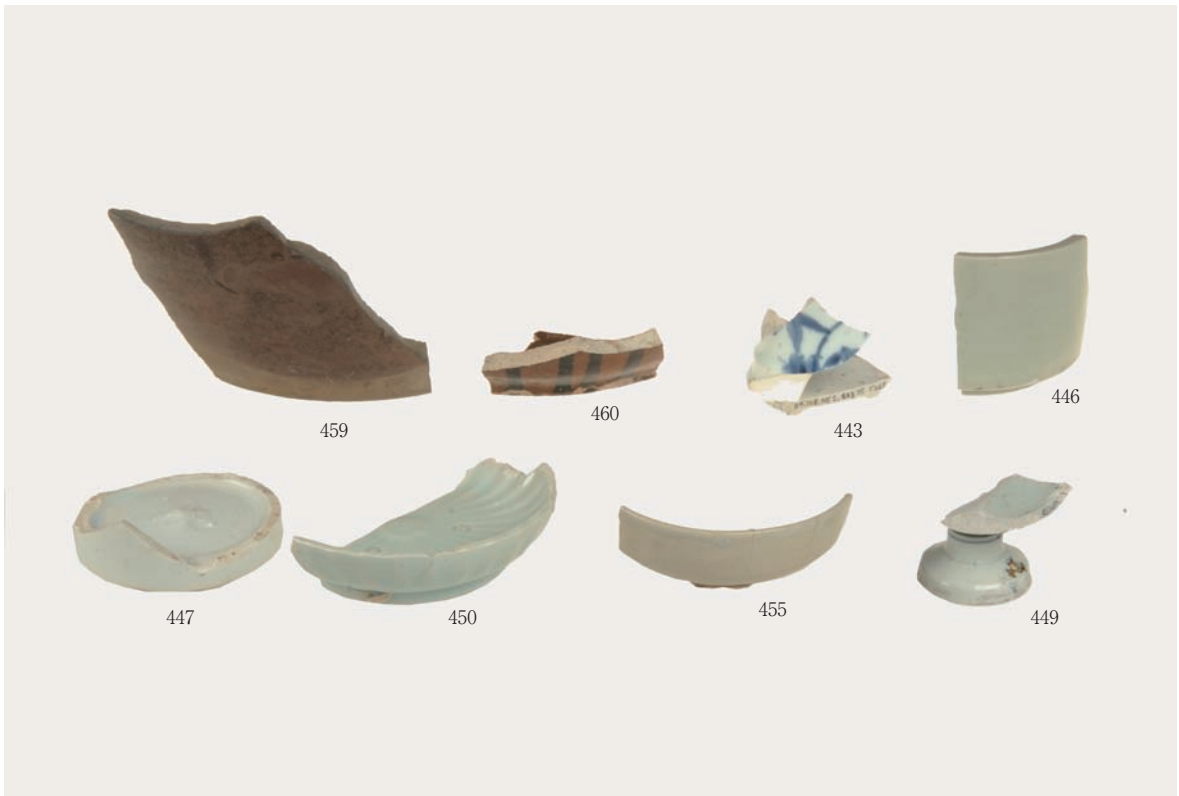
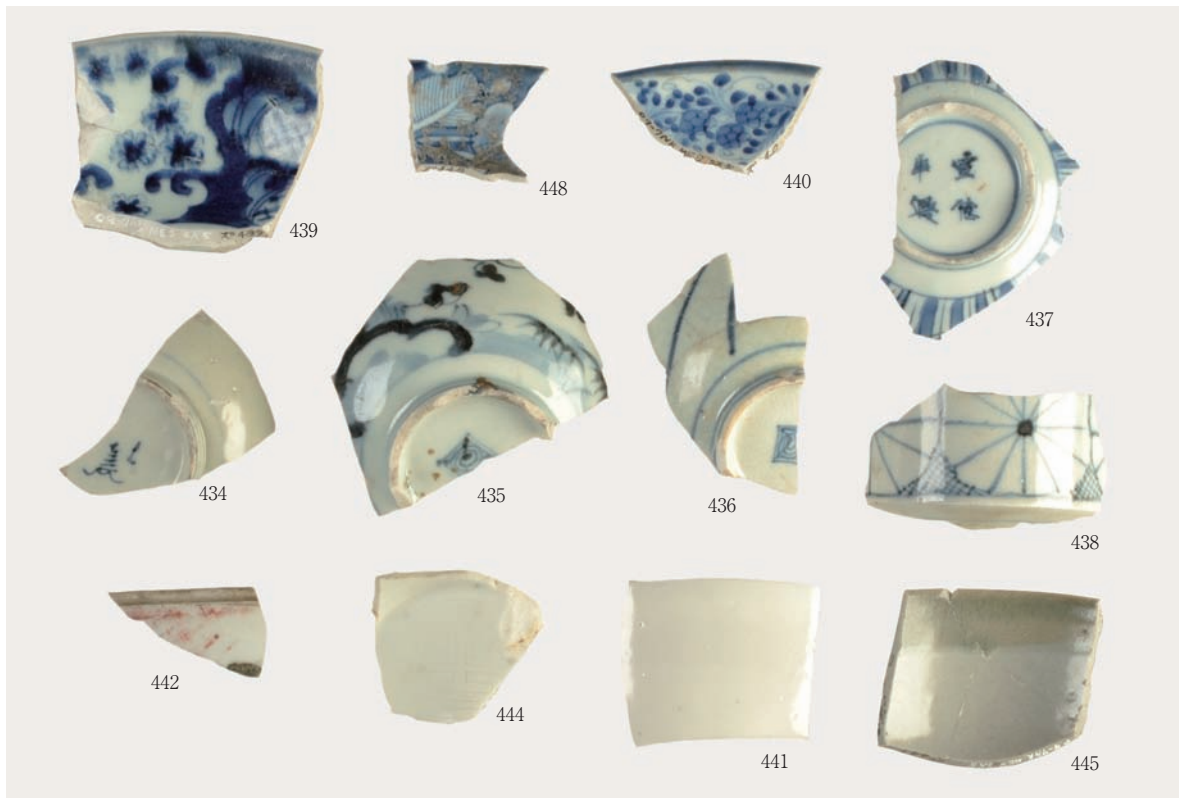
PL77



SK48



PL79

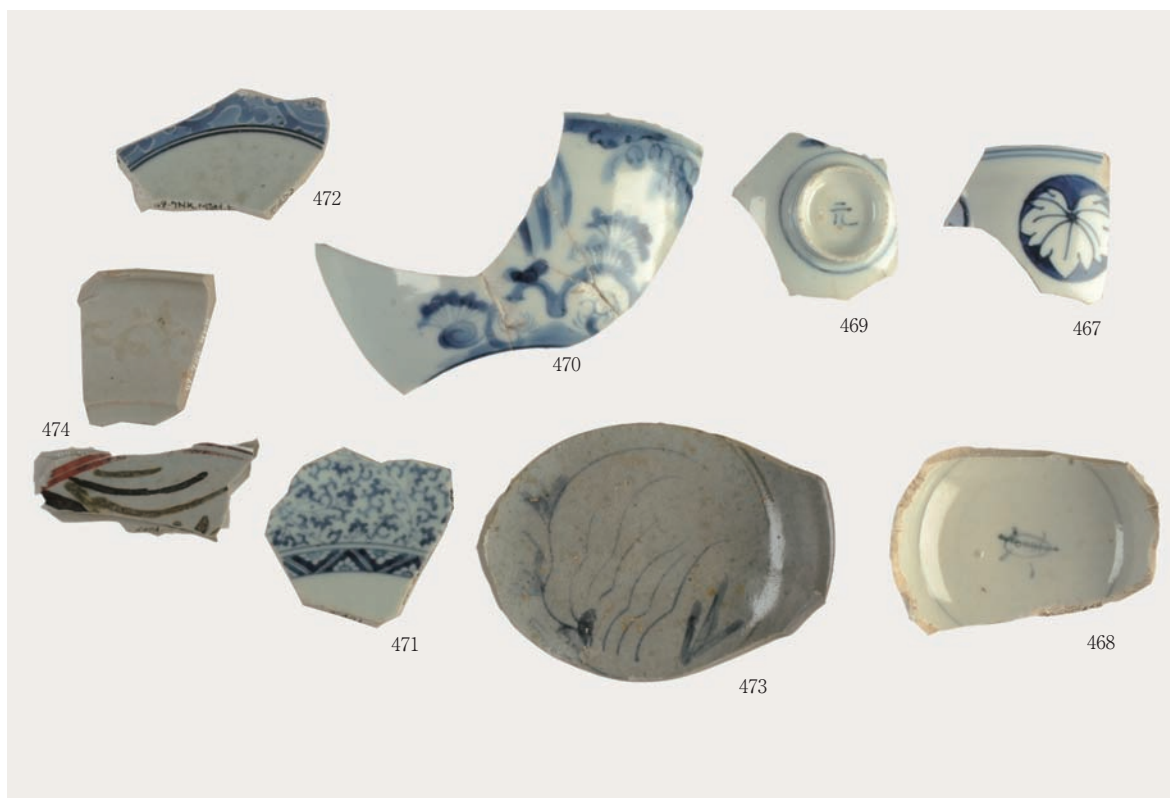


SX5





PL81



中央区包含層



中央区包含層



バンク2

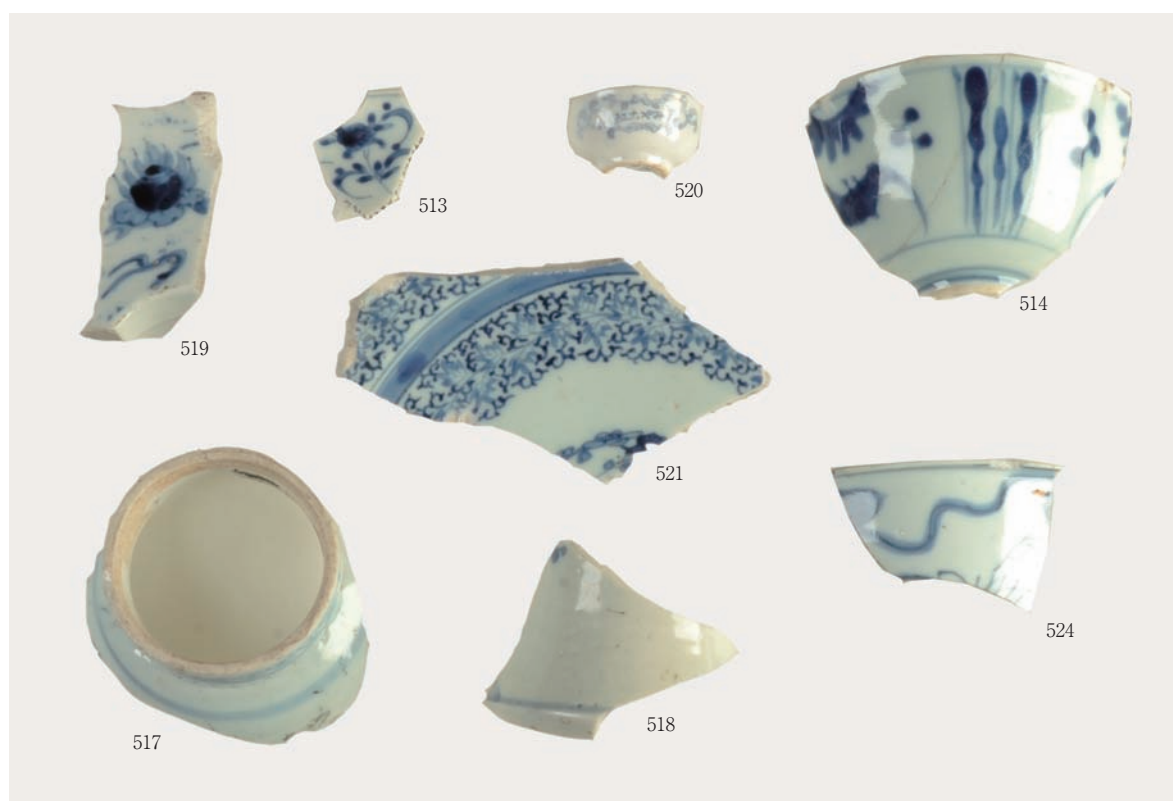
PL83



バンク2



包含層等 W区

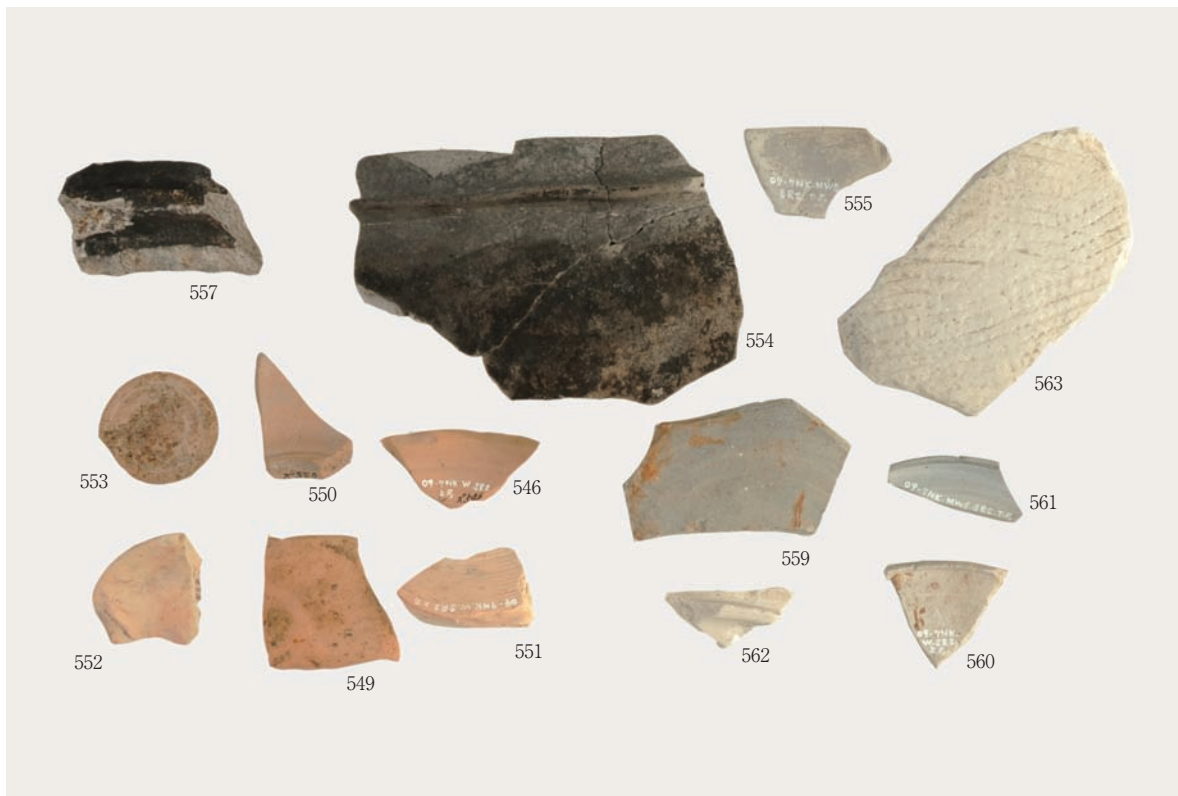
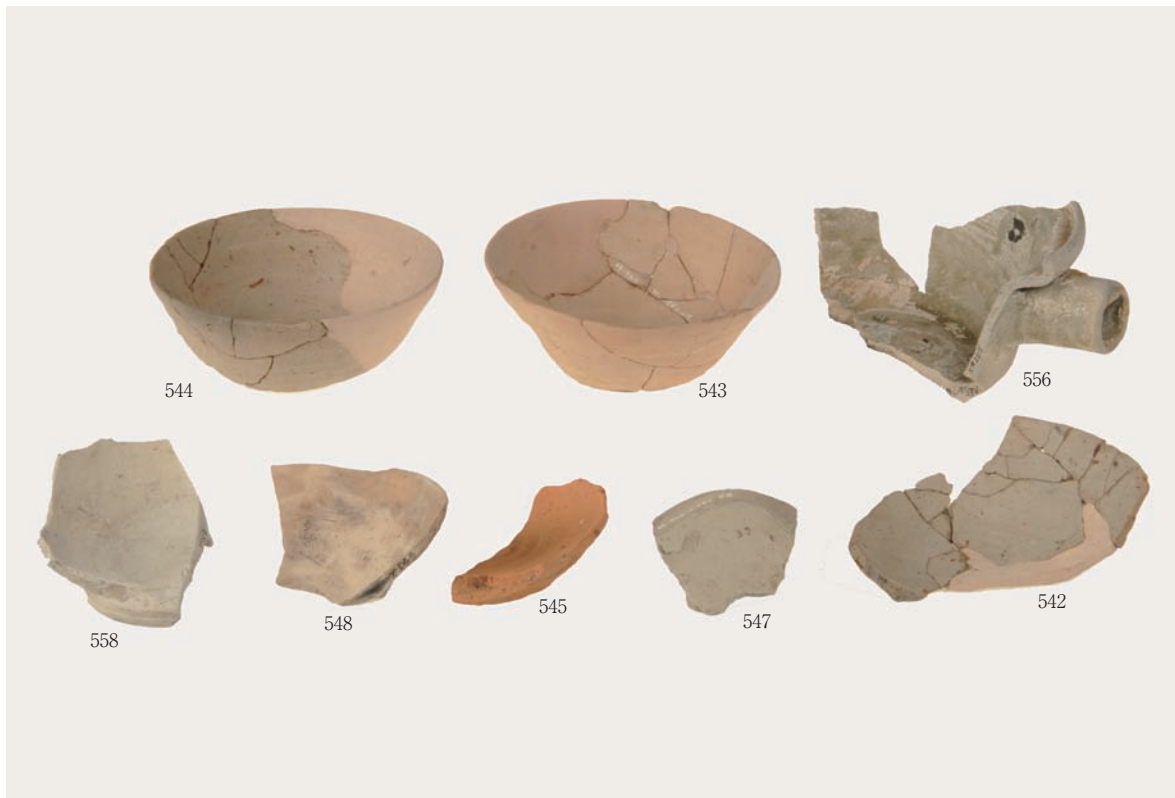


包含層等 W区

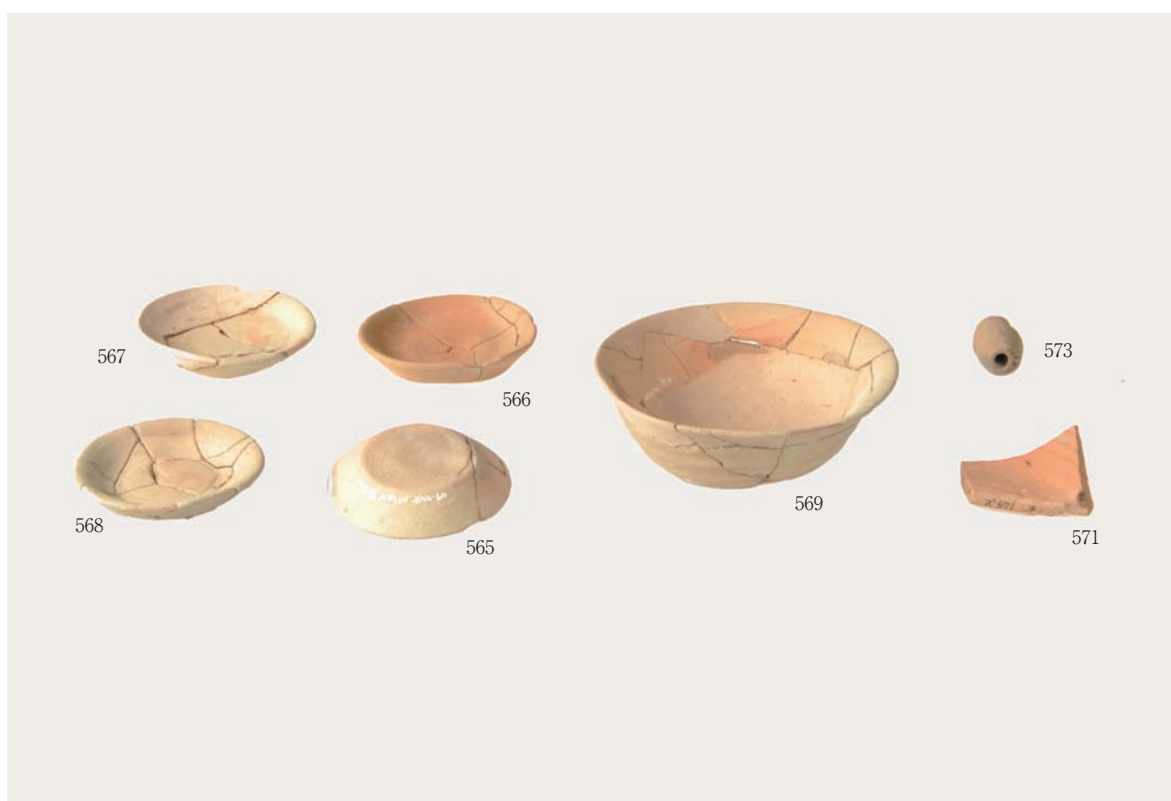


SR1

PL85



SR2



MWN区 集中1



包含層等出土貿易陶磁器

PL87



古代～中世 包含層等



古代～中世 SD2下層等





461

SX5

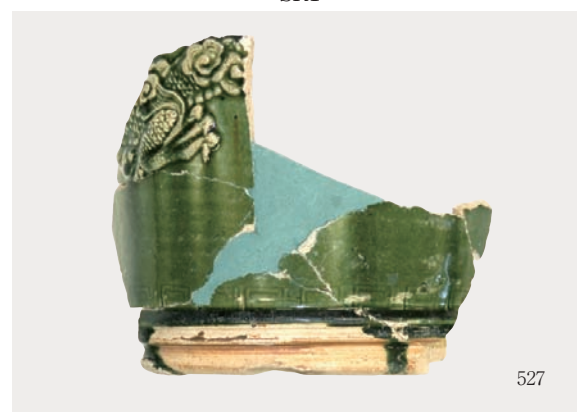


541

SR1

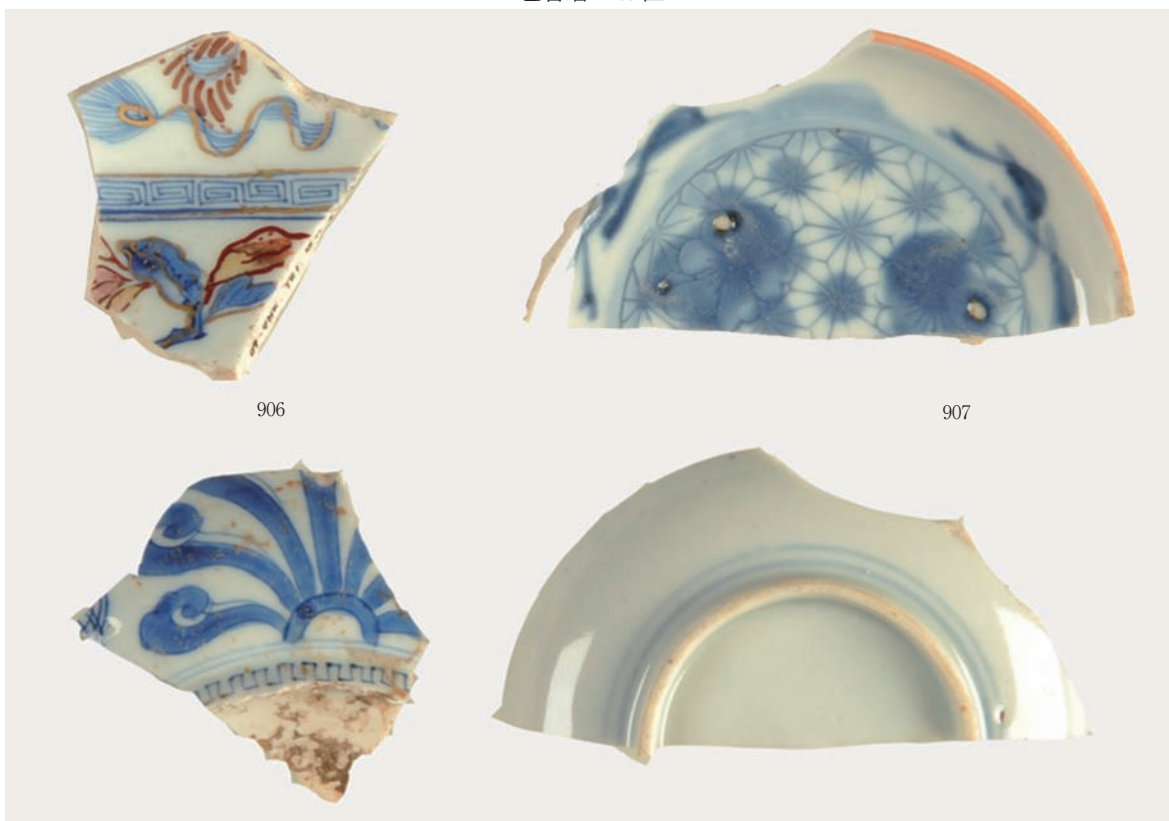


527



527

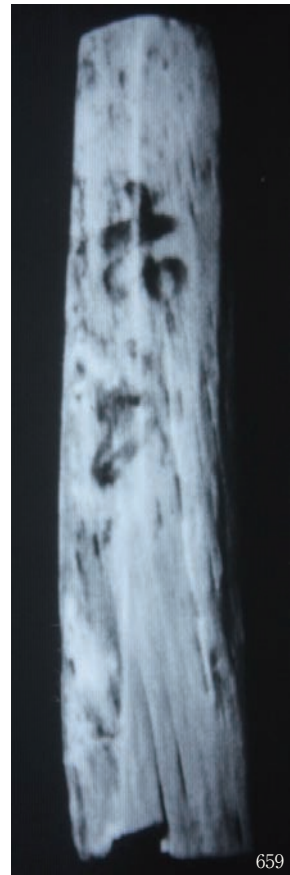
包含層 W区



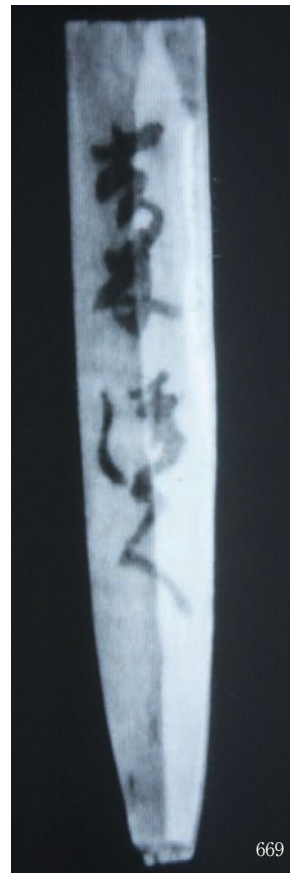
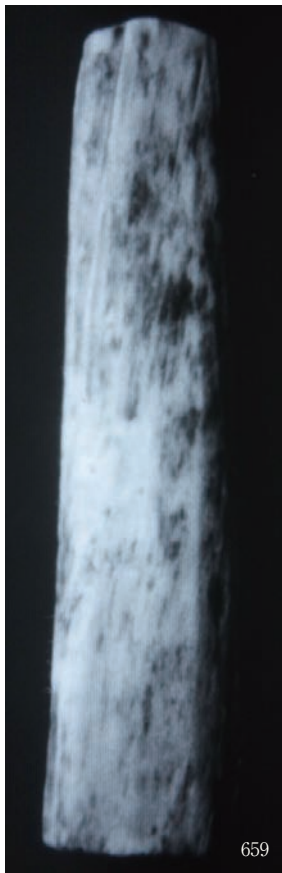
906

907

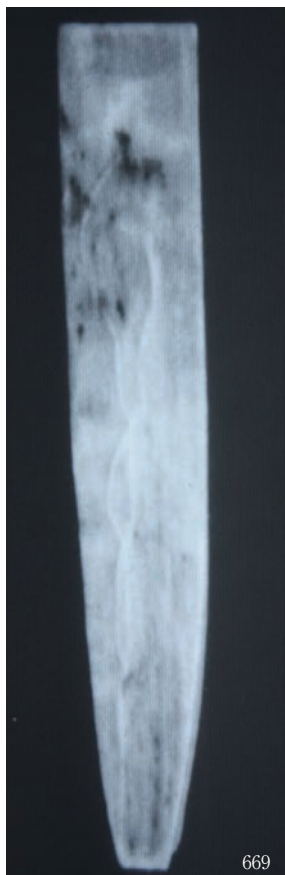
基礎遺構1



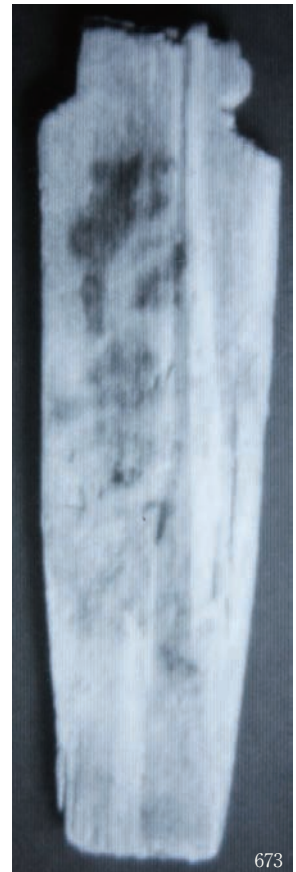
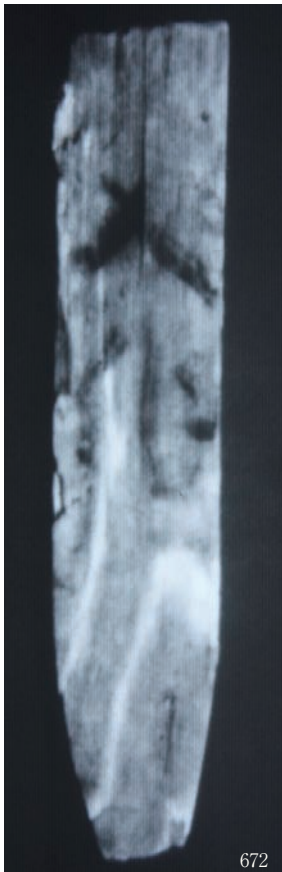
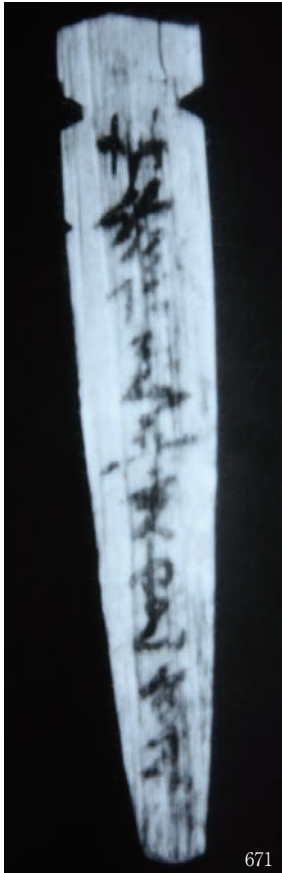
処理後



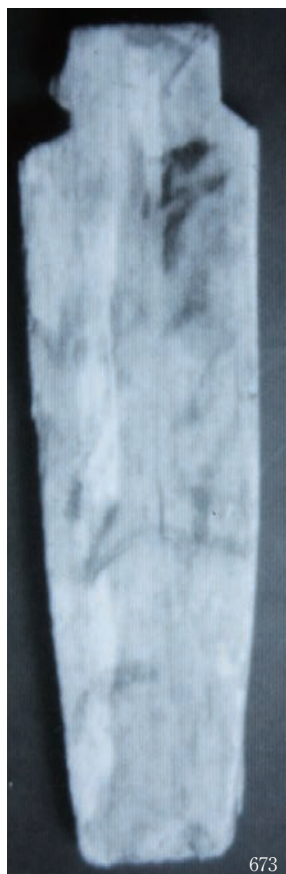
SD3



PL91



SD3



673

SD3



678



678  
処理後

SE2



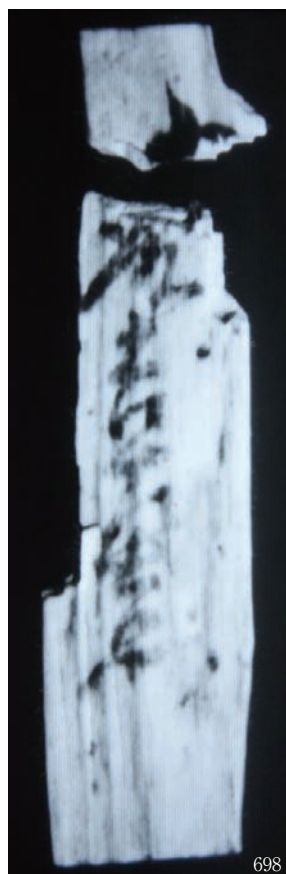
678



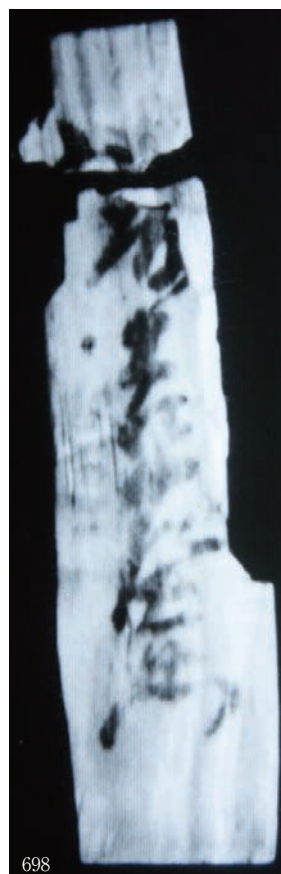
698



698  
処理後



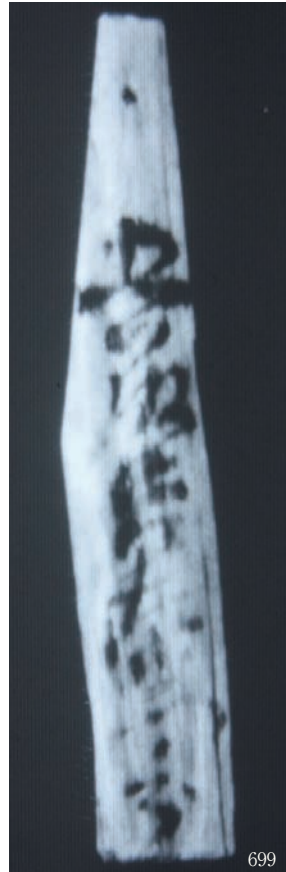
698



698

SK11

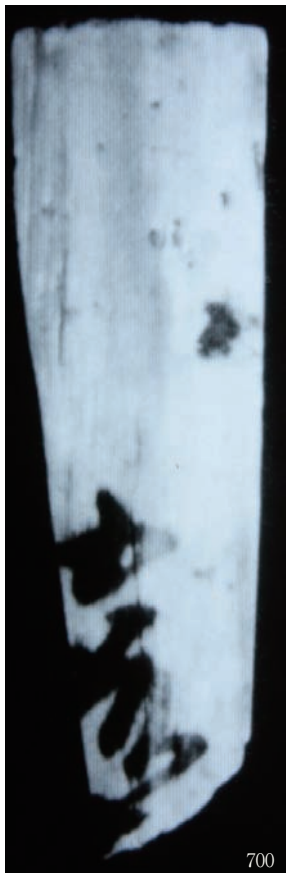
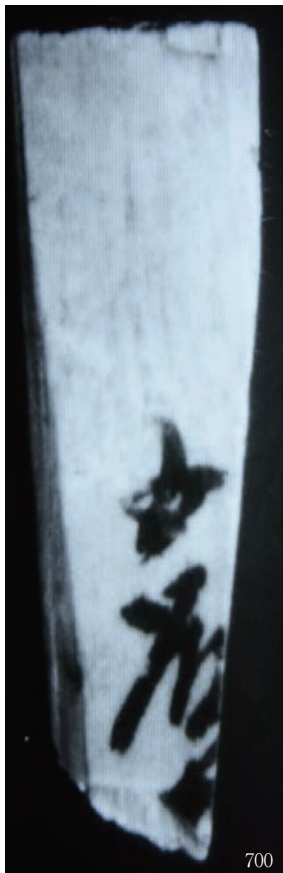
PL93



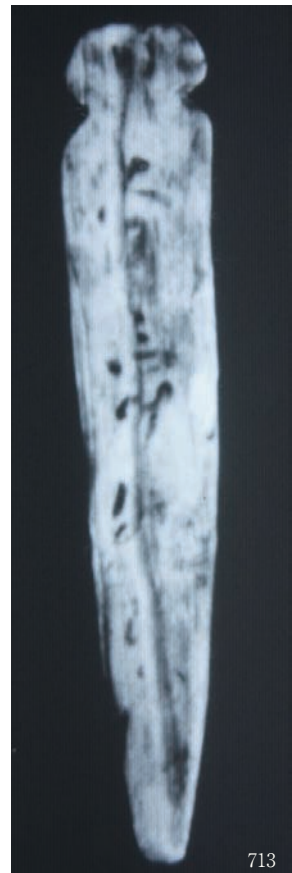
SK11



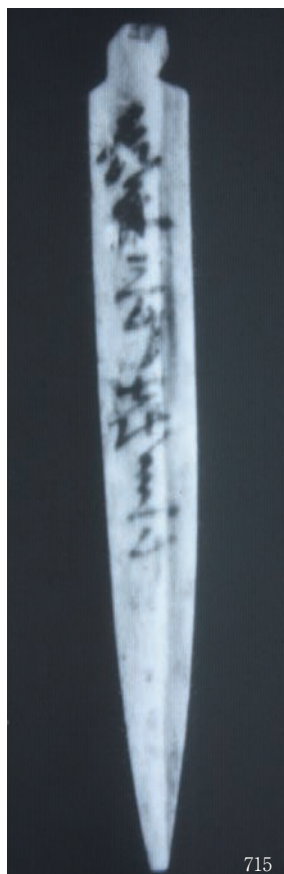
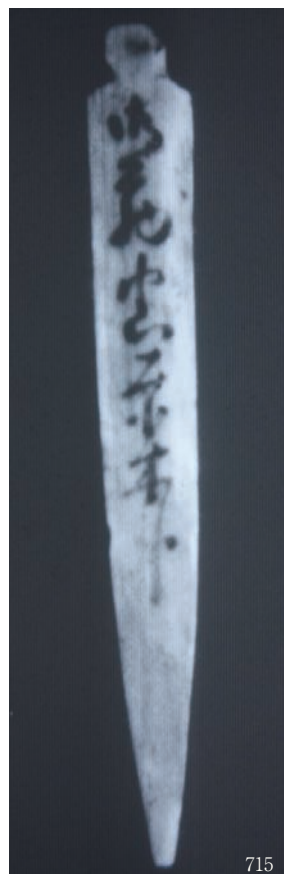
SK12



SK12



SK13



PL95



716



716



716



716



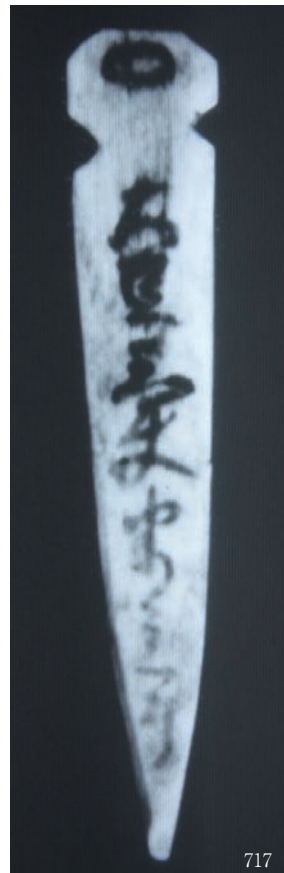
717  
処理後



717



717



717

SK14





718

SK14



718



730

SK15

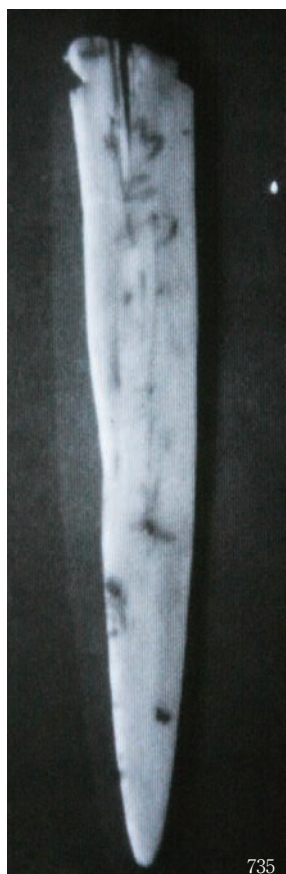


735

SK17



735  
処理後



735

SK17



735



749

SK26

PL97



852

SK26

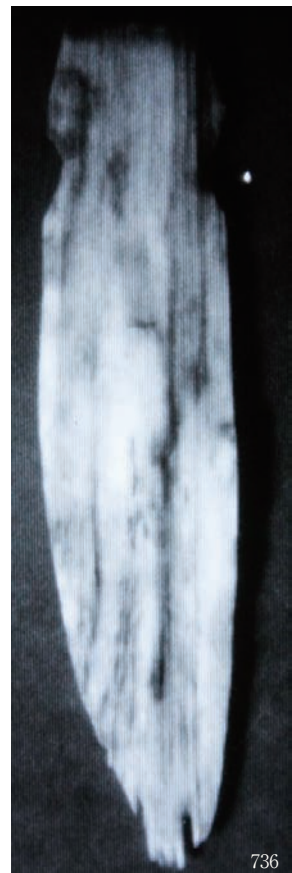


736



736

SK17



736



761

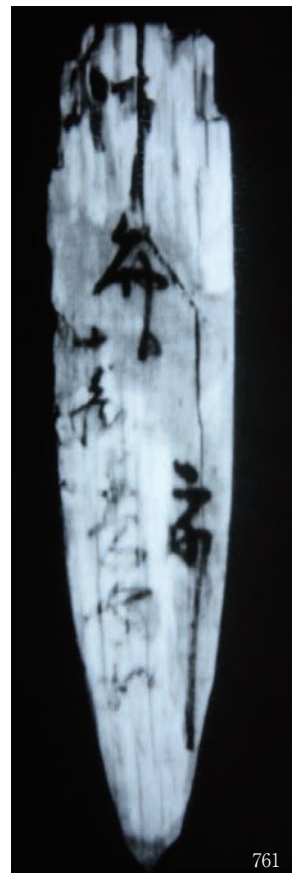


761  
処理後



761

SK30



761



SK31

768



799

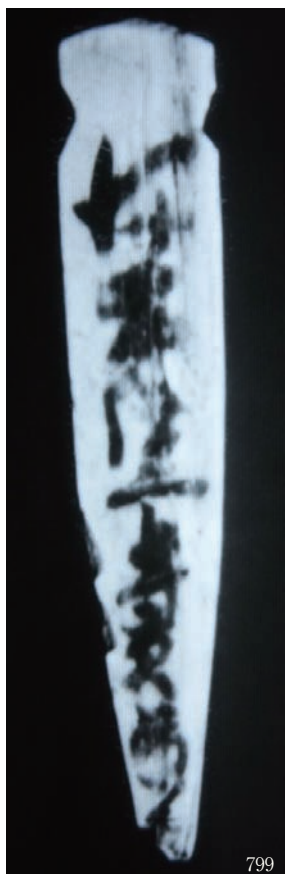


SK41

799  
処理後



799



799



800  
処理後

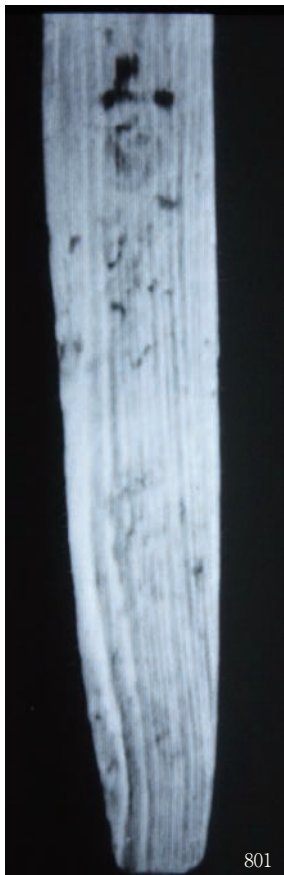
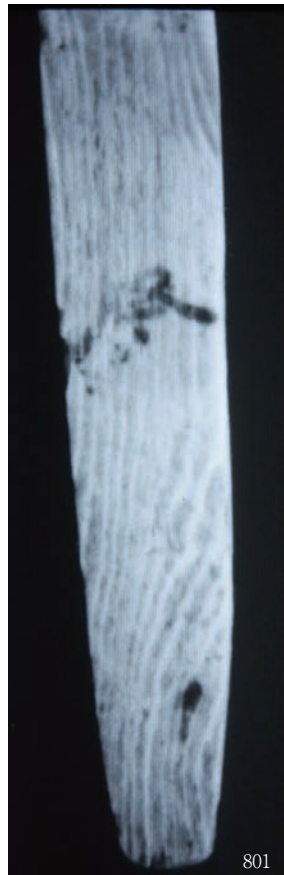
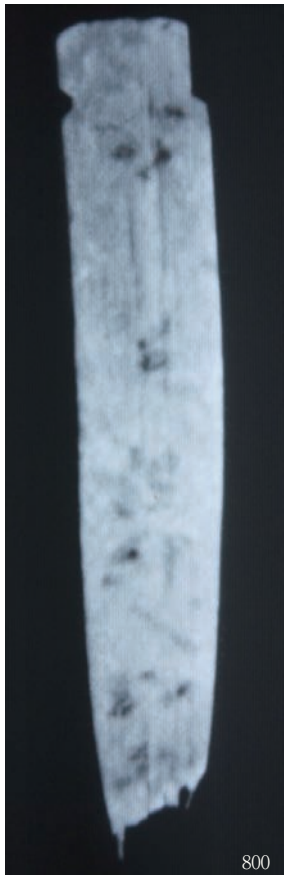


800



800

SK41





802



803

SK41



803

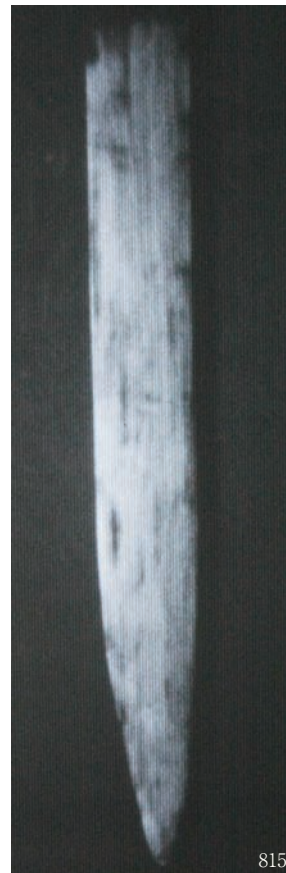


815

SK46

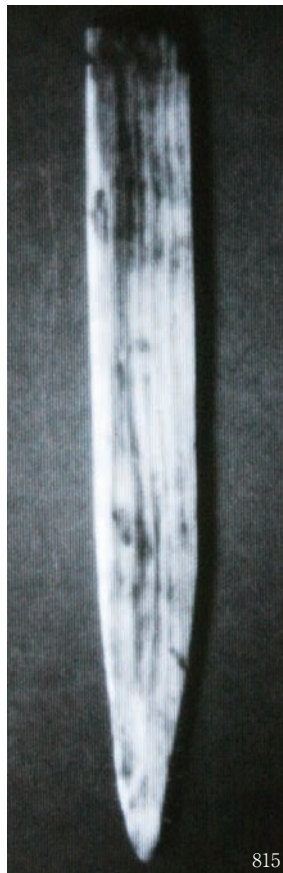


815



815

SK46



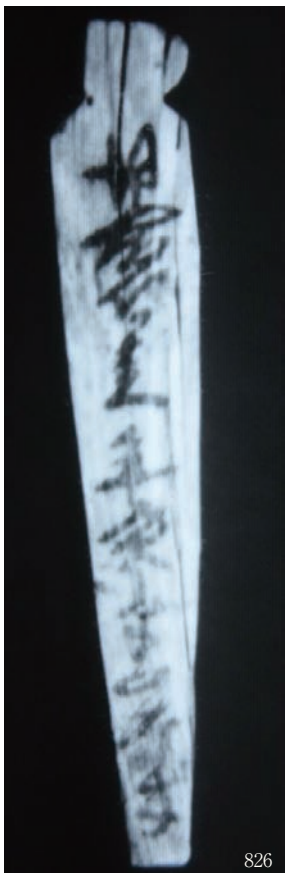
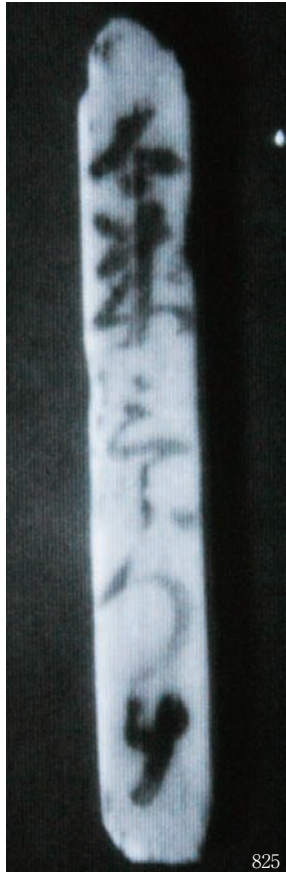
815



825  
処理後

A層

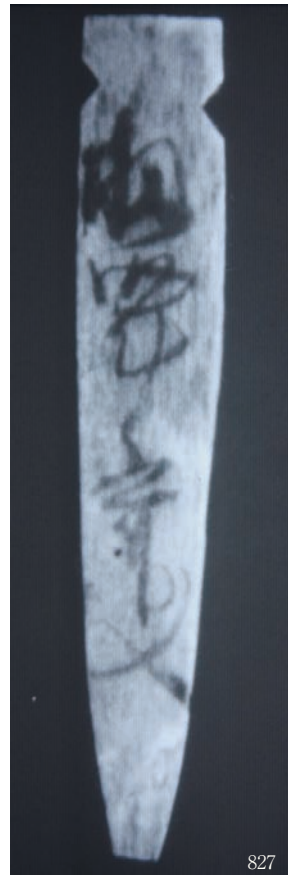
PL101



A層



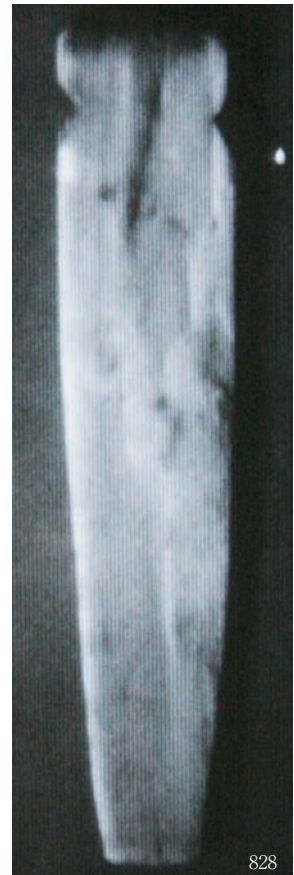
827



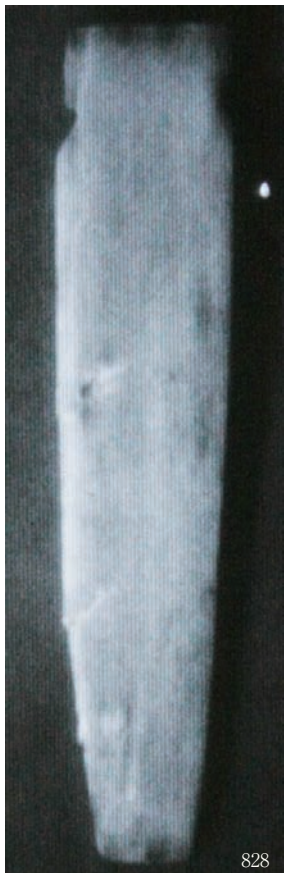
827



828  
処理後



828



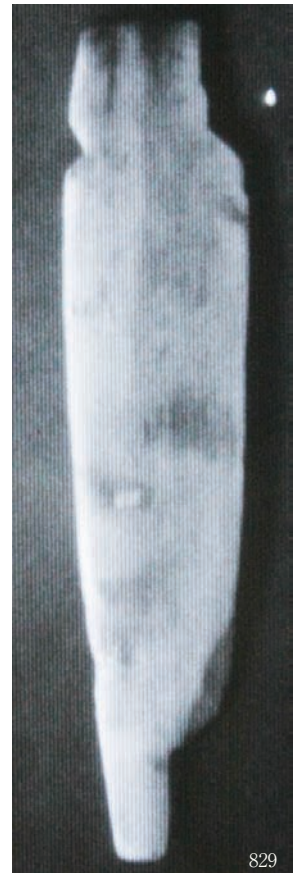
828



829  
処理後

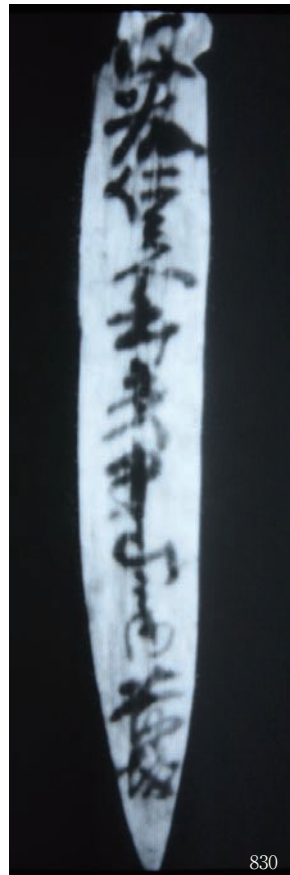


829



829

A層



A層



A層

バンク2





606



607



609



610



611



612

SD2



613

SD2



614

SD3

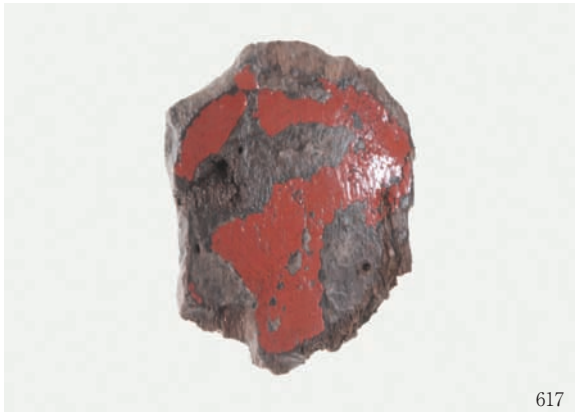
PL105



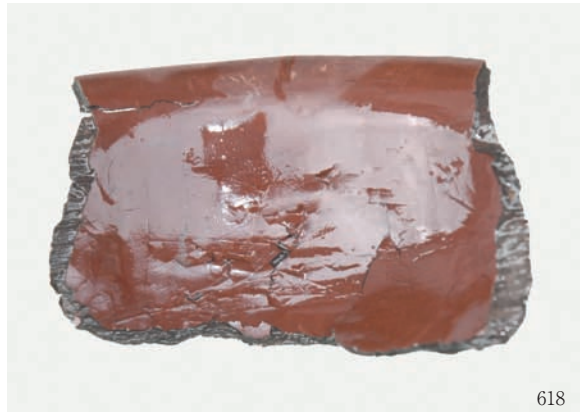
615



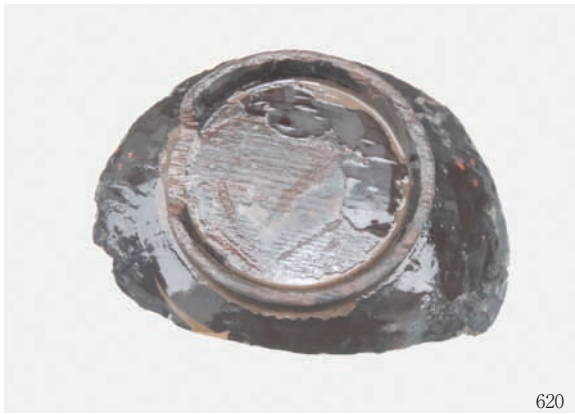
616



617



618



620



621



622



623

SD3



624



625



626



627



628



629



630



631

PL107



632



633



634



635



636



637



638



639

SD3



PL109



SD3



SD6

SE1



SE4出土釣瓶



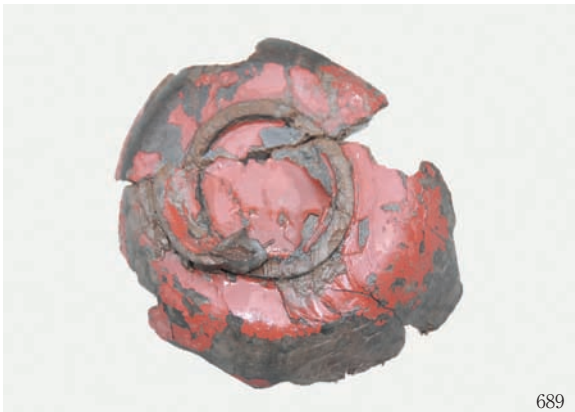
677

SE2



688

SK3



689

SK4

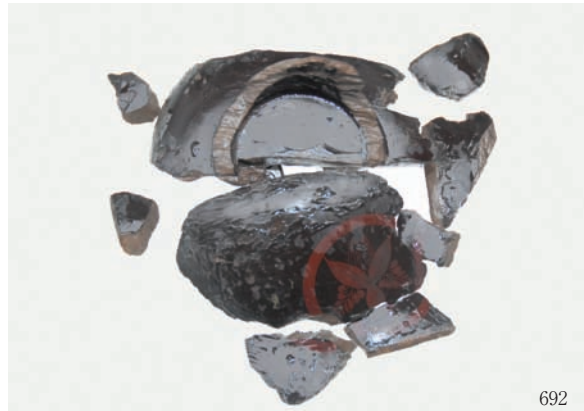


690



691

SK5



692



693

SK5



694

SK8

PL111



SK8

695



SK11

696



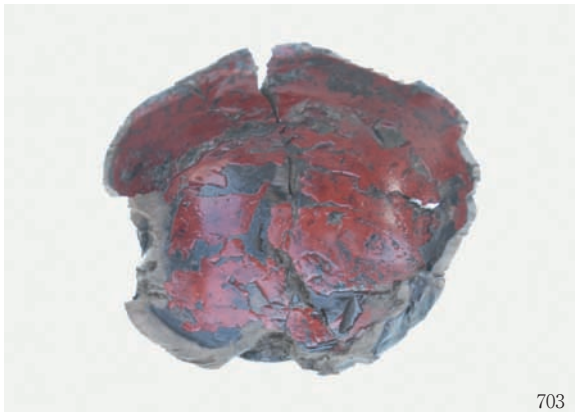
SK11

697

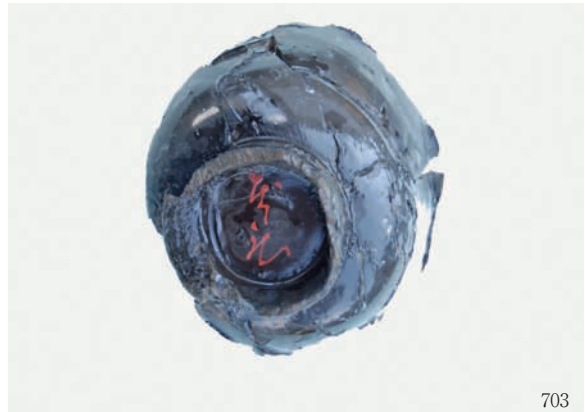


SK12

702



703



703



704



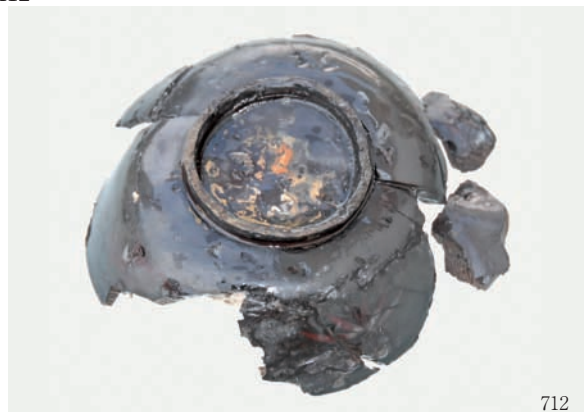
704

SK12



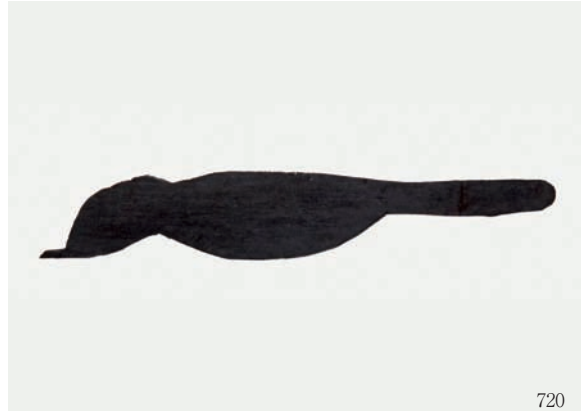


SK12

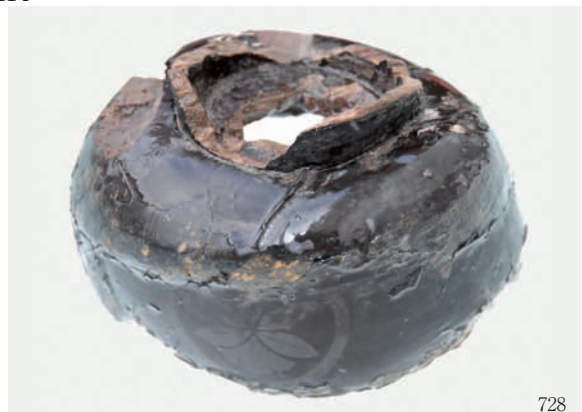


SK13

PL113



SK14



SK15



729



731

SK15



SK15



733

SE5上層(旧SK16)



734

SE5上層(旧SK16)

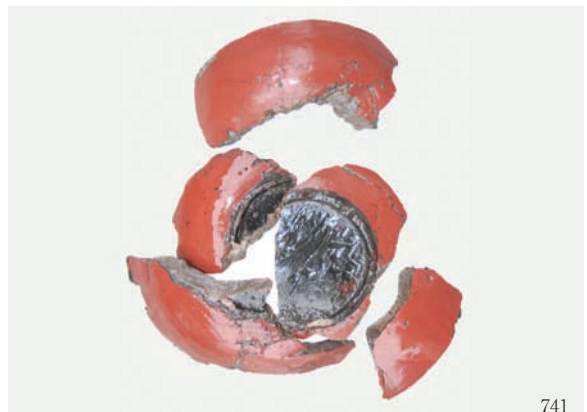


737

SK17



740



741

SK18

PL115



SK18

742



SK20

738



SK20

739



SK23

743



SK23

744



SK24

745



746

SK24



747



SK26

748



SK28

753



754



755



756



757ab

SK28



SK28

758



SK30

759

PL117



760



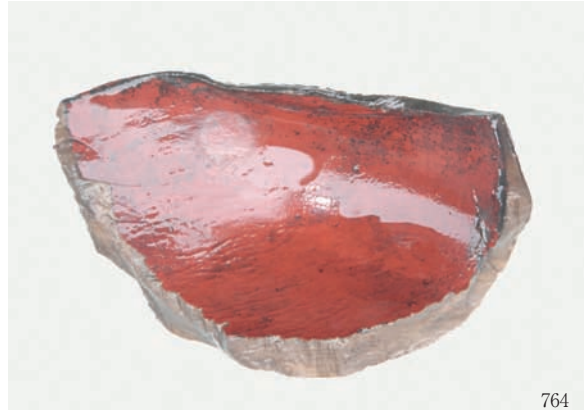
762

SK30



763

SK30



764

SK31



765



769



771



772

SK31



SK31

773



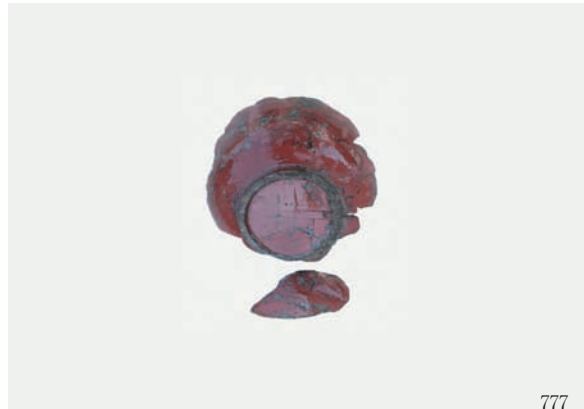
SK32

775



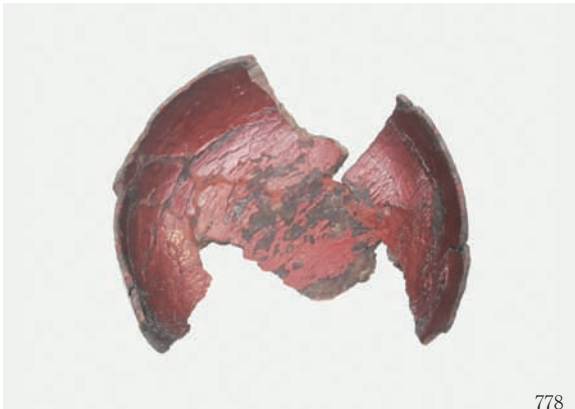
SK34

776



SK35

777



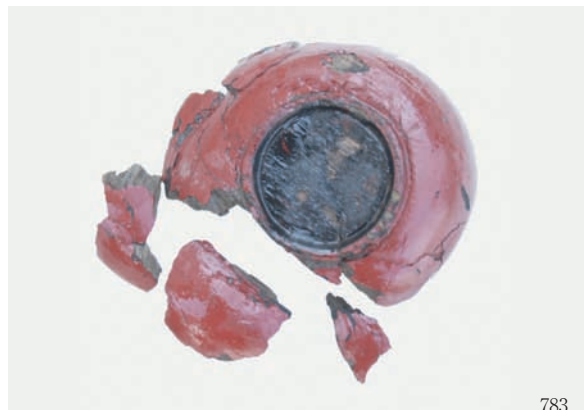
778



781



782



783

SK38

PL119



784



785



786



787



788



789

SK38



779

SK39



780

SK40





790



791



792



793



794



795



796



797



SK41

798



SK43

804



805



SK45

807



808



810



812



813

SK46



SK46

814

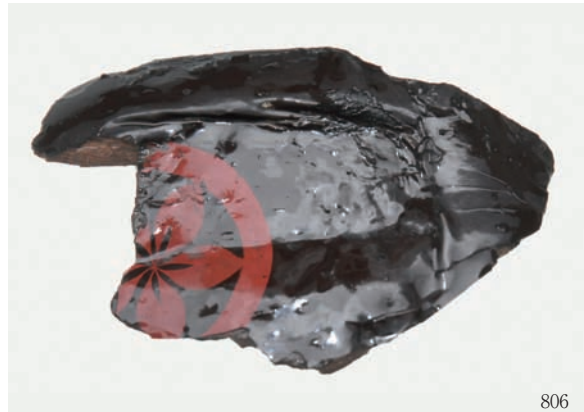


SK47

816

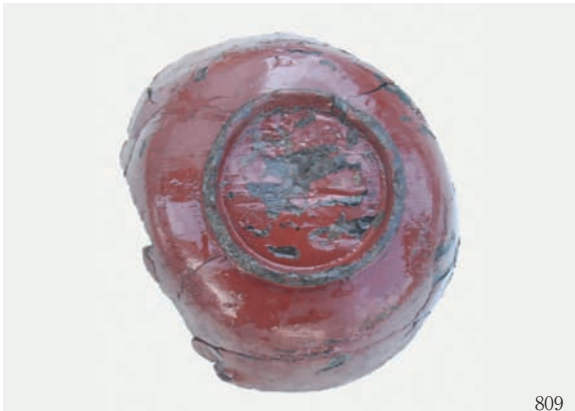


817



SK48

806



809



811



818



819

SX5

PL123



820



821



822



823

SX5



824

SX6



847

SR1



848

SR1



849



SR2

850

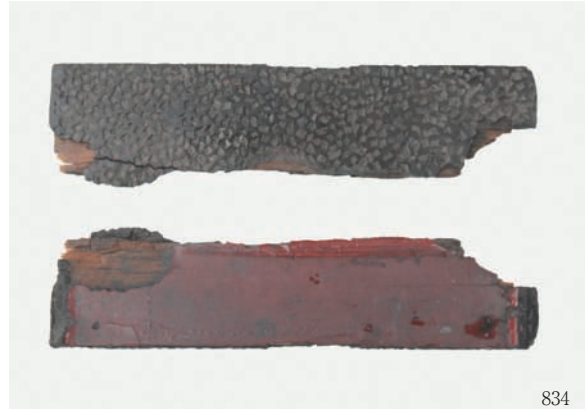


A層

832



833



834



835



836内



836外

バンク



837



838



840



841



842

バンク



843



844

南部Ⅶ層



845



846

採取



663



664



665



666



723



724



750



751



752



766



767



774

切匙

PL127



SD2



SD3





863

SD6



864

SE5



865

SK7



866

SK12



869

870

867

868

SK14

PL129



SK15



SK21



SK23



SK18



SK28



SK31



SK24



SK32

PL131



SK38



SK40



SK41



SK46



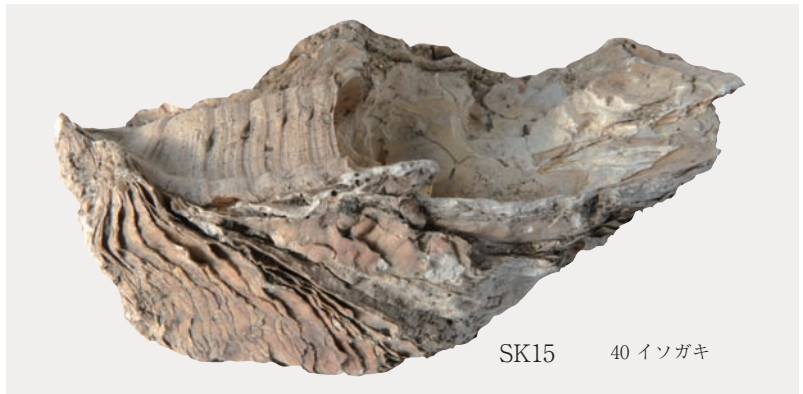
SK48



SX5



SR1



SK15 40 イソガキ



900



901



902

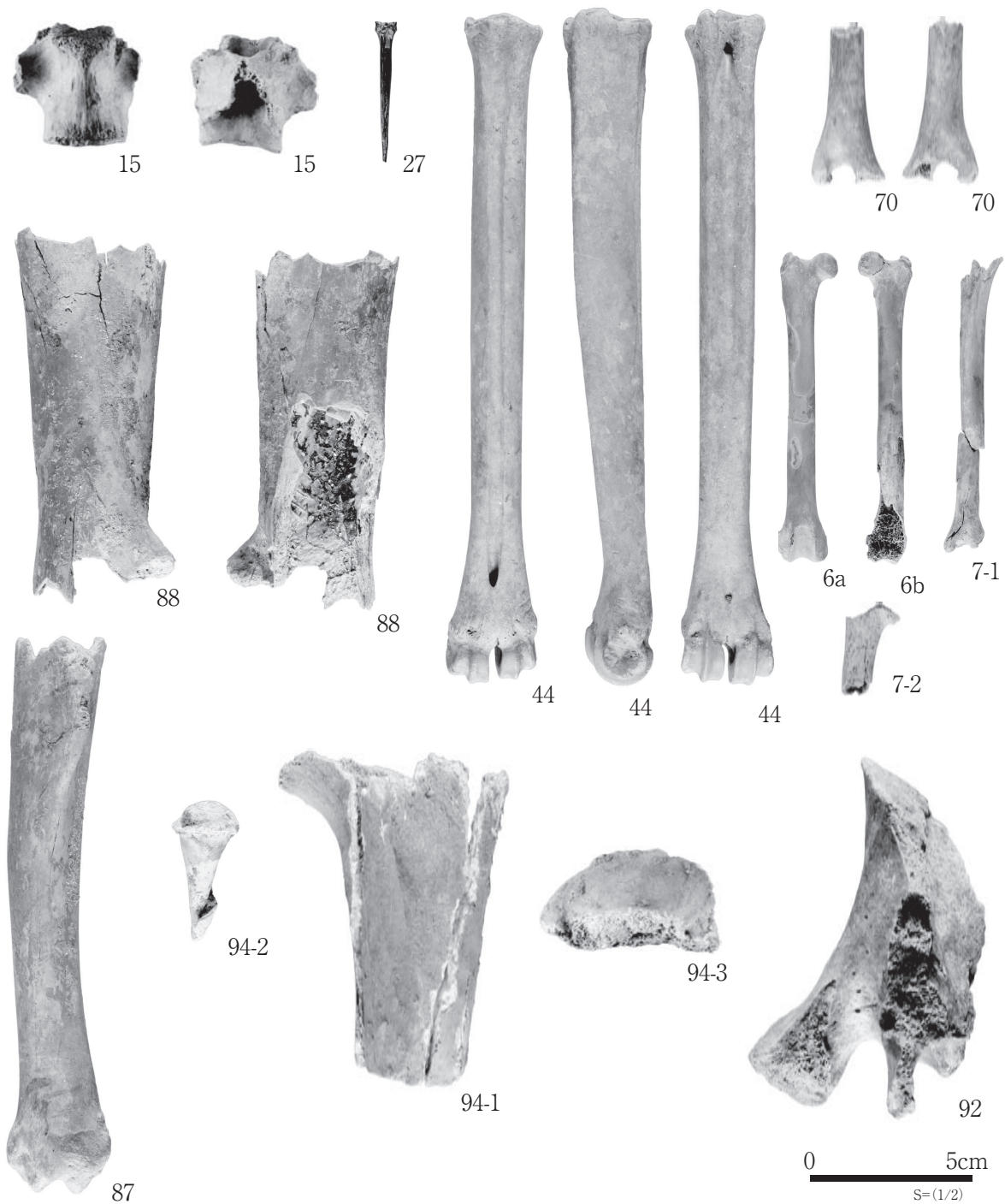


903



904

包含層等



- 15.中型獣類腰椎(1;MEN区 SK11)
- 44.ニホンジカ左中足骨(3;MEN区 SK15)
- 88.大型獣類四肢骨(5;MEN・S区 SD4・5 最下面)
- 6b.ネコ右大腿骨(6;MES区 SD6)
- 7-2.ネコ?上腕骨?(7;MES区 SD6)
- 94-2.腹足綱殻(9;W区SX4)
- 94-3.獣類不明(9;W区SX4)

- 27.魚類(タイ類?)第2臀鰭棘(2;MEN区 SK14)
- 70.イノシシ/ブタ左上腕骨(4;MEN区 SK32)
- 6a.ネコ左大腿骨(6;MES区 SD6)
- 7-1.ネコ左脛骨(7;MES区 SD6)
- 87.イノシシ/ブタ左脛骨(8;MES区SD8 1層)
- 94-1.ウマ左脛骨(9;W区SX4)
- 92.大型獣類不明(10;W区ibut1)

出土骨

## 報告書抄録

| ふりがな                 | にしひろこうじいせき   |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
|----------------------|--|-------|--------|-------------------|--------------------|-------------------------------|----------------------|--------------------|
| 書名                   | 西弘小路遺跡   |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| 副書名                  | 高知法務総合庁舎新営埋蔵文化財発掘調査報告書                                     |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| シリーズ名                | 高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書  |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| シリーズ番号               | 第123集  |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| 編著者名                 | 池澤俊幸, 北野信彦   |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| 編集機関                 | (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター  |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| 所在地                  | 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL 088-864-0671 FAX 088-864-1423 |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| 発行年月日                | 2012年3月6日  |       |        |                   |                    |                               |                      |                    |
| ふりがな<br>所収遺跡名        | ふりがな<br>所在地  | コード   |        | 北緯<br>° ' "       | 東経<br>° ' "        | 発掘期間                          | 発掘面積                 | 発掘原因               |
|                      |  | 市町村   | 遺跡番号   |                   |                    |                               |                      |                    |
| にしひろこうじいせき<br>西弘小路遺跡 | こうちけんこうちしまるのうち<br>高知県高知市丸ノ内<br>1丁目4番1号                     | 39201 | 010170 | 33°<br>33'<br>37" | 133°<br>31'<br>40" | 2009.10.19<br>～<br>2010.01.08 | 1,480 m <sup>2</sup> | 高知法務<br>総合庁舎<br>新営 |

| 所収遺跡名  | 種別    | 主な時代           | 主な遺構                                    | 主な遺物   | 特記事項   |
|--------|-------|----------------|---|--|--|
| 西弘小路遺跡 | 武家屋敷跡 | 古代<br>中世<br>近世 | 土坑<br>溝跡<br>井戸跡<br>性格不明遺構<br>ピット<br>流路跡 | 近世陶磁器・土器, 木簡,<br>漆器, 木・金属製品, 質<br>易陶磁器, 古瀬戸, 瓦器,<br>土師質土器, 須恵器 | 志野, 織部, 唐津, 景德<br>鎮を含む陶磁器と多様な<br>木製品, 金属製品が出土。<br>木簡には藩重臣名や知行<br>地を記したものがある。 |

|    |   |
|----|---|
| 要約 | <p>陶磁器からみた盛期は17世紀後半～18世紀前半。検出した素掘り大溝跡は寛文年間の絵図との一致がみられる。記名のある木簡と併せて、同図に記された武家敷地との関係を検討することができる。大溝跡の遺物は17世紀前半を中心に多数出土している。その他40基を超える土坑等から陶磁器の他、螺鈿、蒔絵、下駄、調理具、容器等多様な木製品、金属製品、動物遺体等が出土した。時期的には、享保の大火後の当地の変遷についても推考できる。また、下層流路跡等からは古瀬戸や瓦器、質易陶磁器、須恵器が出土しており、高知市街部での貴重な資料となる。</p> |
|----|---|





高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第123集

## 西弘小路遺跡

高知法務総合庁舎新営埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター  
高知県南国市篠原1437-1  
電話 088-864-0671

発行日 2012年3月6日

印刷 共和印刷株式会社









